

目 次

はじめに	栗田昌裕…… 1
I 建学の精神	3
II 大学の目的	3
III 保健科学部目標	3
看護学科・理学療法学科・検査技術学科・放射線学科・臨床工学科教育目標	4
IV カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）・ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	6
V 大学院の使命	8
VI 大学院保健科学研究科目標	8
VII 学年歴	9
第1部 教育研究活動の総括	
保健科学部	
看護学科	
基礎看護学	上星浩子…… 13
成人看護学	萩原英子…… 16
老年看護学	伊藤まゆみ…… 19
母性看護学・助産学	早川有子…… 22
小児看護学	内山かおる…… 25
精神看護学	村松 仁…… 27
公衆衛生看護学	小林亜由美…… 29
在宅看護学	笠井秀子…… 33
統合分野及び研究	矢島正榮…… 38
理学療法学科	中 徹…… 39
検査技術学科	藤田清貴…… 41
放射線学科	土屋 仁…… 43
臨床工学科	芝本 隆…… 45
教養共通教育部	杉田雅子…… 48
大学院保健科学研究科	
共通科目	藤田清貴…… 56
保健科学専攻専門科目	
看護学領域	矢島正榮…… 57
理学療法学領域	中 徹…… 59
病因・病態検査学領域	藤田清貴…… 60
放射線学領域	土屋 仁…… 61
臨床工学領域	芝本 隆…… 62
第2部 教育活動の記録	
保健科学部	65
大学院保健科学研究科	121
第3部 研究活動の記録	129
第4部 SD・FD活動の記録	矢島正榮……171
第5部 学生サービスの記録	倉石政彦……177
おわりに	矢島正榮



はじめに

学長 栗田 昌裕

本学は、2005年4月に、看護学科と理学療法学科の2学科から構成される保健科学部を有する四年制大学として開学しました。2009年4月には、保健医療の高度な実践者・指導者の養成を目的とする大学院保健科学研究科保健科学専攻（修士課程）を開設しました。さらに2013年4月には検査技術学科と看護学科助産師課程を開設しました。2017年には放射線学科と臨床工学科を開設しました。このように本学の保健科学部には5学科が併設されて、社会に役立つ医療従事者を着実に育成する道を歩んでいます。また、2018年4月には大学院保健科学研究科保健科学専攻博士後期課程も開設され、質の高い研究者を養成する施設としての基盤を構築しつつあります。

このたび、本学における2017年度の年報をまとめました。2011年度には、法令に基づく外部評価として、公益財団法人（元財団法人）日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、「群馬パース大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定する」という評価をいただきました。今後も、受審で指摘された「改善を要する点」、「参考意見」を真摯に受け止め、本学の質を保証していく改善や改革の努力を継続いたします。2014年6月には、2013年度のデータも踏まえて7年間の認証期間の半ばでの自己点検評価をまとめ、2018年には新たな基準のもとに大学機関別認証評価を受けました。

大学には、1) 学生の教育の充実、2) 研究活動の推進、3) 社会貢献等が求められています。年報の作成は、第三者機関による今後の認証評価受審も視野に入れた大学の自己評価データの蓄積の一環であり、同時に、大学の教育活動と研究活動の実績を社会に公表し、社会的責任を果たす活動でもあります。それはまた、教員の教育活動や研究活動の発展促進をはかり、本学の医療系高等教育機関としての質の向上を図る活動の一環でもあります。

年報の内容は、1) 各領域の教育研究活動の総括、2) 教育活動の記録、3) 研究活動の記録、4) SD・FD活動の記録、5) 学生サービスの記録から成っております。

教職員には、一層の研鑽を積んで、計画した成果を達成するための努力を継続して求めるとともに、関係各位の忌憚のないご意見を仰ぐものであります。

I 建学の精神

Paz は平和を意味するポルトガル語、パース (*Paz*) に由来します。同時に *Paz* にはこの3文字を頭文字とする **Pessoa(個性)**、**Assistencia(互助)**、**Zelo(熱意)** の意味が与えられています。

Paz (平和)

平和で公正な社会の発展、

Pessoa (個性)

個人の尊厳と自己実現、

Assistencia (互助)

多様な人々の共存と協調、

Zelo (熱意)

知の創造、

への貢献

II 大学の目的

豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療専門職を育成し、保健・医療・福祉サービスとの協働及び知の創造を通じて、国際社会、地域社会に貢献することを目的とします。

III 保健科学部目標

1. 成熟した国際社会を生きる豊かな教養と人間性、科学的な思考力、人とかかわる力、創造する力、自ら学んでいく力を育てます。
2. 地域保健医療、国際保健活動、災害時保健活動等に対応し得る、高度な専門知識・技術と幅広い連携・協働活動の能力を備えた保健医療専門職を育成します。
3. 質の高い研究成果を、教育、地域の保健・医療・福祉サービス、産業・経済、文化へと還元します。
4. 環境、条件、特性を異にする都市部と郡部の両地域で、それぞれに最適有効な保健・医療サービスの提供に貢献します。

看護学科教育目標

保健科学部看護学科は、豊かな人間性と高度な専門知識・技術を有し、広く社会に貢献できる看護職の養成をめざします。そのため学科教育目標を次のように設定します。

- 1. 生命の尊厳を認識し、個人の人格を尊重する豊かな人間性と高い見識の育成**
生命、人間、社会に対する深い理解に基づく、高度に知的、道徳的な人間性を育成し、看護職としての高い倫理観と社会的使命感の礎とします。
- 2. 看護の基本的知識・技術に基づき、ヒューマン・ケアを実践できる能力の育成**
科学的思考に基づいたきめ細かい看護技術教育を通じて、判断力、応用力を養い、卒業直後から指導や助言のもとに独力で確かな看護ケアができる実力を育成します。
- 3. 保健・医療・福祉その他の領域との協調性と調整能力の育成**
協働システムの中で、それぞれの固有性を発揮して機能するための基礎能力として、臨床看護における確かな実践力を養います。同時に、医療の場が臨床から広く地域へと広がりつつある中で他職種との協働活動を展開するための幅広い視野と知識、調整能力を育成します。
- 4. 看護の向上を目指し、自己研鑽する能力の育成**
常に問題意識をもって実践活動に取り組もうとする姿勢と研究的な視点を養い、生涯にわたって自己の研鑽を続けるとともに、看護学の発展に貢献していくための基盤を形成します。
- 5. 看護を通して地域社会に主体的かつ創造的に貢献できる能力の育成**
地域の人々の主体性を尊重しながら、組織的に問題を解決するために、主体的かつ創造的に活動できる能力を養います。また、災害等の危機的状況で看護職としての役割を果たすための基礎的な能力を育成します。
- 6. 国際社会に関心を持ち、貢献できるための基礎的な能力の育成**
多様な文化や価値観を受け入れる柔軟性を養うとともに、世界レベルでの医療問題に関心を持ち、国際保健活動等の現状について探求する能力を育成します。

理学療法学科教育目標

保健科学部理学療法学科は、学科教育目標を次のように設定します。

- 1. 人を広く深く理解し、人と関わりあえる理学療法士の育成**
対象者の多様化に伴い、子ども、高齢者、健常者から障害者まで、心身及び対象者の環境をも理解し、さらに関わりあえるよう、幅広い教養、基礎知識とコミュニケーション能力を育成します。
- 2. チーム医療の実践、他職種と連携できる理学療法士の育成**
チーム医療を実践できる協調性を備え、さらに思考力・判断力・コーディネート力・指導力を持ち、問題解決能力に優れた理学療法士を育成します。
- 3. 広範な理学療法ニーズに対応できる理学療法士の育成**
急性期から回復期、維持期リハビリテーションまで、幅広い場面で活動できること、さらにリハビリテーション活動にとどまらず、健常者・障害者の健康維持に貢献できること、そのための高度な医療・保健・福祉及び理学療法の知識と技術を持った理学療法士を育成します。
- 4. 地域リハビリテーション領域で活躍できる理学療法士の育成**
地域に密着した立地条件を生かした教育を通じて、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等の地域リハビリテーションを理解し、実践できる理学療法士を育成します。
- 5. 多様化するニーズに応えられる理学療法士の育成**
科学的思考に基づいた確かな基礎を築きつつ、ニーズの変化に柔軟に対応するため、自らを伸ばしていこうとする情熱と想像力を備えた理学療法士を育成します。

検査技術学科教員目標

保健科学部検査技術学科は、国家資格を取得するためだけの教育ではなく、豊かな教養と最新の専門知識と技術能力を身に付け、実践的な診療支援ができる臨床検査技師の養成をめざします。そのため学科教育目標を次のように設定します。

- 1. 建学の精神に基づいた幅広い教養と高い倫理観及び使命感を備えた人材の育成**
建学の精神及び目的である「豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療専門職の育成」に基づき、保健医療分野に従事する者として生命の尊厳を理解し、相手の立場を慮り、思いやりの心を持つとともに、高い倫理観を備えた人材を育成します。
- 2. 生命科学や検査技術を生かした分野で貢献できる人材の育成**
臓器移植、遺伝子治療及び不妊治療分野などで要求される質の高い検査技術に対応するため、健康や医療に関する専門知識と最新技術を学び、生命科学や検査技術を生かした分野で貢献できる人材を育成します。

3. 科学的根拠に基づく適切な判断能力と問題解決能力を持つ人材の育成

医療の現場では様々な要素が要因・背景となって生じる課題や問題は千差万別であり、それらの状況に的確・柔軟に対応するため、実践的な高度な知識と技術を習得し、科学的根拠に基づく適切な判断能力と問題解決能力を持つ人材を育成します。

4. 検査値から病態を推測し診療支援ができる人材の育成

日常検査では、測定試薬成分と異常蛋白質との反応により、病態を反映しない異常値を示すことが少なくありません。このような異常データを適切に判読し、検査結果から患者の病態を推測できる能力を養い、実践的な診療支援ができるよう質の高い臨床検査技師（Clinical Laboratory Scientist）を育成します。

放射線学科教育目標

保健科学部放射線学科は、国家資格を取得するための教育ではなく、対象である人間的に的確に対応できる医療コミュニケーションと高度な臨床実践に対応できる知識と技術を持った診療放射線技師の養成を目指します。そのため学科教育目標を次のように設定します。

1. 放射線医学領域に重点を置いた教育・臨床・研究による専門性と豊かな人間性を兼ね備えた診療放射線技師の育成

対象者である人間と向き合い、人間としての尊厳を重んじた人間愛と科学的根拠に基づく論理的な思考を兼ね備えた診療放射線技師を育成します。

2. 脳機能イメージングなどの生理学的な活性機能画像、MDCTやMRIなどの画像データの収集に関する原理、機器の基本構成、その利用に関する基礎知識や技術、「読影の補助」などの画像診断学的知識・技術を有する診療放射線技師の育成

画像診断学的知識・技術を基に、診療放射線技師の画像検査における臨床実践を「診療画像解析」と捉え、問題解決能力や読影の補助力を持った自己決定能力の高い診療放射線技師を育成します。

3. デジタル医療画像や電子カルテなどの情報を処理し、患者を中心とした他職種間との協働と多職種による連携からなる「チーム医療」を推進できる診療放射線技師の育成

チーム医療を構成する医療専門職として、他職種による協働と多職種による連携を推進するために必要な「医療情報」の『連携』と『共有』に関する高い実践能力を持った診療放射線技師を育成します。

4. 強度変調放射線治療 IMRT など、コンピュータ処理による治療計画と連動したコンピュータ制御の特殊照射法、3次元治療計画装置やコンピュータ処理の基礎的知識や臨床応用技術を習得し、正確で効果的な放射線治療を支える診療放射線技師の育成

高度なコンピュータ技術と連携した臨床応用技術及び放射線治療の高い実践能力をもった診療放射線技師を育成します。

5. 社会のニーズに応えられる質の高い医療を実践できる問題発見と問題解決能力を持った診療放射線技師の育成

保健・医療における新たな社会問題や医療課題に対応できる高度医療専門職としての意思決定のできる問題発見・解決能力を持った診療放射線技師を育成します。

6. 医療に関わるさまざまな課題に取り組み、研究の立案、解決法の提示、研究の流れ、結果の解釈などを自ら臨床実践し、かつ、結果を集約できる研究者である診療放射線技師の育成

科学的根拠に基づく放射線学の臨床実践の推進、科学的基礎を追求するため、高い研究能力を持った診療放射線技師を育成します。

臨床工学科教育目標

保健科学部臨床工学科は、幅広い視野と高い倫理観を持ち、安全で質の高い医療を提供できる臨床工学技士の養成を目指します。そのため学科教育目標を次のように設定します。

1. 人間を総合的に捉え、人間に深い愛情を持つ、豊かな人間性を有する臨床工学技士の育成

人間の「心」と「体」を多面的・総合的に理解し、他人を思いやる心をもつ臨床工学技士を育成します。

2. 複雑化・高度化する医療技術に対応し、医療現場における安全性の向上に貢献できる確かな技術と知識を有する臨床工学技士の育成

医療機器の効率的な運用と安全性確保のための医工学の知識と技術を高いレベルで体得し、さらに的確な判断力、対応力を育成します。

3. 思考力、洞察力、判断力を持ち、医療の現場における諸問題に的確に対応できる問題解決能力を持った臨床工学技士の育成

習得した知識や技術を総合的に活用し、論理的思考力を有する臨床工学技士を育成します。

4. 医療者としてのマナーとモラルを重んじ、高い倫理観を備えた臨床工学技士の育成

生命に対する畏敬の念をもち、権利の尊重を重んじる臨床工学技士を育成します。

5. 医療を総合的に捉え、医療現場におけるチーム医療の一員として他職種との連携・協働を推進できる臨床工学技士の育成

他職種の業務を互いに深く理解・尊重し、コミュニケーションの大切さ、チームの一員としての役割、他職種と連携する必要性を理解し、責任感と協調性を養います。

6. 臨床工学技士という職業について高い誇りを持ち、生涯に渡り自己研鑽を続ける、向上心と使命感を持つ臨床工学技士の育成

医療機器のスペシャリストとして技術と知識を深める向上心や、真の医療者としての使命感を醸成します。

7. 医療分野におけるさまざまな国内外の課題に対し、自ら進んで問題意識と研究意識を持ち、医工学の発展に寄与することのできる臨床工学技士の育成

広い視野で物事を捉え、さまざまな問題点を自主的に認識・提起し、その解決策を創造する力を養います。

IV

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）・ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

群馬パース大学保健科学部は、その建学の精神に基づき、地域保健医療の発展に寄与する人材を養成するため、看護学科、理学療法学科、検査技術学科、放射線学科、臨床工学科を置き、次のとおり学部の教育課程の編成方針を定めます。

1. 保健科学部の教育課程は、教養科目群・共通基盤科目群、専門基礎科目群、専門科目群から構成される。
2. 教養科目群は社会人としての教養、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、「人と社会及び自然の理解」の科目群と「情報と言語の理解」の科目群に大別された広範な科目を5学科共通科目として開設する。
3. 共通基盤科目群は、初年次において大学での学習に対する準備状態を整え、専門領域の学習への関心と意欲を高めるための科目を開設する。また、今日の医療において必須事項であるチーム医療に関する意識を高めるための科目を配置する。
4. 専門基礎科目群は、医療専門職を養成する5学科それぞれに展開される専門領域の理論、技能の習得のための学術的基盤となる科目を開設する。
5. 専門科目群は各学科の専門領域とそれに関連する理論、技能を学ぶ科目を開設する。
6. 各科目は「知識・理解」、「思考・判断」、「技術・表現」、「関心・意欲」、「態度」の要素からなる本学のディプロマ・ポリシーを達成するよう、4年間を通して体系的に配置する。さらに、これら5つの要素を総合的に発揮することによる高い実践力を獲得するため、専門科目群に実習科目を置く。

各学科の教育課程は次のとおりです。各年次の方針に基づき段階的に編成します。

◎看護学科

- ・1年次には4年間の学習の基盤をつくる。教養科目、専門基礎科目及び看護学の概論を学習することにより、看護の入口に立ち、深みと広がり理解し、主体的に学習に取り組む姿勢を身につける。
- ・2年次には専門科目の領域別各論を学ぶ。専門知識の修得に基づき思考・判断の力を身につける内容へと展開していく。
- ・3年次の前期は演習により看護の基本技術を学ぶ。後期は領域別臨地実習により知識・技術の統合を図り実践力を高める。
- ・4年次には在宅看護実習、総合実習をとおして4年間の学習の統合を図る。さらに、看護学の現代的課題と展望を学び、生涯にわたる探求の礎とする。また、専門科目に公衆衛生看護学、助産学の科目を置き、選択により保健師、助産師の専門知識・技術を修得する。

◎理学療法学科

- ・1年次には社会人としての幅広い理解や医療従事者としての態度を養い、地域や社会へ貢献する姿勢を獲得する。
- ・2年次には理学療法士の専門教育に直結する基礎的知識と専門職として適切な分析に基づく科学的洞察力を習得する。
- ・3年次には理学療法士としての高度な思考と基本的技術を習得すること、評価学実習を通して高い倫理観を持ち、専門職として社会貢献する意欲を獲得する。
- ・4年次には総合臨床実習を通してこれまで身につけた理学療法士としての知識、技術、態度を統合して活用でき、専門分野の発展に寄与する思考や意欲を獲得する。

◎検査技術学科

- ・1年次には豊かな教養と医療人としての職業意識の育成を目指し、保健・医療に携わるものとして共通理解しておくべき知識や臨床検査技師としての専門基礎知識を学ぶ。
- ・2年次には多様な疾病、病態に沿った臨床検査を実践する上で必要となる知識と技術の総論と各論を展開し、系統的・体系的に学習する。
- ・3年次には専門的知識、実践的検査技術を系統的に習得できるように体系づけ、実習を多く取り入れながら効率的・効果的

に学習する。

- ・4年次には実践的な高度な知識と技術の習得を目指し、「臨床実習」及び「卒業研究」を通して、将来の医学・医療の発展に貢献できる評価能力および研究能力を養う。

◎放射線学科

- ・1年次には、社会人としての幅広い知識や医療専門職としての知識・態度を養い、地域や社会へ貢献する姿勢を獲得する。
- ・2年次には、放射線学の基礎に関連する物理学、計測学、解剖学の基礎的知識を獲得し、診療放射線技師として必要な知識・技術・態度の基盤を形成する科学力を習得する。
- ・3年次には、診療放射線技師の臨床実践での高度な思考と基本的技術を習得し、実験・演習を通し高い論理的・科学的思考を培い、放射線専門職としての責任と安全管理に対する能力を獲得する。
- ・4年次には臨床実習を通して診療放射線技師としての知識、技術、態度を統合して臨床実践で活用でき、専門分野の発展に寄与する科学的思考や倫理観を獲得する。

◎臨床工学科

- ・1年次には社会人として必要な教養を身に付け、臨床工学の概要と医学・工学の基本となる知識・技術を学ぶことにより医療者としての基礎をつくる。
- ・2年次には臨床工学に必要な臨床医学と理工学の基礎知識を学び、両者を有機的に統合して医療機器に応用するための知識・技術を学ぶ。
- ・3年次には講義で学んだ理論・知識・技術を統合させ、医療技術の提供に必要な実践的知識と技術を身に付ける。さらにチーム医療の一員としての臨床工学技士の責任と役割の理解を深め、医療者としての自覚を育成する。
- ・4年次には習得した知識や技術を整理し、連携させることにより総合的な理解を深め、卒業研究を通して創造的な研究を行う能力、問題解決能力を養う。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

群馬パース大学は、建学の精神に基づき保健医療専門職の質を高め、地域保健医療の発展に寄与することを教育の目標に掲げ、ここに、本学の学士課程に共通する学位授与の方針を定めます。

【知識・理解】

- ・保健医療専門職としての基礎的知識と、社会人としての教養を身につけている。
- ・多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。

【思考・判断】

- ・保健医療分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。

【技能・表現】

- ・先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供することができる。
- ・チーム医療を実践するための、コミュニケーション能力を身につけている。

【関心・意欲】

- ・生涯にわたって専門分野を探究し、その発展に貢献する意欲を持っている。
- ・人と社会に深い関心を持って、地域の保健医療に寄与できる。

【態度】

- ・人権を尊重し、高い倫理観をもって社会に貢献する姿勢を身につけている。

V 大学院の使命

群馬パース大学大学院は、保健医療の充実と専門分野の研究並びに教育の拠点となることを使命とする。すなわち、看護、理学療法、病因・病態検査学、放射線学、臨床工学の実践者及び大学教育修了者が、修士課程での学究を通じて、さらに高い実践能力とリーダーシップを身につけ、高度な保健・医療の実践者として育っていく場となることである。

VI 大学院保健科学研究科目目標

1. 高度な専門知識・能力を有する実践者の育成

高度な倫理観と社会に対する深い洞察力、保健医療をとりまく社会システム、医学・医療の最新の知識を有し、根拠に基づいた高度な保健医療の実践を提供し、その結果を分析、蓄積するとともに、実践を研究、教育へと還元できる人材を育成する。

2. 保健医療分野においてリーダーシップを発揮する指導者の育成

保健医療システムを包括し、対象者のQOL向上のために資源を活用し、他職種との協働の中でリーダーシップを発揮し、ケアを推進できる人材を育成する。

3. 実践分野において研究能力・教育能力を発揮する実践者・指導者の育成

臨床現場において生じる実践上の問題を抽出・分析し、その解決を図るために研究を推進・指導できる人材を育成する。また、臨床現場での新卒者、現任者を対象とする卒後教育、医療専門職養成機関での教育実践において、教育理論に基づいた教育方法を開発・構築し、実践できる人材を育成する。

VII 学年歴

月 日	行 事
4月3日(月)	在学生ガイダンス
4月4日(火)	在学生授業開始
4月7日(金)	入学式 新入生ガイダンス (大学院)
4月8日(土)	新入生ガイダンス 新入生合同研修 在学生ガイダンス (大学院) 授業開始 (大学院)
4月10日(月)	新入生ガイダンス
4月11日(火)	新入生授業開始
4月19日(水)	学友会総会
4月21日(金)	PT・CE 新入生研修は4月22日(土)の2日間 RS 新入生研修
4月22日(土)	MT 新入生研修
4月30日(日)	NS 新入生研修
5月13日(土)	学内スポーツ大会 (体育祭)
6月3日(土)	保護者後援会総会・施設見学会・懇親会 公開講座
6月24日(土)	群馬パース同窓会総会
8月1日(火)	検査技術学科就職説明会
8月4日(金)	理学療法学科就職説明会
8月18日(金)	SD 研修会・SD ワークショップ
8月19日(土)	保健師・助産師課程履修者選考試験
9月19日(火)	ロサンゼルス研修 9月24日(日)まで
9月25日(月)	後期授業開始
10月7日(土)	私立大学スポーツ大会は10月8日(日)の2日間 後期ガイダンス・後期授業開始 (大学院)
10月21日(土)	公開講座
10月28日(土)	流星祭 (学園祭) 10月29日(日)の2日間 教育懇談会
11月17日(金)	国際交流センター企画特別講演
11月29日(水)	特定研究費成果報告会
11月30日(木)	市内私立大学・短期大学連携事例発表会
2月13日(火)	看護学科就職説明会
2月24日(土)	博士後期課程開設記念式典 公開講座
2月28日(水)	修士論文発表会 (大学院)
3月5日(月)	検査技術学科学内進路相談会
3月9日(金)	卒業証書・学位記授与式
3月11日(日)	ハワイ研修 3月16日(金)まで
3月12日(月)	マレーシア研修 3月16日(金)まで
3月13日(火)	ロサンゼルス研修 3月18日(日)まで
3月30日(金)	検査技術学科4年在学生ガイダンス

第 1 部

教育研究活動の総括



❖看護学科

◎基礎看護学

教授 上 星 浩 子

教育活動の総括

I. 目 標

1. 基礎看護技術および看護過程における知識・技術定着のための教育内容の充実を図る。
2. 講義・演習科目と実習科目との連続性の確立を確保する。
3. 臨地実習施設との調整を強化し、実習環境整備および実習内容を精選する。

II. 成 果

1. 1年次開講科目

講義では「看護学概論Ⅰ・Ⅱ」、「看護援助学概論」、「日常生活援助学演習」、「看護過程論」を、臨地実習では「基礎看護学実習Ⅰ」を開講した。2017年度は、新カリキュラムに移行し、1年次からの履修科目となった。

「看護学概論Ⅰ」、「看護学概論Ⅱ」、「看護援助学概論」は、上星が単位認定を行った。看護学概論Ⅰ・Ⅱは看護学全般の基本的概念およびシステム、倫理を理解することを目標とした。主に講義で行ったが、一部演習を組み入れながら理解を深めるようにした。また実習準備となる課題学習や実習と講義内容との関連について意識づける単元を計画した。成績評価においても概ね学習目標に到達できていた。「看護援助学概論」は、対象者との良好な援助関係を構築するための理論や対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術の根拠を理解することを目標とし、講義・演習を行った。「日常生活援助学演習」、「看護過程論」は、佐藤が単位認定を行った。「日常生活援助学演習」は、前期開講科目である「看護援助学概論」をふまえ、日常生活援助技術を安全・安楽に対象者の状況に応じて実施できることを目標に講義・演習を行った。「看護過程論」は、用語の定義および一連のプロセスを理解することを目標に講義・演習を行った。

基礎看護学実習Ⅰでは、群馬大学医学部附属病院で実習を行った。病院の特徴を理解するとともに対象者の視点から医療が提供される場所としての環境やサービスについて知ることや健康障害を持つ人について理解を深めることを目的とした。また、実習目標が達成できるように「予測する→観察する→説明する」といった段階を記録ができるように工夫した。実習では、外来見学や看護師の看護活動の見学をとおして健康障害を持つ対象者の理解や看護の多様性を学習できた。さらに看護師が患者と接する場面をとおして医療従事者としての基本的な態度について考察する機会が得られた。全員が実習目標を達成できており、今後の看護学の学習動機となっていた。

2. 2年次開講科目

講義・演習では「看護過程論」、「看護援助学Ⅰ・Ⅱ」、「看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ」を、臨地実習では「基礎看護学実習Ⅱ」を開講し、教員全員で担当した。

「看護過程論」は佐藤が講義を担当し、グループ学習では領域全員の教員が担当した。看護過程の構成要素、用語の定義および一連のプロセスを理解し、理論的枠組みを活用した対象者の情報の整理・記録方法を習得すること

を目標とした。課題であった看護過程の基本的知識については学習内容を授業内で強調した。また、これまで同様に通年を通して複数の紙上事例を展開し、学生が繰り返し考え学習する機会を提供した。

前期開講の「看護援助学Ⅰ」、「看護援助学演習Ⅰ」は佐藤が単位認定した。後期開講の「看護援助学Ⅱ」、「看護援助学演習Ⅱ」は堀込が単位認定を行った。いずれの科目も単元により担当者を決定し、領域全員で担当した。また、いずれも対象者に適した看護援助の基本となる項目を学ぶ講義、演習科目であり、講義演習を通して必要な看護援助の基本的技術を習得することを目標とした。

臨地実習である「基礎看護学実習Ⅱ」は、4つの病院（高崎総合医療センター、日高病院、鶴谷病院、群馬中央病院）において実習を行った。一つの病棟に学生5名を単位としたグループを配置し、指導教員は1グループに対し1名を配置、病院の実習指導者と連携しながら実習指導を行った。学生は受け持ち患者1名を担当して対象者に必要な看護援助について看護過程を展開し、病棟で実施されている看護援助を参考にしながら看護援助を行った。しかし施設においては入院期間が短く、2週間の実習の中で2～3名の患者を受け持たざるを得なかった。短い期間の中で、この患者にとって今、何が必要かを整理できるように焦点を絞った情報収集や指導者と連携を取りながら助言・指導をしたことにより、看護援助の実施と看護過程の展開を行うことができた。疾病構造の変化、高度医療、入院期間の短縮の中でいかに学びの多い実習にしていくかは検討課題である。

全体を通して、初めて患者を受け持つ機会であるため、学生は緊張しながらも必要な看護援助について多くの学びを得ており、今後の学習への動機付けに繋がっていた。概ね実習目標を達成できていた。

3. 4年次開講科目（卒業研究）

卒業研究では、学生7名を担当し、文献研究、面接調査、実験研究など、4テーマについて指導した。学生自身が探求したい研究課題を決められるようにし、指導担当教員別に研究的視点でテーマを考察できるように指導した。また、基礎看護学領域全体でのゼミ形式で文献検討、テーマ絞り込み、中間発表会、結果発表会を行うことで、研究プロセスの振り返りと発表態度などを学習できるようにした。

Ⅲ. 課 題

2017年度から新カリキュラムに移行し、1年次前期からの履修となった。さらに今年度は旧カリキュラムと並行して新カリキュラムの開講となった。新カリキュラムにおいては、1年次前期からの開講であるため、基礎科目や専門科目が未学習である状況での教授となり、知識の積み上げに影響が生じてしまう可能性があった。専門的な基礎知識の概要を講義内容に組み込むなど、基礎科目との関連性を考え教育内容・方法を検討し、知識、技術、実践能力を体系的に繋げていくことが課題である。また、看護過程論や実習においては思考内容の記述に困難を感じる学生が多い。授業の中でも記述例などを具体化し提示しているが、それらを課題事例または実習事例に適用することが困難な学生もいる。思考や行動を文章で表現することができるように教育内容・方法を検討していく。

さらに基礎看護学実習Ⅱにおいて、疾病構造の変化、高度医療、入院期間の短縮の中で、いかに学びの多い実習にしていくか、学生個々の状況を踏まえた目標設定、教育内容・方法を検討していくことが課題である。

研究活動の総括

I. 目 標

個々の教員の研究課題を継続し、研究活動を展開していくことを目標とした。また、課題である教育活動に関する共同研究を行うことも目標とした。

Ⅱ. 成 果

教員各自がそれぞれの研究課題に関する成果を発表し、社会貢献活動も担った（表1）。詳細については、第3部研究活動の記録のとおりである。また、外部研究費として、文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）2017年～2019年度、「看護センス尺度育成モデル構築に向けた看護センスの概念の解明と尺度開発」（研究代表者：上星浩子）を獲得し、佐藤、堀込が研究分担者としてともに研究活動を進めている。2016年～2018年度、基盤研究（C）「冷え症対策の評価指標開発のための基礎的研究」（研究分担者：上星、佐藤）、2016～2018年度、基盤研究（C）「看護アセスメント能力の尺度開発」（研究分担者：上星）、2014～2017年度、基盤研究（C）「慢性腎臓病患者のセルフマネジメントを支援するソフトウェアの開発」（研究分担者：上星）を獲得し、継続して研究を進め、その成果を学会等で発表した。

また、2017年度群馬パース大学特定研究費「病棟勤務の看護師の困難とその対処方法に関する研究—男女の差に着目して—」（研究代表者：佐藤晶子、共同研究者：上星、堀込）、「日本人看護師の異文化コミュニケーションに対する理解促進のための基礎調査」（研究代表者：堀込由紀）を獲得し、面接調査、文献研究を行い、研究を進めている。

表1 2017年度基礎看護学領域教員の研究活動実績

	図 書		学術論文		その他の論文・記事		小 計	口頭発表		小 計	学 位 取 得	社会的貢献			
	第 一 著 者 は	そ の 他	第 一 著 者 は	そ の 他	第 一 著 者 は	そ の 他		第 一 独 自 発 表 者 は	そ の 他			養 成 専 門 研 修 講 師	講 師 等 対 象 講 座	市 民 等 自 治 体 の 委 員	国 ・ 自 治 体 等 の 役 員
上星浩子 教授	—	1	—	—	—	—	1	2	6	8	—	2	5	—	3
佐藤晶子 講師	—	1	—	—	—	—	1	—	1	1	—	2	—	—	1
堀込由紀 講師	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	3	—	2

Ⅲ. 課 題

個々の教員の研究課題に対する取り組みを継続的に行うと共に、教育活動に関する共同研究を進めていき、成果の発表を行っていくことが今後の課題である。

教育活動の総括

I. 目 標

成人看護学領域では、以下のような目標を設定し、教育活動に取り組んだ。

1. 近年の医療の概況及び看護師国家試験出題基準を踏まえ、成人看護学教育で取り扱う内容について再検討し、指導内容に応じた効果的な教育方法を検討する。
2. 成人看護学教育の教育効果について評価し、教育上の課題の明確化を図る。
3. 成人看護学領域の教員個々の教育能力の向上のために、教員間で指導内容や体験、情報の共有化を図る。また、連携・協力して学生指導に関わることができる体制を構築する。

II. 成 果

1. 1 年次開講科目（「成人看護学概論（必修：新カリキュラム）」）

「成人看護学概論」は萩原、金子で担当した。新カリキュラムとなり、新たな取り組みとして、成人期にある患者の身体的・精神的・社会的な特徴と健康問題について講義を通して学んだ上で、病と共に生きる患者3名にゲストスピーカーとしてご登壇いただき、各々の患者体験についてお話しいただいた。学生は、実際の患者の語り聞くことにより、病とともに生きる人々の実際を知るだけでなく、講義での学びをよりリアリティを持って捉えることができ、成人期にある患者の特徴の理解に繋がった。

2. 2 年次開講科目（「成人看護学Ⅰ（必修）」・「成人看護学Ⅱ（必修）」・「成人看護学Ⅲ（必修）」）

「成人看護学Ⅰ」及び「成人看護学Ⅱ」は、臨床工学科 尾林徹先生にご担当いただき、既習の解剖学や生理学の知識を基盤に、看護師国家試験での出題頻度が高い疾患を中心に取り上げ、授業を展開した。

「成人看護学Ⅲ」は、萩原、堀越、金子、小池で担当した。できる限り分かりやすい講義となるよう、教科書を中心に、配布資料やパワーポイントを用いて解説を加え、学生の理解を促した。

3. 3 年次開講科目（「成人看護学Ⅳ（必修）」・「成人看護学Ⅴ（必修）」・「成人看護学演習（必修）」・「成人看護学実習Ⅰ（必修）」・「成人看護学実習Ⅱ（必修）」）

「成人看護学Ⅳ」は主に慢性疾患患者の看護について学ぶ科目であり、萩原、堀越、金子、大谷（非常勤）で講義を担当した。また、「成人看護学Ⅴ」は周手術期にある患者の看護について学ぶ科目であり、萩原、小池が講義を担当した。この2つの科目では、既習の解剖学、生理学そして成人看護学Ⅰ・Ⅱの振り返りを適宜行いながら授業を展開することにより、人体の構造・機能と疾患、そして看護を結びつけて理解できるよう工夫した。特に、「成人看護学Ⅴ」では、手術による患者への影響を理解する上で必要な解剖学、生理学の復習のためにワークシートを作成し、各講義の準備学習としてワークシートに取り組むことにより、講義内容の理解の深化を図った。

「成人看護学演習」は、成人期にある人の看護支援に必要な看護技術を習得することを目標に、成人看護学領域の教員全員及び湯澤（演習補助者）、松井（演習補助者）で授業を担当した。前半6コマ（計3回）は、紙上事例を用いて、アセスメントシート、関連図、ケアプランの記載方法等について講義及び演習（グループワーク）を行った。演習では、グループ毎に学生自身が考え、必要な看護支援を導き出すことができるよう指導を行った。また、演習にてグループで取り組んだ課題について、事後学習として、学生個人で再度取り組むことにより、授業での学びを振り返り、学習の定着化を図った。後半9コマ（計4回）は、「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

(厚生労働省)」及び成人看護学実習Ⅰ・Ⅱにおいて求められる看護技術に焦点を当て、医療機器の取り扱いや患者のアセスメント方法等について技術演習を行った。学生が学習した技術の復習ができるよう、各回の授業終了毎に自己練習時間を設け、教員の指導の下、自主練習を行える環境を整えた。

「成人看護学実習Ⅰ」は、堀越、金子、瀧川、松井（実習補助者）が担当し、渋川医療センターの4病棟にて実習を展開した。また、「成人看護学実習Ⅱ」は、萩原、小池、安田、松井（実習補助者）が担当し、前橋赤十字病院の2病棟及び済生会前橋病院の1病棟にて実習を展開した。両実習では、学生個々にきめ細やかな指導が行えるよう各グループに1名の教員が常時付き添い、患者をとらえる視点や看護過程の展開方法、看護技術の提供方法及び看護師としての姿勢等について学生個々に指導を行った。実習施設の臨床実習指導者と連携し、協働して指導を行うことにより、質の高い一貫性のある指導を行うことができた。

4. 4年次開講科目（「成人看護学特論（選択）」・「卒業研究（必修）」

「成人看護学特論」は、成人期にある人の健康問題について理解を深め、成人看護のあり方について考察することを目的に、萩原、堀越、金子、鈴木（非常勤講師）が担当した。7名の学生が履修し、様々な健康問題をテーマにディスカッションを行った。また、成人看護分野で活躍する専門看護師、認定看護師等に講義に参加していただき、各専門領域での活動の実際についてお話しいただいた。学生は、この講義を通して、成人期にある人の健康問題と看護支援のあり方について学ぶだけでなく、自分の目指す看護師像を明確にすることができた。

「卒業研究」は、萩原、堀越、小池、金子が担当し、15名の学生が卒業論文の作成に取り組んだ。学生自身が興味を持った研究課題について研究テーマを設定できるよう指導し、適宜、学生主体のゼミを開催しながら、着実に研究を進められるよう指導した。

Ⅲ. 課 題

成人看護学領域における2018年度の教育活動に向けた課題は以下の通りである。次年度は、成人看護学教育の更なる充実を目指して教育活動に取り組む。

1. 新カリキュラムの稼働に併せて、成人看護学教育で取り扱う教育内容及び教授方法について再検討し、実践する。
2. 学生の学習状況や習熟度に合わせた成人看護学教育のあり方について検討する。
3. 教員と臨床実習指導者との連携を強化し、臨地実習における学習内容の充実及び実習環境の整備を図る。

研究活動の総括

Ⅰ. 目 標

成人看護学領域では、以下のような目標を設定し、研究活動に取り組んだ。

1. 教員各々の研究分野における研究活動を積極的かつ継続的に行う。
2. 成人看護学領域の教育活動に関する共同研究を進め、成果発表に繋げる。

Ⅱ. 成 果

教員各々の研究分野において、積極的に研究活動に取り組み、堀越は科学研究費補助金・基盤研究（C）を取得して研究活動を行った。

教育活動に関する共同研究については、研究計画を立案し、調査に向けて準備を進めている。

Ⅲ. 課 題

成人看護学領域における今後の課題は以下の通りである。教員各々の活動のみならず、教員間で協力して、より活発に研究活動が行えるよう努力する。

1. 教員各々の研究分野における研究活動の強化を図る。
2. 成人看護学領域の教育活動に関する共同研究を進め、成果発表に繋げる。
3. 学外の研究費獲得に向けて、積極的に取り組む。

教育活動の総括

I. 目 標

老年看護学領域では、次のような年間目標を設定し、教育に当たった。

1. 老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習における教授内容の評価に基づく再構築
2. 学生がより理解しやすい教授方法の工夫の継続的評価
3. 臨床実習と看護師国家試験で求められる知識・技術を組み込んだ授業・演習・実習内容の検討の継続
4. 実習における施設・大学間の連携と指導體制の充実および実習担当教員の指導力の向上のための統一した指導基準作成
5. 実習環境整備のための病院看護部との連携・協働
6. 新たに老年看護学教員メンバーに加わった東泉助教について、これまでの教育経験を生かしつつ、大学における看護基礎教育の導入がスムーズに進むように支援

II. 成 果

1. 2年次開講科目

前期に老年看護学総論を開講し、伊藤、星野、東泉の専任教員と、武淵（非常勤・授業実習補助者）が担当した。ライフヒストリー・インタビュー、老化疑似体験実習をとおして老年期のからだ、こころ、生活の理解が深まるよう授業を展開した。

後期に老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱを開講し、伊藤、星野、東泉が担当した。この科目は演習・実習科目を履修するための基礎的な老年医学、老年看護学の基礎的な知識の獲得を目標としている。今年度は単位認定者が伊藤から星野に変更となった。新たに教授メンバーに加わった東泉助教については、これまでの教育経験を生かしつつ、大学課程の看護基礎教育で求められる授業展開について、伊藤、星野とともに授業内容・方法を検討しながら講義を担当した。

2. 3年次開講科目

前期に老年看護学演習を開講し、伊藤、星野、東泉の専任教員と、武淵（非常勤・授業実習補助者）が担当した。

老年期に特徴的な疾患を持つ高齢者のアセスメントと看護過程の展開、援助技術の習得を目的とした。前半で看護過程展開のグループワーク、後半で援助技術演習を取り入れて授業を展開した。どちらも後期の老年看護学実習で求められる実践的知識・技術・態度の準備学習となる内容を展開した。高齢者アセスメントについては、担当の星野が中心となり、高齢者のアセスメントの基盤となる、加齢変化と生活に注目したアセスメントガイドを活用し、アセスメント力の向上につながった。

後期に老年看護学実習を開講し、伊藤、星野、東泉、武淵（非常勤・実習補助者）が担当した。実習施設は、ほたか病院、グループホーム吉岡たやの家、グループホーム上白井の家で実施した。ケアサポートセンター夢は運営形態の変更があり、認知症高齢者のケアに関する実習が困難となったため、実習施設から除外した。

ほたか病院実習ではこれまでと同様、ほとんどの学生が職員寮に宿泊し、ヴィラージュ尾瀬で食事の提供をうけた。ほぼ全員皆勤で実習を終了し、単位を取得した。3年前期の老年看護学演習で使用したアセスメントガイド、高齢者に対応した援助技術がそのまま実習に活用された。実習指導者からも評価を得た。学生の実習に関する授業

評価では、実習内容、実習環境、教員、実習指導者に対して高い評価が得られた。

3. 4年次開講科目

老年看護学特論（選択科目）を開講し、5名の学生が受講した。例年と同様、検討課題を、①高齢者の健康段階と看護のかかわり（健康寿命の課題）、②急性期治療を受ける認知症高齢者の課題、③医療・ケアにおける身体拘束の問題、④高齢者虐待の問題、⑤高齢者の人権保護と看護、⑥エンドオブライフケア、に設定した。各課題に対し、基本的知識の理解、問題の提示（プレゼンテーション）と討議、国家試験出題傾向と解説、の3方向からアプローチし、検討内容と知識の理解を深めた。さらに学外での学習として、要介護高齢女性の家庭を訪問し、認知症で在宅療養する高齢者の思いの聞き取り、訪問リハビリの実際について見学学習した。また伊藤の外部での教育講演「認知症－病気の理解と対応」（高崎警察署）に同行し、講義補助を行った。

Ⅲ. 課 題

老年看護学の立場からみた、臨床実習、看護師国家試験、卒業後の臨床実践に不可欠な教育内容についてはこの数年検討を重ね、内容が精選できつつある。今後更に学生が理解しやすい教育方法を工夫して教育活動を展開したい。さらに授業、演習、実習における教育内容の標準化と教員の指導力の向上を目指して、教育内容、方法について研究的視点からのアプローチを進めていきたい。

研究活動の総括

I. 目 標

個々の教員の研究課題を継続し、研究活動の展開、成果の発表を行っていくこと、ほたか病院看護部との研究活動の推進を目標とした。

Ⅱ. 成 果

詳細は表1に示した。

表1 2017年度老年看護学領域教員の研究活動実績

	図 書		学術論文		その他の論文・記事		小 計	口頭発表		小 計	社会的貢献				所 属 学 会
	単 一 著 者 は	そ の 他	単 一 著 者 は	そ の 他	単 一 著 者 は	そ の 他		単 一 発 表 者 は	そ の 他		専 門 職 修 習 講 師	市 民 等 対 象 講 座	国 ・ 自 治 体 等 の 員	学 会 研 究 会 協 会 の 役 職 委 員 会	
伊藤まゆみ 教授	—	—	—	1	—	—	1	—	2	2	5	—	—	1	5
星野泰栄 講師	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	4
東泉貴子 助教	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	2

Ⅲ. 課 題

各教員の研究課題を継続的に遂行するとともに、文部科学研究費補助金、群馬パース大学特定研究費その他外部資金を獲得し、実習病院看護部、関連施設、大学院修士課程修了者との共同研究を更に継続推進することが今後の

課題である。

さらに、今年度の研究成果を学会発表し論文化、学会誌投稿を次年度の課題としたい。

教育活動の総括

I. 目 標

1. 選択制助産師教育課程が2年目である。より学生の学習成果に繋がるよう工夫、努力する。
2. 母性看護学・助産学領域で独自の教育教材を開発し、学生がより理解しやすい講義・実習となるように工夫する。
3. 母性看護学実習施設、助産学実習施設との調整を強化し、学生にとってより学びが多くなる環境とする。
4. 母性看護学、助産学領域の国試問題を解説する。これにより国試問題の傾向をつかみ、教員の知識向上、学生の教育につなげる。

II. 成 果

1. 母性看護学領域について（科目運営及び教育内容の改善）

2年次前期に「母性看護学総論」「母性看護学Ⅰ」、3年次前期に「母性看護学Ⅱ」、4年次後期に「母性看護学特論」を開講した。担当は、主に早川、中島、白井の専任教員と助手（廣瀬、依田）、非常勤補助者（吉野）が担当した。講義は独自の研究成果、学会・研修会等で得た知識、看護-助産教育支援フォーラムで独自に作成した教育教材等を活用し、科学的根拠に基づいて看護が考えられるような講義展開をした。また、演習は講義と演習が実習に関連できるように、母性看護学に特化した基本的看護技術の演習内容を充実させた。そして、「母性看護学総論」については、生殖器の形態・機能、受胎のメカニズム、性周期とホルモン等、「母性看護学Ⅱ」については、性・生殖、産科疾患等、講義の一部を産科医師（非常勤講師）が担当し、臨床での事例、生データを取り入れ、学生にわかりやすい講義展開となった。

2. 助産学領域について（科目運営及び教育内容の改善）

2017年は助産師教育課程開講の2年目である。早川、中島、白井、廣瀬、依田の5名で助産師教育課程のシラバス等をもとに各講義の共通理解、各自の役割を十分に確認しあい、協力体制のもと進めることができた。

講義は、4年次前期に「基礎助産学Ⅰ（概論）」、「基礎助産学Ⅱ（基礎医学）」、「基礎助産学Ⅲ（母子及び家族の心理・社会学）」、「助産診断技術学Ⅰ（医学的診断と周産期）」、「助産診断技術学Ⅱ（妊娠期）」、「助産診断技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断技術学Ⅳ（産褥期）」、「助産診断技術学Ⅴ（新生児期）」、「助産診断技術学Ⅵ（演習）」、「助産管理」を開講し、「基礎助産学Ⅳ（助産研究）」は通年科目とした。担当は、主に早川、中島、白井の専任教員と助手（廣瀬、依田）、非常勤補助者（吉野）が担当した。講義は母性同様、独自の研究成果、学会・研修会等で得た知識、看護-助産教育支援フォーラムで独自に作成した教育教材等を活用し、科学的根拠に基づいて看護が考えられるような講義展開をした。講義は7月24日(月)からスタートする助産学実習前に成績結果がでるよう配慮した。また、4月～7月までの期間は、母性看護学と助産学の講義が並行するため講師以上の教員は、ほぼ毎日講義が入る状況にあり、母性・産科領域の全教員協力体制のもと乗りきった。「基礎助産学Ⅱ（基礎医学）」、「基礎助産学Ⅲ（基礎医学）」の講義については、主に産科医師、小児科医師が担当した。「助産管理」は外部講師に依頼した。また、「助産診断技術学Ⅵ（演習）」では、3施設の臨床指導者を大学に招き、分娩介助の手技を伝授して頂く機会を設けた。

講義については、各教員に対する学生の評価は高かった。

3. 母性看護学実習について（実習内容の拡大及び実習施設との連携）

早川、中島、廣瀬、依田、吉野（非常勤補助者）が担当し、横田マタニティーホスピタルで行った。病棟実習では、受け持ちによる看護過程の展開、選択実習では、外来実習、分娩見学、健康教育の参加等を実施した。多くの学生は、実習目標を達成でき、母子への継続的な看護の必要性について学習する機会が得られた。短期間で実習目標を達成させるため、従来の演習と実習との繋がりをより強化し、さらに選択実習における実習内容の拡大（新生児外来や不妊外来の学生見学を増やす）と受け持ち実習の質の向上のため実習施設との連携（男子学生を含む学生の受け持ち体制等）を図り、学生にとって多くの学びが得られるように対応することができた。

4. 助産学実習について（実習内容及び実習施設との連携）

助産学実習は、「助産学実習Ⅰ（生理的な経過をとる妊産婦）」、「助産学実習Ⅱ（異常経過をとる妊産婦）」、「助産学実習Ⅲ（地域母子保健）」からなる。「助産学実習Ⅰ」では、10例の分娩介助を行うことが必須である。実習は3か所の実習施設（伊勢崎市民病院、公立藤岡総合病院、横田マタニティーホスピタル）で行った。

実習開始にあたり、各施設の師長を招き、学生、教員参加のもと実習に向けての打ち合わせ、意見交換等を行った。その後、6名の助産学生が2名のペアーになり各実習施設での実習を開始した。学生は目標とした10例の分娩介助を終了することができた。また、「助産学実習Ⅱ」では、異常経過をとる妊産婦について帝王切開事例を通して学ぶことができた。そして、助産学実習Ⅲでは、地域における助産・母子保健活動の実際を知り、助産業務を担う専門職の役割を学ぶことができた。

「助産学実習」は、分娩介助を行うこと、母子の命を同時に預かること、学生・教員とも休日・夜中の対応等もあり、気が抜けない形の実習であった。しかし、無事終了することができたことは準備から始まり、全員の協力体制の結果であったと考える。

5. 教育活動の成果

- 1、中島（5コマ）、早川（2コマ）、高崎医師会看護専門学校、母性看護学概論の講義を行った。
- 2、早川、中島は、一般社団法人 看護一助産教育支援フォーラムについて、「限られた教育環境で如何に効果的な母性看護教育を行うか」をテーマに東京助産師会館で2回（2017年11月18日、2018年3月10日）、大阪助産師会館で1回（2018年1月27日）の計3回のワークショップを企画・運営した。
- 3、2017年の母性看護学国家試験問題について、廣瀬（早川）が全問題の解説を行った。助産師国家試験問題について、午前は廣瀬（早川） 午後は吉野（早川）が国試問題の全解説を行った。この国家試験問題の解説は、看護一助産教育支援フォーラムに登録され、現在全国の看護一助産師教育支援フォーラムの会員が活用している。

Ⅲ. 課 題

1. 2016年度に開講した助産師教育課程をさらに充実させる。
2. 母性看護学・助産学領域の講義・実習に関する独自の教育教材開発を進め、さらに学生の質を高め満足度の高いものにする。
3. 実習施設との実習指導体制、環境の調整をさらに強化する。
4. 母性看護・助産師領域の独自の予想国試問題を作成し、国家試験全員合格を目指す。

研究活動の総括

I. 目 標

1. 個々の教員の研究課題に対する取り組みを発展させる。
2. 文部科学省の研究費等研究費等、学外の研究費の獲得に取り組む。
3. 研究成果を発表、登録する（大学院生も含め）。

II. 成 果

表1 2017年度母性看護学・助産学領域教員の研究活動実績

	図 書		学術論文		その他の論文・記事		小 計	口頭発表		小 計	学 位 取 得	社会的貢献			
	第 一 著 者 は	そ の 他	第 一 著 者 は	そ の 他	第 一 著 者 は	そ の 他		第 一 著 者 は	そ の 他			養 成 専 門 研 修 師	講 師 等 対 象 座	委 員 等 の	国 ・ 自 治 体
早川 有子 教 授	—	—	—	—	—	—	—	—	6	6	—	3	—	—	4
中島久美子 准教授	—	—	1	—	1	—	2	2	3	5	—	3	—	—	3
臼井 淳美 講 師	—	—	—	1	—	—	1	—	4	4	—	1	—	—	2
廣瀬 文乃 助 手	—	—	—	—	—	—	—	—	4	4	—	—	—	—	—

研究費取得

1. 早川は特定研究費を取得し、「ヒト母乳および新生児便中のウイルスに関する研究」に取り組んだ。
2. 中島は科学研究費補助金（基盤研究C）を取得し、「高年初産婦とパートナーのための育児支援プログラムの開発と介入効果の検討」に取り組んだ。

III. 課 題

1. 教員各自の自己研鑽に努める。
2. 個々の研究課題について、さらに積極的に取り組む。
3. 学外の研究費獲得に向けて、積極的に取り組む。

教育活動の総括

I 目 標

1. 小児看護学の理解を深まるような工夫をもって教授する。
2. 小児看護学実習において学生の効果的な学びを高めるため、実習施設の状況を加味した記録物を工夫する。

II 成 果

1. 2年次開講科目について

「小児看護学総論」は非常勤講師の内山が担当した。子どもの成長発達の理解を容易にするため、子どもの遊具や服を含めた生活全体からの学びを教授した。また、現代の家族や社会的特性から子どもの成長発達上で受ける影響を知るため、実際、子どもと接触した体験レポートを課して学生と共に学びを深めた。「小児看護学Ⅰ」では、客員教授の井埜氏と非常勤講師の小林氏が担当した。内容は「小児疾患の病態と治療について」であり、図や写真を多く取り入れ学生の理解を促した。全14回のまとめとして看護につなぐため、柴崎が1回を担当した。「小児看護学Ⅱ」では「慢性期・終末期・障害を持つ子どもの看護」についての5回を非常勤講師の内山が担当し、事例を取り入れ各看護の場面をイメージできるよう工夫した。その他、「小児看護の理念。アセスメント方法、周手術期、急性期の看護」10回を柴崎（2018年3月まで在職）が担当した。

2. 3年次開講科目について

「小児看護技術」、「小児看護過程の展開」を柴崎と非常勤助手で担当した。小児看護学実習では「健康な子どもの発達を学ぶ」、「子どもとのコミュニケーション技術を学ぶ」を目標に保育所（園）・認定こども園実習を2日間行った。「健康障害を持つ子どもと家族への看護」の目標は病棟実習4日間、「小児関連部門の役割と連携を学ぶ」の目標ではNICU／GCU、PICU、産科病棟、母子保健室、認定看護師、特別支援学校についてそれぞれの特徴の講義を受け、見学を行った。今年度は保育所11施設・病院2施設で行った。

3. 4年次開講科目について

「小児看護学特論」を開講したが、受講者はいなかった。

III. 課 題

1. 実習を加味して小児看護学を統合的に学べるよう、カリキュラム全体から小児看護学のシラバス構成や進捗状況の見直しをする。
2. 各実習施設の特性を把握し、講義との関連性をもって学びを深められるよう、施設との協働を図る。

研究活動の総括

I 目 標

1. 教員が継続してきた研究課題を深める。
2. 小児看護学の教育に関する研究を深める。

II 成 果

なし

III 課 題

1. 教員個々の研究を継続し発展させる。
2. 看護学領域に関する教育研究に取り組む。

教育活動の総括

I. 目 標

精神看護学領域では以下の目標を設定した。

1. 「精神看護学概論」、「精神看護Ⅰ」、「精神看護学Ⅱ」における科目間の整合性の確立、及び精神看護学の専門性の教授に向けた講義担当者との連携の強化を計る。
2. 精神看護学実習における効果的な対象理解および精神障害者の回復に向けた看護過程展開に関する検討。

II. 成 果

1. 2年次前期に「精神看護学総論（1単位）」、2年次後期に「精神看護学Ⅰ（2単位）」、3年次前期に「精神看護学Ⅱ（1単位）」、3年次後期に「精神看護学実習（2単位）」を開講した。
2. 精神疾患および精神障害の理解と中心に講義し、今年度からの試みとして、精神障害者当事者による講義と演習を行った。精神科デイケアを利用している当事者自身の体験談と、リハビリテーションの一環として行っている自己病名を用いたミーティングを行った。学生は、精神障害を持つ当事者の体験を身近なものとして理解でき、精神障害を持ちながら生活するための工夫やリハビリテーションの意義について十分に理解が深まった講義であった。また、精神看護専門看護師によるリエゾン精神看護に関する講義と、司法精神病棟の看護責任者の経験のある看護師による講義、アルコール依存症病棟に勤務する看護師による講義を行い、精神看護に関する専門性の視点を深め、教育内容の充実が図ることができた。
3. 精神看護学実習では、精神障害者の特徴及び生活支援に関するアセスメントと実際の支援方法の理解が深まり、精神看護学の看護の基礎的知識及び技術、態度を身に付けることができていた。

III. 課 題

1. 精神看護の対象理解、及び精神看護技術の理解を深めることにつながる教育内容の検討を行う。特に、精神障害者に対するストレスに着目した看護について教授方法を検討する。2. 実習施設との実習指導に関する協働をさらにすすめていく。

研究活動の総括

I. 目 標

1. 個々の教員が継続している研究課題について引き続き取り組む。
2. 精神看護学に関する研究を進める。

II. 成 果

村松：学会発表を共著で2本発表した。

Ⅲ. 課 題

1. 個々の研究課題における取り組みを発展させる。
2. 精神看護学に関する研究課題に取り組み発展させる。

教育活動の総括

I. 目 標

1. 看護基礎教育としての公衆衛生看護学教育の実施状況を継続的に評価し、課題の明確化と改善に取り組む。
2. 保健師教育課程全体をとおして教育効果を適切に評価する方法の確立とそれに基づく課題の明確化に取り組む。
3. 公衆衛生看護学実習の運営及び教育上の成果を継続的に評価し、質の向上を図る。
4. 教員の専門領域に沿った地域貢献を促進し、大学と地域の連携による教育環境の質向上に資する。
5. 保健師国家試験の全員合格に向け、対策を充実させる。

II. 成 果

1. 看護基礎教育としての公衆衛生看護学教育の実施状況を継続的に評価し、課題の明確化と改善に取り組む。

公衆衛生看護学の基本的事項は、「公衆衛生看護学概論」(必修/2単位/30コマ)において学科の全学生が履修した。同科目は公衆衛生看護学の歴史、基礎となる理論、基本技術の他、地域、学校、産業の場における活動の展開方法等の内容でシラバスを構成している。改正教育課程の下での開講は5年目となり、概ね良好な成績で87人全員が単位を取得した。更に、学生の関心、志向に応じて公衆衛生看護学の各論を学習する機会として、「公衆衛生看護学Ⅰ」(選択/2単位/30コマ)、「公衆衛生看護学Ⅲ」(選択/1単位/15コマ)、「公衆衛生看護学Ⅳ」(選択/2単位/30コマ)を開講しており、2017年度はそれぞれ86人、78人、67人が履修し、86人、77人、63人が単位を取得した。地域包括ケアシステムの構築が進められる中、地域の人々の生活への理解を深め、多職種ならびに地域住民と連携し、人々が自らの健康を守る力量を高められるよう支援するために、今後も学生個々の学習計画を尊重しつつ、これらの科目の履修を推奨していく必要がある。

2. 保健師教育課程全体をとおして教育効果を適切に評価する方法の確立とそれに基づく課題の明確化に取り組む。

2017年度は選択制による保健師教育課程になって3年目の学生が最終学年を迎え、履修者20名全員が課程を修了した。保健師教育課程の教育効果を評価する指標として、1) GPA 2) 保健師国家試験合格率を用いて課題を抽出する。

1) GPA

保健師教育課程履修者必修科目のGPA中央値は、それぞれ「公衆衛生看護学概論：2 (n=87)」、「公衆衛生看護学Ⅰ：2 (n=86)」、「公衆衛生看護学Ⅱ：3 (n=20)」、「公衆衛生看護学Ⅲ：1 (n=78)」、「公衆衛生看護学Ⅳ：1 (n=67)」、「公衆衛生看護管理学：2 (n=20)」、「公衆衛生看護学実習：4 (n=20)」であった。保健師教育課程履修者のみが受講する「公衆衛生看護学Ⅱ」、「公衆衛生看護管理学」と「公衆衛生看護学実習」については、中央値が2～4の範囲を示しており、適正な教育効果が認められた。一方、看護基礎教育の一環として履修する学生も多い「公衆衛生看護学Ⅲ」、「公衆衛生看護学Ⅳ」については、いずれもGPAの中央値が1であり、教育効果という面で一層の努力が必要である。これらは保健師課程の選考が行われる前に履修する科目であり、学習成果が選考試験受験の意思に多少なりとも影響すると考えられるため、学生の興味・関心を深め、学習意欲を高めるような内容であるかどうかの見直しが必要である。「公衆衛生看護学Ⅰ」については中央値が「Ⅱ」と「Ⅲ」、「Ⅳ」よりも高い教育効果が認められた。本科目では、保健指導や家庭訪問、健康診査の運営などの基本技術の習得と模擬体験に基づく思考過程の育成を目的として、体験的な

学習を提供していることから、学生の興味・関心を引きやすく、学習意欲を高めることにつながったと考える。

2) 保健師国家試験合格率

20人が受験し15名が保健師国家試験に合格した（本学合格率75%、全国新卒合格率85.6%）。今後は、保健師国家試験に合格できるレベルにまで学生全員を到達させることが求められる。

3. 公衆衛生看護学実習の運営及び教育上の成果を継続的に評価し、質の向上を図る。

選択制になって3年目となる2017年度は、保健福祉事務所3か所（利根沼田、吾妻、渋川保健福祉事務所）、保健所1か所（前橋市保健所）にて4日間、市町村6か所（片品村、川場村、中之条町、東吾妻町、渋川市、前橋市）にて8日間、高崎市内小学校4校（大類、長野、南八幡、豊岡）、中学校2校（新町、榛名）にて2日間、事業所4か所（太陽誘電株式会社榛名工場、太陽誘電株式会社中之条工場、株式会社IHIエアロスペース、パナソニック株式会社アプライアンス社 大泉健康管理室）にて2日間の実習を行った。各実習施設を担当する教員が主体となり、実習依頼、事前学習の指導、スケジュールの打合せを行った。また、実習指導者と協力して健康教育の指導にあたった。実習終了後はまとめの演習として、異なる実習地・施設で得られた体験や学びを学生間で共有し、実習目標毎に整理した。更に実習指導者を助言者に迎え、実習報告会を開催し、学生による学習成果の報告を行った。次年度に向け教員・実習指導者による意見交換会を実施した。

2017年度実習では、健康相談事業は20%、健康教育事業と健康診査・検診事業については100%の学生が体験できた。学生一人当たり平均1.5件（最少0－最大4）の家庭訪問実習を行い、のべ23件（学生ひとりあたり1.2件）の地区組織活動に参加した。地域包括支援センター事業の説明を全員が受け、感染症審査協議会（結核）に30%の学生が参加した。連絡調整会議等は40%が体験し、全員が健康教育を実施した（母子2件、高齢者5件）。中間評価（面接評価）の機会を設け、学生と到達度等を確認し、残りの実習期間中に改善できるよう調整した。実習のまとめ終了後に面接評価を行い、実習まとめのレポートと併せて最終的な到達状況を確認した。

公衆衛生看護学実習の評価については、①総合評価表ならびに②学外実習評価アンケートを用いて評価した。

①総合評価表

行動目標19項目全てにおいて、全員が「3. だいたい達成した」「4. 十分達成した」との評価であった。「4. 十分達成した」よりも「3. だいたい達成した」人の方が多かった目標は、「1-1）地域で生活する個人・家族・集団の健康課題を解決するための展開方法を説明できる。」「3-1）地域の社会資源の開発と連携の実際を説明できる。」「3-2）地域の関係者・関係機関との協働によるシステム化、施策化のプロセスを説明できる。」であった。地域の強みを生かしながら、個人、家族、集団の健康を守る力をどのように育成していくか、またそのための社会資源や人とのつながりをも含めた環境づくり、仕組みづくりがどのように行われているのか、実際の事業に参加したり、事例について話を聞いたりすることにより理解を深められるよう実習指導者と連携を密にとりながら実習を進めていく必要がある。

②学外実習評価アンケート

看護学科共通の書式を用いて評価を実施した。40小項目のうち29項目において、全員が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した。『オリエンテーションについて』のうち4項目、『学習内容・方法について』のうち「目的・目標の達成が可能な実習方法であった」「事前課題は学習を深める上で効果的だった」「実習中の記録物・提出物は学習を深める上で効果的だった」の4項目、『担当教員について』のうち「教員から精神的なサポートが得られた」、『学習環境について』のうち「実習に必要な資料や情報は入手可能だった」、「グループの人数は適切だった」、「グループのメンバーは協力的だった」の3項目において、1人～2人が「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答していた。実習中は2人または4人の少人数で行動するため、きめ細やかな指導や調整が可能になると考えられる。今後は学生ひとりひとりの特性に合わせた実習指導や実習スケジュールの調整ならびに実習体験の補完が必要である。

4. 教員の専門領域に沿った地域貢献を促進し、大学と地域の連携による教育環境の質向上に資する。

各教員が実習協力機関をはじめ県内市町村において、保健活動、アンケート調査のデータ分析、地域の高齢者サロンや健康関連イベント活動等の支援を行った。対象地域の保健行政への理解や職員との信頼関係が高まり、実習ならびに研究活動における協力関係の強化に繋がった。

5. 保健師国家試験の全員合格に向け、対策を充実させる。

3年後期の臨床実習中から看護師国家試験の準備をするよう促し、看護師国家試験に必要な知識の定着の上に、保健師の学習を積み重ねていけるよう指導した。4年前期には10回に渡り保健師に必要な看護技術演習を行うと共に、保健師国家試験過去問題のプレゼンテーションを学生に課した。演習ならびに実習においては、体験と保健師国家試験勉強が繋がるように補足説明したり、質問を投げかけ知識を確認したりすることにより、知識の定着を図った。保健師国家試験模試で合格圏に満たない学生については、個別支援を実施した。疫学保健統計ならびに公衆衛生看護学の頻出問題を中心に、補習講義を実施した。また、9、11、12、1月の4回にわたり、業者模試を実施した。

保健師国家試験合格率については2-2)に示した通りである。卒業時アンケートによると、保健師国家試験勉強に本格的に取り組み始めた時期が「卒業論文提出後(11月)～冬休み前」「冬休み」「冬休み明け以降」と回答した者が8名(42.2%)であり、過去問題集の学習回数については、「2周以上」が12名(63.2%)いる一方で、「1周」「半分程度」が2名(10.6%)であった。不合格者の中には、2つの国家試験を受験する準備が十分にできないまま国家試験に臨んだ者もいたことが予測された。ほとんどの学生は看護師として就職するため、看護師国家試験の学習を優先する傾向にあることから、保健師課程合格直後から課題を提示するなど、看護師国家試験対策に早くから取り寄せ、計画的に知識の定着を図ることで、より早い時期から保健師国家試験勉強に集中できるような環境作りが必要である。

Ⅲ. 課 題

1. 大学基礎教育におけるモデルコアカリキュラムに対応する教育を充実させる。
2. 保健師教育課程全体をとおして教育効果を適切に評価し、それに基づく課題の明確化に取り組む。
3. 公衆衛生看護学実習の運営及び教育上の成果を継続的に評価し、質の向上を図る。
4. 看護師国家試験ならびに保健師国家試験の2つの国家試験に同時に合格できる学生の選抜と指導の方法を確立する。

研究活動の総括

Ⅰ. 目 標

1. 個々の教員の研究課題に対する取り組みを引き続き強化する。
2. 研究活動と地域貢献を一体化して取り組むフィールド活動を発展させる。

Ⅱ. 成 果

1. 2017年度公衆衛生看護学領域教員の研究活動の総括

詳細については、第3部研究活動の記録のとおり。発達障害児支援、生活習慣病対策に関する口頭発表の他、矢島は発達障害児支援、小林は女性の生活習慣と健康、廣田は職域における発達障害者支援とそれぞれの研究課題を追求し、成果を上げた。2017年度は科学研究費補助金を矢島、廣田、奥野(2018年3月まで在職)の3名が受けた。

表1 2017年度公衆衛生看護学領域教員の研究活動実績

	図 書		学術論文		その他の論文・記事		小 計	口頭発表		小 計	学 位 取 得	社会的貢献			
	単 一 著 者 は	そ の 他	単 一 著 者 は	そ の 他	単 一 著 者 は	そ の 他		単 一 発 表 者 は	そ の 他			養 成 専 門 研 修 講 師	市 民 等 対 象 講 座	国 ・ 自 治 体 の 員	学 会 研 究 会 協 会 の 役 職 委 員
矢島正榮 教授	—	—	—	—	—	—	—	—	3	3	—	2	—	—	1
小林亜由美 教授	—	—	—	1	—	—	1	1	3	4	—	—	—	—	—
廣田幸子 准教授	—	—	—	—	—	—	—	—	3	3	—	1	—	—	3

2. フィールド活動

矢島は全国保健師教育機関協議会理事として、保健師教育の発展に貢献した。小林は群馬大学大学院保健学研究科協力研究員として女性の生活習慣と健康に関する研究に貢献した。廣田は日本産業衛生学会関東地方会看護部会幹事、日本産業衛生学会関東地方会編集委員として、産業保健領域の学術的発展と従事者の研鑽に貢献した。また群馬県看護協会教育委員として県内看護師の研修等の企画、運営に関して中心的な役割を果たした。奥野（2018年3月まで在職）は、群馬県、県内市町村（前橋市、渋川市、玉村町、大泉町）、鳥取県米子市ならびに倉吉市近隣市町村において発達障害児支援に関する研修会講師を務め、保健、保育、教育、ボランティア関係者等の発達障害児支援への理解や支援技術の向上に尽力した。

Ⅲ. 課 題

1. 個々の教員の研究課題に対する取り組みを引き続き強化する。
2. 研究活動と地域貢献を一体化して取り組むフィールド活動を発展させる。

教育活動の総括

I. 目 標

1つ目は、在宅看護論は統合科目として位置づけられていることから、既習の学習内容との関連性に配慮した教育活動を展開すること。2つ目は、看護師という職業人を育成する観点から、我が国の社会福祉の現状や国の保健・医療・福祉施策の動きにも注目し、地域包括ケアシステムの中で、期待される在宅看護師の専門性・役割を教育すること。3つ目は、近々の看護師国家試験において在宅看護が重要視されていることから、それに対応できるための学習内容を展開することである。

II. 成 果

1. 在宅看護概論（2年次前期）

笠井、山野が担当した。科目の目標は「在宅看護の歴史と現状、在宅看護の目的、在宅看護の対象、在宅看護における看護師の役割や機能が在宅療養の場＝生活の場でどのように展開されているか、看護の特徴を理解する」、またグループワークによる検索的学習を交えて在宅看護のあるべき姿と今後の在宅看護に求められる役割と専門性について自ら思考できる」と、その目的を達成するための到達目標は、1. 在宅看護の歴史、背景、現状を学び、在宅看護の目的、在宅看護の機能・役割が理解できる。2. 生活の場における在宅看護の特徴が理解できる。3. 療養者・介護者の課題に対する看護師の基本姿勢、看護提供のポイントが理解できる。4. 在宅看護の現状及び課題を理解し、在宅看護の特徴を踏まえた在宅看護のあるべき姿を考えることができるとした。シラバスで授業計画の全容を学生に提示し、学習目標、学習内容、授業日程、評価方法について説明した。講義毎においても学習到達目標と講義内容を明確に提示し学生の関心や動機づけを高めるようにした。授業は、講義形式で、学生のレディネスの状況を考慮し、小グループまたは6～7人グループ編成での検索的学習を盛り込み、またDVDなどの視聴覚教材を織り込みながら実施した。事前学習として、講義内容に関連した看護師国家試験過去問題の実施と次週の講義内容について予習を課した。授業冒頭では、前回講義内容の復習を兼ね看護師国試過去問題を実施し、既習効果を確認しながら授業を展開した。2年生前期の段階では看護体験がない学生が殆どであり、在宅看護のイメージすらできにくいため、学生にいかに在宅看護を身近なところで興味を持ってもらえるかが非常に重要なポイントである。そこで、「学生自身の家族（父）が病気になり介護の手が必要になった」場合や「講師の看護・介護体験談」などから、グループワークを行い、家族が在宅で療養生活をおくることの意味、家族機能に及ぼす影響を検討し、訪問看護師の果たす役割についてグループディスカッションし、発表を行った。発表は、学生ができるだけ主体性をもって参加できるように、運営は学生が実施し、その評価は学生と教員双方で実施した。またその総合評価とまとめを作成、配布し、学生一人ひとりの学習到達度にバラツキが生じないよう配慮した。学びが特に必要な内容については、講義資料上でも明記しつつ、重要箇所を学生が押さえ学習できるようにした。

成果または実施結果について、学生の学びの到達度を評価する手段として、事前課題、グループ発表、中間・定期試験、学生評価、ミニツペーパーの記載内容を用いた。そこからみえた学生の学びでは、在宅看護は、医療機関で提供されている看護とは対象、看護の提供の場＝住まい（単に療養者の自宅のみならず、地域包括ケアシステムで言われているように自宅、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、保育園、学校、グループホームなど多様な場所で展開）、対象の年齢、疾患や状態は多様であり、療養者・家族の在宅療養に対する希望も一人一人異なること、また医療機関とは異なる「生活の場」における看護の特徴や役割は殆どの学生が理解できていた。また模擬事例を通してのグループディスカッションでは、家族に病気の人が出た場合の家族機能や役割変化（いわば家族シ

システムの多様性と課題)に対する支援の必要性、療養環境の多様性と調整の必要性、多職種の専門性や資格、そして連携の必要性について実感として学ぶことができていた。「私が設置したい訪問看護ステーション」をテーマに課したグループワークでは、訪問看護制度を遵守しつつ、それぞれ特徴のあるまた独創性のある、温かみを感じる訪問看護ステーションの立ち上げができ、学生の思いやりや人間性が感じられた。ミニツツペーパー、学生評価から、授業毎の質問や疑問、理解が難しかった内容について把握できたため、そのすべてにQ&Aとして解答し、紙面で学生に配布説明し、さらに理解を深められるための資料とした。

2. 在宅看護論1(2年次後期)

笠井、山野及び外部講師3名が担当した。科目の目的は「在宅看護の対象である療養者と家族、療養・生活環境について、在宅看護の特徴を踏まえた訪問看護の展開方法を学ぶ。また在宅療養を支える社会資源、社会保障制度を学び対象者のニーズや状態、状況に応じた社会資源、社会保障制度の活用方法、提供方法を考えることができる。さらに地域包括ケアシステムの中での多職種連携の実際を学び、それらを有効に機能させるための看護師の調整機能についてグループワークを通して自ら思考できる」とし、その目的を達成するための到達目標は、1. 在宅看護の仕組みを学び、在宅療養者・家族の在宅療養を可能にするための条件や方法が説明できる。2. 在宅療養に必要な社会資源、社会保障制度を学び、対象者に必要な社会資源、社会保障制度の情報提供や療養者・家族の社会資源の選択に関わる意思決定支援のための看護方法が説明できる。3. 在宅看護過程の特徴を理解した看護過程の展開方法を説明できるとした。シラバスで講義の概要を含む授業計画の全容と学習目標、学習内容、授業日程、評価について説明し、各講義ごとではその講義の学習目標及び、学習内容を提示し、学生の関心や動機づけを高めるようにした。授業はオムニバス形式で実施し、他職種連携協働の実際として訪問看護師、介護支援専門員、理学療法士の立場から講義をしていただいた。社会保障制度や行政制度については、他の領域で既習しているが、学生のレディネスの状況から多くの学生が最も苦手とすることが確認できた。制度の理解を深め、知識を習得するためにALS療養者・家族の生活のDVDや自ら作成した「退院支援・調整カンファレンス」のDVDを使用、講師が体験した看護事例から「事例から学ぶ……〇〇」と位置づけ、社会資源の利用の優先順位を明示しつつ、社会資源の活用方法と意義について講義した。学習効果、学習意欲への対応として、看護師国家試験過去問題の実施で前回講義の復習、まとめを実施し、事前配布した講義資料の内容について予習を課した。授業冒頭では看護師国家試験過去問題を実施し説明し、学習効果をみた。特に苦手意識の高い社会資源の利用についての学習効果を上げる必要性を痛感したため、模擬事例を提示し、「ケアマネジメントの実際」、「退院支援・調整」についてグループディスカッション、発表、評価を行った。発表の運営、進行は学生が主体となり実施し、学生の興味と参加意識を高めるようにした。成果または実施結果について、評価は事前課題、授業態度、学生の反応、グループディスカッションの内容、発表内容、学生の参加度、中間・定期試験、学生評価、ミニツツペーパーの内容などから実施した。その結果、地域の中で療養者とその強みを生かしながら、自立するための看護支援の在り方や家族の介護負担を考慮した社会資源の活用(社会保障制度、行政制度)方法、多職種との連携方法や訪問看護師の役割については学びが得られていた。在宅看護では、医療保険制度、介護保険制度、障害者総合支援法、難病法、児童福祉法、各種行政施策など療養者をささえる社会資源は極めて多様な上に制度の内容が年単位で変化するなど非常に複雑化している。訪問看護師はこうした複雑な制度をタイムリーに的確に把握したうえで、療養者・家族の自立・自律を支援するために効果的な社会資源の利用について療養者・家族の意思決定支援とコーディネーションをしている。この理解が学生に求められているが、ミニツツペーパーや筆記試験の結果からみると、特に社会保障制度、行政制度の基礎的知識を問う問題は正当率が低い傾向にあった。このことは、社会保障制度や行政施策が多様で複雑であり、利用する場合には疾患や年齢などにより利用できる優先順位が決まっていることから、単に知識の習得ではなく、利用方法の学習であるということが、学生の学びをさらに困難にしている要因と思われた。学生はミニツツペーパーでその学習の困難性を指摘していたため、疑問や学びが困難であった内容については、すべてQ&A形式で、できるだけわかりやすく表現し、紙面で学生全員に配布、説明し、授業の補足と疑問点ができるだけ解消できるようにした。

3. 在宅看護論Ⅱ（3年前期）

笠井と山野及び外部講師・演習補助者3名が担当した。科目の目的は「在宅療養を支える社会資源とそれらを有効に機能させるための方法を理解し、在宅看護と生活援助の基礎的技術を習得する。また習得した看護技術を応用し模擬事例から生活の場に即した看護過程を展開することにより、在宅看護の実際を学ぶ」とし、その目的を達成するための到達目標として、1. 在宅看護支援に関わる関係機関、関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を説明することができる。2. 基本的な生活援助の技術が習得できる。3. 特殊な処置・管理を要する在宅療養者の援助に必要な知識と看護技術が習得できる。4. 家族への介護技術支援に必要な知識と看護技術が習得できる。5. 在宅療養者に対する看護過程の特徴を理解した看護過程が展開できる。とした。シラバスで講義の概要を含む授業計画の全容と学習目標、学習内容、授業日程、評価について説明し、各講義ごとではその講義の学習目標及び、学習内容を提示し、学生の関心や動機づけを高めるようにした。授業はオムニバス形式の講義と看護過程の演習の二本立てである。事前課題は、講義の場合、復習として看護師国家試験過去問題を、予習として事前講義資料の読み込みを課した。看護過程の演習では、模擬事例の情報収集、整理、アセスメント、看護診断、長期目標について、また、看護過程のロールプレイ後の評価についてレポートを課した。講義はDVDなど視聴覚教材の利用、講師の経験事例、訪問看護で多い事例などをふまえ、「生活の場」で行われる在宅看護の特徴や工夫されている在宅ならではのケア方法の工夫例などを織り交ぜながら教授した。そのキーワードは「療養者」、「家族」、「環境（地域、住まい）」、「多職種連携」であり、そのキーワードにそって療養者が希望する生活を実現するための訪問看護の役割について教授した。また在宅看護は、医療機関の看護と違い、24時間常時訪問看護師が滞在しているわけではないため、療養者や家族の能力に応じた看護提供が求められ、特に家族教育及びリスクマネジメントは在宅看護の重要なポイントと位置づけ教授した。学生の学びをさらに深めるための学習資料として、すべての疑問や質問内容について、Q&Aで解答説明し、授業の補足とした。看護過程は、模擬事例3例についてグループ毎演習し、シナリオを作成し、ロールプレイを実施した。演習では学習効果を上げるために、各事例毎グループ別に教員を配置し、学生個別の準備状況や関係性に配慮したグループ編成を行い、グループや学生個々の変化を観察しつつ、グループダイナミクスが形成されるようファシリテートを行った。ロールプレイの発表では、特に模擬事例から在宅の場における看護支援にむけた臨場感の演出ができるよう指導した。評価は学生間、教員間で看護過程の全過程をふまえ行った。模擬事例はライフステージにそって、①障害児（小児期）、②ALS（進行性疾患、成人期）、③認知症（老年期、エンドオブライフ）とし、単に疾患をもって生活している人に限定せず、それぞれのライフステージにそった心身の特徴・課題や家族の発達段階をも理解した在宅看護過程が展開できるように設定した。結果及び成果について、評価は、事前学習、レポート、学習態度や反応、学生評価、ミニッツペーパー、中間・定期試験などから実施した。生活の場で行われる在宅看護の特徴、看護の役割については非常によく理解できていた。一方、「生活課題」「必要な看護技術」の理解は概ねできていたが、基礎疾患の理解が乏しい傾向があり、医療課題を分析する力が弱いように感じられた。そのことは、看護過程の学生一人一人の記録物からも明らかであった。特に看護過程の①情報収集、②情報整理、③アセスメントの段階の理解、展開が不十分であり、中でも医療に関する情報収集、アセスメントが課題であった。そこで学生一人一人の看護過程の記録物を添削し、個別指導を行った。個別指導の結果、学生は看護過程で自分のどこが課題かを理解出来、グループワークによって、どのように検討し展開したらよいかを修正しながら実施できるようになっていた。ロールプレイでは全員の参加度を増すために、学生主体の運営とし、学生自身による各グループの発表に対する評価を課した。その結果、学生は他のグループの発表に注目することができ、同じ事例でも他のグループとの違いが明確となり自分たちのグループの良かった点、改善すべき点、新たな気づきや学習の広がりが観察された。また家族教育や療養者への説明媒体として学生たちが学生たちによるパンフレットの作成、在宅にある物品をうまく活用し経済性をふまえた学生独自のケアの工夫もあり、在宅看護の基本的姿勢が表現されていた。最終日には、各グループ毎の発表について学生の評価、教員の評価を加えたまとめを行い、学習効果のバラツキをできるだけ少なくするために、事例毎の看護過程の展開方法をまとめを配布し説明した。

4. 在宅看護実習（4年次前期）

在宅看護実習は、笠井、山野の他実習指導教員4名が担当した。実習は、11ヶ所の訪問看護ステーションに依頼し行った。在宅看護実習の目的は、在宅療養者とその家族及び療養環境を踏まえた療養者の生活を把握し、訪問看護の対象や療養者の生活の場に応じた接遇ができ、在宅看護過程を展開することができる。また在宅療養支援システムの構築過程を学び、チームとしての多職種連携の実際やそれぞれの関係職種の専門性・役割を学ぶとし、そのための到達目標として1. 在宅看護の対象となる療養者とその家族の療養生活の特徴が説明でき、対象者に応じた看護支援が説明できる。2. 在宅療養の場における訪問看護の役割が説明できる。3. 在宅療養者とその家族を対象とする看護過程が展開できる。4. 訪問看護ステーションの機能・役割が説明できる。5. 在宅療養支援システムの仕組みと他職種連携の実際を学び、それぞれの職種の専門性や役割が説明できるとした。在宅看護実習に対する学生のレディネスを高め、効果的な実習が可能となるように、ガイダンスを2月、4月の2回に分けて実施した。ガイダンスでは特に「生活の場」の理解を深めるために、実習施設周辺の地区診断を実施し、発表しあった。また既習の学びの内容が実習で生かされるように事前学習課題を課し、レポート提出を求めた。一人一人のレポート内容を添削し、不足しているまたは理解が不十分な内容については再提出を求めた。また受け持ち療養者が決定した段階で、個別面接を行い、学生の実習への不安の軽減に努めると共に受け持ち療養者・家族の現状と医療看護課題・生活課題の共有化を行い、実習施設での情報収集や看護過程が効果的に展開できるよう指導した。実習期間は4月～6月末日であり、1クール臨地実習6日間、学内実習4日間で実習指導を展開している。学内実習では、特に在宅看護実習の目的を達成できるように、まず、1つ1つの実習目標に対して学生がどのような学習行動を行えば目標が達成できるかをグループディスカッションをし、実習への動機づけとした。グループ内の討議内容の発表は、学生主体で運営、進化した。以後の学内実習では到達目標の達成度の中間評価と最後の学内実習では、最終的な達成度をグループディスカッションし、発表しあった。またそれぞれの訪問看護ステーションの特徴から、各施設ごと学生の実習体験が異なるため、グループを再編成しつつカンファレンスで実習体験の情報交換と共有化を図り、一人一人の学びに広がりをもてるようにした。実習施設の場における実習指導体制は、指導教員を一人ずつ実習施設に配置し、学生個別のレディネスに応じた実習指導を行うと共に、学生が示す様々な感情に対する支援をしつつ、療養者の生活の場で展開される看護を実践する中での予測される種々の困難や問題を未然に防ぐためのサポートをし、学生がのびのび実習に臨めるように配慮した。実習終了後は在宅看護実習の行動目標1つ1つに対して学生の体験と学び、気づきについてレポートを課した。学生一人一人の学びの内容を評価するために、教員、実習指導教員と在宅看護実習終了後カンファレンスを持ち情報交換し課題を検討した。

成果または実施結果について、評価は実習施設ごとの指導教員及び施設の指導者からの報告や評価、学内実習や演習、グループ発表、レポート、受け持ち療養者の看護過程、事前課題等から実施した。実習期間中、発熱などで欠席した学生及び事故で期間外実習を行った学生が存在した。実習前の地区診断の実施は、看護過程の展開などから実習施設周辺の地区概況を把握したことが、療養者の生活の場や生活課題を抽出するために役立っていたことがわかった。学内実習の展開は、実習場面での学習方法、学習姿勢への動機づけとなり、実習最後のカンファレンス結果からも明らかのように、受け持ち療養者・家族を始め訪問事例、訪問に同行していただいた看護師が行った看護や看護姿勢などの側面から具体的な学びを得ていた。さらに体験の共有化は、幅広い在宅看護の実践方法役割や多職種連携・協働の方法、ツールなど多方面の理解につながり、個別の体験では気づけなかった幅広い学びとなっていた。実習目標別評価では、特に在宅看護の場や在宅療養者とその家族の特徴が理解できる、在宅療養者とその家族を対象とする看護方法が理解できる、訪問看護師に求められる態度と責任が理解できるは達成度が高く、社会資源の活用方法を説明できる、在宅ケアチームの構成と活動については達成度がやや低い傾向にあった。訪問看護ステーションの指導者からは、療養者家族との接遇は概ね良好であったが、やや消極的な学生がいた。しかし実習態度、看護過程の実践、学びの内容などについては高評価をいただいた。最後に「あなたが目指す訪問看護師とは」のグループディスカッションと発表では、教員がこうありたい訪問看護師像が描かれており、実習施設の訪問看護師さんたちからの学びや看護の姿勢が反映されていたものと感じた。また学生からは、机上の講義の範囲では「在宅看護は大変」といったイメージが上がっていたが、実習体験した療養者・家族は前向きに明るく生活している人々が多いことを実感し、在宅看護の対象の多様性の理解や机上の講義を補足する気づきが得ら

れていた。しかし、「何故、今療養者・家族は前向きでいられるのか？」についての考察までには思いを馳せることは困難であり、現状を捉えるだけでなく、療養者・家族の生活の歴史や背景を踏まえ、在宅看護を考えることの重要性を教授した。最後に学生が提出した在宅看護実習の目標に対するレポートをまとめ、実習評価と共に2017年度の在宅看護実習の報告書として各施設に配布し、次年度の実習に向けての協議資料とした。

Ⅲ. 課 題

1. 在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ、在宅看護論Ⅱについて

- ①在宅看護に関連する諸制度が多く、看護師国家試験過去問題をみると、制度によっては、詳細な内容の理解が必要な制度もあり、現在のカリキュラム編成では、十分な教育時間とはいえず、苦慮している。どのように工夫したら効果的に各種関連制度を学生が興味をもって覚えられるかその教授方法の工夫が必要である。
- ②在宅看護は、各専門領域の既習の上に成り立っている。そのため、看護過程の教育では、看護師であるという前提から「疾患の理解」が必須である。生活課題は押さられているものの、医療課題の抽出が課題であるため、疾患の理解から講義をする必要性がある。また疾患を調べるための検索方法についても教授が必要であり、こうした基本的な部分を補足しつつ、授業を展開しているため、国家試験出題基準を網羅した教育を行うための時間配分の検討が必要である。
- ③授業の中では、説明してきているが、学生は体験を通して、自分の気づきに気が付くことが多いため、現状を把握し理解することだけでなく、療養者の背景、生活の歴史を踏まえ、現状を理解し、看護過程を実践する能力を養う必要性がある。
- ④わかりやすい授業をするためには、DVDなどの教材が必要であるが、既存のDVDは映写時間が長く、使用勝手が悪い。自ら視聴覚教材を作成する試みも必要か。
- ⑤在宅看護実習では、数人の学生が発熱など健康上の理由で実習を欠席した。2週間という短い実習期間である。学生の体調管理にも配慮する必要性がある。
- ⑥在宅看護実習の個別評価は指導教員により異なることがあるため、現在は、評価のための検討会を設け、その是正を図っている。評価マニュアルの作成が必要か。

研究活動の総括

1. 実 施

以下2つの研究テーマについて実施した。

- ①在宅看護実習における事前課題及びカンファレンスが実習目標達成度に与える影響
研究実施責任者 在宅看護 山野えり子
- ②終末期ケアにおける訪問看護職の看護行動からみえる地域連携の促進要因と課題の検討
研究実施責任者 在宅看護 笠井 秀子

2. 成 果

- ①については、在宅看護実習を行った4年生を対象にアンケート調査を実施し、結果を解析、まとめ中である。
- ②については、長野県内の訪問看護ステーションに従事する訪問看護師を対象に安部らが開発した信頼性・妥当性がすでに検証されている地域連携尺度を用い、アンケート調査を実施した。現在アンケート結果について、アンケート調査をお願いした長野県訪問看護ステーション協会と解析・検討中である。
この調査研究を実施するにあたり、終末期における訪問看護の実際について、長野県訪問看護協会及び訪問看護ステーションかえりえ長野の訪問看護師を対象に勉強会を開催し、長野県内における訪問看護の実際を学ぶと共に、意見交換を実施した。

教育活動の総括

I. 目 標

2017年度改正新カリキュラムへの円滑な移行のため、各授業科目の学習進度と整合性を見直す。

II. 成 果

2017年度開講の各科目における成果

2017年度は、改正前カリキュラムの「国際看護」、「災害看護」、「看護研究概説」を3年次生対象に、「臨床看護管理学」、「総合実習」、「卒業研究」を4年次生対象に開講した。

「災害看護」は3年次前期に開講し、災害対策の概要と看護職の役割について、近年国内で起きている大規模災害の実例の紹介と共に解説した。学生は、災害各期における健康課題を理解し、看護の基本概念、及び領域別看護で学んだ多様な対象に対する看護の考え方を踏まえて看護の役割を考察することができた。成績評価は平均点76.4点で履修者全員が単位を取得した。

「臨床看護管理学」、「総合実習」は4年次前期に開講した。3年次の臨床看護実習を経て「臨床看護管理学」で看護管理の考え方と仕組みを学び、引き続き「総合実習」でその実際の展開を現場で学ぶことにより、学習発表会及びレポートにおいては、臨床における看護活動が看護管理の立場から捉え直され、また、看護に関連する理論を活用して実習で遭遇した現象の分析、考察がされており、理論と実践の統合が図られたことが確認された。成績評価は「臨床看護管理学」平均点91.8点、「総合実習」A⁺評価10%、A評価75%、B評価12%で全員が単位を取得した。

「看護研究概説」は3年次前期に開講した。看護研究の目的、意義、方法、倫理等の基本的事項を解説すると共に、4年次の卒業研究の領域・テーマ選定に資するため看護学各領域教員による研究分野の解説、研究テーマの絞り込みと研究計画書作成の演習を行った。成績評価は平均点83.3点で履修者全員が単位を取得した。

「卒業研究」は4年次に通年で開講した。「卒業研究」の科目運営を担当する「卒業研究チーム」を学科内教員で組織し、計画、進行管理、結果の取りまとめを行った。研究指導体制は、卒業研究担当のもと全教員が学生を受け持ち、個別指導を行った。学生は、3年次前期の「看護研究概説」ならびに3年次後期の臨床実習を踏まえて研究課題を定め、研究の手法を用いて探求し、論文にまとめるプロセスを履修者全員が体験し、単位を取得した。しかし、個々の学生の状況、研究領域の特性等の複数の要因により到達目標の設定、指導方針、指導方法に幅が生じており、科目の目標設定及び評価基準の見直しの必要が認められた。

2016年度まで統合分野の授業科目として開講してきた「看護の学び入門」は、2017年度新カリキュラムでは「大学の学び—専門への誘い—」の科目名で共通基盤科目群に位置づけられた。

III. 課 題

引き続き、2017年度改正新カリキュラムへの円滑な移行をモニタリングする。特に、専門科目群の各授業科目における学習の統合が「総合実習」、及び「卒業研究」とおして適切になされているかどうかを評価する必要がある。

教育活動の総括

I. 目 標

各科目においてシラバスに即した教育を実践し、学修の成果の水準を保ちつつ、アクティブラーニングを意欲的に進め、国家試験合格率の全国平均を上回る大会水準を維持することを目的とする。また数年後に想定される指定規則の改定を見据え、実習のありかたも含め、カリキュラムの改定について検討を深めることを目的とする。

II. 成 果

シラバスどおりに授業は実行され、学修成果は平均点60点台の科目が22.2%、70点台の科目が51.9%、80点台の科目が18.5%、90点台の科目が7.4%であり、70点台以上の科目が77.8%を占めることから、学修の成果は一定の水準を保っていると判断できる。教材は教科書とプリントを併用することが多く見受けられ、教科書だけでは十分に学修の援助ができない可能性も示唆できる。学習方法の工夫としては、アクティブラーニングの形式をとっている科目が5科目はあるが、多いとは言にくい状況である。

国家試験については、前年度が新卒100%であったが、今年度は全国の新卒合格率が1割近く低下した87.7%と低迷する中で、本学は95.2%と全国水準を大きく超える水準を保つことができた判断できる

指定規則の改定を見据えたカリキュラムの検討では、まずは臨床実習形態の変化による対応を考えることができた。具体的には、クラークシップ実習、実習水準という新たな内容区分、大学の成績評価の重み付け、実習に行くにあたって実行力の担保の厳格化について意識を共有することはできた。しかし、具体案については未着手という状況であった。

III. 課 題

医療職養成課程にあつては、学修内容が多いため、自主的な学修態度を形成することがよい結果に繋がる。そのためには、学修内容の整理と学修の効率化により学修の質の保障が必要である。この点では、各授業における課題の難易度や一定期間内での重複などを検討する必要があると考える。この点に対して手を打つことができれば、国家試験の合格率はより良くなっていくと考えることができる。学修の質を担保する検討を行いたい。

研究活動の総括

I. 目 標

2017年度は、とぎれてはいる科研費について採択を目指す中で、各自の研究活動を活性化することを目的として取り組んだ。

II. 成 果

2017年度の学術活動としては、著書では単著が1編、共著が3編、学術論文は11編、学会での発表が32編であつ

た。学会発表の多さは、今後に学術論文の成果につながる可能性があり、期待したいところである。社会的活動は45件であり、本学科教員が地域・社会の要請を積極的に受けて貢献している姿勢が明らかになっている。競争的研究資金については、木村教授、中教授、宗宮准教授が科研費による基盤研究Cが採択され研究を開始したところである。学内の特別研究費の助成にあたっては2名の教員が応募の上採択され、科研費採択を目指した。また、木村教授が本学附属研究所の研究助成を受け、沖縄県における長寿と健康に関する研究を継続した。学位の取得に関しては、橋口助教が京都大学大学院医学系研究科人間科学専攻2にて博士（人間科学）の学位を取得した。学位論文のタイトルは、脳卒中片麻痺患者の回復過程が筋シナジーの混合と分離と関連することを示した研究論文（Merging and Fractionation of Muscle Sinergy Indicate the Recovery Process in Patients with Hemiplegia: The First Study of Patients after Subacute Stroke.）であり、今後の展開が期待できる。個人の研究活動では、鳥海助手が国際医療福祉大学大学院修士課程で研究を開始したところであり、後の活躍を望みたい。

これらを通じてみると、科研費の採択の実現、著作物の増加、社会活動の増進がみられ、目標に対して、一定の成果が得られたと評価できる。教育活動に多忙な学科教員の努力に敬意を表したい。

Ⅲ. 課 題

地域活動が活性化しているため、その取り組みから研究活動を展開する可能性を追求し、学科構成員全員が科研費の獲得もしくは申請に関わることをめざしたい。教育上でのエフォートが多い中で、研究でのエフォートが20%は確保できる努力を行っていきたい。

教育活動の総括

I. 目 標

臨床検査は病気の診断や治療効果を判定する上で必要不可欠なものであり、医療人としての倫理観に裏付けられた豊かな人間性と、診療支援ができる実践的な知識と技術を身に付けた臨床検査技師の養成が望まれている。さらに、臨床検査技師は生殖医療分野における臨床エンブリオロジスト、科学捜査研究におけるスペシャリスト、治験コーディネーター、移植コーディネーターなど、これまで以上に幅広い分野での活躍が期待されている。そこで、科学的根拠に基づく適切な判断能力と問題解決能力を持つ Clinical Laboratory Scientist としての臨床検査技師育成を目的・目標に「検査技術学科」を設置し2013年4月に教育課程がスタートした。

本学科の教育過程では、「専門基礎科目群」として、臨床検査技師としての専門知識を学ぶ「人体の構造と機能」の科目群を、保健・医療に携わるものとして共通理解をしておくべき知識を学ぶ「健康と医療と社会」の科目群を設定している。また、専門科目群として多様な疾病、病態に沿った臨床検査を実践する上で必要となる知識と技術を学び、系統的・体系的に学修ができるよう「臨床病態解析検査学」、「生体機能検査学」、「検査総合管理学」、「病因・生体防御検査学」、「生物化学分析検査学」、「形態・病態検査学」、「臨地実習」、および「卒業研究」のそれぞれの科目群が設置されている。また、各検査学領域の科目群は講義、演習および実習で構成し、臨床検査の知識と技術・実践能力が体系的につながり、総合的な理解が可能となるよう配慮されている。

II. 成 果

完成年度を迎え3月に一期生54名が卒業した。その年の第63回臨床検査技師国家試験合格率は94.4%（全国平均78.7%）と高い合格率を残すことができた。今年度の本学科の教育課程における大きな特徴は、カリキュラム編成が行われたことである。卒業必要単位数が127単位から125単位へと変更し自主的な勉強や活動が行えるよう時間割等にも配慮した。科目名も一部変更し、授業内容が理解しやすいようにした。具体的には、「専門基礎科目群」の中で「免疫学」を「感染と免疫」へ、「専門科目群」の中で「検査異常値と発生機序」を「ピットフォール解析学」へそれぞれ変更した。

また、開講したいずれの科目においても、概ねシラバス通りの実習・演習・授業が実施され、学生満足度も良好であり、成績評価においても学習目標の到達度が的確に反映されている。

III. 課 題

本学科は完成年度を迎え、新たな5年目に突入したことから、今後も知識と技術・実践能力を体系的につなげ、総合的に臨床検査が理解できるよう、特に専門基礎科目群、専門科目群の科目については、小テストやレポートなどにより学生の理解度をチェックし、学生の意見や要望を参考にしながら授業を展開し改善につなげていく必要がある。

研究活動の総括

I. 目 標

開設5年目を迎えた検査技術学科では、学科における研究活動として、教員各自が著書あるいは学術論文を1編/年以上、もしくは学会発表あるいは社会的貢献の講演を1回/年以上を目標としている。

II. 成 果

検査技術学科教員11名及び助手2名の2017年度の研究活動成果を表1に示す。5年目に入り、講義科目や学内実習、国試対策等に追われながらも著書あるいは学術論文を1編/年以上、もしくは学会発表あるいは社会的貢献の講演を1回/年以上の目標をクリアした教員は11名全員であった。年々、研究活動の成果は上がり、次年度の各教員及び助手の研究活動にも良い目標設定になるものと思われる。

表1 2017年度検査技術学科教員の研究活動実績

	図 書		学術論文		その他の論文・記事		小 計	学会発表		小 計	社会的貢献		
	第単 一著 ま 著た 者は	そ の 他	第単 一著 ま 著た 者は	そ の 他	第単 一著 ま 著た 者は	そ の 他		国 内	国 際		講 演 ・ 講 義	の学 会・ 役職 委員 等	の国 ・自 治 体 員等
藤田清貴 教授	—	14	—	3	2	—	19	3	—	3	1	3	—
亀子光明 教授	—	3	—	—	—	—	3	—	—	0	—	—	—
小河原はつ江 教授	—	3	—	—	—	—	3	3	1	4	—	1	—
荒木康久 教授	—	—	—	3(2)	—	—	3	—	—	0	12	5	—
木村博一 教授	—	2	—	17(17)	—	—	19	—	—	0	—	1	3
古田島伸雄 准教授	—	—	—	—	—	—	0	2	2	4	—	6	—
長田 誠 准教授	—	1	—	2(2)	—	—	3	1	—	1	1	11	—
高橋克典 講師	—	1	—	2(2)	—	—	3	—	—	0	—	—	—
岡山香里 講師	—	—	—	5(3)	—	—	5	3	—	3	1	—	—
石垣宏尚 助教	—	—	—	2(2)	—	—	2	—	2	2	—	—	—
藤本友香 助教	—	—	—	—	—	—	0	3	1	4	—	1	—
唐木 望 助手	—	—	—	—	—	—	0	—	—	0	—	—	—
川田悠貴 助手	—	—	—	—	—	—	0	—	—	0	—	—	—

* () は英文数

III. 課 題

学科スタートから4年目までは、実験設備や準備が十分整っていないことや、国試対策などの教育活動が主体となったことで、若手教員は納得のいく研究活動成果を出すことができなかつたが、完成年度が過ぎた5年目からは実験に必要な研究機器・備品等が揃い始めたことから、今後、学術論文を増やすなど、各自のより活発な研究活動を期待したい。

教育活動の総括

I. 目 標

1 年次教育を発展、展開するために基礎科目を重視した教育活動に取り組んだ。

II. 成 果

授業は、概ねシラバス通りに実施された。

1. 1 年次前期開講科目

前期に診療放射線学概論を開講し、土屋が担当した。ここでは、診療放射線技師という職業が成立した歴史的意義を学び、病院における診療放射線技師の位置づけ、役割、責務について理解することを目標とした。主に講義で行ったが、一部臨床実習準備となる課題を与え関連性についても理解できるようにした。習熟度については提出レポートで評価した。概ね学習目標に到達できた。

2. 1 年次後期開講科目

後期においては、「診療画像検査学概論」、「医療放射線機器学Ⅰ」、「診療画像解剖学Ⅰ」、「診療画像解析学Ⅰ」を開講した。

「診療画像検査学概論」は、土屋、谷口、加藤が担当した。ここでは、臨床画像を得る仕組みを理解することとした。画像検査の対象は患者であることから、画像作成の技術テクニクのみならず、ペイシエントケア、リスクコミュニケーションを含めた講義とした。

「医療放射線機器学」、「診療画像解剖学」は加藤が担当した。機器学においては、基礎的な知識を習得することを目的とし、画像解剖学においては、解剖学と連動して人体の組織構造を通して、画像知識を習得した。しかしながら画像は見るだけでは、十分な知識となりえない。そこで画像を転写することで理解、記憶を確かなものにした。これは十分に成果を上げることができた。

「診療画像解析学Ⅰ」は、土屋、加藤が担当した。診療放射線技師の業務において、すべて網羅することはできない。しかし、基本的な一般撮影技術、画像読影は放射線業務の中でも必修業務である。学内実習、臨床実習においても、多くの比重がかかることから、基本的技術を習得することを目標とした。

III. 課 題

本学科は初年度を迎え、4年後の完成年度まで、知識と技術・実践能力を体系的につなげ、総合的に医療人としての役割を果たせるような人材を育てることを目標としている。学年進行に伴い、今後開講される多くの専門科目群について、小テスト、レポートにより学生の理解度をチェックし、かつ学生のアンケート、を参考に授業の改善につなげていきたい。

研究活動の総括

I. 目 標

教員各自が研究課題を持ち、活動を展開し成果の発表を行うことを目標とした。

II. 成 果

教員各自がそれぞれの研究課題に取り組み、その成果を発表した。その詳細については下記の表1に示した。

表1 2017年度放射線学科教員の研究活動実績

	図 書		学術論文		その他の論文・記事		小 計	口頭発表		小 計	学 位 取 得	社会的貢献			
	単 一 著 者 は	そ の 他	単 一 著 者 は	そ の 他	単 一 著 者 は	そ の 他		単 一 独 表 者 は	そ の 他			養 成 専 門 職 修 講 師	講 師 等 対 象 講 座	委 員 ・ 自 治 体 等	学 会 研 究 会 協 会 の 役 職 委 員
土屋 仁 教授	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
星野修平 教授	—	1	—	2	—	—	3	—	1	1	—	5	—	1	5
酒井健一 教授	—	—	1	2	—	—	3	—	1	—	—	—	—	—	—
坂本重己 教授	—	—	1	1	—	—	2	1	—	1	—	—	—	—	1
倉石政彦 教授	—	1	—	—	—	—	1	—	2	2	—	—	1	—	—
加藤英樹 准教授	—	—	2	1	1	—	4	1	3	4	—	6	—	—	4
谷口杏奈 講師	—	—	—	1	—	—	1	1	—	1	—	—	—	—	2
徳重佑美子 助手	—	—	1	—	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—	—

III. 課 題

未だ研究設備が十分に整っていないことや、教育活動が主体であることなどから、若手教員にとっては十分な成果を出すことはできていない。完成年度に向けて、必要な研究機器、備品が少しずつ揃いつつある次年度に期待したい。

教育活動の総括

I. 目 標

2017年度は臨床工学科として初めての受験を経験し、新たな学生を迎え入れた。各教員に共通したのは、「教育に対する緊張と希望」だったと確信している。中でも、入学学生の臨床工学に対する姿勢が前向きであることにある種の驚きを覚えた。

臨床工学に対する明確な志を持つ学生の熱意の維持向上、さらには臨床工学技士国家試験に合格できる学力を身にけるために、系統的で継続的な学問を目指して教育を行う。

II. 成 果

臨床工学授業はシラバスに準じて行われた。各科目の期末試験結果は概ね平均点数65点を中心に分布していることより、授業の適正さや内容の質に問題はないと判断できる。授業の満足度でも平均水準を上回る科目が多く、全体として授業の理解度も一定の水準と達成していると考えられる。全学科教員の教育熱意が学生に確実に伝わっている証と思われる。学科教員の教育に対する真摯な日々の努力のたまものと敬意を表す。さらに、評価委員やSD委員の陰の協力にも感謝する。

臨床工学科内の教育環境では、図書室やゼミ室開放の利用状況より、学生の勉強する姿勢が全教員に伝わっていた。また、学生が研究室を訪問する人数や回数も日々増加し、臨床工学科として学生と教員の距離が近いことを肌で感じた。その結果、前期に比べ後期では平均点数も高くなり、学生教育に生かされていると感じた。実際に、後期では実習が始まり準備された教育用医療機器や電気電子回路などが十分その役目を果たしていた。また、ゼミ室に用意したPCおよびプロジェクターも学生のプレゼンテーション準備に役立っていた。本学の教職員の皆様が臨床工学科開設時に準備頂いた教育物品が学生教育に欠かせないことが明確となり、全ての関係者に感謝申し上げます。

広報活動の一環として行われるオープンキャンパスは初めての経験であった。もちろん、他学科と比べると臨床工学科への参加者は少なかったが、準備した医療機器は最先端の装置であり、それらの的確な説明を教員が行い参加者は感動していた。この席で、臨床工学技士の存在を知り、興味を持った高校生や保護者の方が多数いたことを忘れない。

最後に、AO入試、推薦入試、特別入試、さらにはセンター入試や一般入試を経験し、推薦入試に対する指定校システムについて考えさせられる事が頭をよぎったが、重要なことは大学での授業方針いかんでは、頭をよぎったことについては解決可能と思う。

高校訪問、出前授業などの裏方として活動頂いた広報担当関係者に感謝したい。

III. 課 題

課題としては、今回の実施結果をどの様に次年へ繋げるか、とより良い方向性を探す手がかりとする。まずは、高校の学習で物理を選択していない生徒が多く存在することが分かった。まずは入学後に物理を基礎的な範囲を含めて学習する重要性を痛感した。教養科目については、各科目担当の先生方の学生教育に対する判断材料が乏しく、試験結果のみの判断となってしまう。今後は担当教員との話し合いを多く持ちたいと考える。専門教科では、各専任教員が専門分野を担当するため安心感はあるものの、今後始まる学内実習や実験学習、さらには臨床実習な

どを含め若手教員のスキルアップが必須である。

教育面を考えると、教員の増員が望まれるが現状を考えると、今すぐに行える状況ではないように思う。現状でできることは、科目配置や内容などを再検討することが必要となり、教員のさらなる奮闘奮起が必要かもしれない

研究活動の総括

I. 目 標

新たな知識の習得や伝達の意味でも教員の学術研究活動は活発でなければならない。さらに、地域として振興型研究活動を考えなければならない。研究活動に対する具体的活動としては科研費取得の取り込みもその一つと言える。大学院博士課程の解説を考えると、さらなる教員の研究活動を進めてゆく。

II. 成 果

1. 血液浄化治療分野

1) 血液浄化分野、特に腎不全治療における血液透析では、透析液を生体内に注入するオンライン治療法が普及し始めた。オンライン治療の長所は治療中の循環動態の安定にある。しかし、治療の絶対条件としては透析液の清浄化が重要である。透析液の清浄化は化学的汚染物質と生物学的汚染物質の両者から判断される。

透析液に存在する細菌を測定する場合、培養に1～2日程度を要するためエンドトキシンの測定が用いられている。エンドトキシン測定も90分程度を要するのが一般的であった。本学では20分という迅速測定を可能にした装置を試験的に使用し優秀な成績を認めた。学会発表および原著論文として発表した。

2) 群馬県の太陽誘電社が開発した微小圧力センサーを血圧測定に応用可能か否かをプレリミナリーに評価した。その結果、従来の血圧測定に比べ、わずかな圧力変化を捉えることが可能であり臨床応用へと研究を進めたい。基礎的な臨床効果については日本人工臓器学会などで発表し好評を得ている。

2. 体外循環治療分野

1) 人工心肺装置の送血ポンプに使用されローラーポンプの血液有形成分への影響を化学的に解明した。回転部分の圧力を連続的に測定しローラの着脱時の回路内圧力変化を軸の変化として発表した。今後は、一般的に使用され安価なローラーポンプの安全性についてさらに研究して行く。

2) ローラーポンプと血液回路との接触時に発生するキャピテーション現象をあらゆる角度から観察し、未だ証明されていないキャピテーション現象を解明する。最終的な目標としては、血液有形成分の損傷を解明し、損傷をなくす方向へと研究を進める。

3. その他

1) 現在、AIを医療現場にどのように持ち込むか、利用するかについての第一歩を踏み出した。医療機器メーカーおよび大手商社との共同研究が実現すれば、医療分野に対し大きく貢献できると考える。

2) 医療分野では、患者からの採血や輸液、検査などで人体へ針を穿刺することが必須である。穿刺には痛みが伴い、高齢者や小児では針刺し行為自体に恐怖を感じることも少なくない。そこで、痛みをいかに軽減させるかの研究を進めている。具体的には、PCにあらゆるデータを記憶させ、そのデータから痛み軽減の分析を行っている。そのデータ分析結果から実際の臨床現場での有用性について研究を重ねる。

Ⅲ. 課 題

学科全体としての研究は概ね評価できるが、さらなるステップアップを求められるのが研究分野である。しかし、研究には研究費がつきものであり、潤沢な研究費が用意されている現状ではないため、外部資金（企業などとの共同研究）も含め考える必要がある。

学会発表はもとより、原著論文、関係雑誌などへの執筆もさらに増やしていきたい。また、関係職種での講演や、地域および患者会などでの講演も積極的に参加していく。

教育活動の総括（教養教育）

1. 目 標

1. 目 標

2017年度は、既存の看護学科、理学療法学科、検査技術学科の3学科に加え、放射線学科と臨床工学科の2学科が新設され、1学部5学科となった。それに伴い、教養教育についても教育課程を見直し、刷新した。まず、教養教育の目指す大きな目標については、群馬パース大学開学以来の目標を継承した。

1. 大学生としてふさわしい教養、知識を身に付ける
2. 将来の医療人としてふさわしい豊かな教養と人間性を身に付ける

この大目標を達成するために、教養教育を教養科目群と共通基盤科目群の2つの科目群に分けた。

2. 構 成

1の目標を追求するため、教養科目群と共通基盤科目群の目標、科目領域、および開講科目は、5学科同一とした。

教養科目群の教育目標：

- ・人間に関する幅広い知識を習得し、理解や関心を育てる
- ・社会と社会生活に関する見識、社会人としての判断力、コミュニケーション能力など、社会的能力を育てる
- ・専門教育の基礎となる学習能力、科学的思考、判断力、主体的姿勢を育てる

共通基盤科目群の教育目標：

- ・高等学校教育から大学教育への円滑な転換を図る
- ・将来チーム医療を担う一員としての態度を養う
- ・他の医療従事者との協働に必要な問題解決能力やコミュニケーション能力を育成する

教養科目群について

上にあげた教育目標を達成するために、教養科目群に「人と社会及び自然の理解」、「情報と言語の理解」の2つの上位区分を設けた。この下に7つの下位科目領域を設け、それぞれの領域に3～5科目の授業科目を配し、まんべんなく学ぶことができるようにした。7つの科目領域は以下のとおりである。

「人と社会及び自然の理解」の科目領域：「心身の発達」、「思想及び表現」、「人間と生活及び社会のしくみ」、
「自然の原理及び環境」

「情報と言語の理解」の科目領域：「英語」、「初修外国語」、「情報」

共通基盤科目群について

上にあげた教育目標を達成するために、領域の区分は「大学の学びの基盤」一つとし、3つの科目を配した。初年次教育科目として「大学の学び入門」は1年次前期に開講し、全学共通内容とした。専門教育への導入教育科目として「大学の学び—専門への誘い」も1年次に配したが、開講時期は学科ごとに異なる。内容は、保健科

学部1学部として共通のものと、各専門領域への導入として学科独自のものとした。

II. 成 果

1. 教養科目群および共通基盤科目群

開講状況：表1のとおり開講された。

表1 2017年度教養教育科目の開講状況 科目数 (%)

開講期 学科	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		計	合同開 講科目	専任担 当科目
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
看護学科	20 (54.1)	13 (35.1)	1 (2.7)	1 (2.7)	1 (2.7)	—	1 (2.7)	—	37 (100.0)	15 (40.5)	12 (32.4)
理学療法学科	19 (55.9)	14 (41.2)	—	1 (2.9)	—	—	—	—	34 (100.0)	21 (61.7)	10 (29.4)
検査技術学科	20 (54.1)	13 (35.1)	1 (2.7)	1 (2.7)	1 (2.7)	—	—	1 (2.7)	37 (100.0)	26 (70.2)	12 (32.4)
放射線学科	18 (54.5)	15 (45.5)	—	—	—	—	—	—	33 (100.0)	24 (72.7)	13 (39.4)
臨床工学科	19 (57.6)	14 (42.4)	—	—	—	—	—	—	33 (100.0)	24 (72.7)	13 (39.4)

2. 専任教員担当の教養科目群、共通基盤科目群の科目

前項にまとめた教養科目群と共通基盤科目群の科目のうち、専任教員（2018年度在職者）が単位認定者となった看護学科12科目・理学療法学科10科目・検査技術学科12科目・放射線学科12科目、臨床工学科12科目について、その実施結果を検証してみる。

シラバスとの対応について、どの科目もおおむねシラバス記載内容通りに実施することができた。

成績評価の平均点の分布は、表2の通りである（合同開講科目は学科別に掲載）。2007年度から、成績評価の目安として、平均75点以上を評価の到達度の目安としている。この目安を満たした科目は74.1%（合同開講科目を学科別に計算した場合）で、2016年度の87.5%より下がった。さらに、平均点の最高値と最低値の差は35.2点で、2016年度の29.9点より差が拡大した（表2）。平均点の分布の幅が大きい学科があり、改善が望まれる。

表2 2016年度専任教員*担当教養科目の平均点の分布 科目数 (%)

平均点 (点)		90以上	90~85	85~80	80~75	75~70	70~65	65~60
科目数	看護	4(36.40)	2(18.20)	2(18.20)	3(27.20)	—	—	—
	理学	1(11.12)	2(22.22)	2(22.22)	2(22.22)	2(22.22)	—	—
	検査	3(30.00)	3(30.00)	1(10.00)	2(20.00)	—	1(10.00)	—
	放射線	—	4(33.30)	3(25.00)	2(16.70)	3(25.00)	—	—
	臨床工	2(16.70)	—	2(16.70)	—	5(41.60)	1(8.30)	2(16.70)

*2017年度在籍者 最高値99.6点、最低値64.4点 *受講者なしの科目は除く

3. 客員教授・非常勤講師担当の教養科目

客員教授・非常勤講師担当の科目の実施は、単位認定者である客員教授・非常勤講師の裁量と責任において行われるものである。したがって、ここでその実施を振り返るとは、委嘱する者としての責任を果たしたか、すなわち、客員教授・非常勤講師担当科目の委嘱にあたって、教育目標や方針、科目の位置づけや趣旨性格、要望、その他必要事項をきちんと伝え、各科目においてそれらが追求され成果を上げて頂くよう目を配ったかということであ

る。この点について実施したことは以下の通りである。

- 1) 前年度12月～1月の、教務課からのシラバス作成依頼時に、新規の非常勤講師には大学設置申請時の「科目の概要」および、該当の科目については「国家試験出題基準」を渡し、これらに適う内容を構成くださるよう依頼した。継続して来ていただいている非常勤講師には、引き続き授業内容の質の維持、向上を図っていただくよう依頼した。
- 2) 提出されたシラバス内容が、科目設置の趣旨や、該当科目では「国家試験出題基準」に適合しているかどうか、本学が求める項目に沿っているか、前年度2～3月の教務委員会で確認し、必要に応じて修正していただいた。
- 3) 前期および通年開講科目は4月、後期開講科目は10月の各科目の開講初日に、教養共通教育責任者より、担当の客員教授・非常勤講師に、教養教育の目標達成に向けた協力をあらためて依頼した。
- 4) 前期開講科目は6月、後期開講科目は12月を目的に、教養共通教育責任者が各客員教授・非常勤講師と面接し、学習状況、課題のある学生の有無、授業運営上感じておられること等を聴取した。聴取結果は一覧にして教務委員会に報告し、対応が必要な事例については各学科での対応を依頼した。
- 5) 前期末、後期末に実施した、各科目の学生による「授業アンケート集計・分析結果シート」を還元し、授業担当者としてのコメントをSD部会に提出いただいた。

Ⅲ. 課 題

既存の3学科2年生以上には旧教育課程が進行し、5学科1年生に対しては新教育課程がスタートした年度であった。

旧教育課程について

看護学科と検査技術学科では、1学年から4学年まで教養科目が開講されているが、高学年における教養科目の受講生数が少ない状況は昨年度と変わらなかった。専門科目や実習との兼ね合いの問題もあるが、引き続き学生に教養教育の重要性、必要性を認識させる努力と、教養科目全般を魅力のあるものに発展、充実させることが必要である。

新教育課程について

教養科目と共通基盤科目については、開講科目と授業内容は5学科共通としたが、到達度に関して、5学科でばらつきが見られた。学科と連携を取って改善していくことが必要である。

学生の興味、必要性を鑑みて様々な科目を開講したが、旧教育課程と同じように、受講者の少ない科目があった。時間割や選択科目に対する卒業要件単位数の設定の関係もあると思われるが、教養教育の重要性、必要性を折あるごとに認識させることと、選択の教養科目の内容を魅力あるものに改善していくことが課題である。

また、共通基盤科目において、本学の学生としての身に付けておくべき共通知識・姿勢の養成という初年次教育と専門への導入教育の連携を図り、各科目を充実させることが必要である。

教育活動の総括（専門基礎教育）

I. 目 標

1. 目 標

看護学科、理学療法学科、検査技術学科、放射線学科、臨床工学科における専門教育の基礎となる科目を、専門基礎科目群として開設している。その中で、「解剖学」、「生理学」については、将来の医療人の基礎を作る科目としてとらえ、本年度スタートの新教育課程から5学科共通の授業内容としている。

各学科の専門基礎教育の目標は次の通りに定められている。

【看護学科の専門基礎科目群】

- ・人間の身体と心の仕組みについての理解を深める。
- ・健康に関わる環境について様々な角度から洞察する力を養う。
- ・人の健康を支援する様々な活動について理解を深める。

【理学療法学科の専門基礎科目群】

専門教育に直結する知識の習得及び専門教育の理解と理論づけの基礎を形成する。

【検査技術学科の専門基礎科目群】

臨床検査技師としての基礎となる専門知識、及び保健・医療に携わるものとして共通理解をしておくべき知識を修得する。

【放射線学科の専門基礎科目群】

- ・放射線学の基盤となる基礎的医学知識を習得する。
- ・診療放射線技師の臨床実践に必要な臨床医学知識及び技術を習得する。

【臨床工学科の専門基礎科目群】

- ・人体の生命現象における総合的な理解を深める。
- ・医療で応用される工学的な基礎知識と技術を養う。
- ・医療機器の安全かつ適正使用のための基礎的知識を養う。

2. 構 成

1. の目標を追求するため、次の科目群を設定している。

【看護学科の専門基礎科目群】

- ・人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進
- ・健康支援と社会保障制度

【理学療法学科の専門基礎科目群】

- ・人体の構造と機能及び心身の発達
- ・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- ・保健医療福祉とリハビリテーションの理念

【検査技術学科の専門基礎科目群】

- ・人体の構造と機能
- ・健康と医療と社会

【放射線学科の専門基礎科目群】

- ・基礎医学系
- ・臨床医学系
- ・医療理工学系

- ・放射線科学系
- 【臨床工学科の専門基礎科目群】
- ・人体の構造と機能
 - ・臨床工学に必要な医学的基礎
 - ・臨床工学に必要な理工学的基礎
 - ・臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎

Ⅱ. 成 果

1. 専門基礎科目開講状況

看護学科、理学療法学科、検査技術学科、放射線学科、臨床工学科の5学科において、2017年度に、専門基礎科目は、前期68科目、後期58科目、通年科目2科目計128科目が表1のように開講された。

なお、検査技術学科において、3学年後期1科目が受講者ゼロのため開講されなかった。この1科目については表3の数字には含まれていない。

表3 2017年度専門基礎科目の開講状況（科目数）

表中の（ ）の数字は通年科目数で内数

開講期 学科	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
看護学科	3	7	11	2	4	—	—	4
理学療法学科	6	8	10(1)	9(1)	7	2	—	1
検査技術学科	5	8	7(1)	4(1)	—	—	—	—
放射線学科	10	6	—	—	—	—	—	—
臨床工学科	7	9	—	—	—	—	—	—

うち、19科目は3学科合同、あるいは2学科合同科目として実施された。専任教員担当科目は90科目（70.3%）であった。

2. 専任教員担当の専門基礎科目

前項にまとめた専門基礎科目のうち、専任教員（2018年度在職者）が担当した科目について、実施結果を検証してみる。

シラバスとの対応について、どの科目もおおむねシラバスに記載された内容通りに実施することができた。

成績評価の結果、平均点の分布は、表4の通りである。合同開講科目は学科別に記載、（ ）内の数字は学科別に専任が担当した科目数に対する割合である。

表4 2017年度専任教員*担当専門基礎科目の平均点の分布

科目数(%)

平均点	100~90	90~85	85~80	80~75	75~70	70~65	65~60
科目数	看護	4(20.0)	3(15.0)	5(25.0)	5(25.0)	1(5.0)	1(5.0)
	理学	4(13.3)	2(6.7)	4(13.3)	11(36.7)	7(23.3)	—
	検査	3(20.0)	1(6.7)	5(33.3)	6(40.0)	—	—
	放射線	2(18.2)	1(9.1)	4(36.4)	3(27.2)	—	—
	臨床工学	1(7.1)	1(7.1)	—	1(7.1)	2(14.3)	6(42.9)

*2018年度在籍者 最高値100点、最低値61.6点 受講者なしの科目は除く

2007年度から、成績評価の目安として、平均75点以上を評価の到達度の目安としている。これを満たした科目は49.6%で、2016年度80%より大幅に下がった。到達度の目安に達していない科目が多くある学科もあり、改善が望まれる。平均点の最高値と最低値の差は38.4点で、2016年度の27.4点より拡大した。改善を要する。

3. 客員教授・非常勤講師担当の専門基礎科目

客員教授・非常勤講師担当科目の委嘱にあたって、教育目標や方針、科目の位置づけや趣旨性格、要望その他必要事項をきちんと伝え、各科目においてそれらが追求され成果を上げて頂くよう目を配ったかを振り返る。この点について実施したことは以下の通りである。

- 1) 前年度10月～1月の、教務課からのシラバス作成依頼時に、大学設置申請時の「科目の概要」および、該当の科目については「国家試験出題基準」を渡し、これらに適う内容を構成くださるよう書面で依頼した。
- 2) 提出されたシラバス内容が、科目設置の趣旨や、該当科目では「国家試験出題基準」に適合しているかどうかを、前年度2～3月の教務委員会で確認した。
- 3) 各専門基礎科目の授業実施中や成績評価にあたって対応を要する事態が生じた場合は、5学科の学科長と教務委員が当該客員教授・非常勤講師との相談対応にあたった。
- 4) 前期末、後期末に実施した、各科目の学生による「授業アンケート集計・分析結果シート」を還元し、授業担当者としてのコメントをSD部会に提出いただいた。

Ⅲ. 課 題

5学科になり、それぞれの専門をより深く理解するための専門基礎科目は多岐に渡るが、それゆえに、達成度は学科ごとに違う。その差を縮めていくことが課題である。また、教養教育や各学科の専門教育との教授内容の連携を密にし、学生が専門へスムーズに入っていけるように、専門基礎教育の充実、発展を図ることである。

その他の教育活動

教養共通教育部では、全学的な視野に立って、全学共通の認識形成、学科の壁を越えた学生間の交流、学内外の様々な状況に適應できるコミュニケーション能力とマナーの向上を目的とするプログラムを実施してきた。新学科が加わったことで、益々本学の学生としての共通認識、全学的な視野での交流の促進、対人関係でのコミュニケーションスキル、マナーの向上は重要性が増している。

2017年度に実施したプログラムは以下の通りである。

新入生合同研修（4年間を共にする友人、教職員との出会い、新生活のスムーズなスタート）

日 時：平成29年4月8日(土) 16：30～17：50

場 所：体育館

講 師：上山義信氏

対 象：5学科新入生

内 容：「大自己紹介大会」（レクリエーションの中での自己紹介）

理事長特別講義 「私の教育の原点」

日 時：平成29年11月6日(月)、7日(火)ともに1限

場 所：6日：1号館8階大講義室 7日：4号館12階 KANBE ホール

講 師：樋口建介理事長

対 象：6日：看護学科、理学療法学科、検査技術学科1年生

7日：放射線学科、臨床工学科1年生

学長特別講義 「群馬パース大学の教育体系の理解と記憶のために」

日 時：平成29年5月10日(水) 5限 18日(木) 1限

場 所：10日：1号館8階大講義室 18日：4号館12階大講義室

講 師：栗田昌裕学長

対 象：10日：看護学科、理学療法学科、検査技術学科1年生

18日：放射線学科、臨床工学科1年生

2年次プログラム (学内外の様々な人とスムーズな対人関係構築のためのルール、マナーの理解と実践)

日 時：平成29年12月1日(金) 5限

場 所：1号館8階大講義室

講 師：(有)イメージ取締役 久保田桂子先生

内 容：「接遇とコミュニケーション学～よりよい人間関係を作るために」

対 象：看護学科、理学療法学科、検査技術学科2年生

3年次プログラム (PAZ力の再認識と医療人として伸びていくための基礎強化)

日 時：平成29年7月28日(火) 1限

場 所：1号館8階大講義室

講 師：栗田昌裕学長

内 容：「パース力を高めるー臨地・臨床実習を前に」

対 象：看護学科、理学療法学科、検査技術学科3年生

4年次プログラム (社会生活、職業生活を円滑に送るためのルール、マナーの理解と実践)

日 時：平成30年1月11日(木) 2限

場 所：1号館8階大講義室

講 師：(有)イメージ取締役 久保田桂子先生

内 容：「コミュニケーションとは何かを学ぶ～社会人として必要とされる接遇・ビジネスマナー」

対 象：看護学科、理学療法学科、検査技術学科4年生

これらのプログラムはいずれも出席率は90%を超え、事後のアンケートによると、内容に対する学生の満足度、有益感が高かった。5学科になり、学科の枠を超えた直接交流の機会が少ない中で、このプログラムの意義はある。が、企画・運営・実施は教養共通教育部の少人数の教員で行っているため、その方法等について検討、改善が必要である。また、全学的プログラムであるので、全学的企画・運営・実施への移行も検討が必要であろう。

研究活動の総括

I. 目 標

教養共通教育部の教員はそれぞれ専門が異なるため、個々の教員の研究課題を各自が継続し、研究活動を展開し、成果の発表を積極的に行っていくことを目標としている。

Ⅱ. 成 果

教員各自がそれぞれの研究課題に取り組み、成果を発表した。詳細については表1にまとめた。

杉田（英文学）は、他大学の教員と共に、19世紀イギリス小説、ベンジャミン・ディズレイリ著『コニングズビー』を翻訳、欧米言語文化学会誌に成果を発表した。また、赤十字語学奉仕団の翻訳活動に参加した。

浅見（解剖学）は、本学紀要22号に上肢の皮静脈の肉眼解剖学的観察に関する論文を共同執筆し、掲載された。また、日本歯科衛生学会第12回学術大会、第57回臨床化学学会年次学術集会、The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine、第24回日本未病システム学会学術総会、平成29年度歯学会学内口頭発表会、第123回日本解剖学会全国学術集会のそれぞれにおいて、共同発表を行った。

榎本（心理学）は、日本心理学会第81回大会において「大学新生の大学適応感に及ぼす精神的健康度の影響」について単独でポスター発表を、さらに日本人間性心理学会第36回大会において、共同で「なぜセラピーに通うのかを動機づけの視点から考えるー基礎心理学と人間性心理学の交差Ⅱー」という自主企画を開催し、「クライエントのセラピーに対する積極的関与を促す折衷的アプローチ」について指定討論を行った。また、日本版 WISC-V 知能検査作成の予備調査に協力し、テスターを務めた。さらに、社会的活動として、ルーテル学院大学臨床心理相談センター主催のミニワークショップ「親子で参加・リラックス体操」の講師を務めた。

洞口（生理学）は第88回理学療法学会学術大会において、企画公演の中で、「技能とその獲得過程」についての単独口頭発表を行い、さらに、それをもとに論文を単独執筆、学会誌『理学療法科学』32号に掲載された。

衣川（スポーツ実技・理論）は赤城地区勝保沢地区いきいきサロンにおいて講師を務め、社会的教育活動の一翼を担った。

研究成果に注目すると、3名が学術大会で口頭発表を行い、4名が学術論文、その他論文・記事で成果を発表した。また、2名が、学会・研究会・協会等の活動を担った（表1）。

表1 教養教育教員の研究活動の総括

	図 書		学術論文		その他の論文・記事		小 計	口頭発表		小 計	学位 取得	社会的貢献			
	第 一 著 者 は	そ の 他	第 一 著 者 は	そ の 他	第 一 著 者 は	そ の 他		第 一 独 自 発 表 者 は	そ の 他			小 計	学 位 取 得	専 門 研 修 講 師 ・ 成 員	講 師 対 象 講 座 等
杉田 雅子 教 授	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
浅見知市郎 教 授	—	—	—	1	—	—	1	—	7	7	—	—	—	—	—
榎本光邦 講 師	—	—	—	—	—	1	1	1	1	2	—	—	1	—	2
洞口 貴弘 講 師	—	—	1	—	—	—	1	1	—	1	—	—	—	—	—
衣川 隆 助 教	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	1

Ⅲ. 課 題

教養共通教育部は教員がそれぞれの分野で個々に研究を進めており、共同研究に参加する機会が学科教員より少ないが、これからは共同研究参加も視野に入れて、個人研究と共にさらに各自の研究を進めていくことが望まれる。また、研究成果は口頭発表等を経て、論文にすることが望まれる。

さらに、教養共通教育部の教員は全員、全学科で授業を持っており、教育活動において多忙であるが、研究活動にも活発に取り組めるような体制づくりが必要である。

❖ 共通科目

保健科学研究科長 教授 藤 田 清 貴

教育活動の総括

保健科学研究科は、高度な専門知識・能力を有する実践者の育成、保健医療分野においてリーダーシップを発揮する指導者の育成、実践分野において研究能力・教育能力を発揮する実践者・指導者の育成を目指している。

このことから、本研究科では次の事項を共通科目のねらいとして立てている。

1. 保健医療に従事する人材に共通して社会に対する理解を深める。
2. 専門職リーダーとしての資質を高める。
3. 国際的な視野に立つための語学力を習熟させる。
4. 実践・研究に必要な基礎的能力を付与する。
5. 保健医療と関連の深い多様な領域における最新の知識・争点の学修をととして保健学に対する洞察力、認識力を育成する。

2017年度は、前期に「人体の構造と機能学特論」、「加齢医学特論」、「生殖補助医療技術学概論」、「応用英語」、「研究方法特論」、「研究方法論Ⅰ」、「研究方法論Ⅱ」、「研究方法論Ⅲ」、「研究方法論Ⅳ」をそれぞれ開講し、後期に「保健学特別セミナー」を開講した。各科目の履修者は1名から9名で、全科目とも履修者全員が合格に達した。

今後の課題として、共通科目が前期に偏っていることから、各領域によっては社会人の勤務体系上、すべての履修が難しく、入学をためらう一因にもなっていることが予想、問題視されており、開講時期の変更を含めた具体的な検討が必要である。

❖保健科学専攻専門科目

◎看護学領域

教授 矢島正榮

教育活動の総括

I. 目 標

- 1) 大学院生のニーズに対応する学習および研究の環境整備
- 2) 特別研究の円滑な遂行のための支援

II. 成 果

2017年度は基礎看護学特論、老年看護学特論、老年看護学演習、老年看護学特別研究、母性看護学・助産学特論、母性看護学・助産学演習、母性看護学・助産学特別研究、公衆衛生看護学特論、精神看護学特論、在宅看護学特論を開講した。領域には1年次生2名、2年次生5名（長期履修生1名を含む）が在籍した。学習および研究環境の整備については、社会人が多数を占める入学生の特性に配慮して講義、演習内容を構成し、各科目とも十分な学習の到達が確認された。

【基礎看護学特論】

基礎看護学領域における研究の動向、特に、看護マネジメント、看護技術、看護基礎教育に関する研究の動向と課題について解説し、討議を行った。受講者は2名であった。

【成人看護学特論】

成人保健と看護の動向、成人看護学教育の現状と課題について解説し、討議を行った。受講者は2名であった。

【老年看護学特論】

老年期の発達理論、健康障害と看護、社会環境、倫理的課題、老年看護学教育等について解説し、討議を行った。受講者は1名であった。

【老年看護学演習】

老年看護学研究の展開方法に関する学習、特別研究のテーマに関連する文献の称読、研究計画立案を行った。受講者は1名であった。

【老年看護学特別研究】

老年看護に関する研究課題を定め、研究計画立案、研究データの収集、分析、考察の一連の過程を実施し、修士論文を作成した。受講者は1名であった。

【母性看護学・助産学特論】

母子の健康課題、母子の健康科学、母性看護学・助産学教育について解説し、討議を行った。受講者は2名であった。

【母性看護学・助産学演習】

母性看護学・助産学研究の展開方法に関する学習、特別研究のテーマに関連する文献の称読、研究計画立案を行った。受講者は1名であった。

【母性看護学・助産学特別研究】

母性看護学・助産学に関する研究課題を定め、研究計画立案、研究データの収集、分析、考察の一連の過程を

実施し、修士論文を作成した。受講者は3名であった。

【公衆衛生看護学特論】

公衆衛生看護学の変遷、領域別活動、最近の研究の動向等について解説し、討議を行った。受講者は1名であった。

【小児看護学特論】

子どもの成長発達と看護、病児と家族への支援、子どもをめぐる今日的な健康課題、小児看護の専門性と役割拡大について解説し、討議を行った。受講者は1名であった。

【精神看護学特論】

精神の健康と看護、精神看護の専門技術、嗜癖問題と看護について解説し、討議を行った。受講者は2名であった。

【在宅看護学特論】

在宅看護の歴史、家族支援、在宅看護に関わる社会保障制度・社会資源、療養環境、状態増に応じた在宅看護について解説し、討議を行った。受講者は1名であった。

Ⅲ. 課 題

多様な入学者の背景に対応するよう、柔軟な科目運営を行う。また、教育内容の充実のため、専任教員が個々の専門性を高めるための努力を継続するとともに、多様な専門領域の研究者・実践者の協力を得ていく必要がある。

教育活動の総括

I. 目 標

コンスタントに大学院生を迎え入れ、修了できることを数値目標として掲げた。また、仮説の立案とその証明作業の科学的手続きの学修と実践を通じて、理学療法における問題解決に関するエビデンスの構築に向けた基本的な研究能力を身につけることを目指すことを目的とする教育と研究を行った。

II. 成 果

大学院研究科保健学専攻理学療法領域では2名の修士課程1年次生を迎えることができ、予定した学修と研究計画に立案にいたることができた。両名とも臨床観察研究であり、倫理審査への申請と認可を経験できた。2年次生は3名在籍し、3年間履修生の2年次生の1名以外の2名（1名は3年履修生）が修士論文審査に合格し、本年度も修了生を輩出することができた。修士論文の表題は、「時系列データからみた高齢脳卒中後遺症者における概日リズムと身体特性の検討」および「虚弱高齢者における血管機能と関連する指標の探索的検討」であり、両名とも臨床観察研究であったが、疾患予防の観点から意欲的な仮説証明作業を経験することができたと考える。

専門領域の授業に関しては、基礎理学療法学特論および特別研究が履修者がいないため、開講されなかったが、それ以外の科目は全て開講され、シラバスに沿って課程が進んだ。教育成果として、成績にて全員がA以上であり、学生の到達点も優れていた。良好な教育実施がなされたと判断できる。専門領域の授業および特別研究の指導にあつては、社会人である学生の勤務都合に応じて開催されたことも学生学修到達度を高めた要因になったと思われる。教員の努力に感謝したい。

上記より、理学療法領域の教育および研究活動では、掲げられた目標は概ね達成されたと考えられる。

III. 課 題

次年度においては、2名の修士課程が修了予定であり、それらを堅実に進めることが求められる。また3年履修の2年目修士生は、すでに倫理審査の通った臨床研究を進めていく。また、新たな修士課程学生の入学も継続させていきたい。教育課程においては、特別研究の実行体制を効率的に保障できる過程を実践していきたい。

教育活動の総括

I. 目 標

病因・病態検査学領域は2014年4月に教育課程がスタートし、専門科目群として病態検査解析学、病態免疫化学検査学、病態血液検査学、生体分子情報検査学、遺伝子情報検査学、生殖補助医療技術学がそれぞれ設置されている。

病態検査解析学では、臨床検査データから各種疾患の病態を解析するための技術・方法論とその意義について学ぶ。病態免疫化学検査学では、異常蛋白質の分離・分析法の基礎技術や、電気泳動分析法と免疫化学的分析法を組み合わせた高度な病態解析法を修得する。病態血液検査学、生体分子情報検査学、遺伝子情報検査学では、血液疾患を含む各種病態を解析するための分子生物学的検査法や遺伝子検査法、フローサイトメータを用いた細胞解析法等について学ぶ。生殖補助医療技術学では、両配偶子の発生、分化を系統的知見に基づき体外受精による受精卵（胚）の作出・凍結学を中心とした高度生殖技術法を修得する。また、専門科目群の特論、演習で学んだ知識、技術を応用し、指導教員の下、病因・病態検査学に関連した内容について研究テーマを設定し、文献検索、研究計画の立案、研究結果の解析、考察により修士論文を完成させる。さらに、解析学・検査技術学を応用し診断価値の高い新規検査法の開発および確立を目指すことを目標としている。

II. 成 果

4年目の病因・病態検査学領域には、修士生4名（1年生）が在籍した。研究分野は病態免疫化学検査学2名、遺伝子情報検査学1名、生殖補助医療技術学1名であり、それぞれの専門科目群の特論、演習を履修した。いずれの科目とも、院生の要望も取り入れながら概ねシラバス通りの特論・演習が実施され、院生満足度も良好であった。

III. 課 題

今年度、病因・病態検査学領域には検査技術学科1期生4人が入学した。今後、さらに専門知識と技術、研究能力を体系的につなげ、総合的に病因・病態検査学が理解できるよう、それぞれの専門科目群の特論及び演習について院生の理解度をチェックしながら授業を展開し、自主的な実験・研究活動で修士論文を完成させ、誌上発表により社会貢献につなげていく必要がある。

教育活動の総括

I. 目 標

放射線学領域では、高度医療を実践し、チーム医療の推進や放射線医療安全管理、医療情報管理を牽引できる放射線技師長、管理職、リーダ育成と高等教育に携わる大学教員、臨床実習指導教員の育成を目指します。そのために、放射線学特別研究では、学士課程（学部）の6領域である「放射線学」、「診療画像解析学」、「核医学検査技術学」、「放射線治療技術学」、「医療画像情報学」、「医療安全管理学」を統合し、診療放射線技師の役割を主軸とした研究領域を「医療安全管理」、「放射線情報」、「放射線教育」の3つの研究分野を設けた。

II. 成 果

放射線領域は、「放射線学特論」、「放射線医療安全管理学特論」、「放射線情報学特論」、「放射線教育学特論」、「放射線情報システム特論」を開講し、所属する分野では、演習、特別研究を履修する。

初年度である本年は、放射線情報学に修士学生が1名入学した。教育課程では、「放射線情報学特論」、「放射線教育学特論」、「放射線学特論」と「放射線情報学演習」を開講した。また共通科目として、「研究方法特論」、「研究方法論Ⅳ（放射線学領域）」を履修し、放射線学領域の研究手法の理解、研究計画の立案を学び、2年時の研究に備えた。

III. 課 題

放射線学領域では、「研究方法特論」、「保健医療論Ⅳ」、「保健学特別セミナー」が最低限、履修すべき科目であり、それ以外の共通科目、選択科目から必要要件を履修し、所属する分野の特論、演習、特別研究を履修するが、放射線学領域は、初年度は専門科目が少なく、他領域の科目に依存した。また、後期の開講科目が無く年間を通しての履修計画に困難を生じた。来年度は、「放射線学特論」、「放射線情報システム学特論」を再編成し、後期科目とすることで、無理のない履修計画となるように改善した。

教育活動の総括

I. 臨床工学領域とは

臨床工学領域には、生体医工学、医療安全管理学、臨床工学特別研究などの専門科目を置く。臨床工学技士は患者を目前にして医用機器を安全・適正に操作するため、医学領域と工学領域の高い技術と知識が求められる。

II. 生体医工学特論

医学分野に工学的技術を導入し両領域の学問を融合して生命現象を明らかにすることが目的である。疾病の診断や治療に有効な手段を医学と工学を通じて患者に利益を提供する新しい専門分野である。医用生体工学と同義であり、これに含まれる学問の名称としては「医用電子工学」、「医療工学」などがある。生体医工学を医用工学と生体工学に大別する分類方法もあるが同義と考える。

具体的には、検査機器や人工臓器、生命維持管理装置など、さまざまな医療機器の研究開発に関する学問を修得する。さらに、現在注目されている医療用ロボットの開発を含め、医療機器開発全般に携わる技術者・研究者としての基礎的な知識と技術を身につけ、適正医療及び医療の安全に貢献する。

III. 臨床工学特別研究

臨床医学に対し、生体医工学、医用工学、情報科学などの学問を融合し、さらに最新の研究動向を踏まえて、医療における医工学の現状を把握し、その問題に関する研究を実践的に学習する。指導教員によって生体医工学に関する研究テーマを、学生主導型で進める。基礎系では生体情報計測学や光応用計測学、また、臨床系では生体機能代行学やロボット工学などがある。具体的には、自主研究に対し直面する問題を解決する能力や創造力を身に付けつけることが目標となる。

第 2 部

教育活動の記録

(2017年4月～2018年3月)



保健科学部

■カリキュラム

看護学科 教育課程（1学年）

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養科目群	心身の発達	心理学	2		講義	15	必修14単位以上		15						榎本光邦	
		教育学	2		講義	15		15							高野利雄	
		教育心理学		2	講義	15			15							榎本光邦
		健康スポーツ理論		1	講義	15			15							衣川隆
		健康スポーツ実技		1	実技	15			15							衣川隆
	思想及び表現	生命倫理	2		講義	15	必修4単位以上			15					吉田幸恵	
		哲学		2	講義	15		15							金澤秀嗣	
		現代文学		2	講義	15		15							尾形大	
		人間と宗教		2	講義	15			15							竹村一男
		芸術		2	講義	15			15							東晴美
	人と社会及び自然の理解	法学（日本国憲法含む）	2		講義	15	必修2単位以上								水林翔	
		社会学		2	講義	15		15								坂本祐子
		生活文化と医療		2	講義	15		15								鈴木英恵
		経済学		2	講義	15			15							飯島正義
		地域ボランティア活動論		1	講義	7.5				7.5						
	自然の原理及び環境	環境学	2		講義	15	必修2単位+選択3単位以上		15							西園大実
		生物学A		1	講義	7.5		7.5								佐藤久美子
		生物学B		1	講義	7.5			7.5							佐藤久美子
		数学A		1	講義	7.5		7.5								栗田昌裕
		数学B		1	講義	7.5			7.5							栗田昌裕
		化学A		1	講義	7.5		7.5								日置英彰
		化学B		1	講義	7.5			7.5							日置英彰
		物理学A		1	講義	7.5		7.5								佐藤求
		物理学B		1	講義	7.5			7.5							佐藤求
	情報と言語の理解	英語	英語リーディング	1		講義	15	必修13単位以上	15							一瀬厚一
			医療英語会話	1		講義	15			15						Renee Sawazaki
			医療英語リーディング	1		講義	15				15					柴田恵美
			英語会話		1	講義	15				15					
英語アカデミックリーディング・ライティング				1	講義	15					15					杉田雅子
初修外国語		中国語		1	講義	15	選択1単位以上	15							深町悦子	
		コリア語		1	講義	15		15							青木順	
		ドイツ語		1	講義	15		15							高裕輔	
		ポルトガル語		1	講義	15		15							鳥越慎太郎	
情報		情報処理	1		演習	15	位必修1単	15							西谷泉	
	情報リテラシー		1	講義	15			15							西谷泉	
	囲碁で学ぶ情報戦略		1	講義	15			15							土屋仁	
科目共通基盤	大学の学びの基盤	大学の学び入門	1		講義	15	必修3単位	15							杉田雅子	
		大学の学び—専門への誘い—	1		講義	15		15							矢島正榮	
		多職種理解と連携	1		講義	15				15						矢島正榮
	計（卒業要件）						29									

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目群	人体の構造と機能疾病の成り立ちと回復の促進	解剖学Ⅰ	1		講義	15		15							浅見知市郎
		解剖学Ⅱ	1		講義	15		15							浅見知市郎
		臨床解剖学		1		講義	7.5							7.5	浅見知市郎
		生理学Ⅰ	1		講義	15		15							洞口貴弘
		生理学Ⅱ	1		講義	15		15							洞口貴弘
		臨床生理学		1		講義	7.5							7.5	洞口貴弘
		生化学	1		講義	15		15							高橋克典
		病理学	1		講義	15		15							岡山香里
		臨床病態学Ⅰ	1		講義	15			15						尾林徹
		臨床病態学Ⅱ	1		講義	15				15					尾林徹
		臨床病態学Ⅲ	1		講義	15				15					井埜利博
		臨床病理学		1		講義	7.5							7.5	尾林徹
		免疫・感染症学	1		講義	15				15					高橋克典
		薬理学	1		講義	15			15						栗田昌裕
		臨床薬理学		1		講義	7.5							7.5	栗田昌裕
		臨床検査学	1		講義	15				15					小河原はつ江
		緩和医療学		1		講義	7.5					7.5			斎藤龍生
		栄養学(含食品学)	1		講義	15		15							後藤香織
		病態栄養学		1		講義	15				15				後藤香織
		発達心理学	1		講義	15				15					榎本光邦
	臨床心理学		1		講義	15			15					榎本光邦	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	2		講義	15		15							石館敬三
		疫学		1		講義	15			15					石館敬三
		保健統計		1		講義	15				15				宮崎有紀子
		社会福祉・社会保障制度論	1		講義	15				15					矢島正榮
		地域保健行政		2		講義	15				15				小林亜由美
		歯科保健		1		講義	7.5			7.5					豊泉修
		リハビリテーション概論		1		講義	7.5	7.5							松澤正
カウンセリング	1		講義	15					15				榎本光邦		
計(卒業要件)						20									

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く)

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目群	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1		講義	7.5		7.5							上 星 浩 子	
		看護学概論Ⅱ	1		講義	7.5		7.5							上 星 浩 子	
		看護援助学概論	1		講義	15		15							上 星 浩 子	
		日常生活援助学演習	2		演習	30			30						佐 藤 晶 子	
		治療援助学演習	2		演習	30				30					堀 込 由 紀	
		看護援助学総合演習	1		演習	15					15				堀 込 由 紀	
		看護過程論	1		講義	7.5			7.5							佐 藤 晶 子
		看護過程論演習	1		演習	15				15						佐 藤 晶 子
		基礎看護学特論		1	講義	7.5								7.5		上 星 浩 子
	成人看護学	成人看護学概論	1		講義	7.5		7.5								金 子 吉 美
		成人看護学総論	1		講義	7.5			7.5							萩 原 英 子
		成人看護方法論Ⅰ	1		講義	15				15						金 子 吉 美
		成人看護方法論Ⅱ	1		講義	15					15					萩 原 英 子
		周手術期看護論	1		講義	15						15				萩 原 英 子
		クリティカルケア看護論	1		講義	7.5						7.5				萩 原 英 子
		成人看護学演習	1		演習	15						15				萩 原 英 子
		救急法		1	講義	7.5							7.5			北 林 司
		成人看護学特論		1	講義	7.5								7.5		萩 原 英 子
	老年看護学	老年看護学総論	1		講義	7.5			7.5							伊 藤 まゆみ
		老年看護方法論Ⅰ	1		講義	15				15						星 野 泰 栄
		老年看護方法論Ⅱ	1		講義	15					15					星 野 泰 栄
		老年看護学演習	1		演習	15						15				星 野 泰 栄
		老年看護学特論		1	講義	7.5								7.5		伊 藤 まゆみ
	小児看護学	小児看護学総論	1		講義	7.5			7.5							内 山 かおる
		小児看護方法論	1		講義	15				15						柴 崎 由 佳
		小児看護学演習	2		演習	30						30				柴 崎 由 佳
		小児看護学特論		1	講義	7.5								7.5		柴 崎 由 佳
	母性看護学	母性看護学総論	1		講義	7.5			7.5							中 島 久美子
		母子の健康支援	1		講義	15				15						早 川 有 子
		母性看護方法論	1		講義	15					15					白 井 淳 美
		母性看護学演習	1		演習	15						15				白 井 淳 美
		母性看護学特論		1	講義	7.5								7.5		早 川 有 子
	精神看護学	精神保健	1		講義	7.5			7.5							村 松 仁
		精神看護学総論	1		講義	7.5			7.5							村 松 仁
		精神看護方法論	1		講義	15				15						村 松 仁
		精神看護学演習	1		演習	15					15					村 松 仁
		精神看護学特論		1	講義	7.5								7.5		村 松 仁
	統合分野	在宅看護学概論	1		講義	7.5			7.5							笠 井 秀 子
		在宅看護方法論Ⅰ	1		講義	15				15						笠 井 秀 子
		在宅看護方法論Ⅱ	2		講義	30					30					笠 井 秀 子
		臨床看護管理学	1		講義	7.5						7.5				根 生 とき子
		災害看護論	1		講義	7.5					7.5					小 林 亜由美
国際看護論		1		講義	7.5					7.5					辻 村 弘 美	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2		講義	30				30						矢 島 正 榮	
	公衆衛生看護方法論		2	講義	30					30					廣 田 幸 子	
	公衆衛生看護技術演習		1	演習	15							15			奥 野 みどり	
	公衆衛生看護活動展開論		2	講義	30							30			小 林 亜由美	
	対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ		1	講義	15						15				奥 野 みどり	
	対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ		1	講義	15						15				廣 田 幸 子	
	公衆衛生看護管理		1	講義	7.5							7.5			矢 島 正 榮	

必修42単位＋選択6単位以上

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く)

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目群	助産学	助産学概論		1	講義	7.5	必修42単位＋選択6単位以上						7.5		早川有子	
		助産基礎医学		1	講義	7.5							7.5		早川有子	
		母子と家族の心理・社会学		1	講義	7.5							7.5		中島久美子	
		周産期診断学		1	講義	7.5							7.5		横田佳昌	
		妊娠期助産診断技術学		1	講義	7.5							7.5		白井淳美	
		分娩期助産診断技術学		2	講義	15							15		中島久美子	
		産褥期助産診断技術学		1	講義	7.5							7.5		白井淳美	
		新生児・乳幼児期助産診断技術学		1	講義	7.5							7.5		白井淳美	
		助産診断技術学演習		2	演習	30							30		中島久美子	
	助産管理		2	講義	15						15		大井けい子			
	臨床実習	臨床看護分野	基礎看護学実習Ⅰ	1		実習	1w	必修23単位以上	1w							上星浩子
			基礎看護学実習Ⅱ	2		実習	2w			2w						上星浩子
			成人看護学慢性期実習	3		実習	3w						3w			堀越政孝
			成人看護学急性期実習	3		実習	3w						3w			萩原英子
			老年看護学実習	4		実習	4w						4w			星野泰栄
			小児看護学実習	2		実習	2w						2w			柴崎由佳
			母性看護学実習	2		実習	2w						2w			早川有子
			精神看護学実習	2		実習	2w						2w			村松仁
		統合分野	在宅看護学実習	2		実習	2w							2w		
総合実習			2		実習	2w							2w			根生とき子
公衆衛生看護学分野 助産学分野	公衆衛生看護学実習		5	実習	5w							5w		小林亜由美		
	助産学実習		11	実習	11w							11w		中島久美子		
研究	看護研究概説	1		講義	15	必修5単位				15					小林亜由美	
	卒業研究	4		演習	60							30	30		学科教員全員	
計（卒業要件）						76										
卒業要件（最低）単位数						125										

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

看護学科 教育課程（2～4学年）

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養科目群	発達・行動・心理	心理学	2		15		15								
		生命倫理	2		15		15								
		教育学	2		15		15								
		教育情報論		2	15		15								
		教育心理学		2	15		15								
		医療民俗学		2	15		15								
		健康スポーツ理論		2	15		15								
	健康スポーツ実技		1	15		15									
	言語と文化	英語Ⅰ	1		15										
		英語Ⅱ	1		15		15								
		英語表現		1	15		15								
		ステップアップ英語Ⅰ		1	15			15						柴山森二郎	
		ステップアップ英語Ⅱ		1	15			15						杉田雅子	
		英文講読Ⅰ	1		15				15					柴山森二郎	
		英文講読Ⅱ		1	15						15			柴山森二郎	
	中国語		1	15		15									
	コリア語		1	15		15									
	人と社会・生活	家族学	1		15		15								
		情報処理	1		15		15								
		法学（日本国憲法含む）	2		15		15								
		環境学		2	15		15								
		ジェンダー論		2	15		15								
		地域社会学		2	15		15								
		ボランティア活動論		1	15		15								
	経済学		2	15		15									
	基礎教育	大学の学び入門	1		15		15								
		生物学基礎	1		15		15								
数学基礎		1		7.5		7.5									
化学基礎		1		7.5		7.5									
英語基礎		1		7.5		7.5									
計（卒業要件）					27										
専門基礎科目群	臨床科目群	解剖学Ⅰ	2		30		15	15							
		解剖学Ⅱ		1	15		15								
		臨床解剖学		1	7.5							7.5		浅見知市郎	
		生理学	2		30		15	15							
		臨床生理学		1	7.5							7.5		洞口貴弘	
		生化学		1	15		15								
		疾病の成り立ち	1		15		15								
		臨床病理学		1	7.5							7.5		尾林徹	
		免疫・感染症学	1		15			15						高橋克典	
		薬理学	1		15			15						栗田昌裕	
		臨床薬理学		1	7.5							7.5		栗田昌裕	
		臨床検査学	1		15			15						小河原はつ江	
		緩和医療学		1	7.5					7.5				斎藤龍生	
		病態栄養学		1	15			15						後藤香織	
	発達心理学	1		15			15						榎本光邦		
	臨床心理学		1	15			15						榎本光邦		
	地域科目群	公衆衛生学	2		15		15								
		疫学		1	15			15						石館敬三	
		保健統計		1	15				15					宮崎有紀子	
		社会福祉・社会保障制度論	1		15			15						矢島正榮	
		地域保健行政	2		15				15					小林亜由美	
		栄養学（含食品学）	1		15		15								
		歯科保健	1		15			15						豊泉修	
チーム医療論			1	15			15						藤田清貴		
リハビリテーション概論			1	7.5		7.5									
救急法		1	15					15				北林司			
健康管理論		1	15				15					今福裕司			
カウンセリング		1	7.5					7.5				榎本光邦			
社会福祉・地域サービス論		1	15					15				一場美根子			
計（卒業要件）					23										

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
															前期
専門科目群	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1		7.5	7.5									
		看護学概論Ⅱ	1		15		15								
		看護援助学Ⅰ	1		15			15							佐藤 晶子
		看護援助学Ⅱ	1		15				15						堀込 由紀
		看護援助学演習Ⅰ	2		30				30						佐藤 晶子
		看護援助学演習Ⅱ	2		30					30					堀込 由紀
		看護過程論	2		30					15	15				
	基礎看護学特論		1	7.5									7.5		上星 浩子
	成人看護学	成人看護学総論	1		15	15									
		成人看護学Ⅰ	1		15			15							尾林 徹
		成人看護学Ⅱ	1		15				15						尾林 徹
		成人看護学Ⅲ	1		15					15					金子 吉美
		成人看護学Ⅳ	1		15						15				萩原 英子
		成人看護学Ⅴ	1		15						15				萩原 英子
		成人看護学演習	1		15							15			萩原 英子
	成人看護学特論		1	7.5									7.5		萩原 英子
	老年看護学	老年看護学総論	1		7.5			7.5							伊藤 まゆみ
		老年看護学Ⅰ	1		15				15						星野 泰栄
		老年看護学Ⅱ	1		15				15						星野 泰栄
		老年看護学演習	1		15					15					星野 泰栄
		老年看護学特論		1	7.5								7.5		伊藤 まゆみ
	小児看護学	小児看護学総論	1		7.5			7.5							内山 かおる
		小児看護学Ⅰ	1		15			15							柴崎 由佳
		小児看護学Ⅱ	1		15				15						柴崎 由佳
		小児看護学Ⅲ	1		15					15					柴崎 由佳
		小児看護学特論		1	7.5								7.5		柴崎 由佳
	母性看護学	母性看護学総論	1		7.5			7.5							中島 久美子
		母性看護学Ⅰ	1		15			15							早川 有子
		母性看護学Ⅱ	2		30				30						白井 淳美
		母性看護学特論		1	7.5								7.5		早川 有子
	精神看護学	精神看護学総論	1		7.5			7.5							村松 仁
		精神看護学Ⅰ	2		30				30						村松 仁
		精神看護学Ⅱ	1		15					15					村松 仁
		精神看護学特論		1	7.5								7.5		村松 仁
	統合分野	在宅看護概論	1		7.5			7.5							笠井 秀子
		在宅看護論Ⅰ	1		15				15						笠井 秀子
		在宅看護論Ⅱ	2		30					30					笠井 秀子
		看護の学び入門	1		7.5	7.5									
		臨床看護管理学	1		7.5							7.5			根生 とき子
		災害看護論	1		7.5					7.5					矢島 正榮
		国際看護論	1		7.5					7.5					辻村 弘美
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2		30				30						矢島 正榮
公衆衛生看護学Ⅰ			2	30				30						廣田 幸子	
公衆衛生看護学Ⅱ			2	30						30				小林 亜由美	
公衆衛生看護学Ⅲ		1		15					15					奥野 みどり	
公衆衛生看護学Ⅳ			2	30					30					廣田 幸子	
公衆衛生看護管理学			1	7.5							7.5			矢島 正榮	
助産学	基礎助産学Ⅰ	1		7.5							7.5			早川 有子	
	基礎助産学Ⅱ	1		7.5							7.5			早川 有子	
	基礎助産学Ⅲ	1		7.5							7.5			中島 久美子	
	基礎助産学Ⅳ	2		30						15	15			早川 有子	
	助産診断技術学Ⅰ	1		7.5							7.5			横田 佳昌	
	助産診断技術学Ⅱ	1		7.5							7.5			白井 淳美	
	助産診断技術学Ⅲ	2		15							15			中島 久美子	
	助産診断技術学Ⅳ	1		7.5							7.5			白井 淳美	
	助産診断技術学Ⅴ	1		7.5							7.5			白井 淳美	
	助産診断技術学Ⅵ	2		30							30			中島 久美子	
助産管理		2	15								15			大井 けい子	

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く)

区分	授業科目		単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		単位認定者		
			必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目群	臨床看護分野	基礎看護学実習Ⅰ	1		1w	必修67単位＋選択科目から9単位以上選択	1w										
		基礎看護学実習Ⅱ	2		2w				2w							上 星 浩 子	
		成人看護学実習Ⅰ	3		3w							3w				堀 越 政 孝	
		成人看護学実習Ⅱ	3		3w							3w				萩 原 英 子	
		老年看護学実習	4		4w							4w				星 野 泰 栄	
		小児看護学実習	2		2w							2w				柴 崎 由 佳	
		母性看護学実習	2		2w							2w				早 川 有 子	
		精神看護学実習	2		2w							2w				村 松 仁	
		分統分野	在宅看護実習	2			2w							2w			笠 井 秀 子
			総合実習	2			2w							2w			根 生 と き 子
	公衆衛生看護分野 助産学分野		公衆衛生看護学実習		5		5w								5w		小 林 亜 由 美
		助産学実習		11	11w									11w		中 島 久 美 子	
	研 究	看護研究概説	1		15							15				小 林 亜 由 美	
		卒業研究		4	60									30	30	学科教員全員	
	計（卒業要件）						76										
卒業要件（最低）単位数						126											

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

看護学科 教育活動の記録 (1 学年用)

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)				その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)				備考(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)			
								講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習		教科書	プリント	パワーポイント	VTR						
人 と 社 会 及 び 自 然 の 理 解	心身の発達	心理学	1	後期	必修	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習				教科書	プリント	パワーポイント			できた	
		教育学				高野利雄																
		教育心理学	1	後期	選択	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習				教科書	プリント	パワーポイント			できた	
		健康スポーツ理論	1	前期	選択	衣川 隆	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)						プリント					できた	
		健康スポーツ実技	1	後期	選択	衣川 隆	シラバスに沿って実施した		実技・実習							参考書					できた	
	命と生活及び社会のしくみ	生命倫理				吉田幸恵																
		哲学				金澤秀嗣																
		現代文学				尾形 大																
		人間と宗教				竹村一男																
		芸術				東 晴美																
		法学(日本国憲法含む)				水林 翔																
		社会学				坂本祐子																
		生活文化と医療				鈴木英恵																
		経済学				飯島正義																
		地域ボランティア活動論				竹澤泰子																
	自然の原理及び環境	環境学				西園大実																
		生物学A				左藤久美子																
		生物学B				左藤久美子																できた
		数学A	1	前期	選択	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)						プリント	パワーポイント				できた	
		数学B	1	後期	選択	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)						プリント	パワーポイント				できた	
化学A					日置英彰																	
化学B					日置英彰																	
物理学A		1	前期	選択	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義									プリント		プリントの誤植が修正された	できた		
物理学B	1	後期	選択	佐藤 求	履修者0のため開講せず																	
英 語	英語リーディング				一瀬厚一																	
	医療英語会話				Renee Sawasaki																	
	医療英語リーディング				柴田恵美																	
	英語会話				Joseph Boland																	
	聴アがミッリーディングライティング				杉田雅子																	
	中国語				深町悦子																	
	コリア語				青木 順																	
	ドイツ語				高 裕輔																	
	ポルトガル語				鳥越慎太郎																	
	情報処理				西谷 泉																	
情 報	情報リテラシー				西谷 泉																	
	囲碁で学ぶ情報戦略	1	後期	選択	土屋 仁	シラバスに沿って実施した		作業課題(グループ)	実技・実習	作業課題(個人)	講義			教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた		
	大学の学び入門	1	前期	必修	杉田雅子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)				プリント	パワーポイント					できた		
共通基盤科目	大学の学び-専門への誘い-	1	前期	必修	矢島正榮	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)					プリント	パワーポイント					できた		
	多職種理解と連携				矢島正榮																	

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)				その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)			その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)				
専門基礎科目群	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	解剖学Ⅰ	1	前期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	パワーポイント						できた
		解剖学Ⅱ	1	後期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	パワーポイント						できた
		臨床解剖学				浅見知市郎																
		生理学Ⅰ	1	前期	必修	洞口貴弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用					教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR			できた
		生理学Ⅱ	1	後期	必修	洞口貴弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用					教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR			できた
		臨床生理学				洞口貴弘																
		生化学	1	後期	必修	高橋克典	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	プリント	パワーポイント					できた
		病理学	1	後期	必修	岡山香里	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた
		臨床病態学Ⅰ				尾林 徹																
		臨床病態学Ⅱ				尾林 徹																
		臨床病態学Ⅲ				井埜利博																
		臨床病理学				尾林 徹																
		免疫・感染症学				高橋克典																
		薬理学	1	後期	必修	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義						プリント							できた
		臨床薬理学				栗田昌裕																
臨床検査学				小河原はつ江																		
緩和医療学				斎藤龍生																		
栄養学(含食品学)				後藤香織																		
病態栄養学				後藤香織																		
発達心理学				榎本光邦																		
臨床心理学				榎本光邦																		
専門基礎科目群	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学				石館敬三																
		疫学				石館敬三																
		保健統計				宮崎有紀子																
		社会福祉・社会保障制度論				矢島正榮																
		地域保健行政				小林亜由美																
		歯科保健				豊泉 修																
		リハビリテーション概論				松澤 正																
		カウンセリング				榎本光邦																
専門基礎科目群	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	前期	必修	上星浩子	シラバスに沿って実施した		講義	討論				教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた	
		看護学概論Ⅱ	1	後期	必修	上星浩子	シラバスに沿って実施した		講義	討論				教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた	
		看護援助学概論	1	前期	必修	上星浩子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	実技・実習			教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた	
		日常生活援助学演習	1	後期	必修	佐藤晶子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論	実技・実習	メディアの利用	教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた	
		治療援助学演習				堀込由紀																
		看護援助学総合演習				堀込由紀																
		看護過程論	1	後期	必修	佐藤晶子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論				教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた
		看護過程論演習				佐藤晶子																
		基礎看護学特論				上星浩子																

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) □ 専任教員 ■ 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか					
						選択	備考(自由記入欄)	講義							選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)						
専門科目群	成人看護学概論	1	後期	必修	金子吉美	シラバスに沿って実施した		講義							教科書	参考書	プリント	パワーポイント					できた	
	成人看護学総論				萩原英子																			
	成人看護方法論Ⅰ				金子吉美																			
	成人看護方法論Ⅱ				萩原英子																			
	周手術期看護論				萩原英子																			
	クリティカルケア看護論				萩原英子																			
	成人看護学演習				萩原英子																			
	救急法				北林 司																			
	成人看護学特論				萩原英子																			
	老年看護学総論				伊藤まゆみ																			
	老年看護方法論Ⅰ				星野泰栄																			
	老年看護方法論Ⅱ				星野泰栄																			
	老年看護学演習				星野泰栄																			
	老年看護学特論				伊藤まゆみ																			
	小児看護学総論				内山かおる																			
	小児看護方法論				柴崎由佳																			
	小児看護学演習				柴崎由佳																			
	小児看護学特論				柴崎由佳																			
	母性看護学総論				中島久美子																			
	母子の健康支援				早川有子																			
	母性看護方法論				白井淳美																			
	母性看護学演習				白井淳美																			
	母性看護学特論				早川有子																			
	精神保健				村松 仁																			
	精神看護学総論				村松 仁																			
	精神看護方法論				村松 仁																			
	精神看護学演習				村松 仁																			
	精神看護学特論				村松 仁																			
在宅看護学概論				笠井秀子																				
在宅看護方法論Ⅰ				笠井秀子																				
在宅看護方法論Ⅱ				笠井秀子																				
臨床看護管理学				根生とき子																				
災害看護論				小林亜由美																				
国際看護論				辻村弘美																				
公衆衛生看護学概論				矢島正栄																				
公衆衛生看護方法論				廣田幸子																				
公衆衛生看護技術演習				奥野みどり																				
公衆衛生看護活動展開論				小林亜由美																				
対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ				奥野みどり																				
対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ				廣田幸子																				
公衆衛生看護管理				矢島正栄																				
助産学概論				早川有子																				
助産基礎医学				早川有子																				
母子と家族の心理・社会学				中島久美子																				
周産期診断学				横田佳昌																				

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区 分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 / 選 択	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法						使 用 し た 教 材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選 択	備 考 (自由記入欄)	選 択 (講義、作業課題 (個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)				そ 他 (自由記入欄)		選 択 (教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)		そ 他 (自由記入欄)		選 択	備 考 (自由記入欄)	
助産学	妊娠期助産診断技術学				白井淳美															
	分娩期助産診断技術学				中島久美子															
	産褥期助産診断技術学				白井淳美															
	新生児・乳幼児期助産診断技術学				白井淳美															
	助産診断技術学演習				中島久美子															
	助産管理				大井けい子															
専門科目群	臨床看護分野 臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	前期	必修	上星浩子	シラバスに沿って実施した	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論	実技・実習			プリント	パワーポイント				できた	
		基礎看護学実習Ⅱ				上星浩子														
		成人看護学慢性期実習				堀越政孝														
		成人看護学急性期実習				萩原英子														
		老年看護学実習				星野泰栄														
		小児看護学実習				柴崎由佳														
	総合分野	母性看護学実習				早川有子														
		精神看護学実習				村松 仁														
		在宅看護学実習				笠井秀子														
	公衆衛生看護学分野 助産学分野	総合実習				根生とき子														
		公衆衛生看護学実習				小林亜由美														
		助産学実習				中島久美子														
研 究	看護研究概説				小林亜由美															
	卒業研究				学科教員全員															

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

看護学科 教育活動の記録 (2～4 学年)

区分	授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性			授業の方法			使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか	
						選択	備考(自由記入欄)		選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)				
発達・行動・心理	心理学																	
	生命倫理																	
	教育学																	
	教育情報論																	
	教育心理学																	
	医療民俗学																	
	健康スポーツ理論																	
	健康スポーツ実技																	
言語と文化	英語 I																	
	英語 II																	
	英語表現																	
	ステップアップ英語 I	2			柴山森二郎													
	ステップアップ英語 II	2	後期	選択	杉田雅子	シラバスに沿って実施した		講義			教科書							できた
	英文講読 I	3			柴山森二郎													
	英文講読 II	4			柴山森二郎													
	中国語																	
人と社会・生活	家族学																	
	情報処理																	
	法学(日本国憲法含む)																	
	環境学																	
	ジェンダー論																	
	地域社会学																	
	ボランティア活動論																	
	経済学																	
基礎教育	大学の学び入門																	
	生物学基礎																	
	数学基礎																	
	化学基礎																	
	英語基礎																	
臨床科目群	解剖学 I																	
	解剖学 II																	
	臨床解剖学	4	後期	選択	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義			パワーポイント							できた
	生理学																	
	臨床生理学	4	後期	選択	洞口貴弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用		教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR			できた
	生化学																	
	疾病の成り立ち																	
	臨床病理学	4	後期	選択	尾林 徹	シラバスに沿って実施した		講義			演習	パワーポイント						できた
免疫・感染症学	2	前期	必修	高橋克典	シラバスに沿って実施した		講義			教科書	プリント	パワーポイント					できた	

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区 分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 履 修 単 位	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法										使 用 し た 教 材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択 (講義、作業課題 (個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)										その他(自由記入欄)	選択 (教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)					備考(自由記入欄)	
								講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	メディアの利用	討論	実技・実習	教科書	参考書	プリント		パワーポイント	VTR					
臨床科目群	薬理学	2	前期	必修	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義										プリント						できた	
	臨床薬理学	4	後期	選択	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義										プリント						できた	
	臨床検査学	2	前期	必修	小河原はつ江	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用									教科書	プリント	パワーポイント				できた	
	緩和医療学	3			斎藤龍生																				
	病態栄養学	2			後藤香織																				
	発達心理学	2	前期	必修	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習							教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
	臨床心理学	2	前期	選択	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習							教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
	公衆衛生学																								
	疫学	2				石館敬三																			
	保健統計	3				宮崎有紀子																			
	社会福祉・社会保障制度論	2	前期	必修	矢島正榮	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)									教科書	プリント	パワーポイント				できた	
	地域保健行政	3	前期	必修	小林亜由美	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用									教科書	パワーポイント	プリント				できた	
栄養学(含食品学)																									
歯科保健	2				豊泉修																				
チーム医療論	2	前期	選択	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義										教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた		
リハビリテーション概論																									
救急法	3				北林司																				
健康管理論	2				今福裕司																				
カウンセリング	2	後期	選択	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(個人)	実技・実習							プリント	パワーポイント					できた		
社会福祉・地域サービス論	2				一場美根子																				
基礎看護学	看護学概論Ⅰ																								
	看護学概論Ⅱ																								
	看護援助学Ⅰ	2	前期	必修	佐藤晶子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	メディアの利用							教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた		
	看護援助学Ⅱ	2	後期	必修	堀込由紀	シラバスに沿って実施した		講義										教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた	
	看護援助学演習Ⅰ	2	前期	必修	佐藤晶子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論	実技・実習							教科書	参考書	プリント				できた	
	看護援助学演習Ⅱ	2	後期	必修	堀込由紀	シラバスに沿って実施した		実技・実習	講義									教科書	参考書	プリント				できた	
	看護過程論	2	通年	必修	佐藤晶子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論	実技・実習						教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
	基礎看護学特論	4	後期	選択	上星浩子	履修者0のため開講せず																			
	成人看護学総論																								
	成人看護学	成人看護学Ⅰ	2	前期	必修	尾林 徹	シラバスに沿って実施した		講義										演習	パワーポイント					できた
成人看護学Ⅱ		2	後期	必修	尾林 徹	シラバスに沿って実施した		講義										演習	パワーポイント					できた	
成人看護学Ⅲ		2	後期	必修	金子吉美	シラバスに沿って実施した		講義										教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
成人看護学Ⅳ		3	前期	必修	萩原英子	シラバスに沿って実施した		講義										教科書	パワーポイント	プリント				できた	
成人看護学Ⅴ		3	前期	必修	萩原英子	シラバスに沿って実施した		講義		実技・実習								教科書	パワーポイント	プリント				できた	
成人看護学演習		3	前期	必修	萩原英子	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	作業課題(グループ)	作業課題(個人)	メディアの利用	討論					教科書	プリント	パワーポイント				できた	
成人看護学特論		4	後期	選択	萩原英子	シラバスに沿って実施した		講義	討論	メディアの利用								パワーポイント	プリント					できた	
老年看護学総論		2	前期	必修	伊藤まゆみ	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	実技・実習								教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた	

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法							使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)			選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)				その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)				
老壮看護学	老年看護学Ⅰ	2	後期	必修	星野泰栄	シラバスに沿って実施した		講義							教科書	プリント	パワーポイント	VTR			できた	
	老年看護学Ⅱ	2	後期	必修	星野泰栄	シラバスに沿って実施した		講義							教科書	プリント	パワーポイント	VTR			できた	
	老年看護学演習	3	前期	必修	星野泰栄	シラバスに沿って実施した		作業課題(個人)	作業課題(グループ)	メディアの利用	実技・実習				教科書	プリント	パワーポイント				できた	
	老年看護学特論	4	後期	選択	伊藤まゆみ	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論	実技・実習			学外学習で、在宅認知症高齢者の訪問リハビリ見学、伊藤の認知症講義(高崎養老院)に参加した。	プリント	パワーポイント						できた
小児看護学	小児看護学総論	2			内山かおる																	
	小児看護学Ⅰ	2			柴崎由佳																	
	小児看護学Ⅱ	2			柴崎由佳																	
	小児看護学Ⅲ	3			柴崎由佳																	
	小児看護学特論	4			柴崎由佳																	
母性看護学	母性看護学総論	2	前期	必修	中島久美子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論	メディアの利用			教科書	プリント	パワーポイント	VTR				できた	
	母性看護学Ⅰ	2	前期	必修	早川有子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	作業課題(個人)	討論			教科書	参考書	パワーポイント	プリント				できた	
	母性看護学Ⅱ	3	前期	必修	臼井淳美	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論	実技・実習	メディアの利用		教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR			できた	
	母性看護学特論	4	後期	選択	早川有子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	作業課題(個人)	討論	メディアの利用		参考書	プリント	パワーポイント						できた
精神看護学	精神看護学総論	2	前期	必修	村松 仁	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用					教科書	パワーポイント	プリント					できた	
	精神看護学Ⅰ	2	後期	必修	村松 仁	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用					教科書	パワーポイント	プリント					できた	
	精神看護学Ⅱ	3	後期	必修	村松 仁	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	作業課題(グループ)				教科書	パワーポイント	プリント					できた	
	精神看護学特論	4	後期	選択	村松 仁	履修者0のため開講せず																
統合分野	在宅看護概論	2	前期	必修	笠井秀子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論	作業課題(個人)			教科書	パワーポイント	参考書	プリント				できた	1 講義ごと、短時間ではあるが、講義内容で確実に考えてほしい内容についてグループディスカッションをし、次回講義の最初でそのまとめを復習できたこと。
	在宅看護論Ⅰ	2	後期	必修	笠井秀子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	作業課題(個人)	メディアの利用	討論		教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR			できた	多職種連携、在宅療養者の医療・生活課題を見据えた訪問看護師の役割について、考える学習内容を随所に取り入れたため、学生の理解や学びの状況が評価できた。
	在宅看護論Ⅱ	3	前期	必修	笠井秀子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論	実技・実習	メディアの利用	外来講師による活動の実施	教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた	模擬事例から看護過程を実践した結果、学生は療養者・家族・療養環境・地域の環境など多角的視点で療養者・家族の生活をとらえ、在宅の場の特徴を捉え、看護が実践できていた。しかし、病態の理解、看護技術に関する知識はさらに学習が必要である。
	看護の学び入門																					
	臨床看護管理学	4			根生とき子																	
	災害看護論	3	前期	必修	矢島榮	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	プリント	パワーポイント	VTR				できた	
	国際看護論	3			辻村弘美																	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	後期	必修	矢島正榮	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)					教科書	プリント	パワーポイント	VTR				できた	
	公衆衛生看護学Ⅰ	2	後期	選択	廣田幸子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論	実技・実習	メディアの利用	[実技・実習]は学内演習のことです	教科書	プリント	パワーポイント	VTR			できた	
	公衆衛生看護学Ⅱ	4	前期	選択	小林亜由美	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	実技・実習	討論	メディアの利用		教科書	参考書	プリント	パワーポイント				各実習施設で頂いた資料	できた

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか						
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)			その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)					その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)						
								講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)		メディアの利用	教科書	参考書	プリント	パワーポイント				VTR					
専門科目群	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学Ⅲ	3			奥野みどり																			
		公衆衛生看護学Ⅳ	3	前期	選択	廣田幸子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	メディアの利用				教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR				できた	
		公衆衛生看護学管理学	4	前期	選択	矢島正栄	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)						パワーポイント	プリント							できた	
	助産学	基礎助産学Ⅰ	4	前期	選択	早川有子	シラバスに沿って実施した		講義	討論	メディアの利用					教科書	参考書	プリント	パワーポイント					できた	
		基礎助産学Ⅱ	4	前期	選択	早川有子	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用						教科書	参考書	プリント	パワーポイント					できた	
		基礎助産学Ⅲ	4	前期	選択	中島久美子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	メディアの利用				教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR				できた	
		基礎助産学Ⅳ	4	通年	選択	早川有子	シラバスに沿って実施した			作業課題(グループ)						教科書	参考書	プリント	パワーポイント					できた	
		助産診断技術学Ⅰ	4			横田佳昌																			
		助産診断技術学Ⅱ	4	前期	選択	白井淳美	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論	メディアの利用			教科書	参考書	プリント							できた
		助産診断技術学Ⅲ	4	前期	選択	中島久美子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	メディアの利用			教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR					できた
		助産診断技術学Ⅳ	4	前期	選択	白井淳美	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論	メディアの利用				教科書	参考書	プリント	VTR						できた
		助産診断技術学Ⅴ	4	前期	選択	白井淳美	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論	メディアの利用				教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR					できた
		助産診断技術学Ⅵ	4	前期	選択	中島久美子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	メディアの利用			教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR					できた
		助産管理	4			大井けい子																			
専門科目群	臨床看護分野	基礎看護学実習Ⅰ	2	前期	必修	上星浩子	シラバスに沿って実施した		実技・実習						プリント									できた	
		成人看護学実習Ⅰ	3	後期	必修	堀越政孝	シラバスに沿って実施した		実技・実習						教科書	参考書								できた	
		成人看護学実習Ⅱ	3	後期	必修	萩原英子	シラバスに沿って実施した		実技・実習	作業課題(個人)	討論				教科書	参考書								できた	
		老年看護学実習	3	後期	必修	星野泰栄	シラバスに沿って実施した		実技・実習	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論				教科書	参考書								できた
		小児看護学実習	3			斎藤由佳																			
		母性看護学実習	3	後期	必修	早川有子	シラバスに沿って実施した		実技・実習	作業課題(グループ)	作業課題(個人)				教科書	参考書	プリント								できた
		精神看護学実習	3	後期	必修	村松 仁	シラバスに沿って実施した		実技・実習						教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR	sei					できた
		在宅看護実習	4	前期	必修	荻井秀子	シラバスに沿って実施した			作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論	実技・実習			プリント	パワーポイント	教科書	参考書						事前学習で基礎知識を復習し、学内実習ではグループディスカッションを行い、体験や学びの共有化を図り、発表し、その都度指導教員全員で評価してきた。
	公衆衛生看護分野	公衆衛生看護学実習	4	後期	選択	小林亜由美	シラバスに沿って実施した	実習要項に沿って実施	実技・実習	講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論			プリント	パワーポイント							各実習施設で頂いた資料	できた
		助産学実習	4	後期	選択	中島久美子	シラバスに沿って実施した		実技・実習	作業課題(個人)	作業課題(グループ)				教科書	参考書	プリント								できた
	研究	看護研究概説	3	前期	必修	小林亜由美	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	実技・実習	メディアの利用			教科書	パワーポイント	プリント							PC (WEB 検索)	できた
		卒業研究	4	通年	必修	学科教員全員	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論				参考書	プリント	パワーポイント								できた

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

理学療法学科 教育課程（1学年）

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者				
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養科目群	心身の発達	心理学	2		講義	15	必修16単位＋選択9単位以上		15						榎本光邦				
		教育学		2	講義	15		15							黒羽正見				
		教育心理学		2	講義	15			15						原芳典				
		健康スポーツ理論		1	講義	15		15							衣川隆				
		健康スポーツ実技	1		実技	15			15						衣川隆				
	思想及び表現	生命倫理	2		講義	15						15				吉田幸恵			
		哲学		2	講義	15		15								金澤秀嗣			
		現代文学		2	講義	15		15								尾形大			
		人間と宗教		2	講義	15			15							竹村一男			
		芸術		2	講義	15			15							東晴美			
	人と社会及び自然の理解 社会のしくみ 人間と生活及び	法学（日本国憲法含む）		2	講義	15		選択3単位以上	15								水林翔		
		社会学		2	講義	15			15								坂本祐子		
		生活文化と医療		2	講義	15			15								鈴木英恵		
		経済学		2	講義	15				15							飯島正義		
		地域ボランティア活動論		1	講義	7.5					7.5							竹澤泰子	
	自然の原理及び環境	環境学		2	講義	15		必修4単位＋選択2単位以上	15								西蘭大実		
		生物学A		1	講義	7.5			7.5								佐藤久美子		
		生物学B		1	講義	7.5				7.5							佐藤久美子		
		数学A	1		講義	7.5			7.5								栗田昌裕		
		数学B	1		講義	7.5				7.5							栗田昌裕		
		化学A		1	講義	7.5			7.5								日置英彰		
		化学B		1	講義	7.5				7.5							日置英彰		
		物理学A	1		講義	7.5			7.5								佐藤求		
		物理学B	1		講義	7.5				7.5							佐藤求		
	英語	英語リーディング	1		講義	15		必修3単位以上	15								山本三穂		
		医療英語会話	1		講義	15				15							Renee Sawazaki		
		医療英語リーディング	1		講義	15					15						山本三穂		
		英語会話		1	講義	15					15						Joseph Boland		
		英語アカデミックリーディング・ライティング	1		講義	15						15					杉田雅子		
		初修外国語	中国語		1	講義			15	選択1単位以上	15								深町悦子
			コリア語		1	講義			15		15								青木順
			ドイツ語		1	講義			15		15								高裕輔
			ポルトガル語		1	講義			15		15								鳥越慎太郎
情報		情報処理	1		演習	15	必修1単位以上		15								西谷泉		
	情報リテラシー		1	講義	15			15							西谷泉				
	囲碁で学ぶ情報戦略		1	講義	15			15							土屋仁				
共通基盤科目群	大学の学び入門	1		講義	15	必修3単位	15								杉田雅子				
	大学の学び—専門への誘い—	1		講義	15			15							中徹				
	多職種理解と連携	1		講義	15				15						中徹				
計（卒業要件）						25													

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者		
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門基礎科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1		講義	15	必修14単位以上	15							浅見知市郎		
		解剖学Ⅱ	1		講義	15			15							浅見知市郎	
		解剖学実習	1		実習	22.5				15	7.5					浅見知市郎	
		表面解剖学と触診法	1		講義	15				15						浅田春美	
		生理学Ⅰ	1		講義	15			15							洞口貴弘	
		生理学Ⅱ	1		講義	15				15						洞口貴弘	
		生理学実習	1		実習	22.5					22.5						洞口貴弘
		運動生理学	1		講義	15							15				江口勝彦
		生化学	1		講義	15				15							高橋克典
		運動学Ⅰ	2		講義	30				30							高橋正明
		運動学Ⅱ	1		講義	15						15					高橋正明
		運動学実習	1		実習	22.5						22.5					岡崎大資
		人間発達学	1		講義	15						15					中徹
		栄養学(含食品学)		1	講義	15					15						後藤香織
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医療概論	1		講義	15	必修18単位以上	15								宗宮真	
		病理学	1		講義	15			15								岡山香里
		薬理学	1		講義	15					15						栗田昌裕
		公衆衛生学	2		講義	15			15								石館敬三
		臨床検査・画像診断学	1		講義	15						15					古田島伸雄
		臨床医学特殊講義	1		講義	15						15					宗宮真
		内科学	1		講義	15					15						門傳剛
		整形外科Ⅰ	1		講義	15					15						宗宮真
		整形外科Ⅱ	1		講義	15						15					宗宮真
		臨床神経学Ⅰ(神経内科学)	1		講義	15						15					宗宮真
		臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経外科)	1		講義	15							15				井埜利博
		精神医学	1		講義	15							15				平尾良雄
		小児科学	1		講義	15						15					井埜利博
		リハビリテーション医学	1		講義	15						15					宗宮真
		老年医学	1		講義	7.5						7.5					尾林徹
		救急・免疫・感染症学	1		講義	15							15				近土真由美
		スポーツ医学	1		講義	15							15				山口光國
	緩和医療学		1	講義	15							15			木村朗		
	カウンセリング		1	講義	15					15					榎本光邦		
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1		講義	15	必修6単位+選択1単位以上	15								松澤正		
	リハビリテーション関連領域論	1		講義	15						15					関修司	
	臨床心理学	1		講義	15				15							榎本光邦	
	安全管理	1		講義	15								15			根生とき子	
	生体計測工学	1		講義	15							15				目黒力	
	医療統計学	1		講義	15					15						木村朗	
	社会福祉・地域サービス論		1	講義	15						15					一場美根子	
	障害者スポーツ・レクリエーション論		1	講義	15			15								城下貴司	
	リハビリテーション工学		1	講義	15							15				目黒力	
計(履修方法・卒業要件)						39											

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く)

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目群	基礎理学療法学	理学療法概論	1		講義	15	必修6単位＋選択1単位以上	15							木村 朗	
		基礎理学療法学	1		講義	15			15							中 徹
		理学療法セミナー	1		講義	15						15				岡崎 大資
		理学療法特論	1		講義	15								15		目黒 力
		臨床推論演習	1		演習	15						15				鈴木 学
		理学療法研究論	1		講義	15							15			木村 朗
		理学療法管理学		1	講義	7.5									7.5	岡崎 大資
		卒業研究		2	演習	30									30	木村 朗
	理学療法学	理学療法評価学	2		講義	15	必修4単位	15							加藤 仁志	
		理学療法評価学演習	1		演習	15			15						黒川 望	
		臨床動作分析学	1		講義	15					15				高橋 正明	
	理学療法治療学	運動療法総論	1		講義	15	必修25単位			15					加藤 仁志	
		運動器系理学療法評価・治療学	2		講義	15				15						城下 貴司
		運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	1		演習	15					15					城下 貴司
		運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	1		演習	15						15				城下 貴司
		神経系理学療法評価・治療学	2		講義	15						15				鈴木 学
		神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	1		演習	15						15				鈴木 学
		神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	1		演習	15							15			鈴木 学
		呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学	2		講義	15							15			仲保 徹
		呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習	1		演習	15							15			木村 朗
		小児理学療法学	1		講義	15							15			中 徹
		理学療法特殊講義	1		講義	7.5							7.5			木村 朗
		物理療法学	2		講義	15						15				黒川 望
		物理療法学演習	1		演習	15							15			目黒 力
		装具学	2		講義	30							30			橋口 優
		義肢学	1		講義	15							15			平井 正利
		徒手系理学療法学	1		講義	15							15			城下 貴司
		スポーツ傷害理学療法学	1		講義	15							15			城下 貴司
		日常生活活動学	2		講義	15					15					浅田 春美
	日常生活活動学演習	1		演習	15					15				浅田 春美		
	地域理学療法学	地域理学療法学	2		講義	15	必修7単位					15			加藤 仁志	
		地域理学療法学演習	1		演習	15						15			加藤 仁志	
		生活環境学	2		講義	15						15			目黒 力	
		環境理学療法学	2		講義	15						15			目黒 力	
	臨床実習	見学実習	1		実習	1w	必修18単位				1w				加藤 仁志	
		評価学実習	3		実習	3w						3w			橋口 優	
		総合臨床実習Ⅰ	7		実習	8w							8w		鈴木 学	
		総合臨床実習Ⅱ	7		実習	8w							8w		鈴木 学	
	計（履修方法・卒業要件）						61									
	卒業要件（最低）単位数						125									

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

理学療法学科 教育課程（2～4学年）

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期				
教養科目群	発達・行動・心理	心理学	2		15		15								
		生命倫理	2		15		15								
		教育学		2	15		15								
		医療民俗学		2	15		15								
		健康スポーツ理論		2	15		15								
		健康スポーツ実技	1		15		15								
	言語と文化	総合英語Ⅰ	1		15		15								
		総合英語Ⅱ	1		15		15								
		英語表現		1	15		15								
		ステップアップ英語		1	15		15								
		中国語		1	15		15								
		コリア語		1	15		15								
	人と社会・生活	個人・家族と生活	2		15		15								
		個人・家族と社会	2		15		15								
		地域社会学	2		15		15								坂本 祐子
		ボランティア活動論		1	15		15								
		法学（日本国憲法含む）		2	15		15								
		経済学		2	15		15								
		環境学		2	15		15								
		情報処理Ⅰ	1		15		15								
情報処理Ⅱ			1	15		15									
	生活の中の数学		1	7.5		7.5									
基礎教育	大学の学び入門	1		15		15									
	生物学	1		15		15									
	化学	1		15		15									
	物理学	1		15		15									
計（履修方法・卒業要件）					28										
専門基礎科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	2		30		30								
		解剖学Ⅱ	1		15		15								
		解剖学実習	1		22.5		22.5							浅見 知市郎	
		表面解剖学と触診法	1		15		15								
		生理学Ⅰ	1		15		15								
		生理学Ⅱ	1		15		15								
		生理学実習	1		22.5		22.5							洞口 貴弘	
		運動生理学	1		15		15				15			江口 勝彦	
		生化学	1		15		15								
		運動学Ⅰ	2		30		30								
		運動学Ⅱ	1		15		15							高橋 正明	
		運動学実習	1		22.5		22.5							岡崎 大資	
		人間発達学	1		15		15							中 徹	
	栄養学（含食品学）		1	15		15									
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医療概論	1		15		15								
		病理学	1		15		15								
		薬理学	1		15		15								栗田 昌裕
		公衆衛生学	1		7.5		7.5								
		臨床検査・画像診断学	1		15		15								古田島 伸雄
		臨床医学特殊講義	1		15		15								宗宮 真
内科学		1		15		15								門 傳 剛	
整形外科Ⅰ		1		15		15								宗宮 真	
整形外科Ⅱ		1		15		15								宗宮 真	
臨床神経学Ⅰ（神経内科学）		1		15		15								宗宮 真	
臨床神経学Ⅱ（小児神経学・脳神経外科学）		1		15		15			15					井 埜 利 博	
精神医学		1		15		15			15					平尾 良雄	
小児科学		1		15		15			15					井 埜 利 博	
リハビリテーション医学		1		15		15			15					宗宮 真	
老年医学		1		7.5		7.5			7.5					尾林 徹	
救急・免疫・感染症学		1		15		15			15					近土 真由美	
スポーツ医学		1		15		15			15					山口 光國	
緩和医療学		1	15		15			15					木村 朗		
カウンセリング		1	15		15			15					榎本 光邦		

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

区 分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		単位認定者	
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目群	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1		15		15								関 修 司 根 生 とき子 目 黒 力 木 村 朗 一 場 美根子 目 黒 力
		リハビリテーション関連領域論	1		15					15					
		臨床心理学	1		15		15								
		安全管理	1		15								15		
		生体計測工学	1		15						15				
		医療統計学	1		15			15							
		社会福祉・地域サービス論		1	15										
		障害者スポーツ・レクリエーション論		1	15				15						
		リハビリテーション工学		1	15		15								
計（履修方法・卒業要件）					39										
専門科目群	基礎理学療法学	理学療法概論	1		15		15								岡 崎 大 資 目 黒 力 鈴 木 学 木 村 朗 岡 崎 大 資 木 村 朗 黒 川 望 高 橋 正 明 加 藤 仁 志 城 下 貴 司 城 下 貴 司 城 下 貴 司 鈴 木 学 鈴 木 学 鈴 木 学 仲 保 徹 木 村 朗 中 徹 木 村 朗 黒 川 望 目 黒 力 橋 口 優 平 井 正 利 城 下 貴 司 城 下 貴 司 浅 田 春 美 浅 田 春 美 加 藤 仁 志 加 藤 仁 志 目 黒 力 目 黒 力 加 藤 仁 志 橋 口 優 鈴 木 学 鈴 木 学
		基礎理学療法学	1		15		15								
		理学療法セミナー	1		15					15					
		理学療法特論	1		15								15		
		臨床推論演習	1		15						15				
		理学療法研究論	1		15							15			
		理学療法管理学		1	7.5								7.5		
	卒業研究		2	30								30			
	評価学療法	理学療法評価学	2		15		15								
		理学療法評価学演習	1		15			15							
		臨床動作分析学	1		15				15						
	理学療法治療学	運動療法総論	1		15			15							
		運動器系理学療法評価・治療学	2		15			15							
		運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	1		15				15						
		運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	1		15					15					
		神経系理学療法評価・治療学	2		15				15						
		神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	1		15				15						
		神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	1		15					15					
		呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学	2		15						15				
		呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習	1		15							15			
		小児理学療法学	1		15							15			
		理学療法特殊講義	1		7.5							7.5			
		物理療法学	2		15					15					
		物理療法学演習	1		15						15				
		装具学	2		30							30			
		義肢学	1		15								15		
	徒手系理学療法学	1		15								15			
	スポーツ傷害理学療法学	1		15								15			
	日常生活活動学	2		15					15						
	日常生活活動学演習	1		15						15					
	地域理学療法学	地域理学療法学	2		15						15				
		地域理学療法学演習	1		15							15			
		生活環境学	2		15							15			
環境理学療法学	2		15								15				
臨床実習	見学実習	1		1w					1w						
	評価学実習	3		3w						3w					
	総合臨床実習Ⅰ	7		8w							8w				
	総合臨床実習Ⅱ	7		8w							8w				
計（履修方法・卒業要件）					61										
卒業要件（最低）単位数					128										

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

理学療法学科 教育活動の記録 (1 学年)

区 分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 択	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法						使 用 し た 教 材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)			その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)			
													選択	参考書	プリント				パワーポイント	選択	備考(自由記入欄)
人 と 社 会 及 び 自 然 の 理 解	心身の発達	心理学	1	後期	必修	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習			教科書	プリント	パワーポイント			できた	
		教育学				黒羽正見															
		教育心理学				原 芳 典															
		健康スポーツ理論	1	前期	選択	衣川 隆	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)					プリント					できた	
		健康スポーツ実技	1	後期	必修	衣川 隆	シラバスに沿って実施した		実技・実習						参考書					できた	
	思想及び表現	生命倫理				吉田幸恵															
		哲学				金澤秀嗣															
		現代文学				尾形 大															
		人間と宗教				竹村一男															
		芸術				東 晴 英															
		法学(日本国憲法含む)				水林 翔															
		社会学				坂本祐子															
	社会のしくみ及び人間と生活及び	生活文化と医療				鈴木英恵															
		経済学				飯島正義															
		地域ボランティア活動論				竹澤泰子															
		環境学				西 園 大 実															
		生物学A				佐藤久美子															
		生物学B				佐藤久美子															
		数学A	1	前期	必修	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義						プリント					できた	
	数学B	1	後期	選択	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義						プリント					できた		
自然の原理及び環境	化学A				日置英彰																
	化学B				日置英彰																
	物理学A	1	前期	必修	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義							プリント			プリントの出来は教科書レベル	できた		
	物理学B	1	後期	必修	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義							プリント			プリントの出来は教科書レベル	できた		
	英語リーディング				山本三穂																
英 語	医療英語会話				Renee Sawasaki																
	医療英語リーディング				山本三穂																
	英語会話				Joseph Boland																
	随時76ミッドラングライティング				杉田雅子																
	中国語				深町悦子																
初修外国語	コリア語				青木 順																
	ドイツ語				高 裕 輔																
	ポルトガル語				鳥越慎太郎																
	情報処理				西谷 泉																
	情報リテラシー				西谷 泉																
情 報	囲碁で学ぶ情報戦略	1	後期	選択	土屋 仁	履修者0のため開講せず															
	大学の学び入門	1	前期	必修	杉田雅子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)				プリント	パワーポイント			できた			
	大学の学び-専門への誘い-	1	後期	必修	中 徹	シラバスに沿って実施した	進度により一部調整	講義	作業課題(グループ)	討論	実技・実習			プリント	パワーポイント			できた			
共通基盤科目群	多職種理解と連携				中 徹																

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか					
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)				その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)				その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)					
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	前期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	パワーポイント							できた		
	解剖学Ⅱ	1	後期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	パワーポイント							できた		
	解剖学実習				浅見知市郎																			
	表面解剖学と触診法	1	後期	必修	浅田春美	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	メディアの利用				教科書	参考書	パワーポイント				骨模型		できた		
	生理学Ⅰ	1	前期	必修	洞口貴弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用					教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR				できた		
	生理学Ⅱ	1	後期	必修	洞口貴弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用					教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR				できた		
	生理学実習				洞口貴弘																			
	運動生理学				江口勝彦																			
	生化学	1	後期	必修	高橋克典	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	プリント	パワーポイント						できた		
	運動学Ⅰ	1	後期	必修	高橋正明	シラバスに沿って実施できなかった	運動学で必要となる解剖学(運動筋)の知識不足を時間内に補ったため	講義	作業課題(個人)	メディアの利用				教科書	参考書	プリント	パワーポイント					できた		
	運動学Ⅱ				高橋正明		前年度の比較し																	
	運動学実習				岡崎大資																			
	人間発達学				中 徹																			
栄養学(含食品学)				後藤香織																				
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医療概論	1	前期	必修	宗宮 真	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	メディアの利用				プリント	パワーポイント	VTR						できた		
	病理学	1	後期	必修	岡山香里	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	参考書	プリント	パワーポイント					できた		
	薬理学				栗田昌裕																			
	公衆衛生学				石館敬三																			
	臨床検査・画像診断学				古田島伸雄																			
	臨床医学特殊講義				宗宮 真																			
	内科学				門 傳 剛																			
	整形外科Ⅰ				宗宮 真																			
	整形外科Ⅱ				宗宮 真																			
	臨床神経学Ⅰ(神経内科学)				宗宮 真																			
	臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経科)				井 埜 利 博																			
	精神医学				平 尾 良 雄																			
	小児科学				井 埜 利 博																			
	リハビリテーション医学				宗宮 真																			
	老年医学				尾 林 徹																			
救急・免疫・感染症学				近土真由美																				
スポーツ医学				山口光國																				
緩和医療学				木 村 朗																				
カウンセリング				榎 本 光 邦																				
リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論				松 澤 正																			
	リハビリテーション関連領域論				開 修 司																			
	臨床心理学	1	後期	必修	榎 本 光 邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習			教科書	参考書	プリント	パワーポイント					できた		
	安全管理				根生とき子																			
生体計測工学				目 黒 力																				

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 択	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法					使 用 し た 教 材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)							
専門基礎科目群	医療統計学				木村 朗															
	社会福祉・地域サービス論				一場英根子															
	障害スポーツ・レクリエーション論	1	前期	選択	城下 貴司	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	メディアの利用		教科書	プリント	パワーポイント	VTR	参考書	できた	
	リハビリテーション工学				目黒 力															
専門科目群	基礎理学療法学	理学療法概論	1	前期	必修	木村 朗	シラバスに沿って実施した	学生の学修状況に合わせて、重複的課題遂行も含めた。	講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	メディアの利用	国立リハビリテーションセンターの見学	教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR	できた	
		基礎理学療法学	1	後期	必修	中 徹	シラバスに沿って実施した	進度により若干調整	講義	作業課題(個人)				教科書	プリント	パワーポイント			できた	予測平均点内に入っていた
		理学療法セミナー				岡崎大資														
		理学療法特論				目黒 力														
		臨床推論演習				鈴木 学														
		理学療法研究論				木村 朗														
		理学療法管理学				岡崎大資														
	卒業研究				木村 朗															
	評価学	理学療法評価学				加藤仁志														
		理学療法評価学演習				黒川 望														
		臨床動作分析学				高橋正明														
	理学療法治療学	運動療法総論				加藤仁志														
		運動器系理学療法評価・治療学				城下 貴司														
		運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ				城下 貴司														
		運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ				城下 貴司														
		神経系理学療法評価・治療学				鈴木 学														
		神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ				鈴木 学														
		神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ				鈴木 学														
		呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学				仲保 徹														
		呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習				木村 朗														
		小児理学療法学				中 徹														
		理学療法特殊講義				木村 朗														
		物理療法学				黒川 望														
		物理療法学演習				目黒 力														
		装具学				橋口 優														
		義肢学				平井正利														
		徒手系理学療法学				城下 貴司														
スポーツ傷害理学療法学					城下 貴司															
日常生活活動学				浅田春美																
日常生活活動学演習				浅田春美																
地域理学療法学	地域理学療法学				加藤仁志															
	地域理学療法学演習				加藤仁志															
	生活環境学				目黒 力															
	環境理学療法学				目黒 力															
臨床実習	見学実習				加藤仁志															
	評価学実習				橋口 優															
	総合臨床実習Ⅰ				鈴木 学															
	総合臨床実習Ⅱ				鈴木 学															

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

理学療法学科 教育活動の記録 (2～4学年)

区分	授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法				使用した教材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)						
教養科目群	発達・行動・心理	心理学																	
		生命倫理																	
		教育学																	
		医療民俗学																	
		健康スポーツ理論																	
	健康スポーツ実技																		
	言語と文化	総合英語 I																	
		総合英語 II																	
		英語表現																	
		ステップアップ英語																	
		中国語																	
	人と社会・生活	個人・家族と生活																	
		個人・家族と社会																	
		地域社会学				坂本 祐子													
		ボランティア活動論																	
法学(日本国憲法含む)																			
経済学																			
環境学																			
情報処理 I																			
情報処理 II																			
生活の中の数学																			
基礎教育	大学の学び入門																		
	生物学																		
	化学																		
	物理学																		
専門基礎科目群	解剖学 I																		
	解剖学 II																		
	解剖学実習	2	通年	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習			教科書	パワーポイント					できた	
	表面解剖学と触診法																		
	生理学 I																		
	生理学 II																		
	生理学実習	2	前期	必修	洞 口 貴 弘	シラバスに沿って実施した		実技・実習	講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)		プリント	教科書	参考書	パワーポイント		できた	
	運動生理学				江 口 勝 彦														
	生化学																		
	運動学 I																		
	運動学 II	2	前期	必修	高 橋 正 明	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論	実技・実習	メディアの利用	教科書	参考書	プリント	パワーポイント		できた	
運動学実習	2	前期	必修	岡 崎 大 資	シラバスに沿って実施した		実技・実習					プリント	パワーポイント				できた		
人間発達学	2	前期	必修	中 徹	シラバスに沿って実施した	進度により一部調整	講義	作業課題(個人)	実技・実習			教科書	プリント	パワーポイント			できた	予想平均点に入っていた	
栄養学(含食品学)																			

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法				使用した教材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)					
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医療概論																	
	病理学																	
	薬理学	2	前期	必修	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義					プリント				できた	
	公衆衛生学																	
	臨床検査・画像診断学	2	後期	必修	古田島伸雄	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	プリント	パワーポイント		できた	
	臨床医学特殊講義	2	後期	必修	宗富 真	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	メディアの利用			プリント	パワーポイント	VTR		できた	
	内科学				門 傳 剛													
	整形外科Ⅰ	2	前期	必修	宗富 真	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	メディアの利用			教科書	プリント	パワーポイント	VTR	できた	
	整形外科Ⅱ	2	後期	必修	宗富 真	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	メディアの利用			教科書	プリント	パワーポイント	VTR	できた	
	臨床神経学Ⅰ(神経内科学)	2	後期	必修	宗富 真	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	メディアの利用			教科書	プリント	パワーポイント	VTR	できた	
	臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経外科)				井 埜 利 博													
	精神医学				平 尾 良 雄													
	小児科学				井 埜 利 博													
	リハビリテーション医学	2	後期	必修	宗富 真	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	メディアの利用			プリント	パワーポイント	VTR		できた	
	老年医学	2	後期	必修	尾 林 徹	シラバスに沿って実施した		講義					パワーポイント				できた	
	救急・免疫・感染症学	3	前期	必修	近土真由美	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	参考書	プリント	パワーポイント	できた	
	スポーツ医学				山 口 光 國													
	緩和医療学	3	前期	選択	木 村 朗	シラバスに沿って実施した	受講者の学修状況に応じて課題量の多寡を決定した。	講義	作業課題(個人)	討論			教科書	参考書			できた	
	カウンセリング	2	前期	選択	榎 本 光 邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習		プリント	パワーポイント			できた	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論																
リハビリテーション関連領域論					関 修 司													
臨床心理学																		
安全管理					根生とき子													
生体計測工学		3	後期	必修	目 黒 力	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)		実技・実習		教科書	参考書	プリント	パワーポイント	できた	
医療統計学		2	前期	必修	木 村 朗	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	実技・実習	メディアの利用		パワーポイント	教科書			インターネット 自作動画コンテンツ	できた
社会福祉・地域サービス論					一場英根子													
障害者スポーツ・レクリエーション論																		
リハビリテーション工学	3	前期	選択	目 黒 力	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)		メディアの利用		参考書	パワーポイント	VTR		できた		
基礎理学療法学	理学療法概論																	
	基礎理学療法学																	
	理学療法セミナー	3	後期	必修	岡 崎 大 資	シラバスに沿って実施した		講義	討論	作業課題(グループ)		プリント					できた	
	理学療法特論	4	後期	必修	目 黒 力	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)		討論		プリント	参考書			できた	
臨床推論演習	3	前期	必修	鈴 木 学	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論			プリント	パワーポイント			できた		

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法							使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)				選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)			その他(自由記入欄)		選択	備考(自由記入欄)			
基礎心理学療法学	理学療法研究論	3	後期	必修	木村 朗	シラバスに沿って実施した	学習者の学修状況に応じて重機量を調整した。	講義	作業課題(個人)	メディアの利用					教科書	パワーポイント			インターネット自作PPTコンテンツ	できた		
	理学療法管理学	4	後期	必修	岡崎 大資	シラバスに沿って実施した		講義	討論					プリント	パワーポイント				できた			
	卒業研究	4	後期	選択	木村 朗	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論	実技・実習		担当教員の研究課題に沿った演習など	教科書	参考書	プリント	パワーポイント	担当教員の研究課題に沿った研究機材の仕様、フィールド調査の場など	できた		
理学療法評価学	理学療法評価学																					
	理学療法評価学演習	2	前期	必修	黒川 望	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習					教科書	プリント	VTR				できた		
	臨床動作分析学	3	前期	必修	高橋 正明	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	メディアの利用		教科書	参考書	プリント	VTR			できなかった	力学的感覚を身につけられない学生が何人か存在した	
理学療法治療学	運動療法総論				加藤 仁志																	
	運動系理学療法評価・治療学Ⅰ	2	前期	必修	城下 貴司	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	実技・実習	メディアの利用			教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた		
	運動系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	2	後期	必修	城下 貴司	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	メディアの利用		教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた		
	運動系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	3	前期	必修	城下 貴司	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	実技・実習	メディアの利用			教科書	参考書	プリント	パワーポイント	パワーポイント		できた		
	神経系理学療法評価・治療学Ⅰ	2	後期	必修	鈴木 学	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習					教科書	パワーポイント					できた		
	神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ	2	後期	必修	鈴木 学	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習					教科書	パワーポイント					できた		
	神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ	3	前期	必修	鈴木 学	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習					教科書	パワーポイント					できた		
	呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習	3	後期	必修	仲保 徹																	
	呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学	3	後期	必修	木村 朗	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	メディアの利用					パワーポイント	教科書	参考書	プリント		できた		
	小児理学療法学	3	後期	必修	中 徹	シラバスに沿って実施した	進度によって一部調整	講義	実技・実習					教科書	プリント	パワーポイント				できた	予想平均点に入っていた	
	理学療法特殊講義	4	後期	必修	木村 朗	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	メディアの利用					パワーポイント	教科書	参考書			できた		
	物理療法学	2	後期	必修	黒川 望	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習					教科書	プリント	パワーポイント				できた		
	物理療法学演習	3	前期	必修	目黒 力	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)		実技・実習			教科書	参考書	プリント				できた		
	装具学	3	前期	必修	橋口 優	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)					教科書	パワーポイント	プリント				できた		
	義肢学				平井 正利																	
	徒手理学療法学	3	後期	必修	城下 貴司	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論	実技・実習			教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた		
スポーツ傷害理学療法学	3	後期	必修	城下 貴司	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	メディアの利用				参考書	プリント	パワーポイント	VTR			できた			
日常生活活動学	2	前期	必修	浅田 春美	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	メディアの利用	作業課題(グループ)			教科書	プリント	パワーポイント				杖・松葉杖・車椅子	できた		
日常生活活動学演習	2	前期	必修	浅田 春美	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	メディアの利用				教科書	プリント	パワーポイント	VTR			杖・松葉杖・車椅子	できた		
地域理学療法学	地域理学療法学				加藤 仁志																	
	地域理学療法学演習				加藤 仁志																	
	生活環境学	3	前期	必修	目黒 力	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	メディアの利用		教科書	プリント	パワーポイント	VTR			できた		
環境理学療法学	3	後期	必修	目黒 力	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)		実技・実習	メディアの利用		教科書	プリント	パワーポイント	VTR			できた			

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区 分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 択	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法							使 用 し た 教 材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選 択	備考(自由記入欄)	選 択 (講義、作業課題 (個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選 択 (教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選 択	備考 (自由記入欄)										
専 門 科 目 群	臨 床 実 習				加藤 仁志																		
		見学実習																					
		評価学実習	3	後期	必修	橋口 優	シラバスに沿って実施した		実技・実習												臨地実習	できた	
		総合臨床実習Ⅰ	4	前期	必修	鈴木 学	シラバスに沿って実施した		実技・実習												学生が自己の判断で必要と感じた教材	できた	
	総合臨床実習Ⅱ	4	前期	必修	鈴木 学	シラバスに沿って実施した		実技・実習												学生が自己の判断で必要と感じた教材	できた		

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

検査技術学科 教育課程（1学年）

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者			
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
教養科目群	心身の発達	心理学		2	講義	15	必修9単位+選択14単位以上		15							榎本光邦		
		教育学		2	講義	15		15									黒羽正見	
		教育心理学		2	講義	15			15								榎本光邦	
		健康スポーツ理論		1	講義	15		15									衣川隆	
		健康スポーツ実技		1	実技	15			15								衣川隆	
	思想及び表現	生命倫理	2		講義	15		必修2単位以上			15							吉田幸恵
		哲学		2	講義	15			15									金澤秀嗣
		現代文学		2	講義	15			15									尾形大
		人間と宗教		2	講義	15				15								竹村一男
	人間の生活及び社会のしくみ	法学（日本国憲法含む）		2	講義	15		選択3単位以上		15								水林翔
		社会学		2	講義	15			15									坂本祐子
		生活文化と医療		2	講義	15			15									鈴木英恵
		経済学		2	講義	15				15								飯島正義
		地域ボランティア活動論		1	講義	7.5						7.5						
	自然の原理及び環境	環境学		2	講義	15		選択5単位以上	15									西蘭大実
		生物学A		1	講義	7.5			7.5									佐藤久美子
		生物学B		1	講義	7.5				7.5								佐藤久美子
		数学A		1	講義	7.5			7.5									栗田昌裕
		数学B		1	講義	7.5				7.5								栗田昌裕
		化学A		1	講義	7.5			7.5									日置英彰
		化学B		1	講義	7.5				7.5								日置英彰
		物理学A		1	講義	7.5			7.5									佐藤求
	物理学B		1	講義	7.5			7.5								佐藤求		
	英語	英語リーディング	1		講義	15		必修3単位以上	15									山本三穂
		医療英語会話	1		講義	15				15								Renee Sawazaki
		医療英語リーディング	1		講義	15						15						山本三穂
		英語会話		1	講義	15						15						Joseph Boland
		英語アカデミックリーディング・ライティング		1	講義	15							15					杉田雅子
	初修外国語	中国語		1	講義	15		以上1単位	15									深町悦子
		コリア語		1	講義	15			15									青木順
		ドイツ語		1	講義	15			15									高裕輔
		ポルトガル語		1	講義	15			15									鳥越慎太郎
	情報	情報処理	1		演習	15		位必修1単	15									西谷泉
情報リテラシー			1	講義	15		15									西谷泉		
囲碁で学ぶ情報戦略			1	講義	15		15									土屋仁		
共通基盤	大学の学び入門	1		講義	15	必修3	15									杉田雅子		
	大学の学び-専門への誘い-	1		講義	15		15									藤田清貴		
	多職種理解と連携	1		講義	15					15						藤田清貴		
計（卒業要件）						23												
専門基礎科目群	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	1		講義	15	必修17単位+選択4単位以上	15								浅見知市郎		
		解剖学Ⅱ	1		講義	15			15								浅見知市郎	
		解剖学実習	1		実習	30				15	15						浅見知市郎	
		生理学Ⅰ	1		講義	15		15									洞口貴弘	
		生理学Ⅱ	1		講義	15			15								洞口貴弘	
		生理学実習	1		実習	22.5				22.5							洞口貴弘	
	健康と医療と社会	生化学	1		講義	15			15									亀子光明
		医学概論	2		講義	15		15										長田誠
		病理学	1		講義	15			15									岡山香里
		薬理学	1		講義	15				15								栗田昌裕
		公衆衛生学	2		講義	15		15										石館敬三
		臨床医学特殊講義		1	講義	15					15							正田純史
		内科学	1		講義	15				15								門傳剛
		老年医学	1		講義	7.5					7.5							尾林徹
		遺伝と病気	2		講義	15			15									長田誠
感染と免疫	1		講義	15		15									藤田清貴			

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目群	健康と医療と社会	カウンセリング		1	講義	15				15					森 慶 輔
		リハビリテーション概論		1	講義	15		15							松 澤 正
		臨床心理学		1	講義	15		15							森 慶 輔
		生体計測工学		1	講義	15						15			目 黒 力
		国際医療協力論		1	講義	15		15							辻 村 弘 美
		医療統計学		1	講義	15			15						木 村 朗
		社会福祉・地域サービス論		1	講義	15				15					一 場 美 根 子
計 (卒業要件)						21									
専門科目群	臨床病態解析	臨床検査解析学 (Reversed CPC) I	1		講義	15					15				藤 田 清 貴
		臨床検査解析学 (Reversed CPC) II	1		講義	15					15				藤 田 清 貴
		電気泳動分析病態解析学		2	講義	15					15				藤 田 清 貴
		ビットフォール解析学	2		講義	15					15				藤 田 清 貴
	生体機能検査学	生理機能検査学	2		講義	30			15	15					古田島 伸 雄
		生理機能検査学実習	2		実習	45					45				古田島 伸 雄
		画像解析検査学	2		講義	15					15				古田島 伸 雄
		画像解析検査学実習	2		実習	45					45				古田島 伸 雄
		医用電子工学	1		講義	15				15					木 村 博 一
		医用電子工学実習	1		実習	22.5				22.5					木 村 博 一
	検査総合管理学	臨床検査学総論	2		講義	30			15	15					高 橋 克 典
		臨床検査学総論実習	2		実習	45				45					高 橋 克 典
		関係法規	1		講義	15					15				高 橋 克 典
		医療システムとマネジメント		1	講義	15				15					古田島 伸 雄
		情報科学概論	2		講義	15						15			古田島 伸 雄
		医療安全管理学演習	1		演習	15			15						白 土 佳 子
		臨床検査学総合演習 I	3		演習	22.5						22.5			藤 田 清 貴
		臨床検査学総合演習 II	4		演習	60							60		藤 田 清 貴
	病 因 ・ 生 体 防 御 検 査 学	免疫検査学	2		講義	30			15	15					藤 田 清 貴
		免疫検査技術学実習	2		実習	30					30				藤 田 清 貴
		分離分析技術学特論		2	講義	15			15						石 垣 宏 尚
		輸血検査学	1		講義	15						15			白 土 佳 子
		微生物検査学	2		講義	30			15	15					白 土 佳 子
		微生物検査学実習	2		実習	45					45				吉 住 あ ゆ み
		ウイルス検査学		1	講義	15				15					木 村 博 一
	生物化学分析検査学	機器分析化学	2		講義	15		15							石 垣 宏 尚
		臨床化学検査学	2		講義	30			15	15					亀 子 光 明
		臨床化学検査学実習	2		実習	45					45				亀 子 光 明
		健康食品学		2	講義	15					15				亀 子 光 明
		食品衛生学		2	講義	15					15				亀 子 光 明
		遺伝子検査学	2		講義	15			15						長 田 誠
		遺伝子検査学実習	2		実習	30				30					長 田 誠
		遺伝子工学		1	講義	15					15				長 田 誠
		RI 検査学	1		講義	15						15			木 村 博 一
	形 態 ・ 病 態 検 査 学	血液検査学	2		講義	30			15	15					小 河 原 は つ 江
		血液検査学実習	2		実習	30					30				小 河 原 は つ 江
		病理細胞検査学	2		講義	30			15	15					岡 山 香 里
		病理細胞検査学実習	2		実習	30					30				岡 山 香 里
		医動物学	2		講義	30		30							藤 本 友 香
		生殖医療技術学	2		講義	30				30					荒 木 康 久
	臨地実習	臨地実習	7		実習	8W							8W		小 河 原 は つ 江
		卒業研究	8		演習	120							60	60	藤 田 清 貴
計 (卒業要件)						81									
卒業要件 (最低) 単位数						125									

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く)

検査技術学科 教育課程（2学年）

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養科目群	生命倫理と心理	心理学		2	15		15							
		生命倫理	2		15		15							
		教育学		2	15	15								
		教育情報論		2	15		15							
		教育心理学		2	15		15							
	言語と文化	英語Ⅰ	1		15	15								
		英語Ⅱ	1		15		15							
		英語表現		1	15		15							
		ステップアップ英語Ⅰ		1	15			15						柴山 森二郎
		ステップアップ英語Ⅱ		1	15				15					柴山 森二郎
		英文講読Ⅰ	1		15					15				柴山 森二郎
		英文講読Ⅱ		1	15							15		杉田 雅子
		中国語		1	15	15								
		コリア語		1	15	15								
	社会と生活	家族学		1	15	15								
		情報処理		1	15	15								
		法学（日本国憲法含む）		2	15		15							
		環境学		2	15		15							
		ジェンダー論		2	15		15							
		地域社会学		2	15		15							
		ボランティア活動論		1	15	15								
		経済学		2	15		15							
		健康スポーツ理論		2	15		15							
	健康スポーツ実技		1	15	15									
	基礎教育	大学の学び入門	1		15	15								
		教養ゼミナール	1		15	15								
		生物学基礎	1		15	15								
数学基礎		1		7.5	7.5									
化学基礎		1		7.5	7.5									
英語基礎	1		7.5	7.5										
計（卒業要件）					23									
専門基礎科目群	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	2		30	30								
		解剖学Ⅱ	1		7.5		7.5							
		解剖学実習	1		22.5			15	7.5					浅見 知市郎
		生理学Ⅰ	1		15	15								
		生理学Ⅱ	1		15		15							
	健康と医療と社会	生理学実習	1		22.5			22.5						洞口 貴弘
		生化学	1		15		15							
		医学概論	2		15	15								
		チーム医療論	1		15			15						藤田 清貴
		病理学	1		15		15							
		薬理学	1		15			15						栗田 昌裕
		公衆衛生学	1		7.5		7.5							
		臨床医学特殊講義		1	15				15					正田 純史
		内科学		1	15				15					門傳 剛
		老年医学		1	7.5				7.5					尾林 徹
		遺伝と病気	2		15		15							
		免疫学	1		15		15							
		カウンセリング		1	15			15						森 慶輔
		リハビリテーション概論		1	15		15							
		臨床心理学		1	15		15							
生体計測工学		1	15					15				目黒 力		
国際医療協力論		1	15		15									
医療統計学		1	15				15					木村 朗		
社会福祉・地域サービス論		1	15				15					一場 美根子		
計（卒業要件）					22									

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目群	臨床検査病態解析学	臨床検査解析学 (Reversed CPC) I	1		15						15			藤田清貴	
		臨床検査解析学 (Reversed CPC) II	1		15						15			藤田清貴	
		電気泳動分析病態解析学		2	15						15			藤田清貴	
		検査異常値と発生機序	2		15						15			藤田清貴	
	生体機能検査学	生理機能検査学	2		30				15	15					古田島伸雄
		生理機能検査学実習	2		45						45				古田島伸雄
		画像解析検査学	2		15						15				古田島伸雄
		画像解析検査学実習	2		45						45				古田島伸雄
		医用電子工学	1		15						15				木村博一
		医用電子工学実習	1		22.5						22.5				木村博一
	検査総合管理学	臨床検査学総論	2		30				15	15					高橋克典
		臨床検査学総論実習	2		45						45				高橋克典
		関係法規	1		15						15				高橋克典
		精度管理学		1	15						15				亀子光明
		医療システムとマネジメント		1	15							15			古田島伸雄
		情報科学概論	2		15							15			古田島伸雄
		医療安全管理学演習	1		15				15						白土佳子
		臨床検査学総合演習Ⅰ	3		22.5							22.5			藤田清貴
		臨床検査学総合演習Ⅱ	4		60								60		藤田清貴
	病因・生体防御検査学	免疫検査学	2		30				15	15					藤田清貴
		免疫検査技術学実習	2		45						45				藤田清貴
		分離分析技術学特論		2	15							15			石垣宏尚
		輸血検査学	1		15							15			白土佳子
		微生物検査学	2		30				15	15					白土佳子
		微生物検査学実習	2		45						45				吉住あゆみ
		ウイルス検査学		1	15							15			木村博一
	生物化学分析検査学	機器分析化学	2		15			15							
		臨床化学検査学	2		30				15	15					亀子光明
		臨床化学検査学実習	2		45						45				亀子光明
		健康食品学		2	15						15				亀子光明
		食品衛生学		2	15						15				亀子光明
		遺伝子検査学	2		15						15				長田誠
		遺伝子検査学実習	2		45						45				長田誠
		遺伝子工学		1	15						15				長田誠
	RI検査学	1		15							15			木村博一	
	形態・病態検査学	血液検査学	2		30				15	15					小河原はつ江
		血液検査学実習	2		45						45				小河原はつ江
		病理細胞検査学	2		30				15	15					岡山香里
		病理細胞検査学実習	2		45						45				岡山香里
		医動物学	2		15			15							
医動物学実習		1		22.5					22.5					吉住あゆみ	
生殖医療技術学			1	15						15				荒木康久	
臨地実習	臨地実習	7		8W								8W		小河原はつ江	
	卒業研究	8		120								60	60	藤田清貴	
計 (卒業要件)					82										
卒業要件 (最低) 単位数					127										

必修科目75単位+選択科目から7単位以上

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く)

検査技術学科 教育課程（3・4学年）

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養科目群	生命倫理と心理	心理学		2	15		15								
		生命倫理	2		15		15								
		教育学		2	15	15									
		教育情報論		2	15		15								
		教育心理学		2	15		15								
	言語と文化	英語Ⅰ	1		15	15									
		英語Ⅱ	1		15		15								
		英語表現		1	15		15								
		ステップアップ英語Ⅰ		1	15			15							
		ステップアップ英語Ⅱ		1	15				15						
		英文講読Ⅰ	1		15					15				柴山 森二郎	
		英文講読Ⅱ		1	15							15		杉田 雅子	
		中国語		1	15	15									
		コリア語		1	15	15									
	社会と生活	家族学		1	15	15									
		情報処理		1	15	15									
		法学（日本国憲法含む）		2	15		15								
		環境学		2	15		15								
		ジェンダー論		2	15		15								
		地域社会学		2	15		15								
		ボランティア活動論		1	15	15									
		経済学		2	15		15								
		健康スポーツ理論		2	15		15								
		健康スポーツ実技		1	15	15									
	基礎教育	大学の学び入門	1		15	15									
		教養ゼミナール	1		15	15									
		生物学基礎	1		15	15									
		数学基礎	1		7.5	7.5									
		化学基礎	1		7.5	7.5									
	英語基礎	1		7.5	7.5										
	計（卒業要件）					23									
	専門基礎科目群	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	2		30	30								
			解剖学Ⅱ	1		7.5		7.5							
解剖学実習			1		22.5			15	7.5						
生理学Ⅰ			1		15	15									
生理学Ⅱ			1		15		15								
生理学実習			1		22.5			22.5							
生化学			1		15		15								
健康と医療と社会			医学概論	2		15	15								
		チーム医療論	1		15			15							
		病理学	1		15		15								
		薬理学	1		15			15							
		公衆衛生学	1		7.5		7.5								
		臨床医学特殊講義		1	15				15						
		内科学		1	15				15						
		老年医学		1	7.5				7.5						
		遺伝と病気	2		15		15								
		免疫学	1		15		15								
		カウンセリング		1	15			15							
		リハビリテーション概論		1	15		15								
		臨床心理学		1	15		15								
		安全管理		1	15							15		根生 とき子	
		生体計測工学		1	15					15				目黒 力	
国際医療協力論			1	15	15										
医療統計学		1	15			15									
社会福祉・地域サービス論		1	15				15								
計（卒業要件）					22										

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		単位認定者	
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目群	臨床検査学 病態解	臨床検査解析学 (Reversed CPC) I	1		15					15				藤田清貴	
		臨床検査解析学 (Reversed CPC) II	1		15					15				藤田清貴	
		電気泳動分析病態解析学		2	15					15				藤田清貴	
		検査異常値と発生機序	2		15					15				藤田清貴	
	生体機能検査学	生体機能検査学	2		30				15	15					
		生体機能検査学実習	2		45						45				古田島伸雄
		画像解析検査学	2		15						15				古田島伸雄
		画像解析検査学実習	2		45						45				古田島伸雄
		医用電子工学	1		15					15					
		医用電子工学実習	1		22.5					22.5					
	検査総合管理学	臨床検査学総論	2		30				15	15					
		臨床検査学総論実習	2		45					45					
		関係法規	1		15						15				高橋克典
		精度管理学		1	15					15					
		医療システムとマネジメント		1	15						15				古田島伸雄
		情報科学概論	2		15						15				古田島伸雄
		臨床検査学総合演習 I	3		22.5						22.5				藤田清貴
		臨床検査学総合演習 II	4		60								60		藤田清貴
	病因・生体防御検査学	免疫検査学	2		30				15	15					
		免疫検査技術学実習	2		45						45				藤田清貴
		分離分析技術学特論		2	15						15				石垣宏尚
		輸血検査学	1		15						15				白土佳子
		微生物検査学	2		30				15	15					
		微生物検査学実習	2		45						45				吉住あゆみ
		ウイルス検査学		1	15						15				木村博一
	生物化学分析検査学	機器分析化学	2		15			15							
		臨床化学検査学	2		30				15	15					
		臨床化学検査学実習	2		45						45				亀子光明
		健康食品学		2	15						15				亀子光明
		食品衛生学		2	15						15				亀子光明
		遺伝子検査学	2		15						15				長田誠
		遺伝子検査学実習	2		45						45				長田誠
		遺伝子工学		1	15						15				長田誠
		RI 検査学	1		15						15				木村博一
	RI 検査学実習	1		22.5						22.5				高橋克典	
	形態・病態検査学	血液検査学	2		30				15	15					
		血液検査学実習	2		45						45				小河原はつ江
		病理細胞検査学	2		30				15	15					
		病理細胞検査学実習	2		45						45				岡山香里
		医動物学	2		15			15							
医動物学実習		1		22.5					22.5						
生殖医療技術学			1	15					15						
臨地実習	臨地実習	7		8W								8W		小河原はつ江	
	卒業研究	8		120								60	60	藤田清貴	
計 (卒業要件)					82										
卒業要件 (最低) 単位数					127										

必修科目75単位+選択科目から7単位以上

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く)

検査技術学科 教育活動の記録 (1 学年)

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)					その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)				
										作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	教科書	プリント				パワーポイント			
人・社会及び自然の理解	心身の発達	心理学	1	後期	選択	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習			教科書	プリント	パワーポイント			できた	
		教育学				黒羽正見															
		教育心理学	1	後期	選択	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習			教科書	プリント	パワーポイント			できた	
		健康スポーツ理論	1	前期	選択	衣川隆	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)					プリント					できた	
		健康スポーツ実技	1	後期	選択	衣川隆	シラバスに沿って実施した		実技・実習						参考書					できた	
	思想及び表現	生命倫理				吉田幸恵															
		哲学				金澤秀嗣															
		現代文学				尾形大															
		人間と宗教				竹村一男															
		芸術				東晴美															
		法学(日本国憲法含む)				水林翔															
		社会学				坂本祐子															
		生活文化と医療				鈴木英恵															
		経済学				飯島正義															
		地域ボランティア活動論				竹澤泰子															
	社会のしくみ及び自然のしくみ	環境学				西園大実															
		生物学A				左藤久美子															
		生物学B				左藤久美子															
		数学A	1	前期	選択	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義						プリント					できた	
		数学B	1	後期	選択	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義						プリント					できた	
化学A					日置英彰																
化学B					日置英彰																
物理学A		1	前期	必修	佐藤求	シラバスに沿って実施した		講義							プリント			プリントの出来は教科書レベル	できた		
物理学B		1	後期	必修	佐藤求	履修者0のため開講せず															
自然の原理及び環境		英語リーディング				山本三徳															
	医療英語会話				Renee Sawasaki																
	医療英語リーディング				山本三徳																
	英語会話				Joseph Boland																
	聴アがミッリーディングライティング				杉田雅子																
	中国語				深町悦子																
	コリア語				青木順																
	ドイツ語				高裕輔																
	ポルトガル語				鳥越慎太郎																
	情報	情報処理				西谷泉															
情報リテラシー					西谷泉																
囲碁で学ぶ情報戦略		1	後期	選択	土屋仁	履修者0のため開講せず															
大学の学び入門		1	前期	必修	杉田雅子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)				プリント	パワーポイント				できた		
共通基盤科目	大学の学び-専門への誘い-	1	前期	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		作業課題(グループ)	討論	講義				プリント	パワーポイント				できた		
	多職種理解と連携				藤田清貴																

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 修	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法						使 用 し た 教 材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか				
						選択	備考(自由記入欄)	選択 (講義、作業課題 (個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)						その他(自由記入欄)	選択 (教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)				その他(自由記入欄)	選択	備考 (自由記入欄)		
								講義							教科書	参考書	プリント	パワーポイント				VTR	
人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	1	前期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	パワーポイント					できた			
	解剖学Ⅱ	1	後期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	パワーポイント					できた			
	解剖学実習				浅見知市郎																		
	生理学Ⅰ	1	前期	必修	洞 口 貴 弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用					教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた			
	生理学Ⅱ	1	後期	必修	洞 口 貴 弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用					教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた			
	生理学実習				洞 口 貴 弘																		
生化学	1	後期	必修	亀 子 光 明	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	プリント	パワーポイント					できた			
専門基礎科目群	健康と医療と社会	医学概論	1	前期	必修	長 田 誠	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	プリント	パワーポイント					できた		
		病理学	1	後期	必修	岡 山 香 里	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた		
		薬理学				栗 田 昌 裕																	
		公衆衛生学				石 館 敬 三																	
		臨床医学特殊講義				正 田 純 史																	
		内科学				門 傳 剛																	
		老年医学				尾 林 徹																	
		遺伝と病気	1	後期	必修	長 田 誠	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	プリント	パワーポイント				できた		
		感染と免疫	1	後期	必修	藤 田 清 貴	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた	
		カウンセリング				森 慶 輔																	
		リハビリテーション概論				松 澤 正																	
		臨床心理学				森 慶 輔																	
		生体計測工学				目 黒 力																	
		国際医療協力論				辻 村 弘 美																	
医療統計学				木 村 朗																			
社会福祉・地域サービス論				一場美根子																			
専門科目群	臨床病態解析検査学	臨床検査解析学 (Reversed CPC) Ⅰ			藤 田 清 貴																		
		臨床検査解析学 (Reversed CPC) Ⅱ			藤 田 清 貴																		
		電気泳動分析病態解析学			藤 田 清 貴																		
		ビットフォール解析学			藤 田 清 貴																		
	生体機能検査学	生理機能検査学			古 田 島 伸 雄																		
		生理機能検査学実習			古 田 島 伸 雄																		
		画像解析検査学			古 田 島 伸 雄																		
		画像解析検査学実習			古 田 島 伸 雄																		
		医用電子工学			木 村 博 一																		
	医用電子工学実習			木 村 博 一																			
	検査総合管理学	臨床検査学総論			高 橋 克 典																		
		臨床検査学総論実習			高 橋 克 典																		
		関係法規			高 橋 克 典																		
		医療システムとマネジメント			古 田 島 伸 雄																		
情報科学概論				古 田 島 伸 雄																			
医療安全管理学演習			白 土 佳 子																				

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く) □ 専任教員 ■ 2017年度開講せず

区分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 択	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法					使 用 し た 教 材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか				
						選 択	備考(自由記入欄)	選 択	(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	そ 他 (自由記入欄)	選 択	(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	そ 他 (自由記入欄)	選 択	備 考 (自由記入欄)						
専門科目群	検査総合 管理学				藤田清貴																
					藤田清貴																
	病因・生体防御検査学	免疫検査学				藤田清貴															
		免疫検査技術学実習				藤田清貴															
		分離分析技術学特論				石垣宏尚															
		輸血検査学				白土佳子															
		微生物検査学				白土佳子															
		微生物検査学実習				吉住あゆみ															
		ウイルス検査学				木村博一															
	生物化学分析検査学	機器分析化学	1	後期	必修	石垣宏尚	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習				教科書	プリント	パワーポイント				できた	
		臨床化学検査学				亀子光明															
		臨床化学検査学実習				亀子光明															
		健康食品学				亀子光明															
		食品衛生学				亀子光明															
		遺伝子検査学				長田 誠															
		遺伝子検査学実習				長田 誠															
		遺伝子工学				長田 誠															
	RI検査学				木村博一																
	形態・病態検査学	血液検査学				小河原はつ江															
		血液検査学実習				小河原はつ江															
		病理細胞検査学				阿山香里															
		病理細胞検査学実習				阿山香里															
	臨床実習	臨床実習				小河原はつ江															
卒業研究					藤田清貴																

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

検査技術学科 教育活動の記録 (2 学年)

区分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法				使 用 し た 教 材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択	講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用	その他(自由記入欄)	選択	教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)			
教養科目群	心理学																	
	生命倫理と心理																	
	生命倫理																	
	教育学																	
	教育情報論																	
	教育心理学																	
	言語と文化	英語 I																
		英語 II																
		英語表現																
		ステップアップ英語 I				柴山森二郎												
		ステップアップ英語 II				柴山森二郎												
		英文講読 I				柴山森二郎												
		英文講読 II				杉田雅子												
	中国語																	
	コリア語																	
	社会と生活	家族学																
		情報処理																
		法学(日本国憲法含む)																
		環境学																
		ジェンダー論																
		地域社会学																
		ボランティア活動論																
		経済学																
	基礎教育	健康スポーツ理論																
		健康スポーツ実技																
大学の学び入門																		
教養ゼミナール																		
生物学基礎																		
専門基礎科目群	数学基礎																	
	化学基礎																	
	英語基礎																	
	解剖学 I																	
	解剖学 II																	
	解剖学実習	2	通年	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習			教科書	パワーポイント				できた	
	生理学 I																	
	生理学 II																	
	生理学実習	2	前期	必修	洞 口 貴 弘	シラバスに沿って実施した		実技・実習	講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)		プリント	教科書	参考書	パワーポイント		できた
	生化学																	
健康と医療と社会	医学概論																	
	チーム医療論	2	前期	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義	討論			プリント	パワーポイント				できた	
	病理学																	

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか					
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)			その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)			その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)						
専門基礎科目群	健康と医療と社会	薬理学	2	前期	必修	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義							プリント					できた		
		公衆衛生学																					
		臨床医学特殊講義					正田純史																
		内科学					門傳剛																
		老年医学	2	後期	選択	尾林徹	シラバスに沿って実施した		講義							パワーポイント						できた	
		遺伝と病気																					
	臨床病態解析検査学	免疫学																					
		カウンセリング					森慶輔																
		リハビリテーション概論																					
		臨床心理学																					
		生体計測工学					目黒力																
		国際医療協力論																					
専門科目群	臨床病態解析検査学	医療統計学	2	前期	選択	木村 朗	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	実技・実習	メディアの利用			パワーポイント				インターネット 自作動画コンテ ンツ	できた			
		社会福祉・地域サービス論																					
		臨床検査学 (Reversed CPC) I					藤田清貴																
		臨床検査学 (Reversed CPC) II					藤田清貴																
	生体機能検査学	電気泳動分析病態解析学					藤田清貴																
		検査異常値と発生機序					藤田清貴																
		生体機能検査学	2	通年	必修	古田島伸雄	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	プリント	パワーポイント				できた	概ね	
		生体機能検査学実習					古田島伸雄																
		画像解析検査学					古田島伸雄																
		画像解析検査学実習					古田島伸雄																
		医用電子工学	2	後期	必修	木村博一	シラバスに沿って実施した		講義													できた	
		医用電子工学実習	2	後期	必修	木村博一	シラバスに沿って実施した		実技・実習														できた
検査総合管理学	臨床検査学総論	2	後期	必修	高橋克典	シラバスに沿って実施した		講義						教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた		
	臨床検査学総論実習	2	後期	必修	高橋克典	シラバスに沿って実施した		実技・実習						教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた		
	関係法規					高橋克典																	
	精度管理学	2	後期	選択	亀子光明	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習					教科書	プリント	パワーポイント					できた		
	医療システムとマネジメント					古田島伸雄																	
	情報科学概論					古田島伸雄																	
	医療安全管理学演習	2	前期	必修	白土佳子	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習					教科書	プリント	パワーポイント					できた		
	臨床検査学総合演習 I					藤田清貴																	
病因・生体 防御検査学	臨床検査学総合演習 II					藤田清貴																	
	免疫検査学	2	通年	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義	討論					教科書	プリント	パワーポイント	参考書				できた		
	免疫検査技術学実習					藤田清貴																	
分離分析技術学特論					石垣宏尚																		

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか							
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)				その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)									
専門科目群	病因・生体防御検査学	輸血検査学				白土佳子																			
		微生物検査学	2	通年	必修	白土佳子	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	参考書	パワーポイント	プリント					できた			
		微生物検査学実習				吉住あゆみ																			
		ウイルス検査学				木村博一																			
	生物化学分析検査学	機器分析化学																							
		臨床化学検査学	2	通年	必修	亀子光明	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	プリント	パワーポイント							できた		
		臨床化学検査学実習				亀子光明																			
		健康食品学				亀子光明																			
		食品衛生学				亀子光明																			
		遺伝子検査学				長田 誠																			
		遺伝子検査学実習				長田 誠																			
	RI検査学				長田 誠																				
	形態・病理検査学	血液検査学	2	通年	必修	小河原はつ江	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	パワーポイント	プリント							できた		
		血液検査学実習				小河原はつ江																			
		病理細胞検査学	2	通年	必修	岡山香里	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	参考書	プリント	パワーポイント						できた		
		病理細胞検査学実習				岡山香里																			
		医動物学																							
		医動物学実習				吉住あゆみ																			
臨地実習	生殖医療技術学	2	後期	選択	荒木康久	シラバスに沿って実施した	適当	講義	討論			講義、討論	教科書								自分の教科書中心	できた	できた		
	臨地実習				小河原はつ江																				
	卒業研究				藤田清貞																				

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

検査技術学科 教育活動の記録 (3・4学年)

区分	授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法			使用した教材			成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)			
教養科目群	心理学															
	生命倫理															
	教育学															
	教育情報論															
	教育心理学															
	英語 I															
	英語 II															
	英語表現															
	ステップアップ英語 I															
	ステップアップ英語 II															
	英文講読 I				柴山 森二郎											
	英文講読 II	4	後期	選択	杉田 雅子	シラバスに沿って実施した	講義				教科書	プリント				できた
	中国語															
	コリア語															
	家族学															
	情報処理															
	法学(日本国憲法含む)															
	環境学															
	ジェンダー論															
	地域社会学															
ボランティア活動論																
経済学																
健康スポーツ理論																
健康スポーツ実技																
基礎教育	大学の学び入門															
教養ゼミナール																
生物学基礎																
数学基礎																
化学基礎																
英語基礎																
専門基礎科目群	解剖学 I															
	解剖学 II															
	解剖学実習															
	生理学 I															
	生理学 II															
	生理学実習															
	生化学															
	医学概論															
	チーム医療論															
	病理学															
薬理学																

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法				使用した教材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)						
専門基礎科目群	健康と医療と社会																		
	公衆衛生学																		
	臨床医学特殊講義																		
	内科学																		
	老年医学																		
	遺伝と病気																		
	免疫学																		
	カウンセリング																		
	リハビリテーション概論																		
	臨床心理学																		
安全管理					根生とき子														
生体計測工学	3	後期	選択	目黒カ	シラバスに沿って実施した	履修者0	講義	作業課題(個人)	メディアの利用			プリント	参考書	パワーポイント			できた	選択者なし	
国際医療協力論																			
医療統計学																			
社会福祉・地域サービス論																			
専門科目群	臨床病態解析検査学																		
	臨床検査解析学 (Reversed CPC) I	3	前期	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論		教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
	臨床検査解析学 (Reversed CPC) II	3	後期	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論		教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
	電気泳動分析病態解析学	3	後期	選択	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	討論		教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
	検査異常値と発生機序	3	前期	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論		教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
	生理機能検査学																		
	生理機能検査学実習	3	前期	必修	古田島伸雄	シラバスに沿って実施した		実技・実習	作業課題(個人)	作業課題(グループ)			プリント					できた	
	画像解析検査学	3	前期	必修	古田島伸雄	シラバスに沿って実施した		講義				教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
	画像解析検査学実習	3	前期	必修	古田島伸雄	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論	実技・実習	メディアの利用		参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた
	医用電子工学																		
医用電子工学実習																			
臨床検査学総論																			
臨床検査学総論実習																			
検査総合管理理学																			
関係法規	3	前期	必修	高橋克典	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	プリント	パワーポイント			できた		
精度管理理学																			
医療システムとマネジメント	3	後期	選択	古田島伸雄	履修者0のため開講せず														
情報科学概論	3	後期	必修	古田島伸雄	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	プリント	パワーポイント			できた		
臨床検査学総合演習 I	3	後期	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
臨床検査学総合演習 II	4	後期	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	参考書	プリント	パワーポイント			できた	
病因・生体防御検査学																			
免疫検査学																			
免疫検査技術学実習	3	前期	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		実技・実習	討論				教科書	参考書	プリント				できた	
分離分析技術学特論	3	後期	選択	石垣宏尚	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習				教科書	プリント	パワーポイント				できた	
輸血検査学	3	後期	必修	白土佳子	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習				教科書	プリント	パワーポイント				できた	

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法						使 用 し た 教 材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択 (講義、作業課題 (個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択 (教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考 (自由記入欄)							
専門科目群	病原・生体検査学	微生物検査学																		
		微生物検査学実習				吉住あゆみ														
		ウイルス検査学	3	後期	選択	木村博一	シラバスに沿って実施した		講義											できた
	生物化学分析検査学	機器分析化学																		
		臨床化学検査学																		
		臨床化学検査学実習	3	後期	必修	亀子光明	シラバスに沿って実施した		実技・実習	講義			教科書	プリント						できた
		健康食品学	3	前期	選択	亀子光明	シラバスに沿って実施した		講義				教科書	プリント	パワーポイント					できた
		食品衛生学	3	前期	選択	亀子光明	シラバスに沿って実施した		講義				教科書	プリント	パワーポイント					できた
		遺伝子検査学	3	前期	必修	長田 誠	シラバスに沿って実施した		講義				教科書	プリント	パワーポイント					できた
		遺伝子検査学実習	3	後期	必修	長田 誠	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習			教科書	プリント	パワーポイント					できた
		遺伝子工学	3	前期	選択	長田 誠	シラバスに沿って実施した		講義				教科書	プリント	パワーポイント					できた
		RI 検査学	3	後期	必修	木村博一	シラバスに沿って実施した		講義				教科書	プリント	パワーポイント					できた
		RI 検査学実習	3	後期	必修	高橋克典	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習			教科書	プリント						
	形態・病態検査学	血液検査学																		
		血液検査学実習	3	前期	必修	小河原はつ江	シラバスに沿って実施した	試験等の都合により実習項目が前後することがあった。	実技・実習	作業課題(個人)			教科書	プリント	パワーポイント					できた
		病理細胞検査学																		
		病理細胞検査学実習	3	後期	必修	岡山香里	シラバスに沿って実施した		実技・実習				教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた
		医動物学																		
	医動物学実習																			
生殖医療技術学																				
臨地実習	臨地実習	4	前期	必修	小河原はつ江	シラバスに沿って実施した		実技・実習				プリント						実習要項および実習ノートを活用	できた	
	卒業研究	4	通年	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		実技・実習	討論			プリント	参考書						できた	

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

放射線学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者			
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
教養科目群	人との社会及び自然の理解	心身の発達	心理学	2	講義	15	必修11単位+選択12単位以上		15							榎本光邦		
			教育学		2	講義		15	15								高野利雄	
			教育心理学		2	講義		15		15							原芳典	
			健康スポーツ理論		1	講義		15	15								衣川隆	
			健康スポーツ実技		1	実技		15		15							衣川隆	
		思想及び表現	生命倫理	2	講義	15		必修2単位以上			15							吉田幸恵
			哲学		2	講義			15	15								金澤秀嗣
			現代文学		2	講義			15	15								尾形大
			人間と宗教		2	講義			15		15							竹村一男
			芸術		2	講義			15		15							東晴美
	人間と生活及び社会のしくみ	法学（日本国憲法含む）	2	講義	15	選択3単位以上			15								西川久貴	
		社会学		2	講義			15		15							坂本祐子	
		生活文化と医療		2	講義			15	15								鈴木英恵	
		経済学		2	講義			15		15							飯島正義	
		地域ボランティア活動論		1	講義			7.5			7.5							竹澤泰子
	自然の原理及び環境	環境学		2	講義	15		選択4単位以上	15								西蘭大実	
		生物学A		1	講義	7.5			7.5								佐藤久美子	
		生物学B		1	講義	7.5				7.5							佐藤久美子	
		数学A		1	講義	7.5			7.5								佐藤求	
		数学B		1	講義	7.5				7.5							佐藤求	
		化学A		1	講義	7.5			7.5								日置英彰	
		化学B		1	講義	7.5				7.5							日置英彰	
		物理学A		1	講義	7.5			7.5								佐藤求	
		物理学B		1	講義	7.5				7.5							佐藤求	
		情報と言語の理解	英語	英語リーディング	1	講義			15	必修3単位以上	15							
	医療英語会話				1	講義		15			15						David Andrews	
	医療英語リーディング				1	講義		15				15					杉田雅子	
	英語会話				1	講義		15				15					Joseph Boland	
	英語アカデミックリーディング・ライティング				1	講義		15					15				山本三穂	
	初修外国語		中国語		1	講義		15	選択1単位以上	15								深町悦子
			コリア語		1	講義		15		15								青木順
			ドイツ語		1	講義		15		15								高裕輔
	情報		情報処理	1	演習	15		必修1単位以上	15									星野修平
情報リテラシー				1	講義	15			15							星野修平		
共通基盤	大学の学びの基盤	大学の学び入門	1	講義	15	必修3単位	15								杉田雅子			
		大学の学び—専門への誘い—	1	講義	15			15							土屋仁			
		多職種理解と連携	1	講義	15				15						土屋仁			
計（卒業要件）						23												
専門基礎科目群	基礎医学系	解剖学Ⅰ	1	講義	15	必修9単位	必修29単位+選択4単位以上	15								浅見知市郎		
		解剖学Ⅱ	1	講義	15				15								浅見知市郎	
		生理学Ⅰ	1	講義	15			15									洞口貴弘	
		生理学Ⅱ	1	講義	15				15								洞口貴弘	
		病理学	1	講義	15			15									尾林徹	
		薬理学	1	講義	15				15								栗田昌裕	
		生化学	1	講義	15			15									高橋克典	
	公衆衛生学	2	講義	15		15									石館敬三			
	臨床医学系	内科学		1	講義	15		必修3単位以上		15							門傳剛	
		看護技術論	1	演習	15					15							上星浩子	
臨床心理学			1	講義	15				15						榎本光邦			
		画像診断学Ⅰ	2	講義	15				15					山名大吾				
		画像診断学Ⅱ	2	講義	15					15				山名大吾				

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

区 分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		単位認定者		
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
																前期	後期
専門基礎科目群	医療理工学系	医療基礎生物学		1	講義	7.5	選択1単位以上	7.5							柏 倉 健 一		
		医療基礎数学		1	講義	7.5		7.5							瀬 山 士 郎		
		医療基礎化学		1	講義	7.5		7.5							酒 井 健 一		
		医療基礎物理学	1		講義	7.5		7.5							下瀬川 正 幸		
		医療電気・電子工学Ⅰ	2		講義	15	必修4単位以上	15							坂 本 重 己		
		医療電気・電子工学Ⅱ		2	講義	15			15							坂 本 重 己	
		医療電気・電子工学演習		1	演習	15				15						坂 本 重 己	
		医療電気・電子工学実験	1		実験	15					15					坂 本 重 己	
	医療統計学	1		演習	15					15						木 村 朗	
	放射線医療学概論	2		講義	15	必修14単位以上		15								倉 石 政 彦	
	放射線救急医学		1	講義	15						15						小 池 正 行
	放射線文献講読Ⅰ		1	演習	15							15					酒 井 健 一
	放射線文献講読Ⅱ		1	演習	15							15				酒 井 健 一	
	放射線物理学Ⅰ	2		講義	15					15						(H30着任予定者)	
	放射線物理学Ⅱ	2		講義	15						15					(H30着任予定者)	
	放射線物理学演習		1	演習	15							15				(H30着任予定者)	
	放射化学	2		講義	15					15						酒 井 健 一	
	放射化学演習		1	演習	15						15					酒 井 健 一	
	放射線生物学	2		講義	15								15			倉 石 政 彦	
	放射線生物学演習		1	演習	15						15					倉 石 政 彦	
放射線計測学Ⅰ	2		講義	15							15				菅 和 雄		
放射線計測学Ⅱ	1		講義	15								15			菅 和 雄		
放射線計測学演習		1	演習	15									15		菅 和 雄		
放射線計測学実験	1		実験	15									15	菅 和 雄			
計 (卒業要件)						33											
専門科目群	診療放射線学	診療放射線学概論	2		講義	15	必修7単位	15							土 屋 仁		
		診療画像検査学概論	2		講義	15			15						土 屋 仁		
		診療放射線学実習直前演習	1		演習	15						15				小 川 清	
		診療放射線学総合臨床実習	2		実習	2W							2W			小 川 清	
	診療画像解析学	診療画像解析学Ⅰ	2		講義	15	必修25単位以上		15						土 屋 仁		
		診療画像解析学Ⅱ	2		講義	15				15						加 藤 英 樹	
		診療画像解析学Ⅲ	2		講義	15					15					菅 和 雄	
		診療画像解析学演習		1	演習	15						15				加 藤 英 樹	
		診療画像解析学実習Ⅰ	1		実習	22.5						22.5				土 屋 仁	
		診療画像解析学実習Ⅱ	1		実習	22.5						22.5				加 藤 英 樹	
		診療画像解析学実習Ⅲ	1		実習	22.5							22.5			菅 和 雄	
		診療画像解析学特論	2		講義	15							15			菅 和 雄	
		医療放射線機器学Ⅰ	2		講義	15				15						加 藤 英 樹	
		医療放射線機器学Ⅱ	2		講義	15					15					小 池 正 行	
		医療放射線機器学Ⅲ	2		講義	15						15				菅 和 雄	
		診療画像解剖学Ⅰ	2		講義	15				15						加 藤 英 樹	
	診療画像解剖学Ⅱ	2		講義	15				15					加 藤 英 樹			
	診療画像解析学臨床実習Ⅰ	2		実習	2W							2W		小 川 清			
	診療画像解析学臨床実習Ⅱ	2		実習	2W							2W		小 川 清			
	核医学検査技術学	核医学検査技術学Ⅰ	2		講義	15	必修9単位以上			15					渡 邊 浩		
核医学検査技術学Ⅱ		2		講義	15					15					渡 邊 浩		
核医学機器工学		2		講義	15						15				渡 邊 浩		
核医学検査技術学演習			1	演習	15							15			渡 邊 浩		
核医学検査技術学実習		1		実習	22.5							22.5			渡 邊 浩		
核医学検査技術学臨床実習		2		実習	2W								2W		渡 邊 浩		
放射線治療学	放射線治療技術学Ⅰ	2		講義	15	必修11単位以上			15					倉 石 政 彦			
	放射線治療技術学Ⅱ	2		講義	15					15					倉 石 政 彦		
	放射線治療機器工学	2		講義	15						15				倉 石 政 彦		
	放射線腫瘍学	2		講義	15							15			黒 崎 弘 正		

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く)

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者		
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目群	放射線治療学	放射線治療技術学演習		1	演習	15	必修11単位以上					15			倉石政彦		
		放射線治療技術学実習	1		実習	22.5							22.5			倉石政彦	
		放射線治療技術学臨床実習	2		実習	2W								2W		倉石政彦	
	医療画像情報学	医療画像情報学Ⅰ	2		講義	15		必修6単位以上			15						星野修平
		医療画像情報学Ⅱ	2		講義	15					15						星野修平
		放射線情報システム学	2		講義	15							15				星野修平
		医療画像情報学演習		1	演習	15								15			星野修平
	放射線安全管理学	放射線安全管理学	2		講義	15		必修6単位					15				坂本重己
		診療放射線技師の義務と役割	1		講義	15					15						小川清
		放射線関係法規	1		講義	15					15						小川清
		医療安全管理学	2		講義	30							30				土屋仁
	総合領域	放射線科学特別講義		1	講義	15	必修8単位以上							15		土屋仁	
		診療放射線学総合演習	2		演習	30							15	15		土屋仁	
		診療放射線技術と研究	1		講義	7.5						7.5				土屋仁	
		診療放射線学研究Ⅰ	1		演習	15						15				土屋仁	
		診療放射線学研究Ⅱ	4		演習	60								30	30	土屋仁	
	計（卒業要件）						72										
	卒業要件（最低）単位数						128										

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

放射線学科 教育活動の記録

区分	授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法					使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)				その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)				
放射線学科	心身の発達	心理学	1	後期	必修	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習		教科書	プリント	パワーポイント			できた	
		教育学				高野利雄														
		教育心理学				原 芳典														
		健康スポーツ理論	1	前期	選択	衣川 隆	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)				プリント					できた	
		健康スポーツ実技	1	後期	選択	衣川 隆	シラバスに沿って実施した		実技・実習					参考書					できた	
	思想及び表現	生命倫理				吉田幸恵														
		哲学				金澤秀嗣														
		現代文学				尾形 大														
		人間と宗教				竹村一男														
		芸術				東 晴美														
	人と社会及び自然の理解	法学(日本国憲法含む)				西川久貴														
		社会学				坂本祐子														
		生活文化と医療				鈴木英恵														
		経済学				飯島正義														
		地域ボランティア活動論				竹澤泰子														
	自然の原理及び環境	環境学				西園大実														
		生物学A				佐藤久美子														
		生物学B				佐藤久美子														
		数学A	1	前期	選択	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義						プリント			プリントの出来は教科書レベル	できた	
		数学B	1	後期	選択	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義						プリント			プリントの出来は教科書レベル	できた	
化学A					日置英彰															
化学B					日置英彰															
物理学A		1	前期	選択	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義						プリント			プリントの出来は教科書レベル	できた		
物理学B	1	後期	選択	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義						プリント			プリントの出来は教科書レベル	できた			
情報と言語の理解	英語	英語リーディング	1	前期	必修	杉田雅子	シラバスに沿って実施できなかった。学生の習熟度に合わせて進めたため、若干遅れた。	講義	作業課題(グループ)				教科書	VTR	プリント			できた		
		医療英語会話				David Andrews														
		医療英語リーディング				杉田雅子														
		英語会話				Joseph Boland														
		聴き取りリーディングライティング				山本三徳														
	初修外国語	中国語				深町悦子														
		コリア語				青木 順														
		ドイツ語				高 裕輔														
		ポルトガル語				鳥越慎太郎														
		情報	情報処理	1	前期	必修	星野修平	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	メディアの利用		教科書	パワーポイント				オンライン電子教科書	できた
情報リテラシー	1		後期	選択	星野修平	履修者0のため開講せず	(CEと合同で実施)	講義	実技・実習	メディアの利用		教科書	パワーポイント				オンライン電子教科書	できなかった		
囲碁で学ぶ情報戦略	1		後期	選択	土屋 仁	シラバスに沿って実施した		実技・実習	作業課題(個人)	作業課題(グループ)		プリント	パワーポイント	参考書				できた		

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 択	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法						使 用 し た 教 材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選 択	備考(自由記入欄)	講 義	作 業 課 題 (個 人)	作 業 課 題 (グ ル ー プ)	討 論	実 技 ・ 実 習 ・ メ デ ィ ア の 利 用	そ の 他 (自 由 記 入 欄)	選 択 (教 科 書 、 参 考 書 、 プ リ ン ト 、 パ ワ ー ポ イ ン ト 、 V T R)			そ の 他 (自 由 記 入 欄)	選 択	備 考 (自 由 記 入 欄)			
														選 択	選 択	選 択				選 択	選 択	
共通基盤科目群	大学の学び入門	1	前期	必修	杉田雅子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)					プリント	パワーポイント					できた	
	大学の学び—専門への誘い—	1	後期	必修	土屋 仁	シラバスに沿って実施できなかった	一部、変更が生じた	講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論				教科書	パワーポイント					できた	
	多職種理解と連携				土屋 仁																	
基礎医学系	解剖学Ⅰ	1	前期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義							教科書	パワーポイント					できた	
	解剖学Ⅱ	1	後期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義							教科書	パワーポイント					できた	
	生理学Ⅰ	1	前期	必修	洞口貴弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用						教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた	
	生理学Ⅱ	1	後期	必修	洞口貴弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用						教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた	
	病理学	1	前期	必修	尾林 徹	シラバスに沿って実施した		講義							パワーポイント						できた	
	薬理学				栗田昌裕																	
	生化学	1	前期	必修	高橋克典	シラバスに沿って実施した		講義							教科書	プリント	パワーポイント				できた	
	公衆衛生学				石館 敬三																	
臨床医学系	内科学				門 傳 剛																	
	看護技術論				上 星 浩 子																	
	臨床心理学				榎 本 光 邦																	
	画像診断学Ⅰ				山 名 大 吾																	
医療理工学系	医療基礎生物学				柏 倉 健 一																	
	医療基礎数学				瀬 山 土 郎																	
	医療基礎化学	1	前期	選択	酒 井 健 一	シラバスに沿って実施した		講義							教科書	パワーポイント				授業に使用したPP資料を公開した。	できた	
	医療基礎物理学				下 瀬 川 正 幸																	
	医療電気・電子工学Ⅰ	1	前期	必修	坂 本 重 己	シラバスに沿って実施した		講義							教科書		プリント				できた	
	医療電気・電子工学Ⅱ	2	後期	選択	坂 本 重 己	シラバスに沿って実施した		講義							教科書		プリント				できた	
	医療電気・電子工学演習				坂 本 重 己																	
	医療電気・電子工学実験				坂 本 重 己																	
放射線科学系	医療統計学				木 村 朗																	
	放射線医学概論	1	前期	必修	倉 石 政 彦	シラバスに沿って実施した		講義	討論						教科書	プリント					できた	
	放射線救急医学				小 池 正 行																	
	放射線文献講読Ⅰ				酒 井 健 一																	
	放射線文献講読Ⅱ				酒 井 健 一																	
	放射線物理学Ⅰ				(田原重己子宛前)																	
	放射線物理学Ⅱ				(田原重己子宛前)																	
	放射線物理学演習				(田原重己子宛前)																	
	放射化学				酒 井 健 一																	
	放射化学演習				酒 井 健 一																	
	放射線生物学	1	後期	必修	倉 石 政 彦	シラバスに沿って実施した		講義	討論						教科書						できた	
放射線生物学演習				倉 石 政 彦																		

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 択	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法				使 用 し た 教 材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)		その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)		その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)				
専門基礎科目群	放射線計測学Ⅰ				菅 和雄														
	放射線計測学Ⅱ				菅 和雄														
	放射線計測学演習				菅 和雄														
	放射線計測学実験				菅 和雄														
専門科目群	診療放射線学	診療放射線学概論	1	前期	必修	土屋 仁	シラバスに沿って実施した	講義					パワーポイント	教科書	プリント			できた	
		診療画像検査学概論	1	後期	必修	土屋 仁	シラバスに沿って実施した	講義					教科書	パワーポイント	プリント			できた	
		診療放射線学実習直前演習				小川 清													
		診療放射線学総合臨床実習				小川 清													
	診療画像解析学	診療画像解析学Ⅰ	1	後期	必修	土屋 仁	シラバスに沿って実施した	講義	メディアの利用					教科書	参考書	パワーポイント	プリント		できた
		診療画像解析学Ⅱ				加藤 英樹													
		診療画像解析学Ⅲ				菅 和雄													
		診療画像解析学演習				加藤 英樹													
		診療画像解析学実習Ⅰ				土屋 仁													
		診療画像解析学実習Ⅱ				加藤 英樹													
		診療画像解析学実習Ⅲ				菅 和雄													
		診療画像解析学特論				菅 和雄													
		医療放射線機器学Ⅰ	1	後期	必修	加藤 英樹	シラバスに沿って実施した	講義	作業課題(個人)					教科書	パワーポイント				できた
		医療放射線機器学Ⅱ				小池 正行													
		医療放射線機器学Ⅲ				菅 和雄													
核医学検査技術学	診療画像解剖学Ⅰ	1	後期	必修	加藤 英樹	シラバスに沿って実施した	講義	作業課題(個人)					教科書	パワーポイント		プリント		できた	
	診療画像解剖学Ⅱ				加藤 英樹														
	診療画像解析学臨床実習Ⅰ				小川 清														
	診療画像解析学臨床実習Ⅱ				小川 清														
	核医学検査技術学Ⅰ				渡邊 浩														
	核医学検査技術学Ⅱ				渡邊 浩														
	核医学機器工学				渡邊 浩														
	核医学検査技術学演習				渡邊 浩														
	核医学検査技術学実習				渡邊 浩														
	核医学検査技術学臨床実習				渡邊 浩														
放射線治療技術学	放射線治療技術学Ⅰ				倉石 政彦														
	放射線治療技術学Ⅱ				倉石 政彦														
	放射線治療機器工学				倉石 政彦														
	放射線腫瘍学				黒崎 弘正														
	放射線治療技術学演習				倉石 政彦														
	放射線治療技術学実習				倉石 政彦														
	放射線治療技術学臨床実習				倉石 政彦														
医療画像情報学	医療画像情報学Ⅰ				星野 修平														
	医療画像情報学Ⅱ				星野 修平														
	放射線情報システム学				星野 修平														
	医療画像情報学演習				星野 修平														

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 ／ 選 修	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法					使 用 し た 教 材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか	
						選 択	備 考 (自由記入欄)	選 択 (講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)			其 他 (自由記入欄)	選 択 (教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)		其 他 (自由記入欄)	選 択	備 考 (自由記入欄)		
専門科目群 放射線安全管理学 総合領域	放射線安全管理学				坂本 重己													
	診療放射線技師の義務と役割				小川 清													
	放射線関係法規				小川 清													
	医療安全管理学				土屋 仁													
	放射線科学特別講義				土屋 仁													
	診療放射線学総合演習				土屋 仁													
	診療放射線技術と研究				土屋 仁													
	診療放射線学研究Ⅰ				土屋 仁													
診療放射線学研究Ⅱ				土屋 仁														

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

臨床工学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1 学年		2 学年		3 学年		4 学年		単位認定者		
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
教養科目群	人和社会及び自然の理解	心身の発達	心理学	2		講義	15		15							榎本光邦	
			教育学		2		講義	15	15							高野利雄	
			教育心理学		2		講義	15		15						原芳典	
			健康スポーツ理論		1		講義	15	15							衣川隆	
			健康スポーツ実技		1		実技	15		15						衣川隆	
		思想及び表現	生命倫理	2			講義	15			15						吉田幸恵
			哲学		2		講義	15	15								金澤秀嗣
			現代文学		2		講義	15		15							尾形大
			人間と宗教		2		講義	15			15						竹村一男
			芸術		2		講義	15			15						東晴美
	人間と生活及び社会のしくみ	法学（日本国憲法含む）		2		講義	15	15								西川久貴	
		社会学		2		講義	15		15							坂本祐子	
		生活文化と医療		2		講義	15	15								鈴木英恵	
		経済学		2		講義	15			15						飯島正義	
		地域ボランティア活動論		1		講義	7.5				7.5					竹澤泰子	
	自然の原理及び環境	環境学		2		講義	15	15								西蘭大実	
		生物学A	1			講義	7.5	7.5								佐藤久美子	
		生物学B		1		講義	7.5		7.5							佐藤久美子	
		数学A	1			講義	7.5	7.5								佐藤求	
		数学B		1		講義	7.5		7.5							佐藤求	
		化学A	1			講義	7.5	7.5								日置英彰	
		化学B		1		講義	7.5		7.5							日置英彰	
		物理学A	1			講義	7.5	7.5								佐藤求	
		物理学B		1		講義	7.5		7.5							佐藤求	
	情報と言語の理解	英語	英語リーディング	1		講義	15		15								杉田雅子
			医療英語会話	1		講義	15		15								David Andrews
			医療英語リーディング	1		講義	15			15							杉田雅子
			英語会話		1		講義	15			15						Joseph Boland
			英語7カギミッドリーディング・ライティング	1		講義	15				15						山本三穂
		初修外国語	中国語		1		講義	15	15								深町悦子
			コリア語		1		講義	15	15								青木順
			ドイツ語		1		講義	15	15								高裕輔
			ポルトガル語		1		講義	15	15								鳥越慎太郎
情報		情報処理	1			演習	15		15							星野修平	
	情報リテラシー		1		講義	15			15						星野修平		
	囲碁で学ぶ情報戦略		1		講義	15			15						土屋仁		
共通基盤	大学の学びの基盤	大学の学び入門	1		講義	15		15								杉田雅子	
		大学の学び—専門への誘い—	1		講義	15			15							芝本隆	
		多職種理解と連携	1		講義	15				15						芝本隆	
計（卒業要件）						23											
専門基礎科目群	人体の構造及び機能	解剖学Ⅰ	1		講義	15		15								浅見知市郎	
		解剖学Ⅱ	1		講義	15		15								浅見知市郎	
		生理学Ⅰ	1		講義	15	15									洞口貴弘	
		生理学Ⅱ	1		講義	15		15								洞口貴弘	
		病理学	1		講義	15	15									尾林徹	
		薬理学	1		講義	15		15								栗田昌裕	
		生化学	1		講義	15	15									高橋克典	
		公衆衛生学	2		講義	15		15								石館敬三	

注）各学期の欄の数字は授業コマ数を表す（実習を除く）

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目群	臨床工学に必要な医学的基礎	医学概論	1		講義	15		15							尾林徹
		基礎医学実習	1		実習	22.5				22.5					尾林徹
		看護学概論	1		講義	15				15					上星浩子
		臨床生理学	1		講義	15				15					尾林徹
		臨床病理学	1		講義	15				15					尾林徹
		臨床薬理学	1		講義	15				15					尾林徹
		臨床生化学	1		講義	15				15					鶴田幸男
		臨床免疫学	1		講義	15				15					尾林徹
		臨床心理学		1	講義	15				15					榎本光邦
		臨床検査学総論		2	講義	15				15					吉住あゆみ
	臨床神経生理学		2	講義	15				15					森下義幸	
	臨床工学に必要な理工学的基礎	応用数学	2		講義	15		15							佐藤求
		応用数学演習	1		演習	15			15						佐藤求
		医用電気工学	2		講義	15		15							阿部薫
		医用電気工学実習	1		実習	15			15						阿部薫
		医用電子工学	2		講義	15				15					佐藤求
		医用電子工学実習	1		実習	15				15					佐藤求
		計測工学	2		講義	15			15						小野哲治
		医用材料工学	2		講義	15				15					阿部薫
	臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	医用機械工学	2		講義	15				15					小野哲治
		医用機械工学演習	1		演習	15				15					小野哲治
		医療情報処理工学	2		講義	15				15					佐藤求
		医療情報処理工学演習	1		演習	15				15					佐藤求
		システム工学	2		講義	15					15				小野哲治
		システム工学演習	1		演習	15					15				小野哲治
		医用情報通信工学	1		講義	15					15				小野哲治
		基礎工学実験	1		実験	22.5			22.5						
	計(卒業要件)						43								
	専門科目群	医用生体工学	医用工学概論	1		講義	15		15						
医用超音波工学			1		講義	15			15						阿部薫
放射線工学概論			1		講義	15				15					坂本重己
医用レーザー工学				2	講義	15					15				阿部薫
医用画像処理工学				2	講義	15					15				佐藤求
生体物性工学			2		講義	15					15				阿部薫
人間工学			2		講義	15					15				近土真由美
医用機器学		医用機器学概論	2		講義	15			15						芝本隆
		医用治療機器学	2		講義	15					15				草間良昌
		医用治療機器学実習	1		実習	15					15				草間良昌
		生体計測装置学	2		講義	15				15					阿部薫
		生体計測装置学実習	1		実習	15					15				阿部薫
生体機能代行技術学		生体機能代行装置学Ⅰ	2		講義	15					15				芝本隆
		生体機能代行装置学Ⅱ	2		講義	15					15				芝本隆
		生体機能代行装置学実習	1		実習	15					15				芝本隆
		呼吸療法装置学	2		講義	15					15				近土真由美
		呼吸療法装置学実習	1		実習	15					15				近土真由美
		体外循環装置学	2		講義	15					15				草間良昌
		体外循環装置学実習	1		実習	15					15				草間良昌
		血液浄化療法装置学	2		講義	15					15				近土真由美
血液浄化療法装置学実習	1		実習	15					15				近土真由美		

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く)

区分	授業科目	単位数		授業形態	年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		単位認定者	
		必修	選択				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目群	医用安全管理学	医用機器安全管理学Ⅰ	2		講義	15			15						近 土 真由美	
		医用機器安全管理学Ⅱ	2		講義	15			15						近 土 真由美	
		医用機器安全管理学実習	1		実習	22.5				22.5					近 土 真由美	
		医療安全工学		2	講義	15				15					小 野 哲 治	
		関係法規	1		講義	15					15				山 根 雅 樹	
	関連臨床医学	臨床医学総論Ⅰ	2		講義	15			15						尾 林 徹	
		臨床医学総論Ⅱ	2		講義	15				15					尾 林 徹	
		臨床医学総論Ⅲ	2		講義	15					15				尾 林 徹	
		救急救命医学		2	講義	15						15			草 間 良 昌	
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	4		実習	4W						4W			芝 本 隆	
		臨床実習Ⅱ	3		実習	3W						3W			芝 本 隆	
	統合臨床と工学探求の	臨床工学総合演習Ⅰ	2		演習	30					15	15			草 間 良 昌	
		臨床工学総合演習Ⅱ	2		演習	30							15	15	草 間 良 昌	
		臨床工学英文講読		2	講義	15						15			草 間 良 昌	
		臨床工学研究セミナー		2	講義	15							15		芝 本 隆	
		卒業研究	4		演習	60							30	30	芝 本 隆	
	計（卒業要件）						62									
	卒業要件（最低）単位数						128									

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く)

臨床工学科 教育活動の記録

区分	授業科目	学年	開講期	必修 選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法					使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選択	備考(自由記入欄)	講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)			その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)			
													選択	参考書	プリント						
人 と 社 会 及 び 自 然 の 理 解	心理学	1	後期	必修	榎本光邦	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	実技・実習			教科書	プリント	パワーポイント			できた		
	教育心理学				高野利雄																
	健康スポーツ理論	1	前期	選択	衣川 隆	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)					プリント					できた		
	健康スポーツ実技	1	後期	選択	衣川 隆	シラバスに沿って実施した		実技・実習						参考書					できた		
	生命倫理				吉田幸恵																
	哲学				金澤秀嗣																
	現代文学				尾形 大																
	人間と宗教				竹村一男																
	芸術				東 晴英																
	法学(日本国憲法含む)				西川久貴																
	社会学				坂本祐子																
	生活文化と医療				鈴木英恵																
	経済学				飯島正義																
	地域ボランティア活動論				竹澤 泰子																
	環境学				西 園 大 実																
	生物学A				佐藤久美子																
	生物学B				佐藤久美子																
	数学A	1	前期	必修	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義								プリント			プリントの出来は教科書レベル	できなかった	学習未達成者にも合格をつけざるを得なかった。
	数学B	1	前期	選択	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義								プリント			プリントの出来は教科書レベル	できた	
	化学A				日置 英彰																
化学B				日置 英彰																	
物理学A	1	前期	必修	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義								プリント			プリントの出来は教科書レベル	できなかった	学習未達成者にも合格をつけざるを得なかった。	
物理学B	1	後期	選択	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義								プリント			プリントの出来は教科書レベル	できた		
英	英語リーディング	1	前期	必修	杉田雅子	シラバスに沿って実施した	学生の習熟度に合わせて進めたので、若干遅れた。	講義	作業課題(グループ)					教科書	VTR	プリント			できた		
語	医療英語会話				David Andrews																
	医療英語リーディング				杉田雅子																
	英語会話				Joseph Boland																
	睡7カドミツカリリーディング・ライティング				山本 三 穂																
初修外国語	中国語				深町悦子																
	コリア語				青木 順																
	ドイツ語				高 裕 輔																
	ポルトガル語				鳥越慎太郎																
情報	情報処理	1	前期	必修	星野修平	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習	メディアの利用			教科書	パワーポイント				オンライン電子教科書	できた		
	情報リテラシー	1	後期	選択	星野修平	シラバスに沿って実施できなかった	(RSと合同で実施)	講義	実技・実習	メディアの利用			教科書	パワーポイント				オンライン電子教科書	できなかった		
	囲碁で学ぶ情報戦略	1	後期	選択	土屋 仁	履修者0のため開講せず															

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材					成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)			その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)			その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)				
共通基礎科目群	大学の学び入門	1	前期	必修	杉田雅子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)	討論	実技・実習		プリント	パワーポイント					できた	
	大学の学び—専門への誘い—	1	後期	必修	芝本隆	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	作業課題(グループ)			プレゼンテーション	プリント	パワーポイント					できた	
	多職種理解と連携				芝本隆																
人体の構造及び機能	解剖学Ⅰ	1	前期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	パワーポイント						できた	
	解剖学Ⅱ	1	後期	必修	浅見知市郎	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	パワーポイント						できた	
	生理学Ⅰ	1	前期	必修	洞口貴弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用				教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR			できた	
	生理学Ⅱ	1	後期	必修	洞口貴弘	シラバスに沿って実施した		講義	メディアの利用				教科書	参考書	プリント	パワーポイント	VTR			できた	
	病理学	1	前期	必修	尾林 徹	シラバスに沿って実施した		講義					パワーポイント	教科書						できた	
	薬理学	1	後期	必修	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義					プリント							できた	
	生化学	1	前期	必修	高橋克典	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	プリント	パワーポイント					できた	
	公衆衛生学				石館敬三																
	医学概論	1	前期	必修	尾林 徹	シラバスに沿って実施した		講義					パワーポイント							できた	
	基礎医学実習				尾林 徹																
看護学概論				上屋浩子																	
臨床生理学				尾林 徹																	
臨床病理学				尾林 徹																	
臨床薬理学				尾林 徹																	
臨床生化学				鶴田幸男																	
臨床免疫学				尾林 徹																	
臨床心理学				榎本光邦																	
臨床検査学総論				吉住あゆみ																	
臨床神経生理学				森下義幸																	
臨床工学に必要な理工学的基礎	応用数学	1	前期	必修	佐藤 求	シラバスに沿って実施した		講義							プリント				プリントの出来は教科書レベル	できなかった	学習未達成者にも合格を付けざるを得なかった。
	応用数学演習	1	後期	必修	佐藤 求	シラバスに沿って実施した	概ね		討論						プリント				オリジナル問題集	できた	
	医用電気工学	1	前期	必修	阿部 薫	シラバスに沿って実施した		講義					プリント	パワーポイント	教科書					できた	
	医用電気工学実習	1	後期	必修	阿部 薫	シラバスに沿って実施した		講義	実技・実習				プリント	パワーポイント	VTR				実験器具	できた	
	医用電子工学				佐藤 求																
	医用電子工学実習				佐藤 求																
	計測工学	1	後期	必修	小野 哲治	シラバスに沿って実施した		講義					教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた	
	医用材料工学				阿部 薫																
技術とシステム工学に必要な理工学的基礎	医用機械工学				小野 哲治																
	医用機械工学演習				小野 哲治																
	医療情報処理工学				佐藤 求																
	医療情報処理工学演習				佐藤 求																
	システム工学				小野 哲治																
	システム工学演習				小野 哲治																
	医用情報通信工学				小野 哲治																
	基礎工学実験	1	後期	必修	小野 哲治	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論	実技・実習			参考書	プリント	パワーポイント				自作実験書	できた

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) □ 専任教員 ■ 2017年度開講せず

区分	授業科目	学 年	開 講 期	必 修 選 修	単 位 認 定 者	実施内容とシラバスの適応性		授 業 の 方 法							使 用 し た 教 材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか		
						選択	備考(自由記入欄)	講義								選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)		
専 門 科 目 群	医 用 生 体 工 学	医用工学概論	1	後期	必修	芝本 隆	シラバスに沿って実施した		講義							プリント	パワーポイント			資料配布	できた
		医用超音波工学				阿部 薫															
		放射線工学概論				坂本 重己															
		医用レーザー工学				阿部 薫															
		医用画像処理工学				佐藤 求															
		生体物性工学				阿部 薫															
	人間工学				近土真由美																
	医 用 機 器 学	医用機器学概論	1	後期	必修	芝本 隆	シラバスに沿って実施した		講義							プリント	パワーポイント			資料配布	できた
		医用治療機器学				草間良昌															
		医用治療機器学実習				草間良昌															
		生体計測装置学				阿部 薫															
		生体計測装置学実習				阿部 薫															
	生 体 機 能 代 行 技 術 学	生体機能代行装置学Ⅰ				芝本 隆															
		生体機能代行装置学Ⅱ				芝本 隆															
		生体機能代行装置学実習				芝本 隆															
		呼吸療法装置学				近土真由美															
		呼吸療法装置学実習				近土真由美															
		体外循環装置学				草間良昌															
		体外循環装置学実習				草間良昌															
		血液浄化療法装置学				近土真由美															
	血液浄化療法装置学実習				近土真由美																
	医 用 安 全 管 理 学	医用機器安全管理学Ⅰ				近土真由美															
		医用機器安全管理学Ⅱ				近土真由美															
		医用機器安全管理学実習				近土真由美															
		医療安全工学				小野 哲治															
関係法規					山根 雅樹																
開 連 臨 床 医 学	臨床医学総論Ⅰ				尾林 徹																
	臨床医学総論Ⅱ				尾林 徹																
	臨床医学総論Ⅲ				尾林 徹																
	救急救命医学				草間良昌																
臨 床 実 習	臨床実習Ⅰ				芝本 隆																
	臨床実習Ⅱ				芝本 隆																
臨 床 工 学 の 統 合 と 探 求	臨床工学総合演習Ⅰ				草間良昌																
	臨床工学総合演習Ⅱ				草間良昌																
	臨床工学英文講読				草間良昌																
	臨床工学研究セミナー				芝本 隆																
卒業研究				芝本 隆																	

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す (実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

■学生の異動

2017年度の学生の異動は次の通りであった。

(人数)

		年度当初 在籍者数	休学者数	退学者数	除籍者数	復学者数	年 度 末	
							進級者数	留年者数
1年	看護学科	91	1	2	0	0	88	1
	理学療法学科	74	0	2	0	1	71	1
	検査技術学科	69	0	1	0	0	68	0
	放射線学科	86	0	2	0	0	84	0
	臨床工学科	66	2	3	0	0	59	4
2年	看護学科	91	1	2	0	1	85	4
	理学療法学科	75	3	2	0	2	72	1
	検査技術学科	71	0	2	0	0	66	4
3年	看護学科	85	7	0	0	2	77	8
	理学療法学科	71	1	4	1	2	60	6
	検査技術学科	67	6	2	0	4	60	6
4年	看護学科	80	0	0	0	0	80	0
	理学療法学科	69	4	1	0	3	63	4
	検査技術学科	59	2	1	1	1	57	0

大学院保健科学研究科

■カリキュラム

教育課程（29年度カリキュラム）

科 目 名	単位数		授業形態			年 間 コ マ 数	1 学 年		2 学 年		単 位 認 定 者
	必修	選択	講義	演習	実験実習		前期	後期	前期	後期	
共 通 科 目	医療倫理学特論	2	○			15	◎		◎		服 部 健 司
	医療運営・管理学特論	2	○			15	◎		◎		太 田 加 世
	人体の構造と機能学特論	2	○			15	◎		◎		宗 宮 真
	加齢医学特論	2	○			15	◎		◎		栗 田 昌 裕
	保健医療統計学特論	2	○			15	◎		◎		宮 崎 有 紀 子
	家族社会学特論	2	○			15	◎		◎		内 藤 和 美
	生殖補助医療技術学概論	2	○			15	◎		◎		荒 木 康 久
	教育学	2	○			15	◎		◎		佐 々 木 尚 毅
	応用英語	2	○			15	◎		◎		杉 田 雅 子
	研究方法特論	1		○			7.5	○			中 徹
	研究方法論Ⅰ		1	○			7.5	○			矢 島 正 榮
	研究方法論Ⅱ		1	○			7.5	○			木 村 朗
	研究方法論Ⅲ		1	○			7.5	○			小 河 原 は つ 江
	研究方法論Ⅳ		1	○			7.5	○			土 屋 仁
	研究方法論Ⅴ		1	○			7.5	○			芝 本 隆
保健学特別セミナー	2		○			15		○		藤 田 清 貴	
専 門 学 科 領 域	基礎看護学特論	2	○			15	○				上 星 浩 子
	基礎看護学演習	2		○		15		○			上 星 浩 子
	基礎看護学特別研究	10		○					○	○	小 林 亜 由 美
	成人看護学特論	2	○			15	○				萩 原 英 子
	成人看護学演習	2		○		15		○			今年度開講せず
	成人看護学特別研究	10		○					○	○	今年度開講せず
	老年看護学特論	2	○			15	○				伊 藤 ま ゆ み
	老年看護学演習	2		○		15		○			伊 藤 ま ゆ み
	老年看護学特別研究	10		○					○	○	伊 藤 ま ゆ み
	母性看護学・助産学特論	2	○			15	○				早 川 有 子
	母性看護学・助産学演習	2		○		15		○			早 川 有 子
	母性看護学・助産学特別研究	10		○					○	○	早 川 有 子
	公衆衛生看護学特論	2	○			15	○				矢 島 正 榮
	公衆衛生看護学演習	2		○		15		○			矢 島 正 榮
	公衆衛生看護学特別研究	10		○					○	○	矢 島 ・ 小 林
小児看護学特論	2	○			15	○				佐 光 恵 子	
精神看護学特論	2	○			15	○				村 松 仁	
在宅看護学特論	2	○			15	○				笠 井 秀 子	

※ ◎印は1・2年次どちらでも履修可能となります。

科目名		単位数		授業形態			年間 コマ数	1学年		2学年		単位認定者	
		必修	選択	講義	演習	実験実習		前期	後期	前期	後期		
専 門 科 目	理学療法学領域	基礎理学療法学特論		2	○			15	○			高橋正明	
		基礎理学療法学演習		2		○		15		○		高橋正明	
		基礎理学療法学特別研究		10		○					○	○	高橋正明
		臨床理学療法学特論		2	○			15	○				中 徹
		臨床理学療法学演習		2		○		15		○			木村 朗
		臨床理学療法学特別研究		10		○					○	○	中・木村
		高齢者理学療法学特論		2	○			15		○			浅田春美
	地域理学療法学特論		2	○			15		○			目黒 力	
	病因・病態検査学領域	病態検査解析学		2	○			15	○				藤田清貴
		病態免疫化学検査学特論		2	○			15	○				藤田清貴
		病態免疫化学検査学演習		2		○		15		○			藤田清貴
		遺伝子情報検査学特論		2	○			15	○				長田 誠
		遺伝子情報検査学演習		2		○		15		○			長田 誠
		病態血液検査学特論		2	○			15	○				小河原 はつ江
		病態血液検査学演習		2		○		15		○			小河原 はつ江
		生体分子情報検査学特論		2	○			15	○				亀子光明
		生体分子情報検査学演習		2		○		15		○			亀子光明
		生殖補助医療技術学特論		2	○			15	○				荒木康久
	生殖補助医療技術学演習		2		○		15		○			荒木康久	
	病因・病態検査学特別研究		10			○				○	○	翻・小瀬・蘇・野・細	
	放射線学領域	放射線医療安全管理学特論		2	○			15	○				土屋 仁
		放射線医療安全管理学演習		2		○		15		○			土屋 仁
		放射線情報学特論		2	○			15	○				星野修平
		放射線情報学演習		2		○		15		○			星野修平
		放射線学特別研究		10		○					○	○	土屋・星野・倉石
		放射線教育学特論		2	○			15	○				星野修平
	臨床工学領域	放射線学特論		2	○			15	○				土屋 仁
		生体医工学特論		2	○			15	○				芝本 隆
		生体医工学演習		2		○		15		○			芝本 隆
		臨床工学特別研究		10		○					○	○	芝本・尾林
医療安全管理学特論		2	○			15	○				小野 哲治		

※ ◎印は1・2年次どちらでも履修可能となります。

教育課程（28年度カリキュラム）

科 目 名	単位数		授業形態			年 間 コ マ 数	1 学 年		2 学 年		単 位 認 定 者
	必修	選択	講義	演習	実験実習		前期	後期	前期	後期	
共 通 科 目	医療倫理学特論		2	○		15	◎		◎		服 部 健 司
	医療運営・管理学特論		2	○		15	◎		◎		太 田 加 世
	人体の構造と機能学特論		2	○		15	◎		◎		宗 宮 真
	加齢医学特論		2	○		15	◎		◎		栗 田 昌 裕
	保健医療統計学特論		2	○		15	◎		◎		宮 崎 有 紀 子
	家族社会学特論		2	○		15	◎		◎		内 藤 和 美
	生殖補助医療技術学概論		2	○		15	◎		◎		荒 木 康 久
	教育学		2	○		15	◎		◎		佐々木 尚 毅
	応用英語		2	○		15	◎		◎		杉 田 雅 子
	研究方法特論	1		○		7.5	○				中 徹
	研究方法論Ⅰ		1	○		7.5	○				矢 島 正 栄
	研究方法論Ⅱ		1	○		7.5	○				木 村 朗
	研究方法論Ⅲ		1	○		7.5	○				小 河 原 はつ江
	保健学特別セミナー	2		○		15		○			高 橋 正 明
専 門 科 目	看 護 学 領 域	基礎看護学特論		2	○		15	○			上 星 浩 子
		基礎看護学演習		2		○	15		○		上 星 浩 子
		基礎看護学特別研究		10		○			○	○	小 林 亜由美
		成人看護学特論		2	○		15	○			萩 原 英 子
		成人看護学演習		2		○	15		○		今年度開講せず
		成人看護学特別研究		10		○			○	○	今年度開講せず
		老年看護学特論		2	○		15	○			伊 藤 まゆみ
		老年看護学演習		2		○	15		○		伊 藤 まゆみ
		老年看護学特別研究		10		○			○	○	伊 藤 まゆみ
		母性看護学・助産学特論		2	○		15	○			早 川 有 子
		母性看護学・助産学演習		2		○	15		○		早 川 有 子
		母性看護学・助産学特別研究		10		○			○	○	早 川 有 子
		公衆衛生看護学特論		2	○		15	○			矢 島 正 栄
		公衆衛生看護学演習		2		○	15		○		矢 島 正 栄
	公衆衛生看護学特別研究		10		○			○	○	矢 島 ・ 小 林	
	小児看護学特論		2	○		15	○			佐 光 恵 子	
	精神看護学特論		2	○		15	○			村 松 仁	
	在宅看護学特論		2	○		15	○			笠 井 秀 子	
	理 学 療 法 学 領 域	基礎理学療法学特論		2	○		15	○			高 橋 正 明
		基礎理学療法学演習		2		○	15		○		高 橋 正 明
		基礎理学療法学特別研究		10		○			○	○	高 橋 正 明
		臨床理学療法学特論		2	○		15	○			中 徹
臨床理学療法学演習			2		○	15		○		木 村 朗	
臨床理学療法学特別研究			10		○			○	○	中 ・ 木 村	
高齢者理学療法学特論			2	○		15		○		浅 田 春 美	
地域理学療法学特論			2	○		15		○		目 黒 力	
病 因 ・ 病 態 検 査 学 領 域	病態検査解析学		2	○		15	○			藤 田 清 貴	
	病態免疫化学検査学特論		2	○		15	○			藤 田 清 貴	
	病態免疫化学検査学演習		2		○	15		○		藤 田 清 貴	
	遺伝子情報検査学特論		2	○		15	○			長 田 誠	
	遺伝子情報検査学演習		2		○	15		○		長 田 誠	
	病態血液検査学特論		2	○		15	○			小 河 原 はつ江	
	病態血液検査学演習		2		○	15		○		小 河 原 はつ江	
	生体分子情報検査学特論		2	○		15	○			亀 子 光 明	
	生体分子情報検査学演習		2		○	15		○		亀 子 光 明	
	生殖補助医療技術学特論		2	○		15	○			荒 木 康 久	
	生殖補助医療技術学演習		2		○	15		○		荒 木 康 久	
	病因・病態検査学特別研究		10						○	○	藤田・小河原・荒木・亀子・畑

※ ◎印は1・2年次どちらでも履修可能となります。

教育課程（27年度カリキュラム）

科目名		単位数		授業形態			年間 コマ数	1学年		2学年		単位認定者	
		必修	選択	講義	演習	実験実習		前期	後期	前期	後期		
共通科目	医療倫理学特論		2	○			15	◎		◎		服部 健司	
	医療運営・管理学特論		2	○			15	◎		◎		太田 加世	
	人体の構造と機能学特論		2	○			15	◎		◎		宗 宮 真	
	加齢医学特論		2	○			15	◎		◎		栗田 昌裕	
	保健医療統計学特論		2	○			15	◎		◎		宮崎 有紀子	
	家族社会学特論		2	○			15	◎		◎		内藤 和美	
	生殖補助医療技術学概論		2	○			15	◎		◎		荒木 康久	
	教育学		2	○			15	◎		◎		佐々木 尚毅	
	応用英語		2	○			15	◎		◎		杉田 雅子	
	研究方法特論	1		○			7.5	○				中 徹	
	研究方法論Ⅰ		1	○			7.5	○				矢島 正栄	
	研究方法論Ⅱ		1	○			7.5	○				木村 朗	
	研究方法論Ⅲ		1	○			7.5	○				小河原 はつ江	
	保健学特別セミナー	2		○			15		○			高橋 正明	
専門科目	看護学領域	基礎看護学特論		2	○		15	○				上星 浩子	
		基礎看護学演習		2		○	15		○			上星 浩子	
		基礎看護学特別研究		10		○				○	○	小林 亜由美	
		成人看護学特論		2	○		15	○				萩原 英子	
		成人看護学演習		2		○	15		○			今年度開講せず	
		成人看護学特別研究		10		○				○	○	今年度開講せず	
		老年看護学特論		2	○		15	○				伊藤 まゆみ	
		老年看護学演習		2		○	15		○			伊藤 まゆみ	
		老年看護学特別研究		10		○				○	○	伊藤 まゆみ	
		母性看護学・助産学特論		2	○		15	○				早川 有子	
		母性看護学・助産学演習		2		○	15		○			早川 有子	
		母性看護学・助産学特別研究		10		○				○	○	早川 有子	
		公衆衛生看護学特論		2	○		15	○				矢島 正栄	
		公衆衛生看護学演習		2		○	15		○			矢島 正栄	
	公衆衛生看護学特別研究		10		○				○	○	矢島・小林		
	理学療法学領域	小児看護学特論		2	○		15	○				佐光 恵子	
		精神看護学特論		2	○		15	○				村松 仁	
		在宅看護学特論		2	○		15	○				笠井 秀子	
		基礎理学療法学特論		2	○		15	○				高橋 正明	
		基礎理学療法学演習		2		○	15		○			高橋 正明	
		基礎理学療法学特別研究		10		○				○	○	高橋 正明	
		臨床理学療法学特論		2	○		15	○				中 徹	
		臨床理学療法学演習		2		○	15		○			木村 朗	
		臨床理学療法学特別研究		10		○				○	○	中徹・木村	
		高齢者理学療法学特論		2	○		15	○				浅田 春美	
		地域理学療法学特論		2	○		15	○				目黒 力	
		病因・病態検査学領域	病態検査解析学		2	○		15	○				藤田 清貴
			病態免疫化学検査学特論		2	○		15		○			藤田 清貴
			病態免疫化学検査学演習		4		○	30			○		藤田 清貴
			遺伝子情報検査学特論		2	○		15	○				長田 誠
遺伝子情報検査学演習				4		○	30			○		長田 誠	
病態血液検査学特論			2	○		15	○				小河原 はつ江		
病態血液検査学演習			4		○	30			○		小河原 はつ江		
生体分子情報検査学特論			2	○		15		○			亀子 光明		
生体分子情報検査学演習			4		○	30			○		亀子 光明		
生殖補助医療技術学特論			2	○		15	○				荒木 康久		
生殖補助医療技術学演習		4		○	30			○		荒木 康久			
病因・病態検査学特別研究		10							○	○	藤田・小河原・荒木・亀子・長田		

※ ◎印は1・2年次どちらでも履修可能となります。

保健科学研究科 教育活動の記録

区分	授業科目	学年	開講期	必修選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法					使用した教材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか	
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)					
共通科目	医療倫理学特論				服部健司													
	医療運営・管理学特論				太田加世													
	人体の構造と機能学特論	1・2	前期	選択	宗富 真	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論			参考書	プリント	パワーポイント			できた
	加齢医学特論	1	前期	選択	栗田昌裕	シラバスに沿って実施した		講義					プリント					できた
	保健医療統計学特論				宮崎有紀子													
	家族社会学特論				内藤和美													
	生殖補助医療技術学概論	1・2	前期	選択	荒木康久	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(グループ)	討論	実技・実習	メディアの利用	参考書	プリント	パワーポイント	VTR		
	教育学				佐々木尚毅													
	応用英語	2	前期	選択	杉田雅子	シラバスに沿って実施できなかった	後半は受講者の留熟度、専門分野に合わせて対応した	講義	作業課題(個人)				教科書	プリント				できた
	研究方法特論	1	前期	必修	中 徹	シラバスに沿って実施した		講義	討論				パワーポイント					できた
	研究方法論Ⅰ	1	前期	選択	矢島正榮	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論			プリント	パワーポイント				できた
	研究方法論Ⅱ	1	前期	選択	木村 朗	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	実技・実習			参考書	パワーポイント				できた
	研究方法論Ⅲ	1	前期	選択	小河原はつ江	シラバスに沿って実施した		講義					参考書	プリント	パワーポイント			できた
	研究方法論Ⅳ	1	前期	選択	土屋 仁	シラバスに沿って実施できなかった	一部変更を行った	講義					教科書	プリント	参考書	パワーポイント		できた
	研究方法論Ⅴ	1	前期	選択	芝本 隆	履修者0のため開講せず												
保健学特別セミナー	1	後期	必修	藤田清貴	シラバスに沿って実施した		講義	討論				参考書	プリント	パワーポイント			できた	
看護学領域 専門科目	基礎看護学特論	1	前期	選択	上星浩子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論		参考書	プリント	パワーポイント			学術論文	できた
	基礎看護学演習	1	前期	選択	上星浩子	履修者0のため開講せず												
	基礎看護学特別研究	2	通年	選択	小林重由美	履修者0のため開講せず												
	成人看護学特論	1	前期	選択	萩原英子	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論			参考書	プリント	パワーポイント			できた
	成人看護学演習				2017年度開講せず													
	成人看護学特別研究				2017年度開講せず													
	老年看護学特論	1	前期	選択	伊藤まゆみ	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論			参考書	プリント	パワーポイント	VTR		できた
	老年看護学演習	1	後期	選択	伊藤まゆみ	シラバスに沿って実施した		講義	作業課題(個人)	討論			教科書	参考書	プリント		収集文献	できた
	老年看護学特別研究	2	通年	選択	伊藤まゆみ	シラバスに沿って実施した	修論指導計画書にそって実施した		作業課題(個人)	討論								できた
	母性看護学・助産学特論	1	前期	選択	早川有子	シラバスに沿って実施した		講義										できた
	母性看護学・助産学演習	1	後期	選択	早川有子	シラバスに沿って実施した		講義	討論									できた
	母性看護学・助産学特別研究	2	通年	選択	早川有子	シラバスに沿って実施した		討論										できた
公衆衛生看護学特論	1	前期	選択	矢島正榮	シラバスに沿って実施した		講義	討論				プリント	パワーポイント				できた	

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

区分	授業科目	学年	開講期	必修/選択	単位認定者	実施内容とシラバスの適応性		授業の方法						使用した教材				成績評価において学習目標の到達度が的確に測定できたか			
						選択	備考(自由記入欄)	選択(講義、作業課題(個人、グループ)、討論、実技・実習、メディアの利用)	その他(自由記入欄)	選択(教科書、参考書、プリント、パワーポイント、VTR)	その他(自由記入欄)	選択	備考(自由記入欄)								
専門科目 放射線学領域 臨床工学領域	放射線学特別研究	2	通年	選択	土屋 仁 星野 修 倉石 政彦																
	放射線教育学特論	1	前期	選択	星野修平	シラバスに沿って実施した		講義	討論				教科書	参考書	プリント	パワーポイント				できた	
	放射線学特論	1	前期	選択	土屋 仁	シラバスに沿って実施できなかった	一部変更を行った	講義	討論				参考書	プリント	パワーポイント					できた	
	生体医工学特論	1	前期	選択	芝本 隆	履修者0のため開講せず															
	生体医工学演習	1	後期	選択	芝本 隆	履修者0のため開講せず															
	臨床工学特別研究	2	通年	選択	芝本 隆 尾林 徹																
医療安全管理学特論	1	前期	選択	小野 哲治	履修者0のため開講せず																

注) 各学期の欄の数字は授業コマ数を表す(実習を除く) 専任教員 2017年度開講せず

■学生の異動

2017年度の学生の異動は次の通りであった。

(人数)

保健科学研究科	年度当初 在籍者数	休学者数	退学者数	除籍者数	復学者数	年 度 末	
						進級者数	留年者数
1年	9	0	0	0	0	9	0
2年	8	0	0	0	0	6*	0

※内2名は長期履修者につき対象外とする。

2017年度 修士論文題目一覧

No.	氏 名	領 域	発 表 演 題	指導教員
1	新井基子	看護学領域	高校生の乳児栄養に対する意識とその関連要因	早川有子
2	依田真由子	看護学領域	助産師教育への双方向遠隔システム導入に関する教員の意識調査	早川有子
3	中島葉子	看護学領域	高齢者看護におけるインフォームド・コンセントの実態と課題に関する研究	伊藤まゆみ
4	廣瀬文乃	看護学領域	職場のマタニティハラスメントが妊婦の心身に及ぼす影響と被害予防のための助産支援	早川有子
5	市川 郁	理学療法学領域	時系列データからみた高齢脳卒中後遺症者における概日リズムと身体特性の検討	木村 朗
6	鳥毛正弘	理学療法学領域	介護施設入所の要介護高齢者における血管機能と関連する指標の探索的検討	木村 朗

第 3 部

研究活動の記録

(2017年4月～2018年3月)



◆基礎看護学

教授 上星浩子	
刊行物 (分担執筆)	上星浩子：特集「慢性期看護学実習でよく出会う、疾患別看護のポイント」 糖尿病、COPD、慢性心不全。プチナース、26(12)、照林社、2017：pp18-19・pp20-21・pp24-25.
口頭発表	丸山真美、上星浩子、岡美智代、他：「聞き書き」を受けた透析患者のシャントに対する意識・感情の明確化。日本透析医学会第62回学術集会、横浜市、2017年6月16～18日。
	Michiyo Oka, Hiroko Joboshi, Satsuki Takahashi, Koki Itedan, Miyuki Nishida, Yuko Katada, Mitsuhiro Matsumoto: The EASE Program: Effective Assistance for Chronic Illness Patients' Self-management. World Congress on Nursing & Nurse education Euro Nursing, Roma, Italy, Sep. 07-09, 2017
	中嶋康介、清水健太、葉賀将、齋藤景、上星浩子：臨床看護師は考えるセンスに関する研究。第16回日本看護技術学会学術集会、東京都、2017年10月14～15日。
	柳奈津子、上星浩子、他（ぐんま看護ケアを考える会）：身体拘束・抑制を回避するための看護実践、教育実践を見つけよう！ 第16回日本看護技術学会学術集会、東京都、2017年10月14～15日。
	上星浩子、石倉美穂子、岡美智代、清水美和子、丸山真美、瀬尾幸子：「聞き書き」活動における血液透析治療を受けている患者の語り。第20回日本腎不全看護学会学術集会、岩手県盛岡市、2017年10月21～22日。
	石倉美穂子、上星浩子、岡美智代、清水美和子、丸山真美、瀬尾幸子：「聞き書き」活動による血液透析患者の意識・感情の変化。第20回日本腎不全看護学会学術集会、岩手県盛岡市、2017年10月21～22日。
	Misako Kawashima, Michiyo Oka, Hiroko Joboshi: Concept Analysis of 'Nursing Assessment Ability' in Japan. 2nd World Congress on Nursing & Nurse Education, Miami, Florida, USA. Nov 20-22, 2017.
	上星浩子、佐藤晶子、堀込由紀：看護管理者が考える看護のセンスに関する研究。第37回日本看護科学学会学術集会、宮城県仙台市12月16～17日。
社会的教育活動	上星浩子：第51回東日本腎不全研究会 企画・運営、東日本腎不全研究会、群馬県高崎市、2017年5月15日。
	上星浩子：第1回 群馬県看護ケアを考える会 企画・運営「今ある看護ケアを考える意義一日々の実践で困っていることをチャンスに変える」。群馬県看護ケアを考える会、群馬県前橋市、2017年8月5日。
	上星浩子：日本アクション看護学会 第16回学術集会実行委員、一般社団法人日本アクション看護学会、群馬県高崎市、2017年9月2～3日。
	上星浩子：看護協会ファーストレベル研修講師。群馬県看護協会、2017年9月28日。
	上星浩子：看護診断研修講師。伊勢崎佐波医師会病院、群馬県伊勢崎市、2017年9月29日。
	上星浩子：第52回東日本腎不全研究会講演会 企画・運営・座長「糖尿病・透析患者さんに看護理論を活用してみよう!」、「国際的見地による医療安全のためのベッドサイドケア」。東日本腎不全研究会、群馬県前橋市、2017年10月12日。
	上星浩子：第2回群馬県看護ケアを考える会 企画・運営「その人らしさを支える看護」。群馬県看護ケアを考える会、群馬県前橋市、2017年11月26日。
	上星浩子：第3回群馬県看護ケアを考える会 企画・運営・進行「その人らしさを考える看護ケア」。群馬県看護ケアを考える会、群馬県前橋市、2018年2月17日。
	上星浩子：運営活動及び研究指導。東日本腎不全研究会、群馬県前橋市、毎月第3木曜日および随時。
所属学会 研究会・協会	日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護教育学会、日本透析医学会、日本腎不全看護学会、北関東医学会

学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本腎不全看護学会編集委員会専任査読者、東日本腎不全研究会幹事、ぐんま看護ケアを考える会世話人
当年度中の受賞	看護学研究奨励賞、一般社団法人日本私立看護系大学協会

講師 佐藤晶子	
刊行物 (分担執筆)	佐藤晶子、真砂涼子：第7章フィジカルアセスメントの活用（事例）ゴードンとヘンダーソンを用いた情報の整理と看護計画. ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント第5版. (松尾ミヨ子、城生弘美、習田明裕編)、メディカ出版、大阪、2018：pp321-344.
口頭発表	上星浩子、佐藤晶子、堀込由紀：看護管理者が考える看護のセンスに関する研究. 日本看護科学学会第37回学術集会、宮城県、2017年12月16日.
社会的教育活動	佐藤晶子：「基礎看護技術Ⅱ（フィジカルアセスメント）」非常勤講師. 学校法人TBC学院 国際ティビィシィ看護専門学校、栃木県宇都宮市、2017年11月22日・29日.
	佐藤晶子：「基礎看護技術Ⅲ（フィジカルアセスメント）」非常勤講師. 学校法人TBC学院 国際ティビィシィ小山看護専門学校、栃木県小山市、2017年12月8日・2018年1月5日・2018年1月26日.
所属学会 研究会・協会	日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本赤十字看護学会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本アクション看護学会 第16回学術集会 企画・実行委員

講師 堀込由紀	
口頭発表	堀込由紀：看護管理者が考える看護のセンスに関する研究. 第37回日本看護科学学会学術集会、宮城県、2017年12月16日.
社会的教育活動	堀込由紀：日本国際看護学会関東研修会「グローバル・ナーシングのこれから」企画・運営. 日本国際看護学会、東京都渋谷区、2017年7月9日.
	堀込由紀（企画）：「ノーリフティングポリシー～持ち上げない看護～」セミナー. 一般社団法人 グローバル看護教育&研究プロジェクト、東京都品川区、2017年7月15日.
	堀込由紀（企画）：「異文化理解」セミナー. 一般社団法人 グローバル看護教育&研究プロジェクト、東京都渋谷区、2017年12月10日.
所属学会 研究会・協会	日本看護管理学会、日本国際看護学会、医療の質・安全学会、日本看護科学学会、日本医療・病院管理学会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本国際看護学会 評議委員、日本国際看護学会 第1回学術集会準備委員（広報）、日本アクション看護学会 第16回学術集会企画・実行委員、グローバル看護教育&研究プロジェクト 代表

❖成人看護学

准教授 萩原英子	
口 頭 発 表	安田弘子、萩原英子、藤巻郁朗、堀越政孝、益子直紀、橋本晴美、浅見優子：看護基礎教育における学生が抱くがんに対するイメージと影響要因 第4報—テキストマイニングによる学生のがんイメージ分析—。第32回日本がん看護学会学術集会、千葉県千葉市、2018年2月4日。
	浅見優子、橋本晴美、益子直紀、小林万里子、堀越政孝、萩原英子、安田弘子：看護基礎教育における学生が抱くがんに対するイメージと影響要因 第2報—学年間の比較分析—。第32回日本がん看護学会学術集会、千葉県千葉市、2018年2月4日。
社会的教育活動	萩原英子：講義「障害の理解」非常勤講師。群馬パース大学福祉専門学校、群馬県渋川市、2017年9月21日。
	萩原英子、安田弘子、堀越政孝：リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017ぐんま。公益財団法人日本対がん協会、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017ぐんま実行委員会、群馬県前橋市、2017年10月7～8日。
	萩原英子：「医療的ケア」研修 講師。社会福祉法人ほたか会 介護研修センター、群馬県前橋市、2018年2月7日。
	小池菜穂子、萩原英子：高崎医師会・高崎市等広域消防組合・日高病院合同災害救護訓練。高崎医師会・高崎市等広域消防組合・日高病院、群馬県高崎市、2018年3月10日。
所 属 学 会 研 究 会 ・ 協 会	日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護研究学会、日本乳癌学会、北関東医学会、日本クリティカルケア看護学会、看護教育研究学会、日本乳がん看護研究会、群馬県がん看護研究会、日本在宅看護学会、日本看護学教育学会、日本看護協会、群馬看護協会
学 会 ・ 研 究 会 協 会 等 に お け る 役 職 、 委 員	第16回日本アクション看護学会学術集会 企画・実行委員

准教授 堀越政孝	
刊 行 物 (雑 誌 論 文)	牛久保美津子、近藤浩子、塚越徳子、菊地沙織、上山真美、恩幣宏美、堀越政孝、常盤洋子：退院後の暮らしを見据えた病院看護職育成のための現状と課題 病院管理者等へのグループインタビューから。日本プライマリ・ケア連合学会誌。40(2)、2017：pp67-72。
	堀越政孝、牛久保美津子、神田清子他：地域での暮らしを見据えた看護に関する看護大学生の自己評価の学年間比較。The Kitakanto Medical Journal。68(1)、2018：pp59-65。
口 頭 発 表	荒川浩、戸塚のぞみ、塚越徳子、菊地沙織、堀越政孝、二渡玉江：前立腺がん患者の初期治療における手術決意プロセス。第32回日本がん看護学会学術集会、千葉県、2017年2月3日。

講師 小池菜穂子	
社会的教育活動	小池菜穂子、萩原英子：高崎市医師会・高崎市等広域消防組合・日高病院合同災害救護訓練。高崎市医師会・高崎市等広域消防組合・医療法人社団日高会日高病院、医療法人社団日高会日高病院、群馬県高崎市、2018年3月10日。
	小池菜穂子：日本アクション看護学会 第16回学術集会実行委員。群馬県高崎市、2017年9月2～3日。
所 属 学 会 研 究 会 ・ 協 会	日本看護学教育学会、看護教育研究学会、日本看護協会、群馬看護協会

講師 金子吉美	
社会的教育活動	金子吉美：第16回日本アディクション看護学会学術集会実行委員、日本アディクション看護学会、群馬県高崎市、2017年9月2～3日。
所属学会 研究会・協会	日本看護学教育学会、日本看護協会、群馬県看護協会

助教 安田弘子	
口頭発表	安田弘子、萩原英子、藤巻郁郎、堀越政孝、益子直紀、橋本晴美、浅見優子：看護基礎教育における学生が抱くがんに対するイメージと影響要因 第4報—テキストマイニングによる学生のがんイメージ分析—。第32回日本がん看護学会学術集会、千葉県、2018年2月4日。
	浅見優子、橋本晴美、益子直紀、小林万里子、堀越政孝、萩原英子、安田弘子：看護基礎教育における学生が抱くがんに対するイメージと影響要因 第2報—学年間の比較分析—。第32回日本がん看護学会学術集会、千葉県、2018年2月4日。
社会的教育活動	安田弘子：第13回群馬がん看護フォーラム。群馬がん看護研究会、群馬県前橋市、2017年5月28日。
	安田弘子：第16回日本アディクション看護学会学術集会実行委員、日本アディクション看護学会、群馬県高崎市、2017年9月2～3日。
	萩原英子、安田弘子、堀越政孝：リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017ぐんま。公益財団法人日本対がん協会、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017ぐんま実行委員会、群馬県前橋市、2017年10月7～8日。
所属学会 研究会・協会	日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護協会、群馬がん看護研究会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	群馬がん看護研究会 事務局（書記）

◆老年看護学

教授 伊藤まゆみ	
刊行物 (雑誌論文)	川久保悦子、井本由希子、伊藤まゆみ：老年看護学実習における学生が行うアクティビティケアの学び。群馬パース大学紀要。22、2017：pp11-22。
口頭発表	東泉貴子、関妙子、伊藤まゆみ：認知症高齢者に対する熟練看護師のコミュニケーション技術の特性に関する研究—新人看護師との比較から—。第48回日本看護学会—慢性期看護—学術集会、兵庫県、2017年9月1日。
	根生とき子、松谷信枝、加藤積良、関妙子、伊藤まゆみ：療養病床入院中に経口摂取が可能となった高齢者の援助成功例の分析から得られた実践知。第48回日本看護学会—慢性期看護—学術集会、兵庫県、2017年9月1日。
社会的教育活動	伊藤まゆみ：群馬県実習指導者講習会 講師「実習指導の実際—老年看護学」。群馬県医務課、群馬県前橋市、2017年5月19日。
	伊藤まゆみ：群馬県実習指導者講習会 特定分野演習講師「実習指導の実際（グループ演習）—老年看護学実習」。群馬県医務課、群馬県前橋市、2017年5月22日～24日。
	伊藤まゆみ：女子栄養大学特別講師「成人・老年看護学—疾患を持つ高齢者への看護ケア」。女子栄養大学、埼玉県坂戸市、2017年6月8日。
	伊藤まゆみ：高崎警察署地域課署員を対象とした講演「認知症—病気の理解と対応—」。高崎警察署。群馬県高崎市、2017年10月26日。

所属学会 研究会・協会	日本老年看護学会、日本看護科学学会、日本糖尿病教育・看護学会、日本老年社会科学会、北関東医学 会
国・自治体等 公的機関の 委員委託	高崎健康福祉大学看護実践開発センター 認知症認定看護師教育課程入試委員 2017年4月1日～2018 年3月31日.

講師 星野泰栄	
刊行物 (雑誌論文)	星野泰栄、半澤綾、三枝典子：手術室看護師の術中看護におけるストレスの実態調査—唾液アミラーゼ を用いて—。日本手術看護学会誌。13(1)、2017：pp8-13.
社会的教育活動	星野泰栄：医療的ケア研修講師「高齢者の皮膚トラブルとその対策等について」。社会福祉法人ほたか 会介護研修センター、群馬県前橋市、2016年12月20日.
所属学会 研究会・協会	日本病態栄養学会、日本手術看護学会、日本保健福祉学会、日本思春期学会

助教 東泉貴子	
口頭発表	東泉貴子、関妙子、伊藤まゆみ：認知症高齢者に対する熟練看護師のコミュニケーション技術の特性に 関する研究—新人看護師との比較から—。第48回日本看護学会慢性期看護学術集会、兵庫県、2017年9 月1日.
所属学会 研究会・協会	日本看護協会、日本認知症ケア学会

❖母性看護学

教授 早川有子	
口頭発表	早川有子、中島久美子、臼井淳美、依田真由子、廣瀬文乃：母性看護・助産学における教育改革をめざ して ITを活用した新しいシステムの開発。第58回日本母性衛生学会学術集会、神戸国際会議場（兵 庫県）、2017年10月6日.
	中島久美子、臼井淳美、廣瀬文乃、依田真由子、早川有子：助産学実習への効果的な移行を目指したシ ミュレーション教育の検討—妊娠期の助産学演習を通して—。第58回日本母性衛生学会学術集会、神戸 国際会議場（兵庫県）、2017年10月6日.
	細野早梨、清水葵、中島久美子、依田真由子、早川有子：助産学生の関わりによる継続妊婦のパスプ ランの変化に関する研究。第58回日本母性衛生学会学術集会、神戸国際会議場（兵庫県）、2017年10 月6日.
	中島悠里、上原富美子、早川有子、臼井淳美、廣瀬文乃：夫立ち合い出産時の夫の支援に関する研究— 夫婦の満足度の比較—。第58回日本母性衛生学会学術集会、神戸国際会議場（兵庫県）、2017年10月6日.
	澁谷瑛紀、奥原美知瑠、中島久美子、早川有子：分娩第1期に助産学生が行った産痛緩和法による産婦 の身体的変化と思いや要望。第58回日本母性衛生学会学術集会、神戸国際会議場（兵庫県）、2017年10 月6日.
	中島久美子、臼井淳美、廣瀬文乃、依田真由子、早川有子：妊娠期における高年初産婦の思いと夫の関 わり。第32回日本助産学会学術集会、パシフィコ横浜（神奈川県）、2018年3月3日.
社会的教育活動	早川有子、中島久美子：限られた教育環境で如何に効果的な母性看護教育を行うか。看護・助産教育支 援フォーラム開催（第7回）、東京都助産師会館（東京都）、2017年11月18日.
	早川有子、中島久美子：限られた教育環境で如何に効果的な母性看護教育を行うか。看護・助産教育支 援フォーラム開催（第8回）、大阪助産師会館（大阪府）、2018年1月27日.

	早川有子、中島久美子：限られた教育環境で如何に効果的な母性看護教育を行うか。看護・助産教育支援フォーラム開催（第9回）、東京都助産師会館（東京都）、2018年3月10日。
所属学会 研究会・協会	日本母乳哺育学会、日本母性衛生学会、日本母性看護学会、日本助産師学会、看護・助産師教育支援フォーラム、日本母子ケア研究会、助産師教育協議会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	看護・助産教育支援フォーラム 代表、日本母乳哺育学会：評議員、編集委員、広報委員

准教授 中島久美子	
刊行物 (雑誌論文)	中島久美子：特集 助産師は父親をどう支えるか 「妊娠期の妻への夫の関わり満足感尺度」の活用。助産雑誌、71(10)、2017：pp756-763。 中島久美子、荒井洋子、岡崎友香：不妊治療中の夫婦におけるパートナーシップの認識と夫婦関係満足度および妻の精神的健康の関連性。日本生殖看護学会誌、14(1)、2017：pp51-60。
口頭発表	中島久美子、臼井淳美、廣瀬文乃、他2名：妊娠期における高年初産婦の思いと夫の関わり。第32回日本助産学会学術集会、パシフィコ横浜（神奈川県）、2018年3月3～4日。 中島久美子、臼井淳美、廣瀬文乃、他2名：助産学実習への効果的な移行を目指したシミュレーション教育の検討—妊娠期の助産学演習を通して—。第58回日本母性衛生学会、神戸国際会議場（兵庫県）、2017年10月6～7日。 細野早梨、清水葵、中島久美子、他2名：助産学生の関わりによる継続妊婦のバースプランの変化に関する研究。第58回日本母性衛生学会、神戸国際会議場（兵庫県）、2017年10月6～7日。 澁谷瑳紀、奥原美知瑠、中島久美子、他1名。分娩第1期に助産学生が行った産痛緩和法による産婦の身体的変化と思いや要望。第58回日本母性衛生学会、神戸国際会議場（兵庫県）、2017年10月6～7日。 早川有子、中島久美子、臼井淳美、他2名。母性看護・助産学における教育改革をめざして：ITを活用した新しいシステムの開発。第58回日本母性衛生学会、神戸国際会議場（兵庫県）、2017年10月6～7日。
社会的教育活動	中島久美子：第16回日本アディクション看護学会学術集会実行委員。日本アディクション看護学会、群馬県高崎市、2017年9月2～3日。 中島久美子：非常勤講師。高崎医師会看護専門学校（群馬県高崎市）、母性看護学総論（1年次前期5回）、2017年11月10～24日。 早川有子、中島久美子：ワークショップ 限られた教育環境で如何に効果的な母性看護教育を行うか。一般社団法人 看護・助産教育支援フォーラム、東京都助産師会館（東京都）、2017年11月18日。 早川有子、中島久美子：ワークショップ 限られた教育環境で如何に効果的な母性看護教育を行うか。一般社団法人 看護・助産教育支援フォーラム、大阪府助産師会館（大阪府）、2018年1月27日。 早川有子、中島久美子：ワークショップ 限られた教育環境で如何に効果的な母性看護教育を行うか。一般社団法人 看護・助産教育支援フォーラム、東京都助産師会館（東京都）、2018年3月10日。
所属学会 研究会・協会	日本助産学会、日本母性衛生学会、日本生殖看護学会、日本母乳哺育学会、北関東医学会、日本看護協会、全国助産師教育協議会、日本母子ケア研究会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本助産学会誌専任査読委員、群馬県看護協会研究委員、看護・助産教育支援フォーラム企画委員

講師 臼井淳美	
刊 行 物 (雑誌論文)	臼井淳美：授乳期の母親の栄養 母親の立場から. 日本母乳哺育学会雑誌. 11(2), 2017 : pp142-144.
口 頭 発 表	中島久美子、臼井淳美、廣瀬文乃、依田真由子、早川有子：助産学実習への効果的な移行を目指したシミュレーション教育の検討 妊娠期の助産学演習を通して. 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会、神戸市（兵庫県）、2017年10月6日.
	中島悠里、上原富美子、早川有子、臼井淳美、廣瀬文乃：夫立ち合い出産時の夫の支援に関する研究 夫婦の満足度の比較. 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会、神戸市（兵庫県）、2017年10月6日.
	早川有子、中島久美子、臼井淳美、依田真由子、廣瀬文乃：母性看護・助産学における教育改革をめざして ITを活用した新しいシステムの開発. 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会、神戸市（兵庫県）、2017年10月6日.
	中島久美子、臼井淳美、廣瀬文乃、依田真由子、早川有子：妊娠期における高年初産婦の思いと夫の関わり. 第32回日本助産学会学術集会、横浜市（神奈川県）、2018年3月3日.
所 属 学 会 研 究 会・協 会	日本母性衛生学会、日本助産学会、日本母乳哺育学会、日本看護教育学会、日本看護科学学会
学 会・研 究 会 協 会 等 に お け る 役 職、委 員	日本母乳哺育学会 教育委員会委員、母性看護一助産教育支援フォーラム 企画委員

助手 廣瀬文乃	
口 頭 発 表	中島久美子、臼井淳美、廣瀬文乃、早川有子：助産学実習への効果的な移行を目指したシミュレーション教育の検討～妊娠期の助産学演習を通して～. 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会、兵庫県、2017年10月7日.
	中島悠里、上原富美子、早川有子、臼井淳美、廣瀬文乃：夫立ち合い時の夫の支援に関する研究～夫婦の満足度の比較. 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会、兵庫県、2017年10月6日.
	早川有子、中島久美子、臼井淳美、依田真由子、廣瀬文乃：母性看護・助産学教育における教育改革をめざして ITを活用した新しいシステムの開発. 第58回日本母性衛生学会総会・学術集会、兵庫県、2017年10月6日.
	中島久美子、臼井淳美、廣瀬文乃、依田真由子、早川有子：妊娠期における高齢初産婦の思いと夫の関わり. 第32回日本助産学会学術集会、神奈川県、2018年3月3日.
所 属 学 会 研 究 会・協 会	日本母性衛生学会、日本助産学会

◆精神看護学

教授 村松 仁	
口 頭 発 表	宮島多映子、村松仁、西山忠博：Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用 精神科入院患者の検討。第43回日本看護研究学会学術集会、愛知県、2017年8月29～30日。
	宮島多映子、村松仁、西山忠博：Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用—薬物による排便調整を行っている対象者の腸音の変化と実験直後の排便—。第37回日本看護科学学会学術集会、宮城県、2017年12月16～17日。
	木暮昌夫、村松仁：看護学生のネット依存と日常生活における関連。第16回日本アディクション看護学会学術集会、群馬県、2017年9月2～3日。
	陶山克洋、村松仁、安藤理恵：摂食障害とIDDMの研究における現状と課題—文献レビューでみてきた事—。第16回日本アディクション看護学会学術集会、群馬県、2017年9月2～3日。
所 属 学 会 研 究 会・ 協 会	日本精神神経学会、日本看護研究学会学、日本看護科学学会、日本心理学会、日本精神保健看護学会、日本社会精神医学会、日本アディクション看護学会、岩手看護学会、日本看護協会、日本精神科看護協会
学 会・ 研 究 会 協 会 等 に お け る 役 職、 委 員	第16回日本アディクション看護学会学術集会大会長（2017年9月2日～3日、群馬パース大学）、SST普及協会第22回学術集会 IN 希望郷いわて、口頭発表2群【スタッフ教育と人材育成】座長（2017年11月11日、岩手県立大学）

◆公衆衛生看護学

看護学科長 教授 矢島正榮	
口 頭 発 表	橋本いづみ、矢島正榮、小林亜由美、廣田幸子、奥野みどり：20-50歳台男性の自己申告によるメタボリックシンドロームに関連する行動変容に関する研究。第20回日本地域看護学会学術集会、大分県、2017年8月6日。
	廣田幸子、小林亜由美、矢島正榮、奥野みどり：一村の消防団に所属する青・壮年期男性の生活習慣に関する実態調査。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017年11月1日。
	矢島正榮、奥野みどり、廣田幸子、小林亜由美：専門支援機関相談員からみた発達障害児早期支援における専門支援機関相談員の役割と市町村保健師への役割期待。第6回日本公衆衛生看護学会学術集会、大阪府、2018年1月7日。
社会的教育活動	矢島正榮：実習指導者講習会「教育課程：大学・短大」講師。群馬県看護協会、群馬県前橋市、2017年5月19日。
	矢島正榮：実習指導者講習会「討議法」講師。群馬県看護協会、群馬県前橋市、2017年5月31日・6月23日。
所 属 学 会 研 究 会・ 協 会	日本公衆衛生看護学会、日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護科学学会、日本看護協会、北関東医学会、日本難病看護学会、全国保健師長会
学 会・ 研 究 会 協 会 等 に お け る 役 職、 委 員	一般社団法人全国保健師教育機関協議会理事

教授 小林亜由美	
刊 行 物 (雑誌論文)	伊藤歩美、林邦彦、宮崎有紀子、小林亜由美、井手野由季、高木廣文、岩谷力、鈴木庄亮：膝痛・腰痛をもつ看護職の困難動作。日本健康学会誌、83(4)、p113-125、2017。
口 頭 発 表	橋本いづみ、矢島正榮、小林亜由美、廣田幸子、奥野みどり：20-50 歳台男性の自己申告によるメタボリックシンドロームに関連する行動変容に関する研究。第20回日本地域看護学会学術集会、大分県、2017年8月6日。
	廣田幸子、小林亜由美、矢島正榮、奥野みどり：一村の消防団に所属する青・壮年期男性の生活習慣に関する実態調査。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017年11月1日。
	小林亜由美：高等学校女子生徒の将来の妊娠・出産に向けた健康管理の実態。2017年群馬パース大学附属研究所研究成果報告会、群馬県、2017年11月29日。
	矢島正榮、奥野みどり、廣田幸子、小林亜由美：専門支援機関相談員からみた発達障害児早期支援における専門支援機関相談員の役割と市町村保健師への役割期待。第6回日本公衆衛生看護学会学術集会、大阪府、2018年1月7日。
所 属 学 会 研 究 会・協 会	日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護協会、北関東医学、日本女性医学学会、日本小児保健協会、群馬大学大学院保健学研究科協力研究員（研究内容 女性の生活習慣と健康に関する研究）

准教授 廣田幸子	
口 頭 発 表	廣田幸子、小林亜由美、矢島正榮、奥野みどり：一村の消防団に所属する青・壮年期男性の生活習慣に関する実態調査。第76回日本公衆衛生学会総会、鹿児島県、2017年11月1日。
	橋本いづみ、矢島正榮、小林亜由美、廣田幸子、奥野みどり：20-50歳台男性の自己申告によるメタボリックシンドロームに関連する行動変容に関する研究。第20回日本地域看護学会学術集会、大分県、2017年8月6日。
	矢島正榮、奥野みどり、廣田幸子、小林亜由美：専門支援機関相談員からみた発達障害児早期支援における専門支援機関相談員の役割と市町村保健師への役割期待。第6回日本公衆衛生看護学会学術集会、大阪府、2018年1月7日。
社会的教育活動	廣田幸子：「看護研究」講師。平成29年度群馬県保健師助産師看護師実習指導者講習会。群馬県看護協会、群馬県前橋市、2017年6月20日・6月26日・6月27日・7月10日。
所 属 学 会 研 究 会・協 会	日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本産業衛生学会、日本産業衛生学会関東地方会看護部会、群馬産業看護研究会、健康保険組合連合会群馬保健師・看護師等連絡協議会、日本看護協会、群馬県看護協会
学 会・研 究 会 協 会 等 に お け る 役 職、委 員	日本産業衛生学会関東地方会看護部会 幹事、日本産業衛生学会関東地方会 編集委員、群馬県看護協会 教育委員

◆在宅看護学

准教授 笠井秀子	
社会的教育活動	笠井秀子：長野県訪問看護協会幹事会「終末期における訪問看護の実際」。長野県訪問看護協会、長野県長野市、2017年11月22日。
	笠井秀子：エンドオブライフケアの実際。訪問看護ステーションかえりえ長野、長野県長野市、2018年1月12日。
所 属 学 会 研 究 会・協 会	難病看護学会、緩和ケア学会

助教 山野えり子

所属学会 研究会・協会	日本看護協会、群馬県看護協会、日本訪問看護財団、日本在宅看護学会、日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会
----------------	--

理学療法学科

理学療法学科長 教授 中 徹	
刊 行 物 (分担執筆)	中 徹：第2章発達の診断・評価・療育「7理学療法」. こどものリハビリテーション医学 第3版：発達支援と療育. (伊藤利之)、医学書院、東京、2017：pp88-98.
刊 行 物 (雑誌論文)	中 徹：小児理学療法の現状と課題. 理学療法ジャーナル. 51(12)、2017：pp1059-1066. 鈴木学、細木一成、北村達夫、浅田春美、加藤仁志、橋口優、鳥海亮、中 徹：臨床実習における自宅での課題実施時間および主観的難易度が学生の心理的ストレス反応に及ぼす影響について. 理学療法科学. 33(1)、2018：pp29-32.
口 頭 発 表	橋口優、堤崎宏美、中 徹：自宅での長期臥床経験を持つ脳性麻痺者における 座位姿勢への適応～座位姿勢がもたらす視覚情報の変化への適応を示した一例. 第52回日本理学療法学会学術大会、千葉県、2017年5月11日. 横山美佐子、小塚直樹、井上和広、北原エリ子、齋藤大地、多田智美、辻清張、中林美代子、日浦伸祐、藪中良彦、横井裕一郎、中 徹：小児科を標榜する病院における小児呼吸理学療法の実態調査報告—日本小児理学療法学会が実施した小児理学療法実態調査から—. 第50回日本小児呼吸器学会学術集会、岡山県岡山市、2017年7月3日. 黒川洋明、角田雅博、雨宮馨、甲斐智子、小沢浩、中 徹：超音波画像診断装置による横隔膜運動評価2—カフアシストの有効性の検証—. 第43回日本重症心身障害学会学術大会、宮城県仙台市、2017年9月29日. 角田雅博、黒川洋明、甲斐智子、小沢浩、中 徹：重症心身障害者に対する横隔膜の運動評価方法についての検討①～超音波画像診断装置による右肋間走査・右肋骨弓下走査による測定の信頼性の検討～. 第43回日本重症心身障害学会学術大会、宮城県仙台市、2017年9月29日.
社会的教育活動	中 徹：2017年度 日本理学療法士協会生涯学習機構認定理学療法士（発達障害）必須講習会講師「発達障害の基礎と臨床—脳性まひの評価」、日本理学療法士協会、大阪府大阪市、2017年10月15日. 中 徹：小児リハビリテーションシンポジウム 講師「脳性麻痺のライフステージごとの課題」、鳥取県理学療法士会、鳥取県東伯郡、2017年11月26日. 中 徹：理学療法士講習会 基本編 講師「発達が障がいされた人々に対する基本的な理学療法の評価と介入の枠組—理学療法ガイドラインに基づく小児期よりの長いスパンでの展開—」、日本理学療法士協会・茨城県理学療法士会、茨城県つくば市、2018年1月28日. 中 徹：2016年度 岐阜県講習会 講師「小児理学療法の導入から展開へ～小児理学療法は難しくくない、より多くの子ども達が理学療法を受けられることができるために～」、岐阜県・岐阜県理学療法士会、岐阜県岐阜市、2018年2月11日.
所 属 学 会 研 究 会 ・ 協 会	日本理学療法士協会、日本小児理学療法学会、日本神経理学療法学会、日本基礎理学療法学会、日本重症心身障害学会、日本リハビリテーション医学会、日本法医学会、運動療法研究会、日本ボバース研究会、重症心身障害理学療法研究会
学 会 ・ 研 究 会 協 会 等 に お け る 役 職 ・ 委 員	公社) 日本理学療法士協会日本小児理学療法学会代表運営幹事代表、公社) 日本理学療法士協会日本神経理学療法学会代表運営幹事代表、理学療法学 査読委員、Journal of the Japanese Physical Therapy Association 査読委員、小児リハビリテーション 編集委員
国 ・ 自 治 体 等 公 的 機 関 の 委 員 委 託	日本高等教育評価機構評価員、日本リハビリテーション学校協会評価員

教授 木村 朗	
刊 行 物 (著 書)	木村朗：身体活動学入門。三共出版、東京、2018年3月10日。
刊 行 物 (分 担 執 筆)	木村朗：地域包括ケア、保健、予防の取り組み。理学療法概論テキスト。(中島喜代彦 他)、南江堂、東京、2017：pp86-87。
刊 行 物 (雑 誌 論 文)	木村朗：沖縄県健康長寿地域の高齢者の脈波伝搬速度と生活環境の関連性。日本公衆衛生理学療法雑誌。5(1)、2017：pp1-7。 木村朗：沖縄県健康長寿地域の高齢者の血管機能と身体活動歴の関連性。日本公衆衛生理学療法雑誌。5(2)、2017：pp10-17。 木村朗：1990年代後半生まれの大学生における血糖スパイクと出生時から学童期に至る体重との関連性。日本公衆衛生理学療法雑誌。5(2)、2017：pp18-23。 Akira Kimura: Efficacy of Stroke Elderly with Unconsciousness Movement during Non-REM Sleep on Vascular-Health in Years. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation. 98(10). 2017: ODI: 10.1016/j.apmr.2017.08.198. Akira Kimura: Identification of Motor Ability after Stroke through Innovative Muscle Movement Sensor Information: A Pilot Study. ACRM2017. Atlanta. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation. 98(10). 2017: ODI: 10.1016/j.apmr.2017.08.229.
口 頭 発 表	Akira Kimura: EFFECTIVENESS OF CONTINUATION PHYSICAL MEDICINE PROGRAM ON VASCULAR HEALTH OF PEOPLE WITH STROKE. 11th Annual Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM2017国際リハビリテーション医学会)、プエノスアイリス、アルゼンチン、2017年4月30日。 Akira Kimura: What are the developmental complex factors that predict Obesity in 20-year-old adolescents. 24th European Congress on Obesity (欧州肥満学会 2017)、ポルト、ポルトガル、2017年5月18日。 Akira Kimura. Yu Hsshiguchi, Masahiro Torige: What are the individual factors and environmental factors most relevant to the excellent vascular function of healthy people in Okinawa. WCPT-AWP (アジア西太平洋国際理学療法会議) 2017、バンコク、タイ、2017年6月28日。 Masaya Tanabe. Masahiro Torige. Akira Kimura: To find actions that can easily predict degradation of Pulse Wave Velocity for elderly people. WCPT-AWP (アジア西太平洋国際理学療法会議) 2017、バンコク、タイ、2017年6月28日。 鳥毛正弘、木村朗：要介護高齢者における血圧の日内変動の差が及ぼすPWV異常性の探索的検討。日本公衆衛生理学療法研究会、東京都千代田区、京都大学東京オフィス、2017年8月26日。 田辺将也、鳥毛正弘、木村朗：施設利用高齢者における脈波伝搬速度(PWV)の悪化を発見する動作パフォーマンスの検討。日本公衆衛生理学療法研究会、東京都千代田区、京都大学東京オフィス、2017年8月26日。 木村朗：沖縄県大宜味村における血管機能良好者の身体動作における人間特性の傾向。日本公衆衛生理学療法研究会、東京都千代田区、京都大学東京オフィス、2017年8月26日。 Akira Kimura: Efficacy of Stroke Elderly with Unconsciousness Movement during Non-REM Sleep on Vascular-Health in Years. ACRM2017, Atlanta, USA. 2017, 2017年10月1日。 Akira Kimura: Identification of Motor Ability after Stroke through Innovative Muscle Movement Sensor Information: A Pilot Study. ACRM2017, Atlanta, USA. 2017, 2017年10月1日。 木村朗：大学生における健康リテラシーと血糖値スパイクの関連性が示すものは何か？第76回日本公衆衛生学会、鹿児島県鹿児島市、2017年11月1日。 Akira Kimura: Which the high favorable selected program is for visually impaired T2DM patients living in the suburbs of Japan. IDF2017, Abu Dhabi, UAE, 2017年12月5日。

社会的教育活動	木村朗：特別講演「予防と理学療法 子どもの代謝の立場から」。第52回日本理学療法学会大会・日本小児理学療法学会企画、千葉県千葉市、2017年5月13日。
	木村朗：草津町視覚障害者の自己健康づくり支援（健康指標測定と健康リテラシー向上のための講演）。木村朗研究室、群馬県草津町、2017年8月24日。
	木村朗：公衆衛生領域の理学療法に興味のある人に対する国際的動向に関する講演。利用者利益の視点に基づく公衆衛生における理学療法、理学療法サービスはいくらなのか？世界最大の理学療法クリニックセンターができたバンコクのフィールド調査から。日本公衆衛生理学療法研究会、東京都千代田区、京都大学東京オフィス、2017年8月26日。
	木村朗：大宜味村の高齢者の自己健康づくり支援（健康指標測定と健康リテラシー向上のための講演）。木村朗研究室、群馬県草津町、2017年9月2～5日。
	木村朗：草津町視覚障害者の自己健康づくり支援（健康指標測定と健康リテラシー向上のための講演）。木村朗研究室、群馬県草津町、2018年3月29日。
所属学会 研究会・協会	日本理学療法士協会、理学療法科学学会、日本公衆衛生理学療法研究会、日本公衆衛生学会、日本糖尿病学会、日本疫学会、日本動脈硬化学会、日本肥満学会、日本高血圧学会、日本計算機統計学会、情報処理学会、人工知能学会、国際環境複合学会、米国リハビリテーション医学会、国際肥満学会、DIPEX-Japan ほか
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本理学療法士協会・生涯教育部会検証小委員会委員、日本公衆衛生学会モニタリング委員会親子保健委員、日本公衆衛生理学療法研究会代表、国際環境複合要因学会理事、DIPEX-Japan 理事

教授 鈴木 学	
刊行物 (分担執筆)	鈴木学：各論 IX. ロービジョン. 標準理学療法学（専門分野）日常生活活動学・生活環境学 第5版。（鶴見隆正、隆島研吾）、医学書院、東京、2017：pp208-213.
刊行物 (雑誌論文)	鈴木学、細木一成、北村達夫、浅田春美、橋口優、鳥海亮、中 徹：臨床実習における自宅での課題実施時間および主観的難易度が学生の心理的ストレス反応に及ぼす影響について。理学療法科学、33(1)、2018：pp29-32.
口頭発表	小菅汐莉、田村瑞季、鈴木学：前期高齢者時期の運動習慣が後期高齢者時期の介護保険の認定調査の「基本調査」の得点との関連について。第52回日本理学療法学会大会、幕張メッセ、千葉県、2017年5月12日。
	坂本歩実、内田木子、清水葵、鈴木学：通所リハビリテーションを利用する維持期の脳卒中片麻痺患者に対する移動手段、理学療法介入頻度とQOLの関連について。第52回日本理学療法学会大会、幕張メッセ、千葉県、2017年5月12日。
	石川真暉、新家隆佑、鈴木学：学生の性格による実習前の不安および実習中のストレスとの関連について。第52回日本理学療法学会大会、幕張メッセ、千葉県、2017年5月13日。
	鈴木学、細木一成、北村達夫、浅田春美、橋口優、加藤仁志、鳥海亮、中 徹：臨床実習における自宅での課題実施時間および主観的難易度が学生の心理的ストレス反応に及ぼす影響について。第52回日本理学療法学会大会、幕張メッセ、千葉県、2017年5月13日。
	塩田麻人、前谷大地、鈴木学：高校男子サッカー部におけるウォーミングアップ及びクールダウン時間が傷害発生頻度に与える影響の検討：第52回日本理学療法学会大会、幕張メッセ、千葉県、2017年5月14日。
所属学会 研究会・協会	日本理学療法士協会、理学療法科学学会、医学教育学会

准教授 目黒 力	
所属学会 研究会・協会	日本理学療法士協会、全国大学理学療法学会、日本建築学会、日本地域政策学会、交通工学研究会、土木学会、理学療法科学学会、日本都市計画学会
国・自治体等 公的機関の 委員委託	日本高等教育評価機構 評価員

准教授 宗宮 真	
口頭発表	大竹弘哲、宗宮真、田澤昌之：ICU入院例に対する干渉波電流型低周波治療器を用いた嚔下訓練。第54回日本リハビリテーション医学会学術集会、岡山県、2017年6月9日。
所属学会 研究会・協会	日本リハビリテーション医学会、日本神経学会、日本老年医学会、日本内科学会、群馬リハビリテーション医学研究会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	群馬リハビリテーション医学研究会 理事、日本リハビリテーション医学会 専門医試験委員、群馬健康医学振興会研究助成 選考委員

准教授 浅田春美	
刊行物 (雑誌論文)	鈴木学、細木一成、北村達夫、浅田春美、加藤仁志、橋口優、鳥海亮、中 徹：臨床実習における自宅での課題実施時間および主観的難易度が学生の心理的ストレス反応に及ぼす影響について。理学療法科学。33(1)、2018：pp29-32。
口頭発表	鈴木学：臨床実習における自宅学習課題の実施時間および主観的難易度が心理的ストレス反応に及ぼす影響。第52回日本理学療法学会学術大会、岐阜県、2017年5月13日。
社会的教育活動	浅田春美：「尿失禁予防教室」講師。大田区蒲田地域福祉課高齢者支援、東京都大田区、2017年9月14日・28日・12月21日。 浅田春美：介護予防教室における運動指導講師（介護予防一次予防対象者）。蒲田東地域包括支援センター、東京都大田区、2017年9月15日・2018年3月20日。
所属学会 研究会・協会	日本理学療法士協会、日本理学療法教育学会、理学療法科学学会、日本医学教育学会、日本老年医学会、全国大学理学療法学会

准教授 岡崎大資	
刊行物 (雑誌論文)	佐藤雅浩、岡崎大資、倉田浩充：温熱刺激及び温熱振動磁気刺激による痙縮抑制効果の比較。物理療法科学。24、2017：pp41-46。
口頭発表	岡崎大資：アクセプタンス&コミットメント・セラピーによる疼痛耐性に及ぼす影響。第88回理学療法科学学会学術大会、埼玉県、2017年4月16日。 佐藤雅浩、岡崎大資、倉田浩充、他：腰背部への神経筋電気刺激がバランス能力に与える影響。第25回日本物理療法学会学術大会、奈良県、2017年10月28日。
社会的教育活動	岡崎大資：一般介護予防事業運動指導。浜尻町・稲荷町運動教室。高崎市高齢者あんしんセンター希望館、群馬県高崎市、2017年6～8月、10～12月（計10回）。 岡崎大資：渋川市ふれあいいきいきサロン講師。渋川市社会福祉協議会、群馬県渋川市赤城町、2017年7月19日・10月24日・11月15日・2018年2月27日・3月14日。 岡崎大資：ヴィラージュ尾瀬入居者セミナー。ヴィラージュ尾瀬、群馬県利根郡川場村、2017年7月25日・11月21日・2018年2月13日。

	岡崎大資：寝たきりにならないために今からできること。日本吟道学院北関東地区連合会、群馬県前橋市、2017年8月26日。
	岡崎大資：痛みに対する物理療法の基礎。徳島文理大学理学療法学科同窓会、徳島県徳島市、2017年9月17日。
	岡崎大資：痛み治療の新展開。徳島文理大学理学療法学科同窓会、徳島県徳島市、2017年9月17日。
	岡崎大資：腰・膝痛の理解と対策。塚沢ふれあいいきいきサロン。高齢者あんしんセンター希望館、群馬県高崎市、2017年9月19日。
	岡崎大資・奥野みどり：渋川市健康推進員へのInBody測定と生活習慣改善のポイント講座。渋川市保健センター、群馬県渋川市、2017年9月21日。
	岡崎大資・目黒力・浅田春美：ロコモティブシンドロームとは・ロコモ度チェック。第18回ぐんま福祉車輛展、上毛新聞社、群馬県高崎市、2017年9月23日。
	岡崎大資・奥野みどり：元気アップ教室講師：InBody計測と説明。渋川市保健センター、群馬県渋川市、2017年10月13日。
	岡崎大資：腰・膝痛の理解と対策。井野町自主グループ運動教室。高齢者あんしんセンター希望館、群馬県高崎市、2017年10月17日。
	岡崎大資：慢性痛みリハビリテーションの新展開 一生活期リハにおけるQOLに注目して一。利根沼田リハビリテーション研究会、群馬県利根郡川場村、2017年10月24日。
	岡崎大資：ヴィラージュ尾瀬職員研修：腰痛の原理と予防方法。ヴィラージュ尾瀬、群馬県利根郡川場村、2018年2月21日。
所属学会 研究会・協会	日本理学療法士協会、日本物理療法学会、理学療法科学会、日本リハビリテーション医学会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本理学療法士学会物理療法部門 代表運営幹事、日本物理療法学会理事・助成研究先行委員会

講師 城下貴司	
刊行物 (雑誌論文)	城下貴司：走行動作における足内側縦アーチと足関節モーメントとの関係 歩行動作との比較。日本整形外科学スポーツ医学会雑誌、37(2)、2017：pp175-180。
口頭発表	城下貴司：ハイヒール歩行の重心移動解析 裸足歩行との比較。第52回理学療法学会学術大会、千葉県、2017年5月。
	Takashi Shiroshita: The center of gravity movement analysis of the high-heeled gait: In comparison with the barefoot gait. World Confederation for Physical Therapy Congress 2017, Cape Town, 2017年7月2～4日。
	Takashi Shiroshita: Effect of the towel curl exercise on the medial longitudinal arch of foot. The Second World Congress of Sports Physical Therapy, Titanic Belfast, 2017年10月。
社会的教育活動	城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会講師「第73回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 股関節疾患 Part 2 (主に治療編) Again!」。NPO法人BodyLogic研究会、東京都、2017年4月30日。
	城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会講師「第74回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 足関節—Part 1—徹底的に基礎!」。NPO法人BodyLogic研究会、東京都、2017年5月3日。
	城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会講師「第75回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 肘関節疾患編」。NPO法人BodyLogic研究会、東京都、2017年5月28日。

城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第76回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 整形外科のテスト 脊柱編！」。 NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2017年 6月11日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第77回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 足関節—Part 1—徹底的に基礎 Again！！」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2017年 6月18日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第78回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 足関節 Part 2」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2017年 8月 6日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第79回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 胸腰椎疾患（評価編）」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2017年 9月 3日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第80回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 股関節 part 3（主に手術編）」。 NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2017年 9月17日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「理学療法士がスポーツ現場に出る前に抑えておきたい救急法」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、 東京都、2017年 9月24日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第81回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 胸腰椎（治療編）」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2017年10月15日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「Jenny McConnell Taping 勉強会 Part 1 足関節」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、 2017年11月 3日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第82回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 膝関節疾患 Part 1」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2017年11月 9日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第83回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 膝関節疾患 Part 2」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2017年12月17日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第84回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 足関節—Part 1—徹底的に基礎」。 NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2018年 1月14日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第86回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 足関節 Part 2」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2018年 2月12日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第87回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 肩関節 Part 2（主に肩甲胸郭関節 編）」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2018年 3月 4日。
城下貴司：理学療法士協会専門理学療法士制度ポイント認定講習会 東京都理学療法士協会後援研修会 講師「第88回 今さら聞けない！運動器系理学療法の理論と技術 足関節—Part 3—疾患別+テーピ ング」。NPO 法人 BodyLogic 研究会、東京都、2018年 3月18日。
城下貴司：メディカルサポート。東京都立小平高校硬式野球部、東京都小平市、2017年 5月 3～5日・ 6月 9日・6月23日・6月30日・7月 9日・8月14日・15日・9月 2日・9月23日・10月19日・11月17 日・12月29日・1月20日・2月10日・3月10日。
城下貴司：ブラインドサッカー選手（加藤健人さん）招致。群馬パース大学流星祭、群馬県高崎市、 2017年10月28日。

所属学会 研究会・協会	日本理学療法士協会、日本足の外科学会、日本臨床スポーツ医学、日本スポーツ整形外科学会、バイオメカニズム学会、徒手の理学療法研究会、身体運動研究会、理学療法科学会、Journal of Physical Therapy Science、European College of Sport Science、American College of Sports Medicine、The Association Chartered Physiotherapists in Sports and Exercise Medicine
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本理学療法士協会全国学術大会 査読者、徒手の理学療法研究会 評議員、Journal of Physical Therapy Science 査読者・優秀論文賞選考委員、理学療法科学学会 優秀論文賞選考委員
当年度中の受賞	障がい者スポーツ指導員2級更新、NSCA-CSCS-Certified Strength and Conditioning Specialist 更新、NSCA Certified Personal Trainer 更新、The American Medical Association AMA Physician's recognition Award Category 1 Credits™ 23point 取得 (Sports Medicine by THE HARVARD MEDICAL)

講師 黒川 望

所属学会 研究会・協会	日本理学療法士協会、日本健康行動科学会、Society for Neuroscience、日本生理人類学会、日本生理人類学会 姿勢研究部会
----------------	---

助教 橋口 優

刊行物 (雑誌論文)	Hashiguchi Y, Ohata K, Osako S, Kitatani R, Aga Y, Masaki M, Yamada S.: Number of Synergies Is Dependent on Spasticity and Gait Kinetics in Children With Cerebral Palsy. Pediatric Physical Therapy. 30(1), 2018: pp34-38. 橋口優：理学療法アラカルト～特別支援教育と理学療法～. 群馬県理学療法士協会ニュース「源流」. 2018.
社会的教育活動	橋口優：群馬県理学療法士協会 小児リハビリ部 第1回研修会～療育における理学療法～. 群馬県理学療法士協会、群馬県前橋市、2017年8月9日. 橋口優：ほたかりハ懇話会 研修会～筋電図学的な指標と病態像や運動機能との関連～. ほたかりハ懇話会、群馬県高崎市、2017年7月26日.
当年度中の 学位(博士) 取得	京都大学医学研究科人間健康科学専攻にて博士(人間健康科学) 取得

助手 鳥海 亮

刊行物 (雑誌論文)	鈴木学、細木一成、北村達夫、浅田春美、橋口優、鳥海亮、中 徹：臨床実習における自宅での課題実施時間および主観的難易度が学生の心理的ストレス反応に及ぼす影響について. 理学療法科学. 33(1)、2018：pp29-32.
口頭発表	小島志緒里、大河原玲奈、加藤仁志、鳥海亮、入山渉：理学療法学科学生における認知症高齢者のイメージに関する縦断研究. 第52回日本理学療法学会学術大会、千葉県、2017年5月12日. 加藤仁志、星隆太、萩原俊樹、鳥海亮、入山渉、橋口優：動物に対する理学療法の利用条件の検討 ―飼育犬の有無による差異―. 第52回日本理学療法学会学術大会、千葉県、2017年5月14日. 南澤拓美、加藤仁志、鳥海亮、入山渉：理学療法士における地域包括ケアシステムの認知度および理解度. 第52回日本理学療法学会学術大会、千葉県、2017年5月13日. 鈴木学、細木一成、北村達夫、浅田春美、橋口優、加藤仁志、鳥海亮、中 徹：臨床実習における自宅での課題実施時間および主観的難易度が学生の心理的ストレス反応に及ぼす影響について. 第52回日本理学療法学会学術大会、千葉県、2017年5月13日. 加藤仁志、星隆太、萩原俊樹、鳥海亮、入山渉、橋口優：動物に対する理学療法の利用条件の検討 ―飼育犬の有無による差異―. 第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会、長野県、2017年9月23日.

所属学会 研究会・協会	日本理学療法士学会、ほたかりハ懇話会
----------------	--------------------

保健科学研究科長兼保健科学部長兼検査技術学科長 教授 藤田清貴	
刊 行 物 (分 担 執 筆)	藤田清貴：第3章免疫学的検査の現場 A免疫学的検査の原理 II. 沈降反応. 臨床検査学講座 免疫検査学第1版. (窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子編)、医歯薬出版、東京、2017：pp107-109.
	藤田清貴：第3章免疫学的検査の現場 A免疫学的検査の原理 III. 凝集反応. 臨床検査学講座 免疫検査学第1版. (窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子編)、医歯薬出版、東京、2017：pp110-115.
	藤田清貴：第3章免疫学的検査の現場 A免疫学的検査の原理 VI. 非標識免疫測定法. 臨床検査学講座 免疫検査学第1版. (窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子編)、医歯薬出版、東京、2017：pp122-125.
	藤田清貴：第3章免疫学的検査の現場 A免疫学的検査の原理 VIII. 免疫電気泳動法. 臨床検査学講座 免疫検査学第1版. (窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子編)、医歯薬出版、東京、2017：pp134-143.
	藤田清貴：第3章免疫学的検査の現場 B免疫学的検査の実際 III 1～3. 自己免疫疾患関連検査. 臨床検査学講座 免疫検査学第1版. (窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子編)、医歯薬出版、東京、2017：pp199-209.
	藤田清貴：第3章免疫学的検査の現場 B免疫学的検査の実際 VI. 血清蛋白異常症関連検査. 臨床検査学講座 免疫検査学第1版. (窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子編)、医歯薬出版、東京、2017：pp220-232.
	藤田清貴：第3章臨床免疫検査法の原理と技術 2.4 血清蛋白分画および免疫電気泳動. 臨床免疫検査技術教本. (池田勝義、石橋みどり、新関紀康、中町裕司、坂西清編)、丸善出版、東京、2017：pp143-147.
	藤田清貴：第3章臨床免疫検査法の原理と技術 2.6 イムノプロット (ウエスタンプロット) 法. 臨床免疫検査技術教本. (池田勝義、石橋みどり、新関紀康、中町裕司、坂西清編)、丸善出版、東京、2017：pp151-153.
	藤田清貴、阿部雅仁、石垣宏尚：V免疫検査法 2 沈降反応 (二重免疫拡散法). 免疫検査学 実習書. (加藤亮二、利光央編)、医歯薬出版、東京、2017：pp63-67.
	藤田清貴、阿部雅仁、石垣宏尚：V免疫検査法 3 免疫比濁法 (CRP 測定). 免疫検査学 実習書. (加藤亮二、利光央編)、医歯薬出版、東京、2017：pp68-70.
	藤田清貴、阿部雅仁、石垣宏尚：V免疫検査法 4 凝集反応 5 リウマトイド因子. 免疫検査学 実習書. (加藤亮二、利光央編)、医歯薬出版、東京、2017：pp85-87.
	藤田清貴、川崎健治：V免疫検査法 6 標識反応 3 イムノプロット法. 免疫検査学 実習書. (加藤亮二、利光央編)、医歯薬出版、東京、2017：pp118-122.
	藤田清貴、阿部雅仁、石垣宏尚：V免疫検査法 8 免疫電気泳動検査. 免疫検査学 実習書. (加藤亮二、利光央編)、医歯薬出版、東京、2017：pp126-132.
藤田清貴：VII学内実習モデル 3モデルC. 免疫検査学 実習書. (加藤亮二、利光央編)、医歯薬出版、東京、2017：pp167-168.	
刊 行 物 (雑 誌 論 文)	藤田清貴：検査説明Q&A 第25回「M蛋白血症の患者で、M蛋白以外の軽鎖 (L 鎖) の沈降線に歪みが認められました、どのようなことが考えられますか?」。臨床検査. 61(2)、医学書院、東京、2017：pp206-210.
	藤田清貴：ピットフォール事例の収集・共有の意義について. The Medical & Test Journal. じほう、東京、2017：pp4.
	藤田清貴、木村博一、長澤耕男、森田幸雄、吉住あゆみ、水越文徳：ヒトノロウイルス感染症の疫学・分子疫学に関する最新の知見. 感染制御と予防衛生. 1(1)、メディカルレビュー社、大阪、2017：pp12-18.

	藤田清貴、木村博一、長澤耕男、森田幸雄、吉住あゆみ：ノロウイルス感染症の疫学・分子疫学. 臨床と微生物. 44(6)、近代出版、東京、2017：pp57-59.
	藤田清貴、岡山香里、長田誠、小河原はつ江、高橋克典、古田島伸雄、石垣宏尚、白土佳子、浅見知市郎、荒木康久、亀子光明：1期生を輩出した新学科における国家試験対策評価と今後の課題. In print. 2017、(査読有 共同) 論文の種類：学術論文
口頭発表	藤田清貴：招待講演・ワークショップ 序論：ピットフォール発生機序と発見の端緒. 第57回臨床化学学会年次学術集会、北海道、2017年10月7日.
	藤田清貴、長田誠、大澤満、佐々木知幸、井上修、井上克枝：血小板活性化により生成される可溶性CLEC-2の測定法に関する有用性. 第57回臨床化学学会年次学術集会、北海道大学クラーク会館、北海道、2017年10月7日.
	藤田清貴、藤本友香、浅見知市郎、古田島伸雄、町田哲男、村上正巳、小河原はつ江：加齢に伴う末梢血リンパ球サブセットの変動について. 第57回臨床化学学会学術総会、北海道大学クラーク会館、北海道、2017年10月7日.
社会的教育活動	藤田清貴：特別講演「免疫電気泳動の読み方」. 第37回田沢湖セミナー、秋田県田沢湖町、2017年7月9日.
所属学会研究会・協会	日本電気泳動学会、日本臨床化学会、日本臨床検査医学会、日本臨床検査学教育学会、日本臨床検査技師会
学会・研究会協会等における役職、委員	日本臨床検査医学会 功労会員、日本臨床化学会 有功会員、日本臨床検査学教育学会 評議員

教授 亀子光明	
刊行物 (分担執筆)	亀子光明：その他の臨床免疫検査. 臨床免疫検査技術教本. (一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会監修)、丸善出版、東京、2017：pp165-175.
	亀子光明：アミノ酸分析2種類(チロシン、フェニルアラニン). 臨床検査データブック LAB DATA 2017-2018. (黒川清、春日雅人、北村聖編集)、医学書院、東京、2017：pp99.
	亀子光明：免疫学的測定法. 新版 臨床化学 第3版. (片山善章、栢森裕三、長村洋一編)、講談社、東京、2017：pp50-54.
所属学会研究会・協会	日本臨床化学会、日本臨床検査医学会、日本臨床検査自動化学会、日本静脈経腸栄養学会、日本臨床衛生検査技師会、日本食品安全協会

教授 小河原はつ江	
刊行物 (分担執筆)	小河原はつ江、他12名：V-1血小板機能検査. 血液検査学実習書 第1版第4刷. (三村邦裕編)、医歯薬出版株式会社、東京、2017：pp 80-93.
	小河原はつ江、他9名：Ⅲインタープロフェッショナル教育 群馬大学におけるIPEの沿革およびその運営. 実践チーム医療論 実際と教育プログラム 第1版第6刷. (水本清久、岡本牧人、石井邦雄、土本寛二編著)、医歯薬出版株式会社、東京、2017：pp261-268.
	小河原はつ江：第8章I血小板機能検査、V凝固・線溶分子マーカー. 最新臨床検査学講座 血液検査学 第1版第4刷. (奈良信雄、他6名共著)、医歯薬出版株式会社、東京、2018：pp159-166、pp261-268.

口 頭 発 表	藤本友香、浅見知市郎、古田島伸雄、町田哲男、村上正巳、小河原はつ江、藤田清貴：加齢に伴う末梢血リンパ球サブセットの変動について。第57回臨床化学学会年次学術集会、北海道札幌市、2017年10月8日。
	Yuka fujimoto-satoh, Hatsue Ogawara, Tomoichirou Asami, Nobuo Kotajima1, Hirofumi Kitamura, Yoshiharu Tokita, Masumi Yanagawa, Tetsuo Machida, Masami Murakami: Setting of the new standard value of T lymphocyte subset in healthy subjects over the age of 60 years. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine WASPaLM 2017、兵庫県神戸市、2017年10月16日。
	藤本友香、浅見知市郎、白土佳子、古田島伸雄、柳川益美、北村弘文、町田哲男、村上正巳、時田佳治、小河原はつ江：生活習慣が末梢血リンパ球サブセットに及ぼす影響 第2報。第24回日本未病システム学会学術総会、神奈川県横浜市、2017年11月5日。
	中里見菜央、田中彩和子、白土佳子、藤本友香、小河原はつ江、福生吉裕：ノック式胸腺刺激法のNK細胞活性化に及ぼす影響について フローサイトメトリーによる評価。第24回日本未病システム学会学術総会、神奈川県横浜市、2017年11月5日。
所 属 学 会 研 究 会・ 協 会	日本検査血液学会、日本臨床検査医学会、日本未病システム学会、日本臨床衛生検査技師会、日本職業・環境アレルギー学会、日本臨床検査学教育学会、日本保健医療福祉連携教育学会
学 会・ 研 究 会 協 会 等 に お け る 役 職、 委 員	日本未病システム学会 評議員

教授 荒木康久	
刊 行 物 (雑 誌 論 文)	Hatakeyama, S., Tokuoka, S., Abe, H., Araki, Y., Araki, Y.: Cryopreservation of very low numbers of spermatozoa from male patients undergoing infertility treatment using agarose capsules. Human Cell, 30(3), 2017: pp201-208.
	Sugawara, N., Sato, R., Kato, M., Manome, T., Kimura, Y., Araki, Y., Araki, Y.: Bilateral tubal pregnancies after a single-embryo transfer. Reproductive Medicine and Biology, 16(4), 2017: pp396-400.
	菅原延夫、佐藤理恵、加藤美佳、間野日智美、木村康之、荒木康久、荒木泰行：凍結融解移植後に確認された結合体例。日本受精着床学会雑誌。34(1)、2017：pp143-146.
社会的教育活動	荒木康久：岩端クリニック勉強会。(岩端俊久/倫久)。静岡県沼津市、2017年4月13日。
	荒木康久：北原レディース勉強会。(北原毅人)。長野県松本市、2017年5月13日。
	荒木康久：群馬県生殖研究会開催 役員。群馬県前橋市、2017年5月27日。
	荒木康久：日本不妊カウンセラー学会 講演。東京都、2017年6月4日。
	荒木康久・助産師特別講義。桐生大学、群馬県桐生市、2017年6月19日。
	荒木康久：北原レディース勉強会。(北原毅人)。長野県松本市、2017年5月13日。
	荒木康久：京野クリニック倫理委員会。(京野廣一)。東京都品川区、2017年7月29日。
	荒木康久：岡山大学生殖技術者教育セミナー 講演。岡山大学、東京都、2017年9月10日。
	荒木康久：群馬パース大学公開講座 生殖分野講演。群馬パース大学、群馬県高崎市、2017年10月21日。
	荒木康久：茨城不妊懇話会(石渡勇、塙 清) 講演。茨城県つくば市、2017年11月26日。
	荒木康久：日本生殖発生医学会 座長(培養液について竜馬氏講演)。東京都、2018年3月18日。
	荒木康久：エンブリオロジストのためのPGS/PGDを学ぶ会主催。群馬県高崎市、2017年9月23～24日。
所 属 学 会 研 究 会・ 協 会	日本 IVF 学会 (仙台 2017年9月30日～10月1日参加)
	第11回環太平洋生殖医学会 PSRM2017 (大阪 2017年10月14日～15日参加)

	日本不妊カウンセラー学会、日本受精着床学会、生殖バイオロジー東京シンポジウム、日本エンブリオロジスト学会、日本生殖発生医学会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本不妊カウンセラー学会 評議員 2017/6/3-4、日本受精着床学会 評議員 2017/7/20-21、生殖バイオロジー東京シンポジウム 理事 2017/9/2-3、日本エンブリオロジスト学会 名誉会員 東京 2018/1/6-7、日本生殖発生医学会 理事 東京 2018/3/18

教授 木村博一	
刊行物 (分担執筆)	木村博一、長澤耕男、森田幸雄、水越文徳、藤田清貴：ヒトノロウイルス感染症の疫学・分子疫学に関する最新の知見。感染制御と予防衛生（木村博一）、メディカルレビュー社、東京、2017：pp12-18
	木村博一、長澤耕男、森田幸雄、吉住あゆみ、藤田清貴：ノロウイルス感染症の疫学・分子疫学。臨床と微生物（牛島廣治）、2017：pp57-59.
刊行物 (雑誌論文)	藤田清貴、木村博一、長澤耕男、森田幸雄、吉住あゆみ、水越文徳：ヒトノロウイルス感染症の疫学・分子疫学に関する最新の知見。感染制御と予防衛生。1(1)、メディカルレビュー社、大阪、2017：pp12-18.
	藤田清貴、木村博一、長澤耕男、森田幸雄、吉住あゆみ：ノロウイルス感染症の疫学・分子疫学。臨床と微生物。44(6)、近代出版、東京、2017：pp57-59.
	Saraya T, Kimura H, Kurai D, Ishii H, Takizawa T.: The molecular epidemiology of respiratory viruses associated with asthma attacks: a single-center observational study in Japan. <i>Medicine</i> . 96(42), 2017; DOI: 10.1097/MD.00000000000008204.
	Miyakawa K, Nishi M, Matsunaga S, Okayama A, Anraku M, Kudoh A, Hirano H, Kimura H, Morikawa Y, Yamamoto N, Ono A, Ryo A.: The tumour suppressor APC promotes HIV-1 assembly via interaction with Gag precursor protein. <i>Nat Commun</i> . 30, 2017; DOI: 10.1038/ncomms14259.
	Kusunoki H, Tanaka T, Kohno T, Kimura H, Hosoda K, Wakamatsue K, Hamaguchi I.: Expression, purification and characterization of hepatitis B virus X protein BH3-like motif-linker-Bcl-xL fusion protein for structural studies. <i>Biochem Biophys Rep</i> . 9, 2017; pp159-165.
	Tsutsui R, Tsukagoshi H, Nagasawa K, Takahashi M, Matsushima Y, Ryo A, Kuroda M, Takami H, Kimura H.: Genetic analyses of the fusion protein genes in human parainfluenza virus types 1 and 3 among patients with acute respiratory infections in Eastern Japan from 2011 to 2015. <i>J Med Microbiol</i> . 66(2), 2017; pp160-168.
	Saraya T, Watanabe T, Tsukahara Y, Ohkuma K, Ishii H, Kimura H, Yan K, Goto H, Takizawa H.: Comparisons of Clinical and Radiological Findings between Child and Adult Patients with Mycoplasma pneumoniae Pneumonia: Scoring System Values on Chest X-Ray. <i>Inter Med</i> . 56(21), 2017; pp2845-2849.
	Mizukoshi F, Nagasawa K, Doan YH, Haga K, Yoshizumi S, Ueki Y, Shinohara M, Ishikawa M, Sakon N, Shigemoto N, Okamoto-Nakagawa R, Ochi A, Murakami K, Ryo A, Suzuki Y, Katayama K, Kimura H.: Molecular evolution of the RNA-dependent RNA polymerase and capsid genes of human norovirus genotype GII.2 in Japan during 2004-2015. <i>Front Microbiol</i> . 8, 2017; DOI: 10.3389/fmicb.2017.00705.
	Takada K, Komine-Aizawa S, Hirohata N, Trinh QD, Nishina A, Kimura H, Hayakawa S.: Poly I: C induces collective migration of HaCaT keratinocytes via IL-8. <i>BMC Immunol</i> . 18, 2017; DOI: 10.1186/s12865-017-0202-3.
	Nishina A, Itagaki M, Suzuki Y, Koketsu M, Ninomiya M, Sato D, Suzuki T, Hayakawa S, Kuroda M, Kimura H.: Effects of flavonoids and triterpene analogues from leaves of <i>Eleutherococcus sieboldianus</i> (Makino) Koidz. 'Himeukogi' in 3T3-L1 preadipocytes. <i>Molecules</i> . 22(4), 2017; DOI: 10.3390/molecules22040671.

	<p>Kataoka Y, Murakami K, Torii Y, Kimura H, Maeda-Mitani E, Shigemura H, Fujimoto S, Murakami S.: Reduction in the prevalence of AmpC β-lactamase CMY-2 in Salmonella from chicken meat following cessation of the use of ceftiofur in Japan. <i>J Glob Antimicrob Resist</i>. S2213-7165(17), 2017: DOI: 10.1016/j.jgar.2017.05.003.</p> <p>Matsushima Y, Shimizu T, Doi I, Mizukoshi F, Nagasawa K, Ryo A, Shimizu H, Kobayashi M, Funatogawa K, Nagata N, Ishikawa M, Komane A, Okabe N, Mori Y, Takeda M, Kimura H.: A detection method for the rash and fever illness-associated viruses using multiplex RT-PCR. <i>Microbiol Immunol</i>. 61(8), 2017: pp337-344.</p> <p>Kaneko M, Takanashi S, Thongprachum A, Hanaoka N, Fujimoto T, Nagasawa K, Kimura H, Okitsu S, Mizuguchi M, Ushijima H.: Identification of vaccine-derived rotavirus strains in children with acute gastroenteritis in Japan, 2012-2015. <i>PLOS ONE</i>. 12(9), 2017: DOI: 10.1371/journal.pone.0184067.</p> <p>Utsumi T, Lusida MI, Dinana, Wahyuni RM, Yamani LN, Soetjipto J, Matsui C, Deng L, Abe T, Doan YH, Fujii Y, Kimura H, Katayama K, Shoji I.: Occurrence of norovirus infection in an asymptomatic population in Indonesia. <i>Infect Genet Evol</i>. 55, 2017: pp1-7.</p> <p>Motoya T, Nagasawa K, Matsushima Y, Nagata N, Ryo A, Sekizuka T, Yamashita A, Kuroda M, Morita Y, Suzuki Y, Sasaki N, Katayama K, Kimura H.: Molecular evolution of the VP1 gene in human norovirus GII. 4 variants in 1974-2015. <i>Front Microbiol</i>. 8, 2017: DOI: 10.3389/fmicb.2017.02399.</p> <p>Kimura H, Nagasawa K, Kimura R, Tsukagoshi H, Matsushima Y, Fujita K, Hirano E, Ishiwada N, Misaki T, Oishi K, Kuroda M, Ryo A.: Molecular evolution of the fusion protein (F) gene in human respiratory syncytial virus subgroup B. <i>Infect Genet Evol</i>. 52, 2017: pp1-9.</p> <p>Nagasawa K, Matsushima Y, Motoya T, Mizukoshi F, Ueki Y, Sakon N, Murakami K, Shimizu T, Okabe N, Nagata N, Shirabe K, Shinomiya H, Suzuki W, Kuroda M, Sekizuka T, Ryo A, Fujita K, Oishi K, Katayama K, Kimura H.: Phylogeny and immunoreactivity of human norovirus GII. P16-GII. 2 detected in Japan during 2016-17, winter season. <i>Emerg Infect Dis</i>. 24(1), 2018: pp144-148.</p> <p>Nagasawa K, Matsushima Y, Motoya T, Mizukoshi F, Ueki Y, Sakon N, Murakami K, Shimizu T, Okabe N, Nagata N, Shirabe K, Shinomiya H, Suzuki W, Kuroda M, Sekizuka T, Ryo A, Fujita K, Oishi K, Katayama K, Kimura H.: Genetic analysis of human norovirus strains in Japan in 2016-17. <i>Front Microbiol</i>. 9, 2018: pp1-10.</p> <p>Saraya T, Ohkuma K, Watanabe T, Mikura S, Kobayashi F, Aso J, Nunokawa H, Honda K, Ogawa Y, Tamura M, Sada M, Oda M, Inoue M, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Kimura H, Takizawa H.: Diagnostic value of vascular endothelial growth factor, transforming growth factor-β, interleukin-8, and the ratio of lactate dehydrogenase to adenosine deaminase in pleural effusion. <i>Lung</i>. 196(2), 2018: pp249-254.</p>
所属学会 研究会・協会	日本ウイルス学会、日本感染症学会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本ウイルス学会 検査体制委員会委員
国・自治体等 公的機関の 委員委託	厚生労働省病原体等管理システム (MSSP) ハードウェア等賃貸借及び運用・保守一式 技術審査委員会委員、茨城県衛生研究所機関評価委員会、茨城県衛生研究所調査研究企画・評価委員会

准教授 古田島伸雄	
口 頭 発 表	<p>藤本友香、浅見知市郎、古田島伸雄、町田哲男、村上正巳、小河原はつ江、藤田清貴：加齢に伴う末梢血リンパ球サブセットの変動について. 第57回日本臨床化学学会年次学術集会、北海道札幌市、2017年10月8日.</p> <p>Yuka fujimoto-satoh, Hatsue Ogawara, Tomoichirou Asami, Nobuo Kotajima1, Hirofumi Kitamura, Yoshiharu Tokita, Masumi Yanagawa, Tetsuo Machida, Masami Murakami.: The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine WASPaLM2017, Kyoto. Japan, 2017年10月16日.</p> <p>Nobuo Kotajima, Toshiyuki Tanaka, Masami Murakami, Kiyotaka Fujita: The high polymer C-reactive protein emerged in patients with arteriosclerosis. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine WASPaLM2017, Kyoto. Japan, 2017年10月16日.</p> <p>藤本友香、浅見知市郎、白土佳子、古田島伸雄、柳川益美、北村弘文、町田哲男、村上正巳、時田佳治、小河原はつ江：生活習慣が末梢血リンパ球サブセットに及ぼす影響 第2報. 第24回日本未病システム学会学術総会、神奈川県横浜市、2017年11月5日.</p>
社会的教育活動	古田島伸雄：群馬県臨床検査精度管理調査. 群馬県臨床検査精度管理協議会、群馬県、2017年9月25日.
所 属 学 会 研 究 会 ・ 協 会	日本臨床衛生検査技師会、群馬県臨床検査技師会、日本臨床検査自動化学会、日本臨床化学会、日本臨床検査医学会、日本糖尿病学会、日本インターヘロン・サイトカイン学会
学会・研究会 協会等における 役 職、 委 員	群馬県臨床検査技師会臨床化学研究班 幹事、群馬県臨床検査技師会 精度管理委員、群馬県臨床検査技師会 標準化委員、日本臨床検査自動化学会 評議員、日本臨床化学会 評議員、日本臨床検査医学会 評議員

准教授 長田 誠	
刊 行 物 (分 担 執 筆)	長田誠：抗原を検出する感染症検査. 最新臨床検査学講座 免疫検査学. (窪田哲朗、藤田清貴、細井英司、梶原道子 編集)、医歯薬出版、2017年：pp185-195.
刊 行 物 (雑 誌 論 文)	<p>Suzuki-Inoue K, Tsukiji N, Shirai T, Osada M, Inoue O, Ozaki Y: Platelet CLEC-2: Roles Beyond Hemostasis. Semin Thromb Hemost. 44(2), 2018: pp126-134.</p> <p>Sasaki T, Shirai T, Tsukiji N, Otake S, Tamura S, Ichikawa J, Osada M, Satoh K, Ozaki Y, Suzuki-Inoue K: Functional characterization of recombinant snake venom rhodocytin: rhodocytin mutant blocks CLEC-2/podoplanin-dependent platelet aggregation and lung metastasis. J Thromb Hemost. Vol.16(5), 2018: pp960-972.</p>
口 頭 発 表	長田誠：血小板活性化により生成される可溶性 CLEC-2の測定法に関する有用性. 第57回臨床化学学会年次学術集会、北海道、2017年10月7日.
社会的教育活動	長田誠：日本医学検査学会・スキルアップセミナー遺伝子検査. 千葉県、2017年6月16日.
所 属 学 会 研 究 会 ・ 協 会	日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査医学会、日本臨床検査自動化学会、日本血栓止血学会、日本サイトメトリー学会、日本検査血液学会、日本遺伝子診療学会、日本臨床検査同学院、日本人類遺伝学会、日本染色体遺伝子検査学会、日本 DOHaD 研究会、日本臨床化学会
学会・研究会 協会等における 役 職、 委 員	ジェネティックエキスパート認定制度委員会 委員、日本臨床衛生検査技師会 精度管理調査 WG 委員 遺伝子検査、日本臨床検査自動化学会 編集委員会 委員、日本臨床検査自動化学会 遺伝子プロテオミクス技術委員会 委員、日本臨床検査医学会 医療安全委員会 委員、日本臨床化学会 ピットフォール研究専門委員会 委員、日本染色体遺伝子検査学会 理事、日本臨床検査医学会 評議員、群馬県臨床衛生検査技師会 遺伝子検査研究班 委員、日本臨床検査学教育協議会 編集委員会 委員、日本臨床検査学教育協議会 評議員

講師 高橋克典	
刊 行 物 (分 担 執 筆)	高橋克典 他：遺伝子実験室における器具や試薬の取扱いとコンタミ防止. バイオロジカルクリーンルームの設計・維持管理と作業員教育. 技術情報教会、東京、2018：pp406-412.
刊 行 物 (雑 誌 論 文)	Takahashi K, Kikuchi H, Nguyen V H, Oshima Y, Ishigaki H, Nakajima-Shimada J, Kubohara Y.: Biological Activity of Novel Derivatives of Differentiation-Inducing Factor 3 from Dictyostereum disciodium. Biological & Pharmaceutical Bulletin. 40(11), 2018: pp1941-1947. Kikuchi H, Ito I, Takahashi K, Ishigaki H, Izumi K, Kubohara Y, Oshima Y.: Isolation, Synthesis, and Biological Activity of Chlorinated Alkylresorcinols from Dictyostereum Cellular Slime Molds. Journal of Natural Products. 80(10), 2018: pp2716-2722.
所 属 学 会 研 究 会 ・ 協 会	日本臨床検査医学会、日本臨床検査自動化学会、日本臨床化学会、日本食品安全協会

講師 岡山香里	
刊 行 物 (雑 誌 論 文)	Okodo M, Kawamura J, Okayama K, Kawai K, Fukui T, Shiina N, Fujii M.: Cytological Features Associated with Ureaplasma Urealyticum in Pap Cervical Smear. Asian Pacific Journal of Cancer Prevention. 18(8), 2017: pp2239-2242. 大河戸光章、岡山香里：受講スイッチを ON にする試み. 日本臨床検査学教育学会誌. 9(2)、2017：pp163-168. Okodo M, Okayama K, Fukui T, Shiina N, Caniz T, Yabusaki H, Fujii M.: Significance of compression in binucleation while differentiating reactive cellular changes between human papillomavirus and Candida Infections. Asian Pac J Cancer Prev. 18(9), 2017: pp2507-2511. Okayama K, Okodo M, Kitamura H, Itoda I.: Significance of the cytological signs of human papillomavirus infection in anal Pap smears of human immunodeficiency virus-infected Japanese men who have sex with men. Asian Pac J Cancer Prev. 18(11), 2017: pp3173-3178. 北村浩、井戸田一朗、岡山香里、大河戸光章、佐野彰彦、佐野麻里子、小林治、河合伸、古瀬純司：拡大肛門鏡検査による HIV 陽性者の肛門管上皮内病変の診断と治療. 日本エイズ学会誌. 20(1)、2017：pp25-31. Okodo M, Okayama K, Teruya K, Sasagawa T.: Uniplex E6/E7 PCR method detecting E6 or E7 genes in 39 human papillomavirus types. J Med Virol. 90(5), 2018: pp981-988. ※ First published: 04 January 2018
口 頭 発 表	坂本人一、大阪康宏、柴田健雄、岡山香里、大河戸光章、笹川寿之：日本における高リスク HPV 型の同定と検診への応用の可能性. 第58回日本臨床細胞学会総会春期大会、大阪府、2017年5月27日。 岡山香里、大河戸光章：細胞検査士要望教育シンポジウム：婦人科細胞診における in situ PCR 法. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会、福岡県、2017年11月19日。 大河戸光章、岡山香里、笹川寿之：HPV E6・E7 遺伝子領域をターゲットとした型特異的プライマーによる uniplex PCR アッセイ. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会、福岡県、2017年11月18日。
社会的教育活動	岡山香里：婦人科細胞診における HPV 感染について 講師. 東京都がん検診センター、東京都国分寺市、2017年7月12日。
所 属 学 会 研 究 会 ・ 協 会	日本臨床細胞学会、日本性感染症学会、日本エイズ学会、日本臨床検査医学会、日本臨床検査学教育学会
学 会 ・ 研 究 会 協 会 等 に お け る 役 職、 委 員	日本臨床検査学教育学会病理分科会 幹事
当 年 度 中 の 受 賞	2017年群馬パース大学付属研究所研究成果報告会 優秀賞

助教 石垣宏尚	
刊 行 物 (雑誌論文)	Kikuchi H, Ito I, Takahashi K, Ishigaki H, Iizumi K, Kubohara Y, Oshima Y.: Isolation, Synthesis, and Biological Activity of Chlorinated Alkylresorcinols from Dictyostelium Cellular Slime Molds. J Nat Prod. 80(10), 2017: pp2716-2722. Takahashi K, Kikuchi H, Nguyen VH, Oshima Y, Ishigaki H, Nakajima-Shimada J, Kubohara Y.: Biological activities of novel derivatives of differentiation-inducing factor-3 from Dictyostelium discoideum. Biol Pharm Bull. 40(11), 2017: pp1941-1947.
口 頭 発 表	Hiroataka Ishigaki, Osamu Araki, Katsuhiko Tsunekawa, Takao Kimura, Masami Murakami: Inhibitory effect of lithium on beta-adrenergic induction of D2 in human oligodendrogloma (HOG) cells. World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine, 京都府、2017年11月. Larasati Martha, Osamu Araki, Hiroataka Ishigaki, Takao Kimura, Masami Murakami: Molecular mechanism of energy expenditure in murine skeletal muscle cells. World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine. 京都府、2017年11月.
所 属 学 会 研究会・協会	臨床化学会、日本臨床検査医学会、日本電気泳動学会

助教 藤本友香	
刊 行 物 (雑誌論文)	Momoko Kitazawa, Michitaka Yoshimura, Mayu Murata, Yuka Sato-Fujimoto, Hidefumi Hitokoto, Masaru Mimura, Kazuo Tsubota, Taishiro Kishimoto: Associations between Problematic Internet Use and Psychiatric Symptoms among University Students in Japan. PCN, Article ID: 12662, 2017. ※ First published: 13 April 2018 雑誌掲載 : 72(7) July 2018: pp 531-539.
口 頭 発 表	藤本友香、浅見知市郎、古田島伸雄、町田哲男、村上正巳、小河原はつ江、藤田清貴：加齢に伴う末梢血リンパ球サブセットの変動について。第57回臨床化学会年次学術集会、北海道、2017年10月8日。 Yuka fujimoto-satoh, Hatsue Ogawara, Tomoichirou Asami, Nobuo Kotajima1, Hirofumi Kitamura, Yoshiharu Tokita, Masumi Yanagawa, Tetsuo Machida, Masami Murakami: Setting of the new standard value of T lymphocyte subset in healthy subjects over the age of 60 years. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine WASPaLM 2017, Kyoto, 2017年10月16日。 藤本友香、浅見知市郎、白土佳子、古田島伸雄、柳川益美、北村弘文、町田哲男、村上正巳、時田佳治、小河原はつ江：生活習慣が末梢血リンパ球サブセットに及ぼす影響 第2報。第24回日本未病システム学会学術総会、神奈川県横浜市、2017年11月5日。 中里見菜央、田中彩和子、白土佳子、秋元晔、猪野綾菜、子安拓実、志村卓哉、藤本友香、小河原はつ江、福生吉裕：ノック式胸腺刺激法によるNK細胞活性化の評価 第1報。第24回日本未病システム学会学術総会、神奈川県横浜市、2017年11月5日。
社会的教育活動	藤本友香、小河原はつ江、古田島伸雄、浅見知市郎、柳川益美：荒牧町健康診断。NPO 法人群大クラブ・群馬パース大学共催、群馬県前橋市、2017年6月17日。
所 属 学 会 研究会・協会	日本検査血液学会、日本医学検査学会、日本未病システム学会、日本臨床化学会
学会・研究会 協会等における 役 職、 委 員	日本未病システム学会 評議員
当年度中の受賞	日本未病システム学会 優秀演題賞受賞

助手 唐木 望	
所属学会 研究会・協会	日本臨床化学会

助手 川田悠貴	
所属学会 研究会・協会	日本臨床化学会、日本プロテオーム学会

放射線学科

放射線学科長 教授 土屋 仁

刊行物 (雑誌論文)	土屋仁、平本壮一、関みさよ：業務流れ図を用いた自己分析法について—バリウム検査中の転倒を事例に用いて—。群馬パース大学紀要。23、2018：pp13-17.
所属学会 研究会・協会	日本放射線技術学会、日本診療放射線技師会

教授 星野修平

刊行物 (分担執筆)	石森佳幸、奥村健一郎、小倉敏裕、加藤匡伸、加藤稔、亀山佳也、倉石政彦、桜井直美、斉藤斉、下瀬川正幸、関根紀夫、高坂倫江、武島玲子、中島修一、藤崎達也、藤淵俊王、星野修平、本間光彦、望月安雄、森園立男、枘田喜正：診療画像技術学Ⅱ a.X 線撮影技術学。(森浩一、西尾誠示、五反田留見編集)、医療科学社、東京、2017：pp9-16.
刊行物 (雑誌論文)	西山篤、星野修平、児玉直樹、磯辺智範、小笠原克彦、山田雅之：診療放射線技師の6年制教育について考える(前編)。日本診療放射線技師会雑誌。65(2)、2018：pp37-46. 西山篤、星野修平、児玉直樹、磯辺智範、小笠原克彦、山田雅之：診療放射線技師の6年制教育について考える(後編)。日本診療放射線技師会雑誌。65(3)、2018：pp19-34.
口頭発表	西山篤、星野修平、児玉直樹、磯辺智範、小笠原克彦、山田雅之：日放シンポジウム4(6年制教育検討委員会)「診療放射線技師の6年制教育について考える」1) 診療放射線技師養成機関の現状。第33回 日本診療放射線技師学術大会、北海道函館市、2017年9月23日.
社会的教育活動	星野修平：第22回診療放射線技師実習指導者等養成講習会講師、公益財団法人医療推進財団(P-MET)主催、東京都、2017年10月及び2018年1月 星野修平：非常勤講師「情報と教育」、群馬県立県民健康科学大学看護学教員養成課程、群馬県前橋市、2017年4月～5月。 星野修平：非常勤講師「医療情報科学」「医療情報システム学」「保健医療システム開発論」、群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部、群馬県前橋市、2017年4月～2018年2月。 星野修平：非常勤講師「医用画像情報学演習」、日本医療科学大学保健科学部、埼玉県、2017年4月～2017年11月。 平成29年度診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー講師「エチケット・マナー講座」「医療コミュニケーション」。群馬県診療放射線技師会、群馬県前橋市、2017年4月。
所属学会 研究会・協会	日本放射線技術学会(JSRT)、日本診療放射線学教育学会(JSERT)、教育システム情報学会(旧CAI学会：JSISE)、日本保健科学学会(JAHS)、日本医療情報学会(JJMI)、日本医療画像管理学会(JSMIM)、コンピュータ利用教育学会(CIEC)、日本ヘルスコミュニケーション学会、日本情報教育学会(JAIE)
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本診療放射線学教育学会評議員、理事(学術担当)、日本診療放射線学教育学会機関誌「診療放射線学教育」編集委員会委員、日本診療放射線学教育学会第11回診療放射線学教育学会学術集会実行委員、日本診療放射線技師会技師法改正検討委員会、日本診療放射線技師会6年制教育検討委員会
国・自治体等 公的機関の 委員委託	群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部 特任教員

教授 酒井健一	
刊 行 物 (雑誌論文)	坂本重己、酒井健一、柴岡信一郎、渋井二三男：医療系大学におけるコミュニケーション教育について. コミュニケーション教育学会研究誌. Vol. 6、2017：pp31-36.
	酒井健一、櫻井ルミ子：キラル医薬品製造技術の進歩. 群馬パース大学紀要. 23号、2018.
	徳重佑美子、酒井健一、坂本重己、山岸貴子：第20回流星祭企画オープン・スクール実施報告. 群馬パース大学紀要. 23、2018：pp27-30.
口 頭 発 表	坂本重己、酒井健一：「リスク・コミュニケーション」. 埼玉県、2018年1月20日.
所 属 学 会 研究会・協会	NPO 法人コミュニケーション教育学会、モレキュラー・キラリティー学会、日本化学会

教授 坂本重己	
刊 行 物 (雑誌論文)	坂本重己、酒井健一、柴岡信一郎、渋井二三男：医療系大学におけるコミュニケーション教育について. コミュニケーション教育学会研究誌. 6、2017：pp31-36.
	徳重佑美子、酒井健一、坂本重己、山岸貴子：第20回流星祭企画オープン・スクール実施報告. 群馬パース大学紀要. 23、2018：pp27-30.
口 頭 発 表	坂本重己、酒井健一：「リスク・コミュニケーション」. 埼玉県、2018年1月20日.
所 属 学 会 研究会・協会	日本放射線技術学会、診療放射線技師・医療安全管理者ネットワーク会議（研究会）、NPO 法人 コミュニケーション教育学会
学 会 ・ 研 究 会 協会等における 役 職、 委 員	診療放射線技師・医療安全管理者ネットワーク会議（研究会）：顧問

教授 倉石政彦	
刊 行 物 (分担執筆)	石森佳幸、森蘭立男、倉石政彦、他（21名略）：第8章特殊撮影、第11章その他の撮影と検査（2. 集団検診、3. 乳がん集団検診）. 診療画像技術学Ⅱ a X線撮影技術学.（森浩一、西尾誠示、五反田留見編著）、医療科学社、東京都、2017：pp199-203、pp325-328.
口 頭 発 表	新井芹奈、倉石政彦、下瀬川正幸：意味微分法を用いた診療放射線技師のイメージ調査. 第11回日本診療放射線学教育学会学術集会、東京都、2017年8月3日.
	布施達也、下瀬川正幸、倉石政彦：MRI 検査および超音波検査に関する教育内容の職種間比較. 日本放射線技術学会第64回関東支部研究発表大会、山梨県、2017年12月9日.
社会的教育活動	倉石政彦：2016年度甲状腺エコー検査実施報告 実施結果のまとめ. NPO 法人 Annaka ひだまりマルシェ、群馬県高崎市、2018年3月31日.
所 属 学 会 研究会・協会	日本保健物理学会、日本診療放射線学教育学会、高等教育質保障学会、大学教育学会、環境放射能除染学会

准教授 加藤英樹	
刊 行 物 (雑誌論文)	Hideki Kato, Eiichiro Okumura, Noriyuki Hashimoto, et al: Visual evaluation and physical characteristics of fluoroscopic images on a liquid crystal display with different response times. The 51st Annual Meeting of Taiwan Society of Radiological Technologist Conference Book. 2018: pp73.
	加藤英樹、藤田伸、尾澤巖、他：自治体病院の独立行政法人化に伴う BSC の実践 —Before and After—. 日本医療バランス・スコアカード研究. 13(1)、2017年：pp147-153.

	Yurie Shimakawa, Hideki Kato, Kunio Doi, et al: Evaluation of backscatter causing artifacts when using flat panel detector. The 10th Annual Scientific Meeting of Thai Medical Physicist Society Proceedings, Bangkok (Thai), 2018年1月18日 : pp58.
口 頭 発 表	Hideki Kato, Eiichiro Okumura, Noriyuki Hashimoto: Visual evaluation and physical characteristics of fluoroscopic images on a liquid crystal display with different response times. The 51st Annual Meeting of Taiwan Society of Radiological Technologist, 25th East Asia Conference of Radiological Technologist. Chiayi (Taiwan), 2018年3月11日.
	Yurie Shimakawa, Hideki Kato, Kunio Doi, et al: Evaluation of Backscatter Causing Artifacts When Using Flat Panel Detector. The 10th Annual Scientific Meeting of ThaiMedical Physicist Society, Bangkok(Thai), 2018年1月18日.
	奥村英一郎、加藤英樹、安藤二郎、他：視線追跡システムを用いた乳房画像のマンモ認定医師と技師の読影手法の違いについて。医用画像情報学会（MII）平成29年度年次（第178回）大会、大阪府大阪市、2017年6月3日。
	谷井奎祐、藤沼駿、奥村英一郎、加藤英樹、他：視線計測器を用いた MLO、CC 方向の乳房画像におけるマンモ認定技師と診療放射線技師の読影手法の違いについて。第64回関東支部研究発表大会、山梨県甲府市、2017年12月9日。
社会的教育活動	加藤英樹、他：平成29年度第1回関東 DR 研究会の企画及び開催。日本放射線技術学会関東支部関東 DR 研究会、千葉県千葉市、2017年6月11日。
	加藤英樹、他：平成29年度第2回関東 DR 研究会の企画及び開催。日本放射線技術学会関東支部関東 DR 研究会、埼玉県さいたま市、2017年11月23日。
	加藤英樹、他：平成29年度第3回関東 DR 研究会の企画及び開催。日本放射線技術学会関東支部関東 DR 研究会、群馬県高崎市（群馬パース大学）、2018年1月27日。
	加藤英樹、他：講師及びセミナーの企画・開催。日本放射線技術学会関東支部関東第11回実践セミナー in 蓼科、長野県茅野市、2017年11月11～12日。
	加藤英樹、他：平成29年度学会事業「診療放射線技師養成大学（つくば国際大学）の訪問」（学生に対して学術研究活動の広報及び学会雑誌掲載用報告書の執筆）。日本放射線技術学会関東支部、茨城県土浦市、2017年10月26日。
	加藤英樹、他：平成29年度学会事業「診療放射線技師養成大学（茨城県立医療大学）の訪問」（学生に対して学術研究活動の広報及び学会雑誌掲載用報告書の執筆）。日本放射線技術学会関東支部、茨城県稲敷郡阿見町、2018年1月11日。
所 属 学 会 研 究 会 ・ 協 会	日本放射線技術学会、日本医療情報学会、日本診療放射線技師会、日本医療バランスト・スコアカード研究学会
学 会 ・ 研 究 会 協 会 等 に お け る 役 職 ・ 委 員	日本放射線技術学会 国際戦略委員会委員、日本放射線技術学会 評議員、日本放射線技術学会関東支部理事、編集委員会編集委員長、学術委員会委員、日本放射線技術学会関東支部 関東 DR 研究会 幹事

講師 谷口杏奈	
刊 行 物 (雑誌論文)	Akio Ogura, Aoi Kamakura, Youhei Kaneko, Tomoya Kitaoka, Norio Hayashi, Anna Taniguchi: Comparison of grayscale and color-scale renderings of digital medical images for diagnostic interpretation. Radiological Physics and Technology. 10(3), 2017: pp359-363.
口 頭 発 表	Anna Taniguchi, Akio Ogura, Toru Negishi, Yoko Yamashita, Kyoko Yokoyama, Yuka Araki: The Preparation Tool of Magnetic Resonance Imaging (MRI) for Children. 日本放射線技術学会総会学術大会、横浜市（神奈川県）、2018年4月14日。
所 属 学 会 研 究 会 ・ 協 会	日本放射線技術学会、日本診療放射線技師会、日本乳癌検診学会、日本超音波医学会、日本診療放射線学教育学会、群馬 MR 研究会

学会・研究会 協会等における 役職、委員	群馬県診療放射線技師会 理事 及び 渉外広報部長、群馬 MR 研究会 幹事
----------------------------	---------------------------------------

助手 徳重佑美子	
刊 行 物 (雑誌論文)	徳重佑美子、酒井健一、坂本重己、山岸貴子：第20回流星祭企画オープン・スクール実施報告. 群馬パース大学紀要. 23、2018：pp27-30.
口 頭 発 表	徳重佑美子、星野修平：診療放射線技師養成機関の教育内容の比較検討～教育目標の内容分析による検討. 平成30年度関東甲信越診療放射線技師学術大会、新潟県、2017年6月30日.
社会的教育活動	徳重佑美子、他：平成29年度第3回関東 DR 研究会実行委員. 日本放射線技術学会関東支部関東 DR 研究会、群馬県高崎市、2018年1月27日.
所 属 学 会 研究会・協会	日本放射線技術学会、日本診療放射線技師会、日本放射線腫瘍学会、日本診療放射線学教育学会

臨床工学科長 教授 芝本 隆	
刊 行 物 (著 書)	芝本隆、峰島三千男、武本佳昭、中元秀友：血液透析装置に関する通信プロトコル Ver 4.0. 日本透析医学会誌、2017.
	芝本隆、星野武俊：Limulus Amebocyte Lysate (LAL) 反応と Luciferase による生物発光法を用いたエンドトキシン (ET) 測定の高感度・迅速測定に関する研究. 日本臨床工学技士会誌、2017.
刊 行 物 (雑 誌 論 文)	芝本隆：日本透析医学会通信共通プロトコルとこれから期待される通信方式. 臨床透析. 33(9)、2017：pp1187-1192.
口 頭 発 表	橋本貴仁、仲田春菜、藤倉淳、野木雅仙、芝本隆、末永松彦、星野正信：脱血状態を確認する適正なデバイスと方法について. 日本臨床工学技士会、青森県、2017年5月20～21日.
	藤倉淳、仲田春菜、橋本貴仁、野木雅仙、芝本隆、末永松彦、星野正信：W-RO × eco A0 に活性炭濾過装置の2 段直列構造を導入した新規水処理システムの機能評価. 日本臨床工学技士会、青森県、2017年6月16～18日.
	仲田春菜、藤倉淳、橋本貴仁、野木雅仙、芝本隆、末永松彦、星野正信：透析液水質基準における活性炭2 段直列濾過の微生物汚染と安全性について. 日本臨床工学技士会、青森県、2017年6月16～18日.
	古屋良紀、万治知将、矢口菜々子、川村真一、杉本信、野木雅仙、八幡真弓、畠山卓弥、芝本隆、佐々木成：オンライン対応個人用透析装置の透析液採取口汚染の現状. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.
	吉本裕、鈴木健、新井康介、高橋康介、森田俊郁樹、鈴木聡宏、五十嵐恒輝、左羽内哲也、須田伸、芝本隆：東レ社製透析用監視装置に新たに実装された血液モニタの臨床評価. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.
	古屋良紀、野木雅仙、八幡真弓、氏家一知、畠山卓弥、芝本隆、佐々木成：AN69膜使用による脂質代謝改善と質的変化の検討. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.
	神谷保、吉田慎吾、野木雅仙、芝本隆、中村義弘、佐々木成：RO 装置の濃縮水回収システムを装備する新たな水質管理基準の検証. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.
	仲田春菜、藤倉淳、橋本貴仁、野木雅仙、芝本隆、末永松彦、星野正信：活性炭2 段直列構造 W-ROXeco A0 の微生物汚染対策に前処理熱水消毒は必要か. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.
	星野武俊、松本真澄、唐沢祐介、黒滝理士、安田文彦、菊池史、芝本隆：リムルス反応を原理とした検出方の異なる生物発光法、比濁法での ET 測定の実験的評価. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.
	近土真由美、橋村友隆、山下芳久、星野武俊、村上 淳、内野順司、芝本 隆：リムルス反応と生物発光法を用いた高感度で迅速なエンドトキシン測定法の多施設評価. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.
	藤倉淳、橋本貴仁、野木雅仙、芝本隆、末永松彦、星野正信：治療効果から見た血漿濾過率を用いた補液速度の最適な条件とは. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.
	橋本貴仁、野木雅仙、佐野直人、芝本隆、末永松彦、星野正信：各社自動プライミング機能における CTA 膜の残留グリセリン分泌を用いた洗浄効果に関する検討. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16日～18日.
	渡井大介、橋本貴仁、野木雅仙、佐野直人、芝本隆、末永松彦、星野正信：次亜塩素酸 Na と添加型洗浄力強化剤を一剤化したプロソルブの洗浄効果. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.
	江刺家義典、芝本隆：介助者の目線から見た日機装社製在宅透析支援システムの評価. 日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日.

	吉田慎吾、神谷保、森川拓広、藤倉淳、古屋良紀、野木雅仙、芝本隆、中村義弘、佐々木成：無酢酸重曹透析液を使用するホッパー式A剤溶解装置の保守洗浄方法。日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日。
	五十嵐恒輝、吉本裕、鈴木健、新井康介、高橋悠、森田俊郁樹、鈴木聡宏、左羽内哲也、須田伸、芝本隆：試作した透析液溶解装置夜間RO水封入プログラムにおける濃度安定性と清浄化の検証。日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日。
	杉本信、入江望、古屋良紀、野木雅仙、芝本隆、畠山卓弥、佐々木成：個人用透析装置のA/B原液集中配管システムの運用。日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16～18日。
	橋本貴仁、芝本隆 他：透析膜溶出PVP測定における測定法と検量線の選択とその意義。日本クリアランスギャップ研究会、千葉県、2017年8月26～27日。
	古屋良紀、芝本隆 他：AN69膜を用いた脂質改善効果について。日本クリアランスギャップ研究会、千葉県、2017年8月26～27日。
	藤倉淳、芝本隆 他：体組成分析装置BCMを用いた体液量測定による適正体重の管理は可能か。日本クリアランスギャップ研究会、千葉県、2017年8月26～27日。
	橋村友隆、近土真由美、芝本隆：LAL反応と発光法によるET測定。日本人工臓器学会、2017年9月1日
	芝本隆：学会企画セミナー「透析液熱回収エコ装置」。日本臨床工学技士会、青森県、2017年5月21日。
	芝本隆：ワークショップ招請講演「臨床工学技士とプロフェッショナル」。日本透析医学会、神奈川県、2017年6月16日。
	芝本隆：日本クリアランスギャップ研究会 ワークショップ招請講演「透析液清浄化」。千葉県、2017年8月26日。
	芝本隆：日本透析医学会 一般演題座長「透析液清浄化」。神奈川県、2017年8月26～27日。
	芝本隆：日本透析医学会 ワークショップ司会「臨床工学技士とプロフェッショナル」。神奈川県、2017年8月26～27日。
	芝本隆：日本急性血液浄化学会 一般演題座長「医療機器と安全管理」。埼玉県、2017年9月23日。
	芝本隆：日本i-HDF研究会 研究会企画セミナー「i-HDFにおける送血液量と効果」。東京都、2017年12月10日。
社会的教育活動	芝本隆：群馬県臨床工学技士会血液浄化セミナー講演「生体適合性」。群馬県臨床工学技士会、群馬県、2017年2月19日。
	芝本隆：埼玉県透析患者会講演「新しい血液浄化療法について」。埼玉県透析患者会、埼玉県、2017年4月30日。
	芝本隆：日本医科大学泌尿器科・腎臓内科合同研究会講演「血液浄化の変遷と今後」。日本医科大学、東京都、2017年6月27日。
	芝本隆：埼玉医科大学医療科学部医用生体工学科講演「臨床工学と医療安全」。埼玉医科大学、埼玉県、2017年7月10日。
	芝本隆：日本臨床工学技士会血液浄化セミナー「抗凝固薬」。日本臨床工学技士会、2017年8月25日。
	芝本隆：茨城県血液透析研究会講演「透析液清浄化のポイント」。茨城県血液透析研究会、茨城県、2017年9月17日。
	芝本隆：新潟県血液透析研究会講演「透析膜と生体適合性」。新潟県血液透析研究会、新潟県、2017年11月19日。
所属学会研究会・協会	日本透析医学会、日本臨床工学技士会、お茶の水血液浄化研究会
学会・研究会協会等における役職、委員	日本透析医学会総務委員会 委員、臨床工学国際交流財団 理事、大江戸勉強会 顧問、お茶の水血液浄化研究会 顧問、雑誌ネオボイス 顧問

国・自治体等 公的機関の 委員委託	JICA：ヤンゴン国立大学臨床工学科開設授業（ミャンマー）。臨床工学国際交流財団。
-------------------------	---

教授 尾林 徹	
刊 行 物 (雑誌論文)	尾林徹：特集 深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症—わが国の現状と最近の進歩— わが国における深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症の現状. 日本医師会雑誌. 146(1), 2017 : pp17-21.
	尾林徹：生涯教育シリーズ92 脳血管障害診療のエッセンス X. 脳梗塞の再発予防 抗凝固療法—ワルファリン. 日本医師会雑誌. 146 (特別号, 1), 2017 : pp259-260.
	尾林徹：特集 どうする？リハビリテーションにおける DVT 対策—診断と治療の最前線—. CLINICAL REHABILITATION. 126(4), 2017 : pp338-343.
	田邊康宏、尾林徹、村田哲平 他：東京都 CCU ネットワークレジストリーデータからみた急性肺血栓塞栓症の性差. ICU と CCU.41 (別冊), 2017 : pp5034-5035.
所 属 学 会 研 究 会・協 会	日本内科学会、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈心電学会、日本心臓核医学会、日本静脈学会、日本冠疾患学会、日本心エコー図学会、日本集中治療医学会、日本救急医学会

准教授 阿部 薫	
所 属 学 会 研 究 会・協 会	日本人工臓器学会

講師 近土真由美	
口 頭 発 表	近土真由美、芝本隆、橋村友隆、山下芳久、星野武俊、村上淳、内野順司：リムルス反応と生物発光を用いた高感度で迅速なエンドトキシン（ET）測定法の多施設評価. 第62回日本透析医学会学術大会、神奈川県、2017年6月18日.
	橋村友隆、近土真由美、芝本隆：生物発光法による高感度で迅速な ET 測定法の特徴. 第55回日本人工臓器学会大会、東京都、2017年9月3日.
所 属 学 会 研 究 会・協 会	日本臨床工学技士会、東京都臨床工学技士会、日本透析医学会、日本血液浄化技術学会、日本医工学治療学会

講師 小野哲治	
刊 行 物 (雑誌論文)	小野哲治、伊藤憲治、関本荘太郎、角田晃一、有賀正浩：光トポグラフィを用いた緩変化値の解析. 第10回21世紀科学と人間シンポジウム抄録集. 2017 : pp1-pp14.
	小野哲治、伊藤憲治、関本荘太郎、角田晃一：光トポグラフィを用いた左右性指標と心拍変動の検討. 2017年総合大会講演論文集. 2017 : pp135.
	小野哲治、伊藤憲治、関本荘太郎、角田晃一：NIRS (near-infrared spectroscopy) を用いた新システムの開発に向けて. 第55回日本人工臓器学会大会予稿集. 2017 : ppS-130.
口 頭 発 表	小野哲治、伊藤憲治、関本荘太郎、角田晃一、有賀正浩：光トポグラフィを用いた緩変化値の解析. 第10回21世紀科学と人間シンポジウム、東京都、2017年3月10日.
	小野哲治、伊藤憲治、関本荘太郎、角田晃一：光トポグラフィを用いた左右性指標と心拍変動の検討. 電子情報通信学会2017年総合大会、愛知県名古屋市、2017年3月22日.

	小野哲治、伊藤憲治、関本荘太郎、角田晃一：NIRS (near-infrared spectroscopy) を用いた新システムの開発に向けて。第55回日本人工臓器学会、東京都、2017年9月3日。
所属学会 研究会・協会	日本急性血液浄化学会、日本人工臓器学会、日本救急医学会、日本蘇生学会、日本高気圧環境・潜水医学会、21世紀科学と人間シンポジウム

講師 草間良昌	
社会的教育活動	草間良昌：日本臨床工学技士教育施設協議会 2017年度全国統一模擬試験問題作成（体外循環装置学、医用治療機器学）作問担当。日本臨床工学技士教育施設協議会、東京都中野区、2017年8月10日。
所属学会 研究会・協会	日本人工臓器学会、日本体外循環技術医学会、埼玉県臨床工学技士会、日本臨床工学技士会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	日本体外循環技術医学会 名誉会員、埼玉県臨床工学技士会 名誉会員
当年度中の受賞	2017年6月 公益社団法人 埼玉県臨床工学技士会 功労賞 受賞

助教 加藤正太	
口頭発表	加藤正太：小児補助循環とローラーポンプの最適圧閉度。第33回日本医工学治療学会学術大会、島根県、2017年4月9日。
	加藤正太：小児補助循環と圧閉度の関係。第16回群馬県臨床工学技士会学術大会、群馬県、2017年7月9日。
	加藤正太：未来の医療を担う臨床工学技士の教育と臨床現場の違いについて。第55回日本人工臓器学会大会、東京都、2017年9月3日。
所属学会 研究会・協会	日本医工学治療学会、日本人工臓器学会、日本福祉工学会、群馬県技士会賛助会員、日本体外循環学会

助教 佐藤 求	
口頭発表	佐藤求：正規の実験・実習以前の体験実習（講義の補足のための実験・実演）において留意すべきいくつかのこと。第3回臨床工学技士養成教員学術研究会、東京都、2017年9月23日。

教 養共通教育部

教養教育責任者 教授 杉田雅子	
刊 行 物 (雑誌論文)	杉田雅子：Benjamin Disraeli、『コニングズビー』翻訳。Fortuna. 29、2018：pp3-7.
社会的教育活動	杉田雅子：赤十字語学奉仕団にて絵本翻訳等。日本赤十字社、東京都、年間を通じて適宜。
所 属 学 会 研究会・協会	日本英文学会、日本ジョージ・エリオット協会、George Eliot Fellowship of UK、日本ヴィクトリア朝文化研究学会、欧米言語文化学会、日本ハーディ協会、大学女性協会

教授 浅見知市郎	
刊 行 物 (雑誌論文)	井上真季、浅見知市郎、影山幾男：上肢の皮静脈の肉眼解剖学的観察 上腕に橈側皮静脈を欠いた一例。群馬パース大学紀要。22、2017：pp23-25.
口 頭 発 表	土田智子、元井志保、中村直樹、浅沼直樹、浅見知市郎、岩崎信一、小菅直樹：新型口腔粘膜鏡を用いた生体観察に関する研究。日本歯科衛生学会第12回学術大会、東京都、2017年9月18日。 藤本友香、浅見知市郎、古田島伸雄、町田哲男、村上正巳、小河原はつ江、藤田清貴：加齢に伴う末梢血リンパ球サブセットの変動について。第57回臨床化学学会年次学術集会、北海道、2017年10月6日。 Yuka fujimoto-satoh, Hatsue Ogawara, Tomoichirou Asami, Nobuo Kotajima, Hirofumi Kitamura, Yoshiharu Tokita, Masumi Yanagawa, Tetsuo Machida, Masami Murakami: Setting of the new standard value of T lymphocyte subset in healthy subjects over the age of 60 years. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine WASPaLM2017, Kyoto, October 16. 藤本友香、浅見知市郎、白土佳子、古田島伸雄、柳川益美、北村弘文、町田哲男、村上正巳、時田佳治、小河原はつ江：生活習慣が末梢血リンパ球サブセットに及ぼす影響 第2報。第24回日本未病システム学会学術総会、神奈川県、2017年11月5日。 吉村建、土田智子、浅沼直樹、中村直樹、岩崎信一、浅見知市郎、山際伸一、小菅直樹：新しい「口腔粘膜鏡」の開発 第1報 取得画像の比較評価。平成29年度歯学会学内口頭発表会、新潟県、2018年3月2日。 Shin-ichi Iwasaki, Serken Erdogan, Ken Yoshimura, Tomoichiro Asami: Some Examples of the Evolutionary and Morphological Specialization of the Avian Tongue. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会、東京都、2018年3月30日。 Tomoichiro Asami, Serken Erdogan, Ken Yoshimura, Shin-ichi Iwasaki: Some Examples of the Evolutionary and Morphological Specialization of the Mammalian Tongue. 第123回日本解剖学会総会・全国学術集会、東京都、2018年3月30日。
所 属 学 会 研究会・協会	日本解剖学会、American Association of Anatomists、歯科基礎医学会、コ・メディカル形態機能学会

講師 榎本光邦	
口 頭 発 表	宮田周平、上田紋佳、榎本光邦、藤木大介、久羽康：なぜセラピーに通うのかを動機づけの視点から考える—基礎心理学と人間性心理学の交差Ⅱ—。日本人間性心理学会第36回大会、東海学園大学（愛知県）、2017年9月8日。 榎本光邦：大学新入生の大学適応感に及ぼす精神的健康度の影響。日本心理学会第81回大会、久留米シティプラザ（福岡県）、2017年9月20日。
社会的教育活動	榎本光邦：WISC-V 知能検査 日本版作成 予備調査。日本文化科学社、北海道・東京都・神奈川県・埼玉県・群馬県、2017年11月～2018年2月。

所属学会 研究会・協会	日本心理学会、日本心理臨床学会、日本教育心理学会、日本コミュニティ心理学会、日本学生相談学会、日本人間性心理学会、日本臨床心理士会、北海道臨床心理士会、東京臨床心理士会、太田ステージ研究会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	北海道臨床心理士会特別会計ワーキンググループ委員、太田ステージ研究会広報委員

講師 洞口貴弘	
刊行物 (雑誌論文)	洞口貴弘：技能とその獲得過程. 理学療法科学. 32(S4)、2017：pp4.
口頭発表	洞口貴弘：技能とその獲得過程（企画講演（生理学のトピックスと理学療法））. 第88回理学療法学会学術大会、埼玉県川越市、2017年4月16日.
所属学会 研究会・協会	日本神経科学会、日本生理学会、感性工学会、Society for Neuroscience

助教 衣川 隆	
社会的教育活動	衣川隆：赤城地区勝保沢地区いきいきサロン参加. 渋川市社会福祉協議会、群馬県渋川市赤城町、2017年6月27日・7月19日・10月24日.
所属学会 研究会・協会	日本トレーニング科学会、日本トレーニング指導学会
学会・研究会 協会等における 役職、委員	関甲新学生野球連盟 理事

第 4 部

S D ・ F D 活動の記録



❖ SD・FD 活動の記録

評価委員会 SD 部会長 矢 島 正 榮

I. 2017年度 SD・FD 活動の概要

2017年度、「大学設置基準の一部を改正する省令」の施行に伴うスタッフ・ディベロップメント（SD）の義務化を機に、FD 部会の名称を SD 部会へと変更した。新しい名称については、SD をファカルティ・デベロップメント（FD）を含む広い概念として捉える立場を取っている。今後、SD 部会は、FD 部会が従来取り組んできた教員の FD 活動と、教職員の大学運営・経営能力の開発・向上を組織的に支援する狭義の SD 活動とを一体的に推進することとなった。

SD 部会は活動初年度である2017年度の年間活動テーマを「全学での SD 始動！—私たちが知っておくべきこと—」と定め、SD の概念及び活動方法等の概要を全教職員が認知し、主体的に取り組むための基盤づくりに重点を置いて活動を展開した。また、FD 活動については前年度までの活動を継続するとともに、新たに学生に対する学外実習評価アンケートの全学実施、ピアレビューの通年実施と参加の義務化、教育研修体系の構築、学生 FD 活動支援の強化に取り組んだ。活動の詳細は、以下のとおりである。

II. SD 活動

1. SD 研修会・SD ワークショップの開催

2017年8月18日(金)、『全学での SD 始動！！—私たちが知っておくべきこと—』をテーマに SD 部会主催の SD 研修会・SD ワークショップを開催した。目的は、教職員の SD に対する理解を深め、各自の課題意識を高めることにより、SD 活動への主体的な参加の基盤をつくることである。対象者98名のうち83名が参加した。研修会では、淑徳大学千葉キャンパス大学改革室 荒木俊博 氏を講師に迎え、「大学における SD とは」をテーマに、SD 義務化の流れから SD の基本的な考え方、身近で具体的な実践まで幅広い内容の講演が行われた。続くワークショップでは、日々の業務の中で感じている課題・解決策について、班別に分かれて情報共有、意見交換を行った。参加者アンケートの結果、講演会に対しては84.3%、ワークショップに対しては88.9%が「参考になった」と回答し、高い満足度が得られた。

2. SD 活動の組織的展開と研修の体系化に向けた協議

今後の SD 活動について、教職員の共通事項と教員並びに職員に特有の事項を整理し、それぞれの SD 活動推進体制を整える必要があることを SD 部会内で確認した。また、SD 研修の体系化に向けて協議を開始した。

III. FD 活動

1. 保健科学部

1) 学生による授業評価

(1) 学生による授業評価アンケート（講義・演習科目）の実施と結果の公開、及び授業改善計画の集約

例年どおり、学生による授業アンケートを各学期終了時に実施した。2017年度の学部全体の回答率は、前期が86.0%で前年度よりも5.2ポイントの低下、後期が87.1%で前年度よりも1.8ポイントの上昇となった。結果については、授業科目毎に「授業アンケート集計・分析結果シート」を作成して授業科目担当教員へ還元するとともに

に、集計結果を pdf 化し、ホームページ上で広く閲覧できるようにした。また、アンケート結果に基づく授業改善計画の提出を、授業科目毎に担当する教員に求めた。

(2)授業中間アンケートの推奨

例年どおり、授業期間中において学習状況の確認と授業の改善すべき点の明確化を図り、授業改善の機会を保障することを目的とする授業中間アンケートを「推奨」の形で実施した。

(3)学外実習評価アンケート

学外実習科目を開講する全ての学科でアンケートを実施し、各学科内及び一部実習施設との間で結果を共有した。

2) ピアレビュー

開始から5年目を迎え、教員間による評価の視点の導入、参加者固定化の解消等の課題への取り組みを進めた。教員間による評価については、2016年度後期から導入した授業評価票を継続使用し、実用性、授業改善の効果等の検証に向けて資料を蓄積した。参加者の固定化に対しては、従来、前・後期に各3週間の期間を定めて実施してきた方法を見直し、2017年度から実施期間を通年とするとともに、参加を必須とすることについて学内のコンセンサスを得た。

3) 教育研修体系の構築

本学教員の教育能力の開発、向上を図るための教育研修の体系化に着手した。教育経験年数に応じた段階別到達目標に基づく、集合研修とOJTの連動による研修計画を策定し、2018年度から運用を開始する予定である。

4) 外部セミナー等への参加による情報授受

FDネットワーク“つばさ”に参加し、他大学の教職員とFDに関する諸問題及び対応策と問題意識を共有した。

5) 学生FD活動支援

学生FDの組織化に向け、学生団体代表者との対話を始めた。また、学生代表者の「学生FDサミット2017」(2018年3月、法政大学)への参加に対する補助を行った。

2. 保健科学研究科

1) 学生による授業評価アンケートの実施、結果の担当教員への還元及び公開

例年どおり、学生による授業アンケートを各学期終了時に実施した。回答率は、調査対象授業科目31科目中26科目で100%、平均94.5%であった。結果は授業科目毎に集計し、自由記載と合わせて授業科目担当教員へ還元するとともに、集計結果を pdf 化し、ホームページ上で公開した。

2) 学生の研究環境の整備

特別研究を担当する各教員が各々の研究活動を通して研究フィールドの開拓、整備に努めた結果、全学生が滞りなく研究に着手できた。

IV. その他の活動

1. 定期的なSD部会開催とSD・FD活動報告書の作成と公開

月1回定例にて会議を開催し、SD・FD活動の企画・評価、情報収集などを実施した。SD部会の活動の実績は報告書として2017年度年報に収録した。

V. 今後の課題

2018年度は、本学におけるSD、FDそれぞれの研修体系を明確化し、計画的に研修を提供する仕組みを確立することを目指す。SDについては、事務職員向け及び全教職員向けの研修をそれぞれ企画・実施する。FDについては研修体系に基づく段階別研修への着手及びピアレビューの教育改善への活用を重点課題とし、教育に関連する新しい情報にも広く目を向け、適切に取り込みながら、前年度の取り組みを継続、発展させる。さらに、大学院の教育の質向上に資する取り組みを強化する。また、SD部会委員の研修の機会を確保し、本学におけるSD・FD活動の質向上の基盤を整える。

第 5 部

学生サービスの記録



❖学生サービスの記録

学生部長 倉石政彦

I. 学生部の役割

学生部は、学生（学部生、大学院生）一人ひとりが健康で充実した学生生活を過ごし、豊かな人間性を育むことができるように、学習以外のあらゆる面から支援している。すなわち、学生の生活（課外活動を含む）、健康管理・福利厚生、就職に関することを中心に、学生生活が円滑に行われるよう支援している。

II. 学部生へのサービス

学部生には年間を通じて以下のような支援を行っている。

1. 学生の自治活動の中心になる「学友会」の支援
2. 公式部活動、サークル活動の支援
3. 心身両面における健康支援のための「学生相談室」と「保健室」による支援
4. 各種奨学金などの相談支援
5. 「就職相談室」による就職活動の支援
6. 学生生活における危機管理の支援
7. ボランティア情報などの開示
8. 教育研究活動の充実のため、互助共済的な傷害保険加入に関する支援

III. 大学院生へのサービス

大学院生には年間を通じて以下のような支援を行っている。

1. 心身両面における健康支援のための「学生相談室」と「保健室」による支援
2. 各種奨学金などの相談支援
3. 就職活動の支援
4. 教育研究活動の充実のため、互助共済的な傷害保険加入に関する支援

IV. 成果

1. 部活動・サークル活動における成果

既存の公式部活動（硬式野球部）1つと17のサークル（運動系12、文化系5）に加え、2017年度にはアカペラサークル、ボードゲームサークル、カルタサークルおよび写真サークルの4つが新たに承認された。また、任意団体として既存の東北県人会に加え、学生消防分団が承認された。

1) 主な成果

(1)運動系

6月 群馬県大学6人制バレーボール選手権（男子の部・女子の部ともに1回戦敗退）

10月 群馬県私立大学スポーツ大会

優勝 バスケットボール女子 硬式テニス女子

- 第2位 バレーボール男子 バドミントン女子 ソフトボール女子
 第3位 バレーボール女子 バドミントン男子 硬式テニス男子A フットサル男子 フットサル女子
 10月 高崎市民体育大会（第3位 卓球女子ダブルス）
 11月 榛名地域卓球大会（個人 一般女子Aの部において、優勝および第3位）

(2)文化系

- 11月 群馬県内アカペラサークル合同ライブ Just As!! 参加（アカペラサークル）
 12月 群馬県立小児医療センタークリスマス会 参加（音サークル）
 2月 群馬県内アカペラサークル合同ライブ Just As!! 参加（アカペラサークル）
 3月 ハモれるようになるためのワークショップ 参加（アカペラサークル）

2. 保健室運営状況

1) 来室件数 170件

内訳			性別		曜日別					時間別		
内科系	外科系	相談	男	女	月	火	水	木	金	午前	午後	夕方
117	49	4	35	135	35	34	24	38	39	104	50	16

2) 学科・学年別内訳

内訳	1号館（開室日数：188日）											
	看護学科				理学療法学科				検査技術学科			
	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
内科系 112件	13	24	5	10	8	9	8	2	7	7	10	9
外科系 41件	8	2	3	3	3	7	1	1	4	2	5	2
相談 3件	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0

内訳	4号館（開室日数：177日）							
	放射線学科				臨床工学科			
	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
内科系 5件	3				2			
外科系 8件	5				3			
相談 1件	1				0			

3) インフルエンザ罹患患者数（報告があった62名の学科、学年）

学科	看護学科				理学療法学科				検査技術学科				放射線学科				臨床工学科			
学年	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1				1			
罹患患者数	2	8	1	0	11	8	0	13	0	2	11	0	4				2			

3. 学生相談室運営状況

1) 開室日数、相談件数

	開室日数			面接件数		
	前期	後期	合計	前期	後期	合計
1号館	49	39	88	111	53	164
4号館	16	16	32	4	20	24
合計	65	55	120	115	73	188

※メールによる相談 44件

2) 来室者内訳

前年度から継続 23人、新規 26人、終結 24人（主訴解消 19、中断 4、他機関紹介 1）、次年度へ継続 25人

4. キャリア相談の状況

利用延べ人数750名で、その内訳は下表のとおりであった。

	看護学科	理学療法学科	検査技術学科
就職相談室（1号館）	49	10	25
キャリアサポートセンター（4号館）	435	121	110

5. 求人件数、就職率、進学者数

1) 求人件数（同病院・施設の重複あり）

	看護学科			理学療法学科	検査技術学科
	看護師	保健師	助産師		
求人件数	500	83	146	637	349

2) 就職者数・就職率、進学者数

	看護学科	理学療法学科	検査技術学科
就職率	100%	100%	100%
就職者数	79	63	57
進学者数	1	0	1

※検査学科の進学者1名は、進学と同時に就職

6. 主な奨学金および利用件数

- 1) 日本学生支援機構利用者 延577名（第1種奨学金217名、第2種奨学金360名）【2017年6月1日現在】
- 2) 本学へ案内のあった地方自治体の奨学金件数 26件
- 3) 本学へ案内のあった病院・施設等の奨学金件数 72件
- 4) 本学独自の奨学金 神戸奨学金採用者 16名
- 5) 本学独自の奨学金 兄弟姉妹奨学金採用者 2名
- 6) 本学独自の奨学金 特待生奨学金採用者 14名(特待生S：2名 特待生A：8名 特待生B：4名)
- 7) 本学独自の奨学金 同窓生奨学金採用者 5名

7. その他

その他、学生支援サービスとして以下の活動を行った。

- 4月15日 健康診断（理学療法学科4学年以外）および健康ミニガイドについてのアンケート（新入生）
B型肝炎抗体検査（看護学科2学年、検査技術学科3学年）《責任者：教務委員会実習部会》
- 4月22日・23日 上州どっと楽市にボランティアとして12名が協力
- 5月13日 学内スポーツ大会（会場：高崎市立浜尻小学校）参加者約400名
- 5月15日 就職対策講座（看護学科4学年対象）
- 5月21日 2017年度日本ALS協会群馬県支部総会にボランティアとして協力（看護学科6名）
- 5月27日 群馬福祉機器展2017にボランティアとして協力（理学療法学科5名）
- 5月29日 公務員対策講座（理学療法学科4学年全員、看護学科4学年希望者参加）
- 5月31日 健康診断（理学療法学科4学年）
- 7月10日 就職対策講座「専門職業人になるための学び方」（全学科1学年）
- 7月18日 就職対策講座「応募書類・小論文・面接で好印象を与えよう」（検査技術学科4学年）

7月31日	就職対策講座「応募書類・小論文・面接で好印象を与えよう」(理学療法学科4学年)
8月1日	学内就職説明会(検査技術学科3学年8名、4学年56名)
8月4日	学内就職説明会(理学療法学科3・4学年対象)
8月7日	就職対策講座「面接対策」(理学療法学科4学年)
8月15日	2017年度群馬県戦没者追悼式にボランティアとして協力(看護学科5名)
10月1日	赤い羽根募金街頭募金にボランティアとして協力(看護学科6名)
10月4日	群馬県私立大学スポーツ大会壮行会
10月7日～8日	群馬県私立大学スポーツ大会支援(相談対応、救護、応援、他)
10月7日～8日	リレー・フォー・ライフ ジャパン 2017 ぐんま(ボランティア、リレーウォーク)に19名が協力《10月30日実行委員長より感謝状拝受》
10月21日	高崎ハロウィンに実行委員として協力(看護学科1名) 《9月から週1回ペースで実行委員会開催》
10月21日・22日	上州どっと楽市にボランティアとして8名が協力
10月25日	群馬県私立大学スポーツ大会報告会
10月28日・29日	流星祭「The 20th Gunma Paz University School Festival ～踏み出そう新しい仲間とともに～」
11月3日	第27回ぐんまマラソンにボランティアとして25名が協力
11月11日	浜尻まつりにボランティアとして協力(看護学科4名、理学療法学科4名)
11月18日	インフルエンザ学内予防接種
12月12日	公務員対策講座(検査技術学科3学年対象)
1月21日	地域がんサロン・ぴあサポぐんま高崎にボランティアとして協力(看護学科2名)
2月1日	高崎消防局学生消防団 群馬パース大学学生分団 入団式(新規入団者:看護学科7名) 《群馬パース大学学生分団:検査技術学科5名、看護学科7名の計12名》
2月13日	みだしなみ講座「就職に係わる身だしなみについて」(全学科3学年対象)
2月13日	学内就職説明会(看護学科1～3学年対象)
2月13日	就職対策講座「就職・就職活動の心構え」(看護学科・検査技術学科3学年全員、理学療法学科3学年希望者)
2月24日	NPO・ボランティアフェスティバルに運営ボランティアとして協力(看護学科4名)
3月5日	学内進路相談会(検査技術学科2・3学年対象)
3月10日	日高病院災害医療訓練にボランティアとして協力(看護学科10名)

V. 課 題

2017年4月に放射線学科と臨床工学科が開設され、保健科学部は5学科の組織となった。両学科の新入生を迎えた時点で学生数は1000人を超え、全国から集まった多様な学生が様々な活動を展開し、個性を発揮している。群馬県私立大学スポーツ大会では強豪と目される存在となり、文化系サークルも他大学・地域との交流を深めている。また、個々の学生が主体的に取り組んでいるボランティア活動での誠実な活動姿勢に、多方面から感謝の言葉が大学まで届けられている。喜ばしい限りであるが、一部の学生の交通マナーの悪さや無断駐車などへの苦情も、残念ながら耳にする。社会の構成員としての道徳観・保健医療職者としての倫理観の更なる涵養に向けた支援を進めたい。一方で、つきまといなどの被害を受ける学生、情報社会の急激な発達に伴う犯罪に巻き込まれる学生もいることから、通学時の安全対策や日常生活に対する注意喚起も重要な課題である。学生の安全・健康をより確実なものとし、学生が本学で過ごした時間をよかったと思えるような、同時に、大学近隣の地域の方たちに「群馬パース大学がここに在ってよかった」と思ってもらえるような大学・大学生づくりのため、学生部として一つひとつの課題に向き合い、最善・最良の道を見つけていく必要がある。

おわりに

2017年度群馬パース大学年報をご高覧いただき有難うございました。2005年度の開学以来、群馬パース大学の歴史を綴ってきた「年報」は、この刊をもって、一旦幕を閉じることとなりました。来期からは「自己点検評価書」という新しい名称で、群馬パース大学の未来を築くための記録を、また、営々と刻み続けていきます。今後とも、関係各位の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りたく、どうぞ、よろしく願い申し上げます。

2019年3月

群馬パース大学評価委員長 矢島正榮

群馬パース大学 2017年度 年報

2019年3月31日 印刷発行

発行人	栗田昌裕	矢島正榮	酒井健一
	廣田幸子	宗宮 真	古田島伸雄
	岩井譜憲	加藤正太	衣川 隆
	高橋克幸	佐藤駿介	

発行所 群馬パース大学

〒370-0006 群馬県高崎市問屋町1-7-1
Tel 027(365)3366 Fax 027(365)3367
E-mail paz@paz.ac.jp